

基本計画書

基		本		計		画		
事項		記入欄						備考
計画の区分		学部の設置						
設置者		カ ^チ ッコウホウシ ^ン チハ ^ク コウキ ^{ョウ} タ ^イ カ ^ク 学校法人千葉工業大学						
設置者の名称		チバコウギョウダイガク 千葉工業大学 (chiba institute of technology)						
大学の本部の位置		千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号						
大学の目的		本学は、教育基本法に則り学校教育法の定める大学として、科学技術の理論と応用を教授研究するとともに、豊かな教養を備え人類福祉のため進んで協力する意欲と識見をもつ人材を養成することを目的とする。						
新設学部等の目的		先端科学技術や学際的領域の専門分野に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得とともに、産業構造の変化や科学技術の進歩等の情勢の変化に対応しつつ、異なる分野の知識や技術及び技能を融合・組み合わせて、新しい知識の創造や先進的な技術を開発することができる実践的な能力や態度を身に付けた工業技術者を養成する						
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	先進工学部 [Faculty of Advanced Engineering]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	未来ロボティクス学科 [Department of Advanced Robotics]	4	120	-	480	学士（工学）	平成28年4月 第1年次	第1・2年次 新習志野校舎 千葉県習志野市芝園2丁目1番1号
	生命科学科 [Department of Life Science]	4	110	-	440	学士（工学）	平成28年4月 第1年次	第3・4年次 津田沼校舎 千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号
	知能メディア工学科 [Department of Advanced Media]	4	110	-	440	学士（工学）	平成28年4月 第1年次	
計			340	-	1,360			
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）		工学部						
		機械サイエンス学科（廃止）						（△315）
		電気電子情報工学科（廃止）						（△300）
		生命環境科学科（廃止）						（△230）
		建築都市環境学科（廃止）						（△300）
		デザイン科学科（廃止）						（△180）
		未来ロボティクス学科（廃止）						（△110）
		※平成28年4月学生募集停止						
		工学部						
		機械工学科						（140） （平成27年4月届出）
		電気電子工学科						（140） （平成27年4月届出）
		機械電子創成工学科						（110） （平成27年4月届出）
		情報通信システム工学科						（110） （平成27年4月届出）
		先端材料工学科						（110） （平成27年4月届出）
		応用化学科						（110） （平成27年4月届出）
		創造工学部						
		建築学科						（140） （平成27年4月届出）
		都市環境工学科						（110） （平成27年4月届出）
		デザイン科学科						（120） （平成27年4月届出）

教育 課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
			講義	演習	実験・実習	計			
	先進工学部 未来ロボティクス学科	64科目	34科目	12科目	110科目	124単位			
	先進工学部 生命科学学科	75科目	30科目	8科目	113科目	124単位			
	先進工学部 知能メディア工学科	68科目	42科目	7科目	117科目	124単位			
教 									

校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		142,602.53 m ² (142,602.53m ²)	0 m ² (0m ²)	0 m ² (0m ²)	142,602.53 m ² (142,602.53m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	96 室	48 室	306 室	5 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		先進工学部 未来ロボティクス学科			10 室					
		先進工学部 生命科学科			10 室					
		先進工学部 知能メディア工学科			10 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不 能なため、大学全体 の数		
	先進工学部	244,922 [31,637] (212,530 [25,153])	3,953 [1,697]	3,463 [3,450]	2,760 (2,600)	0 (0)	0 (0)			
	計	244,922 [31,637] (212,530 [25,153])	3,953 [1,697]	3,463 [3,450]	2,760 (2,600)	0 (0)	0 (0)			
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数						
		4,707m ²	1,028	316,000						
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		3,674.79 m ²	武 道 館 ・ 屋 内 練 習 場 ・ 野 球 場 陸 上 競 技 場 ・ ラ ク ィ ッ ッ ・ サ ャ ャ ー 場							
経費の見積り 及び維持方法 の 概 要	経費の見 積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子 ジャーナル・デー タベースの整備費（運 用コスト含む）を含 む。
		教員1人当たり研究費等		1,100千円	1,100千円	1,100千円	1,100千円	－ 千円	－ 千円	
		共 同 研 究 費 等		14,600千円	14,600千円	14,600千円	14,600千円	－ 千円	－ 千円	
		図 書 購 入 費	16,800千円	16,800千円	16,800千円	16,800千円	16,800千円	－ 千円	－ 千円	
		設 備 購 入 費	30,400千円	30,400千円	30,400千円	30,400千円	30,400千円	－ 千円	－ 千円	
		学生1人当り 納付金	第1年次 1,350千円	第2年次 1,380千円	第3年次 1,410千円	第4年次 1,440千円	第5年次 － 千円	第6年次 － 千円		
		学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入等により維持する。						
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	千葉工業大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年 限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地	
	工学部	年	人	年次 人	人	－	1.15	－	第1・2年次 新習志野校舎 千葉県習志野市芝園2丁目1 番1号	
	機械サイエンス学科	4	315	－	1,260	学士（工学）	1.15	平成15年度	第3・4年次 津田沼校舎 千葉県習志野市津田沼2丁目 17番1号	
	電気電子情報工学科	4	300	－	1,200	学士（工学）	1.16	平成15年度		
	生命環境科学科	4	230	－	920	学士（工学）	1.15	平成15年度		
	建築都市環境学科	4	300	－	1,200	学士（工学）	1.15	平成15年度		
	デザイン科学科	4	180	－	720	学士（工学）	1.15	平成15年度		
	未来ロボティクス学科	4	110	－	440	学士（工学）	1.16	平成18年度		
	情報科学部	－	－	－	－	－	1.16	－		
	情報工学科	4	140	－	560	学士（情報科学）	1.15	平成13年度		
	情報ネットワーク学科	4	140	－	560	学士（情報科学）	1.16	平成13年度		
	社会システム科学部	－	－	－	－	－	1.17	－		
	経営情報科学科	4	110	－	440	学士（経営情報科学）	1.16	平成13年度		
	プロジェクトマネジメント学科	4	110	－	440	学士（プロジェクトマネジメント）	1.16	平成13年度		
	金融・経営リスク科学科	4	60	－	240	学士（リスク科学）	1.20	平成21年度		
	工学研究科	－	－	－	－	－	0.49	－		
	機械サイエンス専攻 博士前期課程	2	80	－	160	修士（工学）	0.42	平成16年度		
	電気電子情報工学専攻 博士前期課程	2	70	－	140	修士（工学）	0.57	平成16年度		
	生命環境科学専攻 博士前期課程	2	80	－	160	修士（工学）	0.50	平成16年度		
	建築都市環境学専攻 博士前期課程	2	80	－	160	修士（工学）	0.40	平成16年度		
	デザイン科学専攻 博士前期課程	2	40	－	80	修士（工学）	0.54	平成16年度		
	未来ロボティクス専攻 修士課程	2	30	－	60	修士（工学）	0.71	平成16年度		
	工学専攻 博士後期課程	3	24	－	72	博士（工学）	0.38	平成16年度		
	情報科学研究科	－	－	－	－	－	0.32	－		
	情報科学専攻 博士前期課程	2	70	－	140	修士（工学）	0.32	平成16年度		
情報科学専攻 博士後期課程	3	4	－	12	博士（工学）	0.25	平成16年度			
社会システム科学研究科	－	－	－	－	－	0.33	－			
マネジメント工学専攻 博士前期課程	2	40	－	140	修士（工学）	0.28	平成16年度			
マネジメント工学専攻 博士後期課程	3	2	－	6	博士（工学）	1.25	平成16年度			
附属施設の概要		名称：千葉工業大学附属研究所 目的：知識の総合化・融合化を図るとともに、研究倫理を確立し、以って基盤的研究と時代に先駆する課題の学理とその応用に関する研究の推進を通し、学術文化の発展・充実に寄与することを目的とする。 所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号 設置年月：平成16年4月 規模等：2,025 m ² 名称：千葉工業大学未来ロボット技術研究センター 目的：ロボットに関する先進的な研究を行い、本学、産業界及び社会の発展と充実に貢献することを目的とする。 所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号 設置年月：平成15年4月 規模等：686 m ² 名称：千葉工業大学惑星探査研究センター 目的：宇宙及び惑星に関する先進的な研究を行い、本学、産業界及び社会の発展と充実に貢献することを目的とする。 所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号 設置年月：平成21年4月 規模等：1,255 m ² 名称：千葉工業大学人工知能・ソフトウェア技術研究センター 目的：ステアラボは、人工知能及びソフトウェア技術に関する先進的な研究を行い、本学、産業界及び社会の発展と充実に貢献することを目的とする。 所在地：千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号 設置年月：平成27年4月 規模等：245 m ²								

教育課程等の概要

(先進工学部 未来ロボティクス学科)

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	ステップアップ・イングリッシュ 1	1前		1			○							兼9		
			英語コミュニケーション A 1	1前		1			○							兼7		
			ステップアップ・イングリッシュ 2	1後		1			○									兼9
			英語コミュニケーション A 2	1後		1			○									兼7
			英語コンプリヘンション A 1	2前		1			○									兼7
			アドバンスト・コミュニケーション A 1	2前		1			○									兼3
			英語コンプリヘンション A 2	2後		1			○									兼7
			アドバンスト・コミュニケーション A 2	2後		1			○									兼3
			センテンス・ストラクチャ 1	1前		1			○									兼6
			英語コミュニケーション B 1	1前		1			○									兼4
			センテンス・ストラクチャ 2	1後		1			○									兼6
			英語コミュニケーション B 2	1後		1			○									兼4
			アドバンスト・コンプリヘンション B 1	2前		1			○									兼9
			アドバンスト・コミュニケーション B 1	2前		1			○									兼5
			アドバンスト・コンプリヘンション B 2	2後		1			○									兼7
			アドバンスト・コミュニケーション B 2	2後		1			○									兼7
			英語コンプリヘンション C 1	1前		1			○									兼7
			英語コミュニケーション C 1	1前		1			○									兼9
			英語コンプリヘンション C 2	1後		1			○									兼7
			英語コミュニケーション C 2	1後		1			○									兼9
	アドバンスト・コンプリヘンション C 1	2前		1			○								兼7			
	アドバンスト・コミュニケーション C 1	2前		1			○								兼3			
	アドバンスト・コンプリヘンション C 2	2後		1			○								兼7			
	アドバンスト・コミュニケーション C 2	2後		1			○								兼3			
	日本語表現法	1前	1				○								兼10			
	教養科目	情報リテラシー	情報処理	1前・後	2			○				1						
	教養科目	人間力養成	スポーツ科学	1前・後	2			○				1					兼9	
			初年次教育	1前	1			○				1						
	教養科目		キャリアデザイン 1	1前	1			○				1						
			キャリアデザイン 2	1後	1			○				1						
	教養科目		キャリアデザイン 3	3前	1			○				1						
小計 (31科目)			—	9	24	0					2	1	0	0	0	兼52		
教養科目	国際理解	異文化理解	1前・後, 2前	2			○									兼6		
		言語と文化 1	1前・後, 2前	2			○									兼9		
		言語と文化 2	1前・後, 2前	2			○									兼9		
		グローバル時代の法	3前・後, 4前	2			○									兼3		
	国際社会論	国際社会論	3前・後, 4前	2			○									兼3		
		哲学	1前・後, 2前	2			○									兼3		
		倫理学	1前・後, 2前	2			○									兼3		
		文学と芸術	1前・後, 2前	2			○									兼4		
	人間・社会・自然の理解	歴史と人間	1前・後, 2前	2			○									兼2		
		心理学	1前・後, 2前	2			○									兼1		
		身体と健康の科学	1前・後, 2前	2			○									兼5		
		憲法と社会	1前・後, 2前	2			○									兼3		
		政治と社会	3前・後, 4前	2			○									兼2		
		経済学	3前・後, 4前	2			○									兼3		
		現代社会論	1前・後, 2前	2			○									兼5		
		科学技術史	1前・後, 2前	2			○									兼2		
		環境科学概論	1前・後, 2前	2			○									兼3		
		生命科学	3前・後, 4前	2			○									兼2		
		地球科学	3前・後, 4前	2			○									兼3		
		物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2			○									兼8		
物質科学	3前・後, 4前	2			○									兼3				
総合	課題探究セミナー	2後	2			○									兼19			
	総合学際科目	2後	2			○									兼17			
教養科目		小計 (23科目)	—	6	40	0		—		0	0	0	0	0	兼60	—		
		教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング 1	3前		1			○								兼2	
イングリッシュアクティブラーニング 2	3後			1			○								兼2			
イングリッシュアクティブラーニング 3	3前・後, 4前・後			1			○								兼2			
スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後			2			○								兼5			
ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4			1					○						兼1			
国際インターン	1・2・3・4			1					○						兼1			
国内インターン	1・2・3・4			1					○									
ボランティア	1・2・3・4			1					○						兼1			
総合科学特論	4前・後			2			○								兼5			
小計 (9科目)	—		0	11	0		—		1	0	0	0	0	0	兼13	—		

専門科目	専門基礎科目	ロボット体験実習	1前	2				○		2					兼1	共同
		プログラミング基礎	1前	2			○			1						
		未来ロボティクス総合セミナー	1前	2			○			7	3					オムニバス
		数学基礎	1前		2		○								兼2	
		線形代数学	1後		2		○								兼2	
		微分積分学	1後		2		○								兼2	
		物理学基礎	1後		2		○								兼2	
	小計（7科目）		—	6	8	0		—		7	3	0	0	0	兼6	—
	専門基幹科目	ロボット設計製作論実習 1	1後	2					○	2						共同
		ロボット設計製作論実習 2	2前	2					○	1	1					共同
		ロボット設計製作論実習 3	2後	2					○	2						共同
		ロボット設計製作論実習 4	3前	2					○	7	3					共同
		ロボット設計製作論実習 5	3後	2					○	7	3					共同
		機械製図	1前		1			○							兼1	
		ロボット機構学	1前		2			○		1						
		ロボット電子回路	1後		4			○		1						
		ロボットプログラミング	1後		2			○		1						
		メカニクス 1	2前		4			○		1						
		制御工学	2前		4			○		1					※演習	
		電気電子回路論	2前		4			○			1				兼1	
		信号処理論	2後		2			○		1						
		ロボット制御学	3前		2			○		1						
		ロボットシステム学	3後		2			○			1					
		科学技術開発マネジメント	3前		2			○							兼1	
		科学技術基礎英語	3前		2			○							兼1	
		電磁気学	3後		2			○							兼1	
		コミュニケーション論	3後		2			○							兼1	※演習
	基礎統計学	4前		2			○							兼1		
	小計（20科目）		—	10	37	0		—		7	3	0	0	0	兼7	—
	専門展開科目	ロボティクスチャレンジ	1休		1				○	1	2					共同
		ロボットマニピュレータ	2後		2			○		1						集中
		センサ工学	2後		2			○		1						
		数値解析学1	2後		2			○		1						
数値解析学2		3前		2			○		1							
メカニクス 2		3前		2			○		1							
組込み用コンピュータ実装論		3前		2			○		1							
認識工学		3前		2			○		1							
ロボットビジョン		3後		2			○		1							
認知科学		3後		2			○		1							
ロボットインターフェイス設計論		3後		2			○							兼1		
ロボット構造力学		3後		2			○		1						共同	
アクチュエータ工学		3後		2			○									
CAD/CAM/CAE		3後		2				○	1	1						
流体力学		3後		2			○		1							
ゼミナール1		3前		2				○	7	3						
ゼミナール2		3後		2				○	7	3						
ゼミナール3		4前		2				○	7	3						
ゼミナール4		4後		2				○	7	3						
卒業研究		4通		5				○	7	3						
小計（20科目）		—	5	37	0		—		7	3	0	0	0	兼1	—	
合計（110科目）			—	36	157	0		—		7	3	0	0	0	兼113	—
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係							
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
以下の条件を満たし、総単位 1 2 4 単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目 1 5 単位を含み、教養科目 3 6 単位以上 （専門科目） 必修科目 2 3 単位を含み、専門基礎科目 1 2 単位以上、専門基幹科目 3 1 単位以上、専門展開科目 2 0 単位以上 （履修科目の登録の上限： 4 0 単位（年間））									1 学年の学期区分			2 学期				
									1 学期の授業期間			1 5 週				
									1 時限の授業時間			9 0 分				

教 育 課 程 等 の 概 要

津田沼キャンパス

(先進工学部 未来ロボティクス学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	コミュニケーションスキル													
	情報リテラシー													
	人間力養成													
	キャリアデザイン3													
	小計 (1科目)													
	国際理解													
	人間・社会・自然の理解													
	総合													
	小計 (8科目)													
教養特別科目	教養特別科目													
	小計 (9科目)													

専門科目	専門基礎科目																
	小計（0科目）	—	0	0	0		—		0	0	0	0	0	0	兼0	—	
	専門基幹科目	ロボット設計製作論実習 4 ロボット設計製作論実習 5	3前 3後	2 2				○ ○	7 7	3 3						共同 共同	
		ロボット制御学 ロボットシステム学 科学技術開発マネジメント 科学技術基礎英語 電磁気学 コミュニケーション論 基礎統計学	3前 3後 3前 3前 3後 3後 4前	2 2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		1 1		1					兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	※演習	
	小計（9科目）	—	4	14	0		—		7	3	0	0	0	0	兼5	—	
専門展開科目																	

教 育 課 程 等 の 概 要														新習志野キャンパス	
(先進工学部 未来ロボティクス学科)															
科目 区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
教養基礎科目	コミュニケーションスキル	ステップアップ・イングリッシュ 1	1前		1			○							兼9
		英語コミュニケーション A 1	1前		1			○							兼7
		ステップアップ・イングリッシュ 2	1後		1			○							兼9
		英語コミュニケーション A 2	1後		1			○							兼7
		英語コンプリヘンション A 1	2前		1			○							兼7
		アドバンスト・コミュニケーション A 1	2前		1			○							兼3
		英語コンプリヘンション A 2	2後		1			○							兼7
		アドバンスト・コミュニケーション A 2	2後		1			○							兼3
		センテンス・ストラクチャ 1	1前		1			○							兼6
		英語コミュニケーション B 1	1前		1			○							兼4
		センテンス・ストラクチャ 2	1後		1			○							兼6
		英語コミュニケーション B 2	1後		1			○							兼4
		アドバンスト・コンプリヘンション B 1	2前		1			○							兼9
		アドバンスト・コミュニケーション B 1	2前		1			○							兼5
		アドバンスト・コンプリヘンション B 2	2後		1			○							兼7
		アドバンスト・コミュニケーション B 2	2後		1			○							兼7
		英語コンプリヘンション C 1	1前		1			○							兼7
		英語コミュニケーション C 1	1前		1			○							兼9
		英語コンプリヘンション C 2	1後		1			○							兼7
		英語コミュニケーション C 2	1後		1			○							兼9
		アドバンスト・コンプリヘンション C 1	2前		1			○							兼7
		アドバンスト・コミュニケーション C 1	2前		1			○							兼3
		アドバンスト・コンプリヘンション C 2	2後		1			○							兼7
		アドバンスト・コミュニケーション C 2	2後		1			○							兼3
		日本語表現法	1前	1				○							兼10
	情報リテラシー	情報処理	1前・後	2				○			1				
	人間力養成	スポーツ科学	1前・後	2				○							兼9
		初年次教育	1前	1				○		1					
		キャリアデザイン 1	1前	1				○		1					
		キャリアデザイン 2	1後	1				○		1					
	小計 (30科目)		—	8	24	0				2	1	0	0	0	兼52
教養共通科目	国際理解	異文化理解	1前・後, 2前	2				○							兼6
		言語と文化 1	1前・後, 2前	2				○							兼9
		言語と文化 2	1前・後, 2前	2				○							兼9
	人間・社会・自然の理解	哲学	1前・後, 2前		2			○							兼3
		倫理学	1前・後, 2前		2			○							兼3
		文学と芸術	1前・後, 2前		2			○							兼4
		歴史と人間	1前・後, 2前		2			○							兼2
		心理学	1前・後, 2前		2			○							兼1
		身体と健康の科学	1前・後, 2前		2			○							兼5
		憲法と社会	1前・後, 2前		2			○							兼3
		現代社会論	1前・後, 2前		2			○							兼5
		科学技術史	1前・後, 2前		2			○							兼2
		環境科学概論	1前・後, 2前		2			○							兼3
教養特別科目	総合	課題探究セミナー	2後		2			○							兼19
		総合学際科目	2後		2			○							兼17
		小計 (15科目)	—	6	24	0		—		0	0	0	0	0	兼43
教養特別科目	教養特別科目	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4		1				○						兼1
		国際インターン	1・2・3・4		1				○	1					兼1
		国内インターン	1・2・3・4		1				○						
		ボランティア	1・2・3・4		1				○						兼1
	小計 (4科目)		—	0	4	0		—		1	0	0	0	0	兼3

専門科目	専門基礎科目	ロボット体験実習	1前	2				○			2				兼1	共同	
		プログラミング基礎	1前	2				○			1						
		未来ロボティクス総合セミナー	1前	2				○			7	3				オムニバス	
		数学基礎	1前		2			○							兼2		
		線形代数学	1後		2			○							兼2		
		微分積分学	1後		2			○							兼2		
		物理学基礎	1後		2			○							兼2		
		小計（7科目）	—	6	8	0		—		7	3	0	0	0	兼6	—	
	専門基幹科目	ロボット設計製作論実習 1	1後	2					○	2						共同	
		ロボット設計製作論実習 2	2前	2					○	1	1					共同	
		ロボット設計製作論実習 3	2後	2					○	2						共同	
		機械製図	1前		1			○							兼1		
		ロボット機構学	1前		2			○		1							
		ロボット電子回路	1後		4			○		1							
		ロボットプログラミング	1後		2			○		1							
メカニクス 1		2前		4			○		1								
制御工学		2前		4			○		1					※演習			
電気電子回路論		2前		4			○			1				兼1			
信号処理論	2後		2			○		1									
小計（11科目）		—	6	23	0		—		6	1	0	0	0	兼2	—		
専門展開科目	ロボティクスチャレンジ	1休		1				○	1	2					共同		
	ロボットマニピュレータ	2後		2			○		1						集中		
	センサ工学	2後		2			○		1								
	数値解析学1	2後		2			○		1								
	小計（4科目）		—	0	7	0		—		4	2	0	0	0	兼0	—	
合計（71科目）			—	26	90	0		—		7	3	0	0	0	兼91	—	
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係									
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
以下の条件を満たし、総単位 1 2 4 単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目 1 5 単位を含み、教養科目 3 6 単位以上 （専門科目） 必修科目 2 3 単位を含み、専門基礎科目 1 2 単位以上、専門基幹科目 3 1 単位以上、専門展開科目 2 0 単位以上 （履修科目の登録の上限： 4 0 単位（年間））									1 学年の学期区分			2 学期					
									1 学期の授業期間			1 5 週					
									1 時限の授業時間			9 0 分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
(先進工学部 生命科学科)															
科目 区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
教養 基 礎 科 目	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ス キ ル	ステップアップ・イングリッシュ 1	1前		1			○							兼9
		英語コミュニケーション A 1	1前		1			○							兼7
		ステップアップ・イングリッシュ 2	1後		1			○							兼9
		英語コミュニケーション A 2	1後		1			○							兼7
		英語コンプリヘンション A 1	2前		1			○							兼7
		アドバンスト・コミュニケーション A 1	2前		1			○							兼3
		英語コンプリヘンション A 2	2後		1			○							兼7
		アドバンスト・コミュニケーション A 2	2後		1			○							兼3
		センテンス・ストラクチャ 1	1前		1			○							兼6
		英語コミュニケーション B 1	1前		1			○							兼4
		センテンス・ストラクチャ 2	1後		1			○							兼6
		英語コミュニケーション B 2	1後		1			○							兼4
		アドバンスト・コンプリヘンション B 1	2前		1			○							兼9
		アドバンスト・コミュニケーション B 1	2前		1			○							兼5
		アドバンスト・コンプリヘンション B 2	2後		1			○							兼7
		アドバンスト・コミュニケーション B 2	2後		1			○							兼7
		英語コンプリヘンション C 1	1前		1			○							兼7
		英語コミュニケーション C 1	1前		1			○							兼9
		英語コンプリヘンション C 2	1後		1			○							兼7
		英語コミュニケーション C 2	1後		1			○							兼9
		アドバンスト・コンプリヘンション C 1	2前		1			○							兼7
		アドバンスト・コミュニケーション C 1	2前		1			○							兼3
		アドバンスト・コンプリヘンション C 2	2後		1			○							兼7
		アドバンスト・コミュニケーション C 2	2後		1			○							兼3
		日本語表現法	1前	1				○							兼10
	情 報 リ テ ラ ン シ	情報処理	1前・後		2			○							兼3
	人 間 力 養 成	スポーツ科学	1前・後		2			○							兼9
		初年次教育	1前		1			○							兼1
		キャリアデザイン 1	1前		1			○		1					
		キャリアデザイン 2	1後		1			○		1					
		キャリアデザイン 3	3前		1			○		1					
	小計 (31科目)		—	9	24	0				1	0	0	0	0	兼56
	国 際 理 解	異文化理解	1前・後, 2前		2			○							兼6
		言語と文化 1	1前・後, 2前		2			○							兼9
		言語と文化 2	1前・後, 2前		2			○							兼9
		グローバル時代の法	3前・後, 4前		2			○							兼3
	人 間 ・ 社 会 ・ 自 然 の 理 解	国際社会論	3前・後, 4前		2			○							兼3
		哲学	1前・後, 2前		2			○							兼3
		倫理学	1前・後, 2前		2			○							兼3
		文学と芸術	1前・後, 2前		2			○							兼4
		歴史と人間	1前・後, 2前		2			○							兼2
		心理学	1前・後, 2前		2			○							兼1
		身体と健康の科学	1前・後, 2前		2			○							兼5
		憲法と社会	1前・後, 2前		2			○							兼3
		政治と社会	3前・後, 4前		2			○							兼2
		経済学	3前・後, 4前		2			○							兼3
		現代社会論	1前・後, 2前		2			○							兼5
		科学技術史	1前・後, 2前		2			○							兼2
		環境科学概論	1前・後, 2前		2			○							兼3
		生命科学	3前・後, 4前		2			○							兼2
	総 合	地球科学	3前・後, 4前		2			○							兼3
		物理の世界と先端技術	3前・後, 4前		2			○							兼8
		物質科学	3前・後, 4前		2			○							兼3
		課題探究セミナー	2後		2			○							兼19
	総合学際科目		2後		2			○							兼17
	小計 (23科目)		—	6	40	0				0	0	0	0	0	兼60
教養 特 別 科 目	イ ン グ リ ッ シ ュ ア ク ティ ブ ラ ー ニ ン グ	イングリッシュアクティブラーニング 1	3前		1			○							兼2
		イングリッシュアクティブラーニング 2	3後		1			○							兼2
		イングリッシュアクティブラーニング 3	3前・後, 4前・後		1			○							兼2
		スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後		2		○								兼5
		ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4		1				○						兼1
		国際インターン	1・2・3・4		1				○						兼1
		国内インターン	1・2・3・4		1				○	1					
		ボランティア	1・2・3・4		1				○						兼1
		総合科学特論	4前・後		2		○								兼5
	小計 (9科目)		—	0	11	0				1	0	0	0	0	兼13

専門科目	専門基礎科目	生物学 1	1前	2		○			1						兼2	オムニバス
		数学基礎	1前	2		○									兼2	
		化学基礎	1前	2		○										
		生物学 2	1後	2		○			1						兼1	
		微分積分	2前・後、3前・後、4前・後	2		○									兼1	
		線形代数	2前・後、3前・後、4前・後	2		○									兼1	
		機器分析学	2前・後、3前・後、4前・後	2		○									兼1	
		量子化学	2前・後、3前・後、4前・後	2		○									兼1	
		基礎統計学	2前・後、3前・後、4前・後	2		○									兼1	
		生命科学基礎演習	1後	1			○		7	3						
	小計 (10科目)	—	5	14	0	—		7	3	0	0	0	兼8	—		
	専門基幹科目	分子生物学 1	1前	2		○			1							オムニバス
		生物物理学 1	1前	2		○			1							
		生化学 1	1後	2		○				1						
		基礎生態学	1後	2		○			1							
		分子生物学 2	1後	2		○				1						
		微生物学	1後	2		○				1						
		生化学 2	2前	2		○				1						
		遺伝子工学 1	2前	2		○			1							
		細胞生物学	2前	2		○				1						
		生物物理学 2	2後	2		○			1							
		遺伝子工学2	2後	2		○			1	1						
		生命科学のための倫理・法律	2前	2		○			4	1				兼1		
		生命科学基礎実験 1	2前	2			○		3	2					オムニバス	
		生命科学基礎実験 2	2後	2			○								オムニバス	
	小計 (14科目)	—	6	22	0	—		7	3	0	0	0	兼1	—		
	専門展開科目	構造生物学	2前	2		○			1							オムニバス・ 共同 (一部) オムニバス
		環境構造学	2前	2		○			1							
		ゲノム科学	2前	2		○			1							
		ウイルス学	2後	2		○			1							
		動物生理学 1	2後	2		○			1							
		植物生理学 1	2後	2		○				1						
		分子進化学	2後	2		○				1						
		ゲノム生態学	2後	2		○			1							
		分子免疫学	3前	2		○				1						
		生体分子工学 1	3前	2		○			1							
動物生理学 2		3前	2		○			1								
保全生物学		3前	2		○			1								
生体理工学		3前	2		○			1								
公衆衛生学		3前	2		○			2								
微生物生態学		3前	2		○			1								
生命情報学		3前	2		○			1								
植物生理学 2		3後	2		○				1							
生物多様性科学		3後	2		○			1								
生体分子工学 2		3後	2		○			1								
細胞遺伝学		3後	2		○			1								
微生物工学		3後	2		○				1							
医薬品生産技術		3後	2		○			1						兼1		
生態系保全技術	3後	2		○			1						兼1			
生命科学応用実験	3前	2			○		7	3					オムニバス・ 共同 (一部) オムニバス・ 共同 (一部) オムニバス・ 共同 (一部)			
卒業研究準備実験	3後	2			○		7	3								
卒業研究	4通	5			○		7	3								
小計 (26科目)	—	9	46	0	—		7	3	0	0	0	兼3	—			
合計 (113科目)			—	35	157	0	—	7	3	0	0	0	兼108	—		
学位又は称号		学士 (工学)			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
以下の条件を満たし、総単位 1 2 4 単位以上修得すること。 (教養科目) 必修科目 1 5 単位を含み、教養科目 3 6 単位以上 (専門科目) 必修科目 2 0 単位を含み、専門基礎科目 6 単位以上、専門基幹科目 1 8 単位以上、専門展開科目 3 6 単位以上 (履修科目の登録の上限： 4 0 単位 (年間))								1 学年の学期区分			2 学期					
								1 学期の授業期間			1 5 週					
								1 時限の授業時間			9 0 分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
(先進工学部 生命科学科)															
科目 区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル													
		情報リテラシー													
		人間力養成 キャリアデザイン3	3前	1			○			1					
		小計 (1科目)	—	1	0	0				1	0	0	0	0	兼0
	教養共通科目	国際理解 グローバル時代の法 国際社会論	3前・後, 4前 3前・後, 4前	2 2			○ ○								兼3 兼3
		人間・社会・自然の理解 政治と社会 経済学	3前・後, 4前 3前・後, 4前	2 2			○ ○								兼2 兼3
		生命科学	3前・後, 4前	2			○								兼2
		地球科学	3前・後, 4前	2			○								兼3
		物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2			○								兼8
		物質科学	3前・後, 4前	2			○								兼3
		総合													
		小計 (8科目)	—	0	16	0		—		0	0	0	0	0	兼25
	教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング1	3前	1				○							兼2
		イングリッシュアクティブラーニング2	3後	1				○							兼2
		イングリッシュアクティブラーニング3	3前・後, 4前・後	1				○							兼2
		スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後	2			○								兼5
		ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4	1					○						兼1
		国際インターン	1・2・3・4	1											兼1
		国内インターン	1・2・3・4	1						1					
	教養特別科目	ボランティア	1・2・3・4	1											兼1
		総合科学特論	4前・後	2			○								兼5
		小計 (9科目)	—	0	11	0		—		1	0	0	0	0	兼13

専門基礎科目	微分積分	2前・後、3前・後、4前・後	2				○									兼1	
	線形代数	2前・後、3前・後、4前・後	2				○									兼1	
	機器分析学	2前・後、3前・後、4前・後	2				○									兼1	
	量子化学	2前・後、3前・後、4前・後	2				○									兼1	
	基礎統計学	2前・後、3前・後、4前・後	2				○									兼1	
	小計（5科目）	—	0	10	0		—			0	0	0	0	0	0	兼5	—
	小計（0科目）	—	0	0	0		—			0	0	0	0	0	0	兼0	—
専門科目	分子免疫学	3前	2				○				1					兼1	オムニバス・共同（一部） オムニバス
	生体分子工学 1	3前	2				○			1							
	動物生理学 2	3前	2				○			1							
	保全生物学	3前	2				○			1							
	生体理工学	3前	2				○			1							
	公衆衛生学	3前	2				○			2						兼1	オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部） オムニバス・共同（一部）
	微生物生態学	3前	2				○			1							
	生命情報学	3前	2				○			1							
	植物生理学 2	3後	2				○				1						
	生物多様性科学	3後	2				○			1							
	生体分子工学 2	3後	2				○			1							
	細胞遺伝学	3後	2				○			1							
	微生物工学	3後	2				○				1						
	医薬品生産技術	3後	2				○			1							
	生態系保全技術	3後	2				○			1							
	生命科学応用実験	3前	2					○		7	3						
	卒業研究準備実験	3後	2							7	3						
	卒業研究	4通	5					○		7	3						
小計（18科目）	—	9	30	0		—			7	3	0	0	0	0	兼3	—	
合計（41科目）		—	10	67	0		—			7	3	0	0	0	0	兼42	—
学位又は称号		学士（工学）				学位又は学科の分野				工学関係							
卒業要件及び履修方法										授業期間等							
以下の条件を満たし、総単位124単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目15単位を含み、教養科目36単位以上 （専門科目） 必修科目20単位を含み、専門基礎科目6単位以上、専門基幹科目18単位以上、専門展開科目36単位以上 （履修科目の登録の上限：40単位（年間））										1学年の学期区分				2学期			
										1学期の授業期間				15週			
										1時限の授業時間				90分			

教 育 課 程 等 の 概 要

新習志野キャンパス

(先進工学部 生命科学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
教養基礎科目	ステップアップ・イングリッシュ 1	1前		1			○							兼9
	英語コミュニケーションA 1	1前		1			○							兼7
	ステップアップ・イングリッシュ 2	1後		1			○							兼9
	英語コミュニケーションA 2	1後		1			○							兼7
	英語コンプリヘンションA 1	2前		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーションA 1	2前		1			○							兼3
	英語コンプリヘンションA 2	2後		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーションA 2	2後		1			○							兼3
	センテンス・ストラクチャ 1	1前		1			○							兼6
	英語コミュニケーションB 1	1前		1			○							兼4
	センテンス・ストラクチャ 2	1後		1			○							兼6
	英語コミュニケーションB 2	1後		1			○							兼4
	アドバンスト・コンプリヘンションB 1	2前		1			○							兼9
	アドバンスト・コミュニケーションB 1	2前		1			○							兼5
	アドバンスト・コンプリヘンションB 2	2後		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーションB 2	2後		1			○							兼7
	英語コンプリヘンションC 1	1前		1			○							兼7
	英語コミュニケーションC 1	1前		1			○							兼9
	英語コンプリヘンションC 2	1後		1			○							兼7
	英語コミュニケーションC 2	1後		1			○							兼9
	アドバンスト・コンプリヘンションC 1	2前		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーションC 1	2前		1			○							兼3
	アドバンスト・コンプリヘンションC 2	2後		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーションC 2	2後		1			○							兼3
	日本語表現法	1前	1				○							兼10
	情報リテラシー	1前・後	2				○							兼3
	スポーツ科学	1前・後	2				○							兼9
	初年次教育	1前	1				○							兼1
	キャリアデザイン 1	1前	1				○		1					
	キャリアデザイン 2	1後	1				○		1					
	小計 (30科目)	—	8	24	0				1	0	0	0	0	兼56
	異文化理解	1前・後, 2前	2				○							兼6
	言語と文化 1	1前・後, 2前	2				○							兼9
	言語と文化 2	1前・後, 2前	2				○							兼9
	哲学	1前・後, 2前		2			○							兼3
	倫理学	1前・後, 2前		2			○							兼3
	文学と芸術	1前・後, 2前		2			○							兼4
	歴史と人間	1前・後, 2前		2			○							兼2
	心理学	1前・後, 2前		2			○							兼1
	身体と健康の科学	1前・後, 2前		2			○							兼5
	憲法と社会	1前・後, 2前		2			○							兼3
	現代社会論	1前・後, 2前		2			○							兼5
	科学技術史	1前・後, 2前		2			○							兼2
	環境科学概論	1前・後, 2前		2			○							兼3
	総合	2後		2			○							兼19
	総合学際科目	2後		2			○							兼17
	小計 (15科目)	—	6	24	0				0	0	0	0	0	兼43
教養特別科目	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4		1				○						兼1
	国際インターン	1・2・3・4		1				○						兼1
	国内インターン	1・2・3・4		1				○	1					
	ボランティア	1・2・3・4		1				○						兼1
	小計 (4科目)	—	0	4	0				1	0	0	0	0	兼3

専門基礎科目	生物学 1	1前	2			○			1						兼2	
	数学基礎	1前		2		○									兼2	
	化学基礎	1前		2		○										
	生物学 2	1後	2			○			1							
	微分積分	2前・後、3前・後、4前・後		2		○									兼1	
	線形代数	2前・後、3前・後、4前・後		2		○									兼1	
	機器分析学	2前・後、3前・後、4前・後		2		○									兼1	
	量子化学	2前・後、3前・後、4前・後		2		○									兼1	
	基礎統計学	2前・後、3前・後、4前・後		2		○									兼1	
	生命科学基礎演習	1後	1				○		7	3						オムニバス
	小計（10科目）	—	5	14	0	—			7	3	0	0	0		兼8	—
専門基幹科目	分子生物学 1	1前		2		○			1							
	生物物理学 1	1前		2		○			1							
	生化学 1	1後		2		○				1						
	基礎生態学	1後		2		○			1							
	分子生物学 2	1後		2		○				1						
	微生物学	1後		2		○				1						
	生化学 2	2前		2		○				1						
	遺伝子工学 1	2前		2		○			1							
	細胞生物学	2前		2		○				1						
	生物物理学 2	2後		2		○			1							
	遺伝子工学2	2後		2		○			1	1						オムニバス
	生命科学のための倫理・法律	2前	2			○			4	1					兼1	
	生命科学基礎実験 1	2前	2				○									オムニバス
	生命科学基礎実験 2	2後	2				○		3	2						オムニバス
小計（14科目）	—	6	22	0	—			7	3	0	0	0		兼1	—	
専門展開科目	構造生物学	2前		2		○			1							
	環境構造学	2前		2		○			1							
	ゲノム科学	2前		2		○			1							
	ウイルス学	2後		2		○			1							
	動物生理学 1	2後		2		○			1							
	植物生理学 1	2後		2		○				1						
	分子進化学	2後		2		○				1						
	ゲノム生態学	2後		2		○										
小計（8科目）	—	0	16	0	—			4	2	0	0	0		兼0	—	
合計（81科目）		—	25	104	0	—		7	3	0	0	0		兼90	—	
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
以下の条件を満たし、総単位 1 2 4 単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目 1 5 単位を含み、教養科目 3 6 単位以上 （専門科目） 必修科目 2 0 単位を含み、専門基礎科目 6 単位以上、専門基幹科目 1 8 単位以上、専門展開科目 3 6 単位以上 （履修科目の登録の上限： 4 0 単位（年間））								1 学年の学期区分				2 学期				
								1 学期の授業期間				1 5 週				
								1 時限の授業時間				9 0 分				

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進工学部 知能メディア工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
教養基礎科目	ステップアップ・イングリッシュ 1	1前		1			○							兼9
	英語コミュニケーションA 1	1前		1			○							兼7
	ステップアップ・イングリッシュ 2	1後		1			○							兼9
	英語コミュニケーションA 2	1後		1			○							兼7
	英語コンプリヘンションA 1	2前		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーションA 1	2前		1			○							兼3
	英語コンプリヘンションA 2	2後		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーションA 2	2後		1			○							兼3
	センテンス・ストラクチャ 1	1前		1			○							兼6
	英語コミュニケーションB 1	1前		1			○							兼4
	センテンス・ストラクチャ 2	1後		1			○							兼6
	英語コミュニケーションB 2	1後		1			○							兼4
	アドバンスト・コンプリヘンションB 1	2前		1			○							兼9
	アドバンスト・コミュニケーションB 1	2前		1			○							兼5
	アドバンスト・コンプリヘンションB 2	2後		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーションB 2	2後		1			○							兼7
	英語コンプリヘンションC 1	1前		1			○							兼7
	英語コミュニケーションC 1	1前		1			○							兼9
	英語コンプリヘンションC 2	1後		1			○							兼7
	英語コミュニケーションC 2	1後		1			○							兼9
	アドバンスト・コンプリヘンションC 1	2前		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーションC 1	2前		1			○							兼3
	アドバンスト・コンプリヘンションC 2	2後		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーションC 2	2後		1			○							兼3
	日本語表現法	1前	1				○							兼10
	情報リテラシー	1前・後	2				○							兼3
	スポーツ科学	1前・後	2				○							兼9
	初年次教育	1前	1				○							兼1
	キャリアデザイン 1	1前	1				○							兼1
	キャリアデザイン 2	1後	1				○							兼1
	キャリアデザイン 3	3前	1				○							兼1
	小計 (31科目)	—	9	24	0				0	0	0	0	0	兼57
	異文化理解	1前・後, 2前	2				○							兼6
	言語と文化 1	1前・後, 2前	2				○							兼9
	言語と文化 2	1前・後, 2前	2				○							兼9
	グローバル時代の法	3前・後, 4前		2			○							兼3
	国際社会論	3前・後, 4前		2			○							兼3
	哲学	1前・後, 2前		2			○							兼3
	倫理学	1前・後, 2前		2			○							兼3
	文学と芸術	1前・後, 2前		2			○							兼4
	歴史と人間	1前・後, 2前		2			○							兼2
	心理学	1前・後, 2前		2			○							兼1
	身体と健康の科学	1前・後, 2前		2			○							兼5
	憲法と社会	1前・後, 2前		2			○							兼3
	政治と社会	3前・後, 4前		2			○							兼2
	経済学	3前・後, 4前		2			○							兼3
	現代社会論	1前・後, 2前		2			○							兼5
	科学技術史	1前・後, 2前		2			○							兼2
	環境科学概論	1前・後, 2前		2			○							兼3
	生命科学	3前・後, 4前		2			○							兼2
	地球科学	3前・後, 4前		2			○							兼3
	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前		2			○							兼8
	物質科学	3前・後, 4前		2			○							兼3
	課題探究セミナー	2後		2			○							兼19
	総合学際科目	2後		2			○							兼17
	小計 (23科目)	—	6	40	0				0	0	0	0	0	兼60
教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング 1	3前		1			○							兼2
	イングリッシュアクティブラーニング 2	3後		1			○							兼2
	イングリッシュアクティブラーニング 3	3前・後, 4前・後		1			○							兼2
	スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後		2			○							兼5
	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4		1				○						兼1
	国際インターン	1・2・3・4		1				○						兼1
	国内インターン	1・2・3・4		1				○						兼1
	ボランティア	1・2・3・4		1				○						兼1
	総合科学特論	4前・後		2			○							兼5
	小計 (9科目)	—	0	11	0				0	0	0	0	0	兼14

専門科目	専門基礎科目	数学基礎	1前	2				○									兼2	
		線形代数	1前	2				○									兼2	
		確率統計	1後	2				○									兼2	
		物理学基礎	1前	2				○									兼2	
		物理学実験	1後	2						○							兼5	
		知能メディア基礎数学	1後	2				○									兼2	
		離散数学	2前		2			○										
		統計解析	2後		2			○										
		小計（8科目）	—	12	4	0		—				2	0	0	0	0	兼13	—
	専門基幹科目	プログラミング言語基礎	1後	2				○				1						※演習
		視覚造形基礎	1後	2					○			1	1			1		共同
		コンピュータ工学	2前		2			○				1						オムニバス
		デジタルデザイン基礎演習	2前		2				○				1			1		※演習
		ネットワーク基礎	2前		2			○				1						オムニバス
		ヒューマンインタフェース論	2前		2			○					1			1		※演習
		プログラミング言語応用	2後		2			○				1						オムニバス
		デジタルファブ리케이션	2後		2			○				1	1					※演習
		メディアデザイン論	2後		2			○				1	1					オムニバス
		メディア史	2後		2			○				1				1		オムニバス
		人間中心設計	3前	2				○				1						
		技術者倫理	3後		2			○				1						
		メディア基礎	2後	2				○				1						
		情報理論	2前	2				○				1						
		コミュニケーションデザイン演習	2前	2					○			1				1		共同
		知能メディア体験演習	1前	2					○			8	1			1		オムニバス・ 共同（一部）
		知能メディアプロジェクト1	2前	2					○			5						共同
		知能メディアプロジェクト2	2後	2					○			3	1			1		共同
	小計（18科目）	—	18	18	0		—				8	1	0	1	0	兼0	—	
	専門展開科目	メディア工学実験	3前	2						○		4						共同
		音響工学基礎	3前		2			○				1						
		画像処理基礎	3前		2			○				1						
		音声工学	3前		2			○				1						
		音響工学応用	3後		2			○				1						
		画像処理応用	3後		2			○				1						
		バーチャルリアリティ	4前		2			○				1						
		人工知能基礎	2後		2			○				1						
		知識工学	3前		2			○				1						
		機械学習	3前		2			○				1						
		コンピュータネットワーク	3前		2			○				1						
		ネットワーク・データ工学実験	3後	2						○		3						共同
		データマイニング	3後		2			○				1						
		データベース工学	3後		2			○				1						
		ネットワーク・データ工学応用	4前		2			○				1						
		情報デザイン基礎	2後		2				○			1				1		共同
		情報デザイン演習	3前	2					○			2						共同
		情報デザイン論	3前		2			○				2						オムニバス
テクノロジーアート		3前		2			○				1	1					オムニバス	
情報デザイン応用		3後		2			○				2						オムニバス	
情報デザイン応用演習		3後		2				○			2						共同	
フィジカルインタフェース		3後		2			○					1						
ユーザエクスペリエンスデザイン		4前		2			○				1							
知能メディアチャレンジ		3後		1				○			8	1			1		オムニバス・ 共同（一部）	
ゼミナール1		3後	2					○			8	1			1			
ゼミナール2		4前	2					○			8	1			1			
ゼミナール3		4後	2					○			8	1			1			
卒業研究		4通	5					○			8	1			1			
小計（28科目）	—	17	41	0		—				8	1	0	1	0	兼0	—		
合計117科目			—	62	138	0		—			8	1	0	1	0	兼11	—	
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野					工学関係								
卒業要件及び履修方法										授業期間等								
以下の条件を満たし、総単位124単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目15単位を含み、教養科目36単位以上 （専門科目） 必修科目47単位を含み、専門基礎科目12単位以上、専門基幹科目26単位以上、専門展開科目32単位以上を満たして88単位以上を修得していること。 （履修科目の登録の上限：40単位（年間））										1学年の学期区分				2学期				
										1学期の授業期間				15週				
										1時限の授業時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要

津田沼キャンパス

(先進工学部 知能メディア工学科)

科目 区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル																
		情報リテラシー																
		人間力養成																
		キャリアデザイン3	3前	1			○									兼1		
	小計（1科目）		—	1	0	0					0	0	0	0	0	兼1		
	教養共通科目	国際理解																
		グローバル時代の法	3前・後、4前					○									兼3	
		国際社会論	3前・後、4前					○									兼3	
		人間・社会・自然の理解																
		政治と社会	3前・後、4前					2		○							兼2	
		経済学	3前・後、4前					2		○							兼3	
		生命科学	3前・後、4前					2		○							兼2	
		地球科学	3前・後、4前					2		○							兼3	
	物理の世界と先端技術	3前・後、4前					2		○							兼8		
物質科学	3前・後、4前					2		○							兼3			
総合																		
小計（8科目）		—	0	16	0		—			0	0	0	0	0	0	兼25	—	
教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング1	3前						○								兼2	集中 集中	
	イングリッシュアクティブラーニング2	3後						○								兼2		
	イングリッシュアクティブラーニング3	3前・後、4前・後						○								兼2		
	スポーツアクティブラーニング	3前・後、4前・後						○								兼5		
	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4								○						兼1		
	国際インターン	1・2・3・4								○						兼1		
	国内インターン	1・2・3・4								○						兼1		
	ボランティア	1・2・3・4								○						兼1		
	総合科学特論	4前・後						○								兼5		
小計（9科目）		—	0	11	0		—			0	0	0	0	0	兼14	—		

[illegible]

教 育 課 程 等 の 概 要

新習志野キャンパス

(先進工学部 知能メディア工学科)

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養基礎科目	ステップアップ・イングリッシュ 1	1前		1			○							兼9
	英語コミュニケーション A 1	1前		1			○							兼7
	ステップアップ・イングリッシュ 2	1後		1			○							兼9
	英語コミュニケーション A 2	1後		1			○							兼7
	英語コンプリヘンション A 1	2前		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーション A 1	2前		1			○							兼3
	英語コンプリヘンション A 2	2後		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーション A 2	2後		1			○							兼3
	センテンス・ストラクチャ 1	1前		1			○							兼6
	英語コミュニケーション B 1	1前		1			○							兼4
	センテンス・ストラクチャ 2	1後		1			○							兼6
	英語コミュニケーション B 2	1後		1			○							兼4
	アドバンスト・コンプリヘンション B 1	2前		1			○							兼9
	アドバンスト・コミュニケーション B 1	2前		1			○							兼5
	アドバンスト・コンプリヘンション B 2	2後		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーション B 2	2後		1			○							兼7
	英語コンプリヘンション C 1	1前		1			○							兼7
	英語コミュニケーション C 1	1前		1			○							兼9
	英語コンプリヘンション C 2	1後		1			○							兼7
	英語コミュニケーション C 2	1後		1			○							兼9
	アドバンスト・コンプリヘンション C 1	2前		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーション C 1	2前		1			○							兼3
	アドバンスト・コンプリヘンション C 2	2後		1			○							兼7
	アドバンスト・コミュニケーション C 2	2後		1			○							兼3
	日本語表現法	1前	1				○							兼10
	情報リテラシー	1前・後	2				○							兼3
	スポーツ科学	1前・後	2				○							兼9
	初年次教育	1前	1				○							兼1
	キャリアデザイン 1	1前	1				○							兼1
	キャリアデザイン 2	1後	1				○							兼1
	小計 (30科目)	—	8	24	0				0	0	0	0	0	兼57
	異文化理解	1前・後, 2前	2				○							兼6
	言語と文化 1	1前・後, 2前	2				○							兼9
	言語と文化 2	1前・後, 2前	2				○							兼9
	哲学	1前・後, 2前		2			○							兼3
	倫理学	1前・後, 2前		2			○							兼3
	文学と芸術	1前・後, 2前		2			○							兼4
	歴史と人間	1前・後, 2前		2			○							兼2
	心理学	1前・後, 2前		2			○							兼1
	身体と健康の科学	1前・後, 2前		2			○							兼5
	憲法と社会	1前・後, 2前		2			○							兼3
	現代社会論	1前・後, 2前		2			○							兼5
	科学技術史	1前・後, 2前		2			○							兼2
	環境科学概論	1前・後, 2前		2			○							兼3
	課題探究セミナー	2後		2			○							兼19
	総合学際科目	2後		2			○							兼17
	小計 (15科目)	—	6	24	0				0	0	0	0	0	兼43
教養特別科目	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4		1				○						兼1
	国際インターン	1・2・3・4		1				○						兼1
	国内インターン	1・2・3・4		1				○						兼1
	ボランティア	1・2・3・4		1				○						兼1
	小計 (4科目)	—	0	4	0				0	0	0	0	0	兼4

専門科目	専門基礎科目	数学基礎	1前	2			○									兼2	
		線形代数	1前	2			○									兼2	
		確率統計	1後	2			○									兼2	
		物理学基礎	1前	2			○									兼2	
		物理学実験	1後	2					○							兼5	
		知能メディア基礎数学	1後	2			○									兼2	
		離散数学	2前		2		○				1						
		統計解析	2後		2		○				1						
		小計（8科目）	—	12	4	0	—				2	0	0	0	0	兼13	—
	専門基幹科目	プログラミング言語基礎	1後	2			○				1						※演習
		視覚造形基礎	1後	2				○			1	1			1		共同
		コンピュータ工学	2前		2		○				1						オムニバス
		デジタルデザイン基礎演習	2前		2			○				1			1		※演習
		ネットワーク基礎	2前		2		○				1						オムニバス
		ヒューマンインタフェース論	2前		2		○					1			1		※演習
		プログラミング言語応用	2後		2		○				1						オムニバス
		デジタルファブリケーション	2後		2		○				1	1					※演習
		メディアデザイン論	2後		2		○				1	1					オムニバス
		メディア史	2後		2		○				1				1		オムニバス
		メディア基礎	2後		2			○			1						
		情報理論	2前		2			○			1						
		コミュニケーションデザイン演習	2前		2				○		1				1		共同
		知能メディア体験演習	1前		2				○		8	1			1		オムニバス・ 共同（一部）
		知能メディアプロジェクト1	2前		2				○		5						共同
		知能メディアプロジェクト2	2後		2				○		3	1			1		共同
	小計（16科目）	—	16	16	0	—				8	1	0	1	0	兼0	—	
	専門展開科目	人工知能基礎	2後		2			○			1						
		情報デザイン基礎	2後		2				○		1				1		共同
小計（2科目）		—	0	4	0	—				2	0	0	1	0	兼0	—	
合計75科目			—	42	76	0	—			8	1	0	1	0	兼96	—	
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野				工学関係								
卒業要件及び履修方法									授業期間等								
以下の条件を満たし、総単位124単位以上修得すること。 （教養科目） 必修科目15単位を含み、教養科目36単位以上 （専門科目） 必修科目47単位を含み、専門基礎科目12単位以上、専門基幹科目26単位以上、専門展開科目32単位以上を満たして88単位以上を修得していること。 （履修科目の登録の上限：40単位（年間））									1学年の学期区分			2学期					
									1学期の授業期間			15週					
									1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要				
（先進工学部 未来ロボティクス学科）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
教養科目 コミュニケーション 基礎科目	コミュニケーション スキル	ステップアップ・イングリッシュ1	本授業では聞く、話す、読む、書くという基礎的な言語活動を通して高校における語彙や文法を十分に定着させ、4技能の基礎的な英語運用能力を養成する。主に基礎的な英文のインプットを繰り返すことにより英語の最低限のルールを習得する。4技能の言語活動をバランスよく計画的・系統的に取り入れることで、基礎的な語彙や文法事項をさまざまな言語活動のなかで繰り返し練習し、実際の場面で使える「能動語彙」や使える「文法力」の習得を目指す。	
		英語コミュニケーションA1	本授業では、高校までに学習してきた語意や文法を用いて、基礎的な英語運用能力の習得に必要な土台作りを目指す。スピーキングでは1対1の会話で相手の主張を理解して要約したり、平易な表現を用いて相手の質問に簡潔に答えたりといったペア・ワーク、またライティングでは英文和訳や自由英作文などで基礎的な文法事項を確認するなど演習形式の授業を通じてコミュニケーションの基礎力の養成を行う。また積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。	
		ステップアップ・イングリッシュ2	本授業ではコミュニケーションのコアとなる英文法の習得を目指す。多様な例文のインプットに加えて、話す、書くというアウトプットを多量に行うことで断片的になりがちな文法知識を有機的に関連させる。4技能の言語活動をバランスよく計画的・系統的に取り入れることで、基礎的な語彙や文法事項をさまざまな言語活動のなかで繰り返し練習し、知識としてだけでなく、実際の場面で使える「能動語彙」や使える「文法力」の習得を目指す。	
		英語コミュニケーションA2	本授業では、基礎的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。1対1のスピーキングでは基礎的な内容に加えてさまざまな話題についてのやりとりができるように演習形式の授業を行う。また相手の主張を要約する演習を通じて語彙力の強化も行う。ライティングでは英文和訳や自由英作文などで基礎的な文法事項を確認するなど演習形式の授業を通じてコミュニケーションの基礎力の養成を行う。	
		英語コンプリヘンションA1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、基礎的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読などを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配り、文章全体を把握する能力を養成する。	
		アドバンスト・コミュニケーションA1	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら標準的な英語コミュニケーション力の修得を目指す。2～3名のグループワークを中心にした授業運営を行い、会話やインタビューなど多様なスタイルを活用することで確固とした英語運用能力を定着させる。たとえば他人の意見をパラフレーズして説明することで語彙のネットワークを広げるなど。ライティングでは既習文法事項と新たな語彙を使いながら、より豊かな英語表現のための基礎力の養成を行う。	
		英語コンプリヘンションA2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、基礎的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配り、文章全体を把握する力を養成する。更には、その読んだ内容を平易な自分の言葉でまとめる演習を行う。	
		アドバンスト・コミュニケーションA2	本授業では、4技能（読解、聴解、会話、作文）を複合的に使いながら標準的な英語運用能力の習得を目指す。スピーキングでは2～3名のペア・ワークで一般的な内容に基づいてインタビューする演習を行う。ライティングではより豊かな英語表現のための基礎力の養成をめざして、具体的な状況や話題（大学生活や学習内容）についての作文を行う。また、学生同士でのピア・レビューを通じて、より正確で洗練された英語表現を目指す。	
		センテンス・ストラクチャ1	長い文を含む文章を読む場合、文の構造を理解する能力が不可欠である。本授業の目的は、文構造を把握するテクニックを身に付け、それを駆使しながら実際に文章を読むことにある。また文構造を把握するテクニックを習得するために、前置詞、動名詞、分詞などの文を長くする原因となる様々な文法事項の復習も行う。	
		英語コミュニケーションB1	本授業では、高校までに学習した内容に加えて新たに語彙力の強化を行いながら、標準的な英語運用能力の修得に必要な土台作りを目指す。スピーキングでは2～3名のグループ内で互いにインタビューをしたり、他人の意見をパラフレーズして説明したりするなどのグループ・ワーク、またライティングでは高校までの既習文法事項と新たな語彙を使いながら、より豊かな英語表現のための基礎力の養成を行う。また積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。	

教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	センテンス・ストラクチャ2	長い文を含む文章を読む場合、文の構造を理解する能力が不可欠である。本授業の目的は、文構造を把握するテクニックを身に付け、それを駆使しながら実際に文章を読むことにある。また文構造を把握するテクニックを習得するために、不定詞、同格、等位接続詞、従属節などの文を長くする原因となる様々な文法事項の復習も行う。	
			英語コミュニケーションB2	本授業では、標準的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。2－3名のスピーキングではより複雑な構文や難度の高い語彙を用いて互いにインタビューする演習を行う。ライティングではより豊かな英語表現のための基礎力の養成をめざして、具体的な状況や話題(大学生活や学習内容)についての作文を行う。また、学生同士でのピア・レビューを通じて、より正確で洗練された英語表現を目指す。	
			アドバンス・コンプリヘンションB1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、標準的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ、文章全体を把握し、最終的には、読んだ内容を自分の言葉でまとめられるようになることを目指す。	
			アドバンス・コミュニケーションB1	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら実践的な英語運用能力の習得を目指す。5-6名のグループワークを中心とした授業運営を行う。教員对学生だけではなく、学生同士のアクティビティを積極的に取り入れることで、自発的な英語運用能力を定着させる。スピーキングでは学生生活などの身近なテーマに基づいて30秒程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは50語程度の自由作文を使って学生同士の添削(peer-review)など、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			アドバンス・コンプリヘンションB2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、標準的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ、文章全体を把握し、最終的には、読んだ内容を自分の言葉でまとめられるようになることを目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			アドバンス・コミュニケーションB2	本授業では、技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら実践的な英語運用能力の習得を目指す。スピーキングでは一般的な話題だけではなく、社会問題などについて自分の意見を表現するまとまったスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでも自分の意見を論理的に展開する100語程度の自由作文を作成するなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語コンプリヘンションC1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、社会問題や時事問題等を扱った読み物を用い、まず、音読などを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ文章全体を把握し、更には、その読んだ内容を自分の言葉でまとめる能力を養成する。	
			英語コミュニケーションC1	本授業では、実践的な英語運用能力の習得のための語彙の強化や構文の確認といったコミュニケーション能力の土台作りを目指す。それと同時に積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。スピーキングでは学生生活などの身近なテーマに基づいて30秒程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは50語程度の自由作文を使って学生同士でのピア・レビューなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語コンプリヘンションC2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、社会問題や時事問題等を扱った読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ文章全体を把握する能力を養成する。更には、その読んだ内容を自分の言葉でまとめ、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			英語コミュニケーションC2	本授業では、実践的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。スピーキングでは社会問題や科学的な話題などの複雑なテーマに基づいて1分程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは100語程度の自由作文を使って学生同士でのピア・レビューなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	

教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	アドバンスト・コンプリヘンションC1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解し、それらに対する自らの考えや意見をより深める能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、主に特定の社会問題などを扱った読み物や新聞・雑誌記事などを複数使い、様々が角度から一つの事柄を理解し、その内容を自らの言葉でまとめられるような力を養う。読む方法としても「精読」だけに留まらず、必要な情報や考えをスピーディに探したすのに有効な「速読」などにも挑戦する。また、音読やディクテーションに加え、内容に関する英語の質疑応答などを通じて、聴いている内容の展開やポイントを的確に押さえる能力の養成を目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			アドバンスト・コミュニケーションC1	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら高度な英語運用能力の習得を目指す。グループ内だけでなく教員やグループ間での双方向的な活動を取り入れた授業運営を行う。スピーキングでは複雑な話題に基づく一分程度のスピーチに対して質疑応答を行ったり、ライティングでは論理的に内容を展開するパラグラフ・ライティングなどを行ったりするなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			アドバンスト・コンプリヘンションC2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解し、それらに対する自らの考えや意見をより深める能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、主に特定の社会問題などを扱った読み物や新聞・雑誌記事などを複数使い、様々が角度から一つの事柄を理解し、その内容を自らの言葉でまとめられるような力を養う。読む方法としても「精読」だけに留まらず、必要な情報や考えをスピーディに探したすのに有効な「速読」などにも挑戦する。また、音読やディクテーション等に加え、内容に関する英語の質疑応答などを通じて、聴いている内容の展開やポイントを的確に押さえる能力の養成を目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築・発表し、授業内で英語での意見交換をする演習を行う。	
			アドバンスト・コミュニケーションC2	本授業では、4技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら高度な英語運用能力の習得を目指す。一般的な話題だけではなく、社会問題など複雑な話題に基づいて自分の意見や考えを論理的に展開するスピーチやパラグラフ・ライティングを作成するだけでなく、相手の主張を要約したりそれに対して自分の意見を述べるなど、コミュニケーションを続ける技術の養成も目標とする。またあるトピックに基づいてリサーチを行い、それをまとめて発表するなどの演習も行う。	
			日本語表現法	日本語の特徴をふまえ、文章を読解し分析する能力、的確な表現による文章作成の能力を養うことを目的とする。文章には、情報伝達や記録報告などの客観的な文章と、自分の感情や思想を表出する主観的な文章とがあるが、読解や作文のためにはそれぞれの文章の特徴を理解する必要がある。また、言葉の意味、主述の関係などの文の構造、三段構成などの文章の構成といった基本的な知識や技術も習得させたい。様々な文章に触れながら、日本語の基礎力の養成を目指す。	
		情報リテラシー	情報処理	高度情報化が進む中で、社会生活や大学での研究を進めるために、情報処理・活用能力が不可欠となっている。このため、情報・知識の複眼的かつ論理的な分析・表現ができる能力を身につける。とくに、情報処理・通信技術(ICT)を用いた様々な方法の中から適切に選択し、モラルやセキュリティに配慮して有効に組合せることで、多様なデータを検索・収集・整理し、データの論理的な分析や効果的な加工を経て、客観的かつ適切に判断し、その結果を伝達するため資料の作成や公開をする、といった各段階で効果的に活用できる能力を培う。	
		人間力養成	スポーツ科学	本科目は、他者とのグループワークとディスカッションを通じてスポーツの技術面や戦術面などにおける課題を見出し、いかにその課題を解決するかを考え、実践する能力の育成を目的とする。スポーツ活動では、積極的な言語的、非言語的コミュニケーションを必要とする場面が多く、さらに身体動作における感覚や技術理論など議論の対象となるテーマが豊富に含まれている。したがって、単に与えられた実技課題をこなすのではなく、さまざまなレベルの受講者が個人のレベルに応じた課題を共に克服し、かつ安全に楽しく取り組むために、受講者自身が積極的に授業参画することにより主体性、課題解決力、チームワーク(協調性)の獲得を目指す。	
		人間力養成	初年次教育	初年次教育は、高校教育から大学教育への円滑な移行と大学での学びの方法の習得や専門を学んでいくための動機づけを担う科目である。 授業内容として、履修方法・図書館の利用方法・心と体の健康・高校と大学の学びの違い・レポートの書き方・愛校教育・安全と防災教育および専門科目への動機づけ等を行う。入学直後のガイダンスから学科オリエンテーションも利用し、早い段階で実施する。	
			キャリアデザイン1	大学あるいは大学院を卒業後、社会で活躍するためにはどのような能力を学生時代に身に付けておくべきか？ 大学での学習効果を向上させるための基本的な作法を習得した上で、自分の足りない部分を把握し、自分の目標を明確にするとともに、授業を通じて人とのコミュニケーション(話す能力・聴く能力・情報を収集して伝える能力)の楽しさを知ることにより、社会で必須となるコミュニケーション能力を高めつつ、目標を持って有意義な大学生活を送り、自らのキャリアデザインを描けるようになることを目的とする。	

教養科目	教養基礎科目	人間力養成	キャリアデザイン2	キャリアデザイン1で描いたキャリアデザインを意識しつつ、日本の社会構造および経済構造を学ぶとともに、企業が陥った過去の失敗例などを教訓にして、自分自身の将来と目標を再確認し、再度大学で何を成し遂げるかについて検討する。 また、企業が行っている経済活動や関連する法律について理解することで、目標を達成するために必要な基礎知識を得ることを目的とする。 さらに、本科目では、学生参加型で実施することにより、社会が求める要素の1つである主体性の獲得を目指す。	
			キャリアデザイン3	キャリアデザイン1・2で修得したキャリアデザインについて、振り返り、目標設定の進捗について、まずは検証を行う。検証した結果、目標の見直しが必要な学生については、要因等について、分析を行い、再設定をする。 また、進路について、学科毎に特性が偏る時期であることから、学科の分野を考慮した上で、卒業生に協力いただき、業界についての知識を深める(違いを知る)ことにより、学生が目指すキャリアデザインが達成するためのイメージを獲得することを目的とする。	
	教養共通科目	国際理解	異文化理解	本科目では、外国及び時空を異にする自国の文化、具体的には、その音楽、美術などの芸術、言語、思想、歴史、民族、社会、芸能、風俗、習慣等をいくつか取り上げ、先ず学生に紹介し、問題提起をし、意見を求め、自分の考えをまとめさせる。それから、それを自国の文化をも含めいろいろな文化と比較・検討し、必要ならば自分の考えを修正させる。そのことを通して、ものごとを多角的且つ客観的に見る、いわゆる複眼思考を養うと共に、結果として自国の文化を見つめ直し、より深く理解してもらう。	
			言語と文化1	本科目では、日常会話が自然と口から出てくることを目標に、日本語など他の言語との比較をも考慮しながら、英語以外の言語の基礎を発音から一つ一つ丁寧に学ぶ。また、その文化圏の人々の考え方を理解するために、積極的に人々の生活や文化、社会にも触れていく。以上のことを通して、多角的且つ客観的に日本及び日本文化を見つめ直し、理解を深めると同時に、日本が国際社会においてどのように見られ、評価されているのか、我が国の国際社会における立ち位置を確認したい。	
			言語と文化2	本科目は、「言語と文化1」の続編をなすもので、さらに「言語と文化1」で学んだ外国語及び文化・社会についての理解を深めて行くことを目的とする。語学一辺倒ではなく、その地域の文化・歴史・社会等をさまざまな角度からとりあげる。その際、文学や音楽等の文化的側面及び日本とその国との歴史的つながりばかりではなく、最近の日本をとりまく国際情勢や社会情勢などにも積極的に触れていきたい。以上の学習をとおして、ものごとをいろいろな角度・立場から眺め直す「複眼」を身に付けさせたい。	
			グローバル時代の法	そもそも法とは何であり、現代のグローバル社会において法の存在はいかなる意味を有しているのか。法というものの定義から始まり、法全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。まずは法の概念や法の分類といった一般的な問題について検討した上で、財産と家族について定める民事法と、犯罪と刑罰について定める刑事法について学習し、さらに、グローバル時代においてますます重要性を増す国際法についても学習する。	
			国際社会論	国際社会の中に生きる人間として必要な知識と思考力とを養うため、世界の政治経済、言語、文化、歴史、人の移動、環境や食糧問題、平和に関する問題などについて多角的に学んでいく。その際単に個別の知識を並列的に得るだけではなく、それぞれのテーマを関連づけて理解することで、国際社会の現状に対する包括的な認識を獲得することを目指す。そして将来においても、世界の中で日々生まれてくる諸問題に対し自ら学び、積極的に取り組む態度を身につけることが目標である。	
		人間・社会・自然の理解	哲学	哲学を学ぶことを通じて、人間とは何か、また人間は世界といかに関わっているかという事柄について考え理解するための観点や思考方法を身につけることを目的とする。これまで展開されてきた哲学史の中でなされてきた議論の要点を参考にしながら、人間と世界のあり方を考察するための様々な問題設定の方法や論理的な思考方法を学ぶ。その上で、知識、行為、価値、存在、自由、自我、他者といった事象をめぐる諸問題について理解し、それについて自ら考える力を養い、さらに新たな問題を発見する態度を身につけることを目標とする。	
			倫理学	「倫理学」では、現代文明が直面する倫理的問題のなかでもいわゆる「応用倫理」と呼ばれるものをとりあげる。まずそれらが現代の科学技術によってつくりだされていることを確認したうえで、問題を解決しつつ問題発生を防止するためには、われわれ人間はこうした科学技術をいかに管理してゆくか、また、そのときに技術者の役割と責任はどのように考えるべきか、15回の講義をとおして事例などを紹介しつつ、考える力を養成することを狙いとする。	

教養科目	人間・社会・自然の理解	教養共通科目	文学と芸術	文学作品や芸術作品の鑑賞や批評を通じて、人間への洞察を深め、ものの見方、感じ方、考え方を広げることを目的とする。また、それぞれの作品が生み出された時代や社会の背景を理解する。人間の感情および思想の表象原理、作品の主題、その歴史的社会的意義を明らかにしながら、人生の目的や価値について考え、よりよく生きることの意味を探り、豊かな感受性を育む。さらに作品受容に関して、批評とはどのようなことかを検討し、批評主体の確立についても考察を深めたい。	
			歴史と人間	過去から現在に至る人類の歩みについて、政治・経済・社会・宗教といった幅広い観点から理解するための基本的な視座を提供する。日本史や世界史の基礎的な知識をあたえるだけでなく、それぞれの地域の歴史がもつ独自性と世界史的な普遍性の両面に光をあてることで、過去の事象を世界規模の時系列的な因果関係のなか位置づける能力を養う。他日、国際社会に出た学生が、独善に陥ることなく自国の置かれた立場を理解し、客観的に自らの立脚点を説明することに耐えられる資質を育てる。	
			心理学	本講義では、心のメカニズムについて科学的手法により解明された知見とその応用を解説する。具体的には、人の認知・思考、感情、行動のそれぞれの特徴、関連の仕方、発達の変容に関する理論を取り扱う。さらに、そういった心理学の知見や理論が社会の様々な場面で活用されていることを紹介し、グループワーク等も実施する。本講義のねらいは、学生が自分自身や他者に対する理解をより一層深めること、心理学の知識を生活に応用し役立てることができるようになることである。	
			身体と健康の科学	本科目は、単にヒトの「身体」や「健康」についての知識を獲得するのではなく、専門分野の枠を超えて人文科学、社会科学、自然科学などの様々な学問分野との関連を踏まえながら共通に求められる知識や思考法の獲得を目指す。特に、超少子高齢社会に突入した我が国では、人々が健康で豊かに過ごす時間を延伸することは非常に重要な課題となっている。それと同時に、ヒトの「身体」や「健康」とは何かについて考え直す時期にも来ている。社会構造の急激な変化や科学技術の進展に伴う人間の価値観の多様性を踏まえながら、「身体」や「健康」について考察する。	
			憲法と社会	そもそも憲法とは何であり、人間社会にとって憲法の実在はいかなる意味を有しているのか。憲法というものの定義から始まり、憲法全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。古今東西の様々な憲法に共通する憲法の基本原理を学んだ上で、とくに日本国憲法についての理解を深める。日本国憲法は統治機構と権利章典という大きく二つの部分から構成されているが、この両者についてできるだけ正確な知識を身に付けることをめざす。	
			政治と社会	そもそも政治とは何であり、人間社会にとって政治というものの存在はいかなる意味を有しているのか。政治というものの定義から始まり、政治全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。まずは政治の中心となる権力の概念や様々な政治思想について学んだ上で、とくに国家的な政治現象に焦点を合わせ、具体的な事例を取り上げつつ、地方自治を含む国内政治と、近年ますます重要性を増す国際政治をめぐる諸問題について考察する。	
			経済学	当科目では、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基本的な考え方や分析手法を習得するとともに、現代経済の各場面にそれらを応用し、経済学的に思考することや、それを通して社会を考察することの意義に気づくことができるようにする。価格機構／市場原理の理論やその社会的意味などを多面的に考察したのち、経済主体、金融、財政、社会保障などの分野に言及する。授業では、教員による講義のほか、演習問題などを通じて簡単な理論や数式を用いた分析を受講生自身に取り組ませる。	
			現代社会論	現代の日本社会、及び国際社会における諸問題について具体的に考察をしながら、現代社会のありかたについて認識を深めていくことを目的とする。とりわけ、労働問題、教育・青少年問題、国際的な公害・環境問題、戦争と平和をめぐる問題、家族や子育ての問題、福祉や社会保障の問題、情報環境の変化をめぐる問題等を取りあげながら、考察を深めていく。そして、授業を通じて、現代社会に生きる市民として、幅広い視野とグローバルな視点をもって自ら主体的に考え、行動することができる教養・態度・能力を身に付けることを目標とする。	
			科学技術史	本科目では、科学と技術の展開をそれらの相互関係を含めて歴史的に検討することを目的とする。科学の歴史としては、ニュートン力学を中心とした近代科学の成立過程を含めて、当時の自然哲学者・科学者たちが対峙した困難を当時の文脈から検討し、それらの科学的意義を理解していく。技術の歴史としては、イギリス産業革命における綿工業の展開や蒸気機関の発展などを理解するとともに、19世紀以降の科学と技術の接近とそれらの共進化的展開および社会との関係なども分析する。	
			環境科学概論	本講義は、科学技術の進歩に伴う地球規模での環境変化を事例に挙げ、広範で複雑な環境問題の現状を、物質を中心とした視点から把握すると同時に、科学的解決法の糸口を探ることを目的とする。特に温暖化、オゾンホール、酸性雨、生物多様性の喪失、食糧、砂漠化、原子力、廃棄物等の事例について詳細に解説し、これらの問題を解決するために開発された新技術や新素材による将来像を展望して、材料科学の観点からも環境科学を学ぶ。また、未来へと繋ぐ環境の姿を考察し、現代に生きる人間としての規範をも考える。	

教養科目	人間・社会・自然の理解	教養共通科目	生命科学	本講義では、生命の神秘、多様性、遺伝子支配の重要性についての理解を深め、人類が直面する資源、環境、エネルギー問題へと関心を高めさせることを目的とし、まず生物の生命の基本となる、細胞の理解に始まり、その構造と機能、細胞を構成する物質の理解、細胞の増殖・分化・老化・代謝（解糖系・呼吸・光合成・窒素同化）、細胞間相互作用等について学ぶ。さらに、多細胞生物に特有な発生・形態形成のメカニズムに触れ、遺伝子の本体、伴性遺伝、欠失、突然変異などの遺伝現象を理解する。	
			地球科学	人間の生活環境としての「地球」の創生と構造、進化をテーマとする地球科学の講義を行う。地球全体の歴史と関連させながら、地球や地球で生じている諸現象についての基礎知識を与える。また、人間活動と資源・エネルギー、地球環境の関係の調和を保ちながら、社会の持続的発展を考える契機を与えることを目標とする。講義で取りあげる主な項目は、地球の形状、地球の活動と歴史、プレートの運動、地層の形成と地質構造、地球の熱収支、大気と海水の運動、地球環境の変遷などである。	
			物理の世界と先端技術	現代の自然像の形成に大きな役割を果たしてきた種々の物理的視点について講義し、それらの視点に基づいて、物理の世界をより深く理解することを目指す。また、このような物理的視点が先端科学・技術にどの様に結びつき、人々の生活への影響を通して社会と如何に関わっているかについて、自発的に考える力を身につける。講義で取りあげる主な項目として、力と運動の関係を基礎とする力学的自然観、熱現象とエネルギー・エントロピー概念、電磁気現象と「場」の考え方、現代の物理的世界観（時間・空間と相対性、物質・光に対する粒子・波の二重性と量子論など）が挙げられる。	
			物質科学	本科目は、現代人の常識として必要な化学の基礎知識を修得し、化学の根底にある考え方を理解して、物質を科学的に見ることが出来る正しい見識を涵養することを目的とする。物質の分類と基本構造、化学結合と物質の性質、化学量論と化学反応の基礎等を教授し、様々な物質が満ちあふれている現代社会において物質を科学的にとらえて論理的に思考できる基礎を与える。また、身近な物質、材料開発の最前線などの話題を取り上げて、化学のおもしろさ、現代化学の自然観・物質観が理解できるように配慮する。	
	総合	教養特別科目	課題探究セミナー	本科目では、少人数制による主体的な学び、受講者同士の積極的な討論、グループワークなど、受講者自らの思考を促す能動的な学習方法であるアクティブラーニング形式により授業を展開する。具体的には、国際問題、日本文化、歴史、社会、人間、芸術、環境、健康、生活などのテーマや課題を選定し、それについて様々な学問分野の知識を活用しながら、総合的な判断力や解決力を育成する。また、個人やグループの考えをまとめ、文章や図表等を用いて論理的にかつ適切にプレゼンテーションする基本的な能力の獲得を目指す。	
			総合学際科目	本科目では、教員からの一方向的な教授形態ではなく、幅広い応用的な知識・理解を深める講義と受講者同士の討論や発表などの演習を融合した受講者参画型の能動的な授業を展開する。このような授業形態を通じて、各学問分野の知識・理解を受講者自らが融合・発展させながら、国際問題、日本文化、歴史、社会、人間、芸術、環境、健康、生活などのテーマや課題について新たな視点や角度から捉え直すことにより総合的な判断力や理解力を身につける。また、個人やグループの考えを論理的にかつ適切に伝達する能力を修得する。	
	教養特別科目	教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング1	本授業では英語を単なる知識としてではなく積極的に運用する能力の養成を目指す。特にライティング能力を向上させることを目指した授業運営を行う。ある話題に基づいてリサーチを行い、A4で3枚程度（1500-2000語）のエッセイを完成させる。正確な英語表現だけでなく、パラグラフ内またはエッセイ全体で概念や意見を論理的に展開させる方法の習得を目指した作文練習や、教師または学生同士による添削を通じて、洗練された文章への感覚を養うことも目標とする。	
			イングリッシュアクティブラーニング2	本授業では英語を単なる知識としてではなく積極的に運用する能力の養成を目指す。特にプレゼンテーション・スタイルの授業運営を行う。ある話題に基づいてリサーチを行い、グループ内でのディスカッションを通じて内容を決め、最終的にグループごとに英語で5分程度のプレゼンテーションを行う。正確な英語表現のための演習に加えて、効果的なプレゼンテーションを行うための表現法（アイ・コンタクトやボディ・ランゲージ）の練習も行う。こうしたグループ内での共同作業を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力の養成も目指す。	
			イングリッシュアクティブラーニング3	本授業ではブリティッシュ・ヒルズ（福島県白河）を利用した冬季集中講義に参加し、英語を単なる知識としてではなく、積極的に運用する能力の養成を目指す。	集中
			スポーツアクティブラーニング	本科目は、スポーツ実践ならびにスポーツの様々な局面を題材としたグループワークとディスカッションを中心に授業を展開し、課題解決力、状況把握力、ストレスマネジメント力、リーダーシップ、チームワーク（協調性）を発展的に育成することを目的とする。特に、授業内では短期間の宿泊学習プログラムや他大学との連携プログラムなどを実施することにより、より高いレベルでのスポーツ活動を実践することで授業の目的を達成すると同時に、スポーツならびにその価値を幅広い視点から客観的にとらえ、多角的に物事を考え、実行する力の獲得を目指す。	集中

教養科目	教養特別科目	ソーシャルアクティブラーニング	個々の学科の専門的な学問体系を基礎とし地域、社会活動を体験することによって、学んできた知識を実際の体験から学問的な再確認をし、社会で活用できる知識とする。さらに、新たな視野を得るとともに、自らの社会的役割の認識をし、必要な資質や能力の向上を図る。自治体や地域社会との連携を重視し、より実践的な体験や問題に取り組むことにより調査、体験を主体とした活動の中から、自己の能力向上を図る。	
		国際インターン	本科目では、学生が夏休み等を利用し海外の企業等で2週間程度の期間就業体験を行い、世界で活躍する高度専門技術者として求められる専門知識やコミュニケーション能力を養うことを目的とする。具体的には、本学の海外交流協定校の協力を得ながら、海外に進出した日本企業や現地の大学、優良企業等でインターンシップを行う。本科目は受講資格として語学力による一定の制限を設ける。また、渡航前の指導として海外での生活や現地文化に関する講習を行い、学生からの海外就業体験報告書、面談等により科目成績評価を行う。本科目の運営及び成績評価は国際交流委員会が行う。	
		国内インターン	社会との差を実感することにより、技術者としての目標を明確にすることを目的とする。体験先は、本学の取り組みや学生気質を理解している産官学連携協議会の加盟企業や求人をお願いしている企業で行うことにより、目的の達成を目指す。 なお、事前指導については、目的を持って臨むためのワークやマナーについても行う。また、事後指導では、今後の目標を明確にするだけでなく、発表等を行うことで、学生間での情報共有を行い、社会で必要となる資質を理解すると共に、異なる業種・職種について理解をすることで、社会への理解も深める。	
		ボランティア	本科目は、社会の一員としての意識を持ち、社会の発展のために積極的に関与できる態度を養うことによる人間力を高めることを目的とする。 具体的には、事前指導により社会貢献の意義と役割について理解させ、ボランティア活動の現状と課題について認識したうえで、実際のボランティア活動を通して、体験的に学習し、ボランティア活動に対する理解を深めるとともに、社会貢献とボランティア活動との関連について学習することにより、地域貢献への参画意識を高める。	
		総合科学特論	本科目では、教養共通科目で扱った内容を発展させ、現代科学の幅広い分野の理解を深める講義と受講者間の討論や発表などの受講者参画型の授業を展開する。このような授業形態を通じて、各学問分野の知識を受講者自らが融合・発展させながら、現代社会が抱える諸問題について新たな視点から捉え直すことにより総合的な判断力や理解力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
（先進工学部 未来ロボティクス学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	ロボット体験実習	本講義ではロボットシステム全般に関する体験的学習を目的とし、製作実習を中心とした体験型のカリキュラムを通じて、ロボットシステムに対する概要理解を実践的に深める。ロボットシステムを構成する検出部、計算部、駆動部について実践的なカリキュラムを通して概略を理解し、実際に構成要素を統合的に機能させることでシステムの役割を理解する。またロボットチャレンジプロジェクトでは、学生が自ら立案するコンセプトに基づいて1人1台のオリジナルロボットの製作を体験する。	共同
	プログラミング基礎	本講義では、ロボットを制御するプログラミング言語として重要なC言語の基礎を学ぶ。到達目標は、C言語の基礎を習得し、簡単なプログラム作成能力を獲得することとする。コンピュータによる制御でロボットを動かすためのプログラミング基礎を学ぶために、実際に各自がプログラミングしながら習得する機会をつくる。具体的な習得項目は、数値計算の基礎、条件・分岐構造、反復処理、ビット計算、データ入力方法、配列、文字データの取扱い、ポインタ変数、関数、標準ライブラリ関数の使用方法、変数の型などである。	
	未来ロボティクス総合セミナー	ロボティクスの歴史、最新のロボットに関する研究、現代のロボットの動向、日本の産業の現状を各教員がオムニバス形式で紹介し、世界的視野に基づくものの見方が出来る未来の研究者、高度な専門知識、能力を持つ高度専門職業人を目指す学生の勉学に対する動機づけを行うことを目的とする。産業、極限作業、医療福祉、マイクロナノ、アミューズメント等、様々な分野におけるロボティクスのかかわりを俯瞰する。担当は以下のとおりである。 (オムニバス方式／15回) (5, 菊池耕生／2回) 小型移動ロボット (4, 太田祐介／2回) ロボット化技術と人間社会 (1, 王志東／2回) ロボットの協調制御及び人間協調ロボットシステム (7, 米田完／2回) 空気圧駆動機器の制御 (8, 青木岳史／2回) ロボットの設計に関する考察 (2, 大川茂樹／1回) 音声によるロボットとの対話技術 (9, 藤江真也／1回) インターフェイス設計論 (6, 林原靖男／1回) ロボットの自律化 (3, 大久保宏樹／1回) Dynamics in sports engineering and robotics (10, 南方英明／1回) 人間補助システムや掃除ロボットの知能化。	オムニバス方式
	数学基礎	本講義は、各専門課程で必要とされる初等関数と微分積分の基本的な知識・計算法の習得を目的とする。ここでは、各種の初等関数について、値の計算や、三角関数の加法定理、指数・対数法則等の基本的性質を学ぶ。また、微分係数、導関数の定義を理解し、初等関数の微分公式、和・差、定数倍、積、商、合成関数の微分の計算法を学ぶ。さらに、不定積分について、初等関数の積分公式、置換積分法、部分積分法を詳述し、定積分の基本的な計算法も学ぶ。	
	線形代数学	本講義では、行列の基本演算、連立1次方程式の解法としての掃き出し法、行基本変形の計算、及び、連立1次方程式の一般的解法を理解することを目的とする。ここでは、逆行列の定義と求め方、行列式の基本的性質を利用した計算法を理解し、連立一次方程式との関連性についても学ぶ。後半では、ベクトルの1次独立性・1次従属性、ベクトル空間の基底と次元、ベクトルの内積とその応用、線形写像について学ぶ。さらに、工学における固有値問題と行列の対角化の意義を理解し、その応用についても学ぶ。	

専門基礎科目	専門基礎科目	微分積分学	本講義では「数学基礎」から更に進んだ内容の微分積分を学ぶ。講義の前半では微分の応用として、関数の近似の一つであるテイラー近似について理解し、これを用いて関数の極値や変曲点を調べる。微分の考えの基には近似の考えがあるが、微分を現実の問題に適用する際にも、近似は重要である。また、偏微分の定義、計算についても学ぶ。後半ではまず定積分の意味について理解する。力学や電磁気学に現れる物理量や法則の多くが積分により記述されるが、これらを学ぶ際に必要となる積分の知識を学ぶ。さらに、これらを記述する微分方程式についても学ぶ。	
		物理学基礎	物理学の基本分野である力学の講義と演習を行う。基本法則および物理的概念の習得を通じて科学的思考力を養い、更に工学に関する知識・技能に結びつけて考える能力を身につけることを目標とする。また、問題演習を通じて、講義で習得した基本事項を具体的に理解させるとともに、計算・数式処理能力を養う。主な内容として、速度・加速度の微分による定義や座標系による運動の表し方、運動の基本法則、力のつり合い、一定の力の下での物体の運動の記述、単振動、等速円運動、仕事とエネルギー、運動量と力積の概念に基づく運動の記述などを取りあげる。	
	専門科目	ロボット設計製作論実習1	本講義は、様々な科目で学んだ内容を活用して、ロボットを設計・製作する手法に関して学ぶことを目的とする。まずは、理論に基づきどのようにロボットを設計すればよいかを学ぶ。次に、3DCADを用いて、詳細設計する方法を学ぶ。さらに、図面に基づき製作を行う。これにより、イメージしたものを実体化する理論と技術を身につける。後半は、電子回路設計・製作、基本的な特性の計測を行い、プログラムでロボットを自在に制御する方法に関して学ぶ。最後に、ロボットに筆を持たせて文字や絵を描かせる課題に取り組む。	共同
		ロボット設計製作論実習2	さまざまな科目で学んだ項目を活用して自分独自のロボットを構築することを最終目標とする科目であり、学期を通して台車型の倒立振子を作成しそれを制御することを共通の中心課題とする。さらに完成した台車を活用して独自課題をグループ単位で設定し、その成果を発表することとする。テーマの立案、スケジューリング、デザイン設計、回路設計、機械製図、加工、組み立て、コンピュータプログラミング、制御理論、プレゼンテーション技術を学ぶ。	共同
		ロボット設計製作論実習3	ロボットハンドの設計製作を通じて機械設計の基礎的な考え方を学ぶことを目標とする。各自の自由設計によるエアシリンダを使用したオリジナルロボットハンドの製図を行い、設計製図の基礎を修得する。また、ロボットマニピュレータの制御プログラム作成を通じて、ロボット制御の基礎を修得する。ロボット工学の重要項目である運動学、逆運動学を使って実習室のマニピュレータ用の動作プログラムを作成する。製作したオリジナルハンドをマニピュレータに付け、プログラム動作をさせる発表会を行う。	共同
		ロボット設計製作論実習4	これまでに学んだ機械工学、電気電子工学、情報処理、制御工学を応用し、課題設定能力、応用力、問題解決能力を習得することを目的とする。ここでは、各研究室において、個別に研究課題を設定し、オリジナルロボットの設計、製図、工学解析、製作、実験、評価、発表を行う。これにより、卒業研究を実施し、卒業論文を執筆するために必要な基礎知識、基礎技術を習得する。	共同
		ロボット設計製作論実習5	これまでに学んだ機械工学、電気電子工学、情報処理、制御工学を応用し、課題設定能力、応用力、問題解決能力を習得することを目的とする。ここでは、各研究室において、個別に研究課題を設定し、オリジナルロボットの設計、製図、工学解析、製作、実験、評価、発表を行う。これにより、卒業研究を実施し、卒業論文を執筆するために必要な専門知識、専門技術を習得する。	共同
		機械製図	ロボットを設計する際に必要不可欠な、正しい機械製図法を身につけることを目的とする。始めに投影法について学習することで、図面中に描かれた2次元の図から3次元形状を正しく構築する方法、3次元形状を2次元図面として投影する方法について実習を通じて習得する。次に、製図で使用される線の種類とその意味、寸法の指定方法や寸法公差、幾何公差、表面性状など記入方法と指定に関して知識と理解を深める。本講義においてはJIS規格に沿った製図法を学び、頭の中にある設計イメージを正しい図面として表現することができる能力を、実習を通じて体得する。	
		ロボット機構学	ロボットの構成や機能を理解し、機構の設計法の基本的考え方を習得することを目標とする。大学ではじめてロボティクスを学ぶにあたり、基本的な考え方、機構やシステム構成の概要を理解する。ロボットをどのように設計し、どのように動かすかの基本を知る。講義中に部品などの実物を観察して、実感的にその性質や使用法をとらえる。実社会にある機構について各自が実物の観察を行い、その仕組みを解明することでメカニズムに対する感性を養う。演習を通じて機構設計や動かし方の基本を習得する。	
		ロボット電子回路	本講義では、ロボットに不可欠な要素である電子回路に関して、講義形式で学ぶ。特にコンピュータ制御を前提とした電子回路を取り上げる。本講義は他の実技科目の内容とリンクしており、これらの講義を通じて、各自がロボットを制御する電子回路を設計・製作できるようになることを目的とする。電気回路の基礎を学んだ後、コンピュータ、通信、センサ、モータなどを順次学び、どのようにしてロボットを制御する回路を構築するのかに関する知識を得る。	

専門科目	専門基幹科目	ロボットプログラミング	本講義では、ロボットの運動制御やシミュレーションに不可欠なプログラミング言語および手法に関する基礎知識を学ぶことを目的とする。ここでは、プログラムの講義のほか、コンピュータを用いて実際にプログラミングを行う。複数の課題演習を通して、プログラムによる制御とオブジェクト指向に基づくデータ構造のコンセプトおよび基本要素を理解し、ダイナミックスを有するロボットシミュレーションやユーザインターフェースの構築に取り込む。	
		メカニクス1	静力学、質点の運動学および動力学の基礎を修得することを目標とする。静力学においては、質量、重心、力、モーメントの概念を理解し、機械システムの釣り合いの式を導出し、力およびモーメントを計算できるようにする。質点の運動学では、質点の変位、速度、加速度の関係を理解し、それぞれを導出、計算できるようにする。質点の力学では、ニュートンの運動の法則を理解し、機械システムの運動方程式を導出し、解くことができるようにする。	
		制御工学	入力に従って出力が変化するシステムに、所望の振舞いをさせるための方法を修得する。本講義では周波数領域を用いる古典制御理論と、時間領域を用いる現代制御理論の両者について総合的に学ぶ。古典制御理論では、ラプラス変換、伝達関数、PID制御、周波数応答特性について、現代制御理論では状態空間表現、状態遷移行列、可制御性・可観測性、状態フィードバック制御について学ぶ。それぞれの理論で制御系の設計ができるようするため、各週の講義に対してそれぞれ演習を設ける。	講義 40時間 演習 20時間
		電気電子回路論	ロボットの設計や製作・制御に必要な電気回路・電子回路について学習する。主な学習項目は以下のとおりである。直流電気回路・交流電気回路・過渡現象・半導体の基礎・ダイオード回路・トランジスタ回路・オペアンプ回路・論理回路。基礎的な電気回路・電子回路の振る舞いを説明できるようにすることを目標と設定し、電子ブロックなどを利用した実際の実験や、回路シミュレータを利用した学習・電気電子の振る舞いの可視化などもおこなっていく。	
		信号処理論	本講義では、ロボットに視覚(目)や聴覚(耳)を実装する場合に、入力される信号(視覚に対する画像、聴覚に対する音声)をデジタル量として処理するための理論および技術として、AD変換、離散的フーリエ変換およびデジタルフィルタを中心とした信号処理論の基礎と、音声処理を題材とした信号処理の応用について学ぶ。音声や画像に代表される信号をコンピュータなどのハードウェア上で処理するための基礎的理論を習得することが目標である。	
		ロボット制御学	オートメーションやメカトロニクス機器に多く使われるシーケンス制御の基礎を理解し、回路やプログラムの設計ができるようにすることを目標とする。リレーを使った制御とプログラマブルロジックコントローラを用いた制御のどちらも設計できる論理的な手法を学ぶ。自己保持、インターロック、タイマ、カウンタなどの機能を理解し、それらを使う回路の設計を行う。シミュレータのほか、実際のリレーやプログラマブルコントローラを使って設計を体験する。	
		ロボットシステム学	本講義による到達目標は、機械・電気・情報(ソフトウェア)の統合システムであるロボットシステムを設計するために必要な基礎知識を習得した上で、簡単なロボットシステム及びインターフェース回路を自分で設計できるようになることである。具体的に本講義を通じて学習する項目は、マイクロコンピュータの仕組み・機能、組み込み系ソフトウェアの開発方法、インターフェース回路(デジタル入出力、AD/DA、センサ、モータ、通信など)である。	
		科学技術開発マネジメント	卒業研究に活かすために必要な開発マネジメント手法を習得することを目指す。各自のテーマの「ゴール設計書」を作成し、プレゼンテーションを行う。技術と科学との差を理解し、さらに、技術の社会的使命を考える。産業と結びつく技術開発の生産性の重要性を理解する。開発期間、開発工数を短縮する為のマネジメント手法を習得する。知識を覚えるのではなく、技術開発マネジメントの手法、ノウハウの「考え方」を理解し、研究活動に活かすことを重視する。	
		科学技術基礎英語	言語の4要素(話す、聞く、読む、書く)について英語の基礎を固め、技術分野において簡単な英語で確実なコミュニケーションをする力をつけることを目標とする。「通じる英語」の基本である、テクニカルライティングの3つのC (Clear, Concise, Correct)の概念を理解し、技術英文作成の基本を身につける。ここでは、英文研究論文投稿のための基礎技術、及び、国際会議でのプレゼンテーション技術を学ぶ。	

専門科目	専門基幹科目	電磁気学	今日の科学技術の発展の原動力となってきた物理学の基本的分野の一つである電磁気学の基礎を解説する。物理的な考え方の理解のみならず、基本的な微分積分やベクトル演算の計算能力を身につけることを目標とする。身近な自然現象の一つである電気・磁気現象の背後にある法則性を解明し、電場や磁場を場の概念としてとらえると同時に、静電磁場に対してガウスの法則を適用する基礎的な手法を身につける。静電誘導や鉄心入り無限長ソレノイドの問題を通して、電場や磁場と物質の関係を理解する。更に、電磁誘導の現象における電場と磁場の相互作用を理解し、モーターなどの応用への理解に結びつける。	
		コミュニケーション論	将来において、海外の技術者と技術的な側面で円滑なコミュニケーションが取れるような英語力の習得を主な目的とする。ここでは、英字新聞の科学記事、技術資料、研究論文、英文マニュアル、HPなどを題材に取り上げ、時代背景やその分野に適合したリーディング、ライティング技術を学ぶ。また、隔週においてそれぞれテーマを設定し、その内容に沿って議論を展開し、理解を深める。さらに、実践的な英訳課題による演習なども行う。	講義 20時間 演習 10時間
		基礎統計学	本講義では、実験や観測などから得られた大量のデータから、その数理的規則性や性質を見出す手法を学ぶことを目的とする。講義の前半では、データの分布からデータの性質や傾向を把握する記述統計とよばれる分野について学習する。後半では、代表的な分布である正規分布について解説し、その応用についても触れる。ここでは、平均、分散、偏差、分布、誤差、尤度、期待値、有意性について学び、多変量解析の手法について理解する。	
	専門展開科目	ロボティクスチャレンジ	本講義は二つの大きな目的を持つ。一つは、本学学生と外国からの学生が一緒にプロジェクトを行うことで、お互いに国際的な視野を身につけること、二つ目は、ロボット工学の基本的な知識と技術を経験的に獲得することである。そのために、夏季短期完結型のロボット製作実習を行う。ここでは、製作実習を中心とした体験型のカリキュラムを通じて、ロボットシステムに対する概要理解を実践的に深める。なお、講義及びグループ内でのコミュニケーションは全て英語で行われる。	共同 集中
		ロボットマニピュレータ	シリアルリンクマニピュレータの機構の表現法、数学的な記述法として同次変換を学び、その特性を理解することを目的とする。ここでは、手先位置姿勢と関節角度の関係、手先速度と関節速度、手先に発生する力とモーメントと関節トルクの間を導き、順運動学問題、逆運動学問題を解く。また、多関節機構の動力学問題としてニュートン・オイラー法やラグランジュ法を用いて運動方程式を導き、可操作性、軌道生成手法、位置・速度・力制御手法を学ぶ。	
		センサ工学	本講義では、ロボットの行動状況およびロボットに取り囲む環境の情報を取得するセンサとセンサ信号処理システムに関する基本知識を学ぶことを目的とする。ここでは、ロボットの基本要素である各種センサの基礎原理、センサ信号処理システムの構成、AD/DAコンバータの基礎概念、オペアンプ回路とアクティブ・フィルタ回路の設計手法、センシングデータの表現法および誤差の扱いなど、センサ工学の基礎および応用に関連する知識を学ぶ。	
		数値解析学1	本講義では、ロボットの複雑な動きやロボットの周囲の様々な現象を数学的・物理的に表現、解析するため、ロボティクスに関係の深い数値計算の基本的な手法を学ぶ。また、数値計算以外のコンピュータを利用した種々の情報処理手法についても学ぶ。連立一次方程式、非線形方程式、関数補間、関数近似、数値積分などの数値計算をコンピュータ上で行うための基礎的理論および技術を習得することが目標である。	
		数値解析学2	数値解析学1で習得した内容に引き続き、ロボティクスに関係の深い数値計算手法の基礎および応用について学ぶ。また、数値計算に加えて、コンピュータやコンピュータの応用ソフトウェアを利用した種々の情報処理手法や技術についても学ぶ。常微分方程式、偏微分方程式、動的計画法、コンピュータにおける誤差精度、ロボティクスにおける種々の確率的手法、機械学習などの数値計算をコンピュータ上で行うための基礎的理論および技術を習得することが目標である。	
		メカニクス2	剛体の運動学および動力学と振動工学の基礎を修得することを目標とする。剛体の運動学では、並進、回転運動を伴う機械システムの変位、角変位、速度、角速度、加速度、角加速度を計算できるようにする。剛体の動力学においては、慣性モーメントの概念を理解し、ニュートンの運動の法則に基づき並進および回転の運動方程式を導出し、解くことができるようにする。機械システムにおける振動工学の分野では、質量、ばね、ダッシュポットをもつ機械振動系を対象とし、自由振動、強制振動の基礎を学ぶ。	

専門科目	専門展開科目	組込み用コンピュータ実装論	本授業は講義形式により、実践的な組込み技術に関して学ぶ。具体的には、自律ロボットの制御に関連する組込みコンピュータシステムのアーキテクチャ、組込みデバイス設計、リアルタイムオペレーティングシステム、制御プログラミングの構築を含む基本概念と実装手法を学ぶ。また、コンピュータ間通信に関しても取り上げ、具体的な実装方法を学ぶ。本講義を通じて、コンピュータで制御する組込みシステムを設計する知識を得ることを目的とする。	
		認識工学	本講義では、ロボットの知覚処理、特に視覚や聴覚などの知覚や言語的知覚を実現するために必要なパターン認識技術の基本的な手法を学ぶ。ここでは、ロボットにおけるパターン認識技術として、ロボットの周囲から入力される図形や音声などの情報を認識し、あらかじめ定義された概念やカテゴリとして同定する手法を主に学ぶ。音声や画像などのパターン情報を認識するための基礎的理論および実装手法の基礎を習得することが目標である。	
		ロボットビジョン	本講義では、ロボットが環境や作業対象、周囲で活動している人間に関する情報取得の際に利用されているビジョンシステムに関する基本知識を学ぶことを目的とする。ここでは、画像処理の基本コンセプトとシステム構成、カメラモデルや画像に関する基本処理アルゴリズム、両眼立体視およびモーションイメージなどの画像処理手法を学ぶ。ロボットの環境認識と運動制御のための基本概念および実際のアルゴリズムの基礎を習得することが目標である。	
		認知科学	人間の認知機能を科学的に解明するための基礎知識、および認知科学の基礎知識を習得する。知覚情報処理の概要、記憶のメカニズム、演繹的推論と帰納的推論の違い、三段論法による推論の概要、ベイズの定理を用いた推定と人間の感覚との違い、ヒューリスティックとバイアスに基づく意思決定、問題解決の概要について学ぶ。さらに、人間の知的活動の仕組みを機械と対比をすることで、人間の認知および心理に対する理解を深め、機械システムへの適用についても考える。	
		ロボットインターフェイス設計論	人間とロボットのスムーズな関係を維持・構築していくためのキーテクノロジーである、ヒューマンインターフェイスに関して学習することを目的とする。人間とロボットが共存する社会において必要となる、人間にとって直感的な入力の出来るデバイスであるHuman-Robot Interface(HRI)の技術、バーチャル・リアリティを用いたテレ・イグジスタンスなどを扱う。さらに、人間の有する感性と、感性を考慮したインターフェイスに関して、その設計論を学ぶ。	
		ロボット構造力学	材料力学の基礎を修得することを目指す。また、ロボット機構を設計する際に必要な、強度、剛性、変形量、摩擦、磨耗、外力やアクチュエータの力のかかり方について理解して計算し、適切な構造設計ができるようにする。材料の応力ひずみ特性を理解し、材料選定の指針を学ぶ。はりの変形と強度、軸のねじり、せん断について計算ができるようにする。座屈、応力集中について理解し、設計の指針を学ぶ。簡単な実験により、変形量や強度について感覚的に理解を深める。	共同
		アクチュエータ工学	本講義では様々な制御用アクチュエータの基礎知識の習得を目的とする。ロボット制御の主力であるDCモータ及びブラシレスモータの講義では、駆動原理、モータの特性、最適なモータの選定方法、駆動回路、ベクトル制御について学ぶ。また、産業用アクチュエータとしてステッピングモータについて学習し、駆動原理と励磁方式について学ぶ。その他に流体を用いたアクチュエータとして空気圧と油圧についての原理と設計方法について学ぶ。	
		CAD/CAM/CAE	デジタルものづくりの手法を学び、設計、解析、加工の一連の流れを体得することを目的とする。始めに、3次元CADを使用して、実践的な機械設計方法について学ぶ。次に、設計過程において必要となる構造解析に関して、CAEを同時に使用することで解決する方法を実習する。完成したモデルデータより、CAMを使用することで工作のためのNCデータ作成を行い、実際にCNC工作機械を用いた切削、並びに3Dプリンタを用いた造形を行うことで、設計から製造までの手法を体得する。	
		流体力学	空気や水に代表されるような流れと共にサイズや形が変わる流体の力学を理解することを目的とする。ここでは、剛体を取り扱う力学とは異なる記述手法の流体の運動方程式である連続の式とナビエ・ストークス方程式を導き、高速・低速、粘性・非粘性、定常・非定常、圧縮・非圧縮において、現象を支配する特徴的な諸関係を学ぶ。また、数値解析により流れ場を可視化し、渦現象を示すことによって、遊泳ロボットや飛翔ロボットの構造特性や運動特性を理解する。	
		ゼミナール1	卒業研究を円滑に実施、卒業論文をまとめるために必要な基礎知識と基礎技術を習得し、国内外の文献調査能力や読解力を高めること、さらには、自らの研究内容を第三者に魅力的に伝えるプレゼンテーション能力を向上させることを目的とする。テーマは、配属研究室の担当指導教員が研究目的及びロボット設計製作4に沿って適宜設定する。一方向性の高い講義形式ではなく、教員との双方向性、学生同士での相互啓発性の高い形式により専門的な内容を深く学ぶ。報告会、レポート課題などが課される。	

専門 科目	専門 展開 科目	ゼミナール2	卒業研究を円滑に実施，卒業論文をまとめるために必要な基礎知識と基礎技術を習得し，国内外の文献調査能力や読解力を高めること，さらには，自らの研究内容を第三者に魅力的に伝えるプレゼンテーション能力を向上させることを目的とする。テーマは，ゼミナール1を発展させ，配属研究室の担当指導教員が研究目的及びロボット設計製作5に沿って適宜設定する。一方向性の高い講義形式ではなく，教員との双方向性，学生同士での相互啓発性の高い形式により専門的な内容を深く学ぶ。報告会，レポート課題などが課される。	
		ゼミナール3	卒業研究を円滑に実施，卒業論文をまとめるために必要な専門知識と専門技術を習得し，国内外の文献調査能力や読解力を高めること，さらには，自らの研究内容を第三者に魅力的に伝えるプレゼンテーション能力を向上させることを目的とする。テーマは，ゼミナール1，2をより専門的に発展させ，配属研究室の担当指導教員が研究目的に沿って適宜設定する。一方向性の高い講義形式ではなく，教員との双方向性，学生同士での相互啓発性の高い形式により専門的な内容を深く学ぶ。研究室内輪講，論文講読，報告会，レポート課題などが課される。	
		ゼミナール4	卒業研究を円滑に実施，卒業論文をまとめるために必要な専門知識と専門技術を習得し，国内外の文献調査能力や読解力を高めること，さらには，自らの研究内容を第三者に魅力的に伝えるプレゼンテーション能力を向上させることを目的とする。テーマは，ゼミナール1，2，3をより専門的に発展させ，配属研究室の担当指導教員が研究目的に沿って適宜設定する。一方向性の高い講義形式ではなく，教員との双方向性，学生同士での相互啓発性の高い形式により専門的な内容を深く学ぶ。研究室内輪講，論文講読，報告会，レポート課題などが課される。	
		卒業研究	4年間の学習の総括として，配属された研究室において1つのテーマについて深く研究を行い，目的・方法・結果および考察・結論を内容とした研究論文を作成し，その内容を発表することを目的とする。ここでは，卒業研究を通して関係する分野の専門知識の理解を深めるとともに，関連研究を調査し自らのテーマの位置づけを明確にする能力，課題を自ら設定し解決する能力，一貫した論文としてまとめる能力，プレゼンテーションする能力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（先進工学部 生命科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 コミュニケーション スキル	ステップアップ・イングリッシュ1	本授業では聞く、話す、読む、書くという基礎的な言語活動を通して高校における語彙や文法を十分に定着させ、4技能の基礎的な英語運用能力を養成する。主に基礎的な英文のインプットを繰り返すことにより英語の最低限のルールを習得する。4技能の言語活動をバランスよく計画的・系統的に取り入れることで、基礎的な語彙や文法事項をさまざまな言語活動のなかで繰り返し練習し、実際の場面で使える「能動語彙」や使える「文法力」の習得を目指す。	
	英語コミュニケーションA1	本授業では、高校までに学習してきた語意や文法を用いて、基礎的な英語運用能力の習得に必要な土台作りを目指す。スピーキングでは1対1の会話で相手の主張を理解して要約したり、平易な表現を用いて相手の質問に簡潔に答えたりといったペア・ワーク、またライティングでは英文和訳や自由英作文などで基礎的な文法事項を確認するなど演習形式の授業を通じてコミュニケーションの基礎力の養成を行う。また積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。	
	ステップアップ・イングリッシュ2	本授業ではコミュニケーションのコアとなる英文法の習得を目指す。多様な例文のインプットに加えて、話す、書くというアウトプットを多量に行うことで断片的になりがちな文法知識を有機的に関連させる。4技能の言語活動をバランスよく計画的・系統的に取り入れることで、基礎的な語彙や文法事項をさまざまな言語活動のなかで繰り返し練習し、知識としてだけでなく、実際の場面で使える「能動語彙」や使える「文法力」の習得を目指す。	
	英語コミュニケーションA2	本授業では、基礎的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。1対1のスピーキングでは基礎的な内容に加えてさまざまな話題についてのやりとりができるように演習形式の授業を行う。また相手の主張を要約する演習を通じて語彙力の強化も行う。ライティングでは英文和訳や自由英作文などで基礎的な文法事項を確認するなど演習形式の授業を通じてコミュニケーションの基礎力の養成を行う。	
	英語コンプリヘンションA1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、基礎的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読などを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配り、文章全体を把握する能力を養成する。	
	アドバンスト・コミュニケーションA1	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら標準的な英語コミュニケーション力の修得を目指す。2～3名のグループワークを中心にした授業運営を行い、会話やインタビューなど多様なスタイルを活用することで確固とした英語運用能力を定着させる。たとえば他人の意見をパラフレーズして説明することで語彙のネットワークを広げるなど。ライティングでは既習文法事項と新たな語彙を使いながら、より豊かな英語表現のための基礎力の養成を行う。	
	英語コンプリヘンションA2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、基礎的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配り、文章全体を把握する力を養成する。更には、その読んだ内容を平易な自分の言葉でまとめる演習を行う。	
	アドバンスト・コミュニケーションA2	本授業では、4技能（読解、聴解、会話、作文）を複合的に使いながら標準的な英語運用能力の習得を目指す。スピーキングでは2～3名のペア・ワークで一般的な内容に基づいてインタビューする演習を行う。ライティングではより豊かな英語表現のための基礎力の養成をめざして、具体的な状況や話題（大学生活や学習内容）についての作文を行う。また、学生同士でのピア・レビューを通じて、より正確で洗練された英語表現を目指す。	
	センテンス・ストラクチャ1	長い文を含む文章を読む場合、文の構造を理解する能力が不可欠である。本授業の目的は、文構造を把握するテクニックを身に付け、それを駆使しながら実際に文章を読むことにある。また文構造を把握するテクニックを習得するために、前置詞、動名詞、分詞などの文を長くする原因となる様々な文法事項の復習も行う。	
	英語コミュニケーションB1	本授業では、高校までに学習した内容に加えて新たに語彙力の強化を行いながら、標準的な英語運用能力の修得に必要な土台作りを目指す。スピーキングでは2～3名のグループ内で互いにインタビューをしたり、他人の意見をパラフレーズして説明したりするなどのグループ・ワーク、またライティングでは高校までの既習文法事項と新たな語彙を使いながら、より豊かな英語表現のための基礎力の養成を行う。また積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。	

教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	センテンス・ストラクチャ2	長い文を含む文章を読む場合、文の構造を理解する能力が不可欠である。本授業の目的は、文構造を把握するテクニックを身に付け、それを駆使しながら実際に文章を読むことにある。また文構造を把握するテクニックを習得するために、不定詞、同格、等位接続詞、従属節などの文を長くする原因となる様々な文法事項の復習も行う。	
			英語コミュニケーションB2	本授業では、標準的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。2－3名のスピーキングではより複雑な構文や難度の高い語彙を用いて互いにインタビューする演習を行う。ライティングではより豊かな英語表現のための基礎力の養成をめざして、具体的な状況や話題(大学生活や学習内容)についての作文を行う。また、学生同士でのピア・レビューを通じて、より正確で洗練された英語表現を目指す。	
			アドバンスト・コンプリヘンションB1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、標準的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ、文章全体を把握し、最終的には、読んだ内容を自分の言葉でまとめられるようになることを目指す。	
			アドバンスト・コミュニケーションB1	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら実践的な英語運用能力の習得を目指す。5-6名のグループワークを中心とした授業運営を行う。教員对学生だけではなく、学生同士のアクティビティを積極的に取り入れることで、自発的な英語運用能力を定着させる。スピーキングでは学生生活などの身近なテーマに基づいて30秒程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは50語程度の自由作文を使って学生同士の添削(peer-review)など、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			アドバンスト・コンプリヘンションB2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、標準的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ、文章全体を把握し、最終的には、読んだ内容を自分の言葉でまとめられるようになることを目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			アドバンスト・コミュニケーションB2	本授業では、技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら実践的な英語運用能力の習得を目指す。スピーキングでは一般的な話題だけではなく、社会問題などについて自分の意見を表現するまとめたスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでも自分の意見を論理的に展開する100語程度の自由作文を作成するなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語コンプリヘンションC1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、社会問題や時事問題等を扱った読み物を用い、まず、音読などを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ文章全体を把握し、更には、その読んだ内容を自分の言葉でまとめる能力を養成する。	
			英語コミュニケーションC1	本授業では、実践的な英語運用能力の習得のための語彙の強化や構文の確認といったコミュニケーション能力の土台作りを目指す。それと同時に積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。スピーキングでは学生生活などの身近なテーマに基づいて30秒程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは50語程度の自由作文を使って学生同士でのピア・レビューなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語コンプリヘンションC2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、社会問題や時事問題等を扱った読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ文章全体を把握する能力を養成する。更には、その読んだ内容を自分の言葉でまとめ、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			英語コミュニケーションC2	本授業では、実践的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。スピーキングでは社会問題や科学的な話題などの複雑なテーマに基づいて1分程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは100語程度の自由作文を使って学生同士でのピア・レビューなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	

教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	アドバンスト・コンプリヘンションC1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解し、それらに対する自らの考えや意見をより深める能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、主に特定の社会問題などを扱った読み物や新聞・雑誌記事などを複数使い、様々が角度から一つの事柄を理解し、その内容を自らの言葉でまとめられるような力を養う。読む方法としても「精読」だけに留まらず、必要な情報や考えをスピーディに探したすのに有効な「速読」などにも挑戦する。また、音読やディクテーションに加え、内容に関する英語の質疑応答などを通じて、聴いている内容の展開やポイントを的確に押さえる能力の養成を目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			アドバンスト・コミュニケーションC1	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら高度な英語運用能力の習得を目指す。グループ内だけでなく教員やグループ間での双方向的な活動を取り入れた授業運営を行う。スピーキングでは複雑な話題に基づく一分程度のスピーチに対して質疑応答を行ったり、ライティングでは論理的に内容を展開するパラグラフ・ライティングなどを行ったりするなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			アドバンスト・コンプリヘンションC2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解し、それらに対する自らの考えや意見をより深める能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、主に特定の社会問題などを扱った読み物や新聞・雑誌記事などを複数使い、様々が角度から一つの事柄を理解し、その内容を自らの言葉でまとめられるような力を養う。読む方法としても「精読」だけに留まらず、必要な情報や考えをスピーディに探したすのに有効な「速読」などにも挑戦する。また、音読やディクテーション等に加え、内容に関する英語の質疑応答などを通じて、聴いている内容の展開やポイントを的確に押さえる能力の養成を目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築・発表し、授業内で英語での意見交換をする演習を行う。	
			アドバンスト・コミュニケーションC2	本授業では、4技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら高度な英語運用能力の習得を目指す。一般的な話題だけではなく、社会問題など複雑な話題に基づいて自分の意見や考えを論理的に展開するスピーチやパラグラフ・ライティングを作成するだけでなく、相手の主張を要約したりそれに対して自分の意見を述べるなど、コミュニケーションを続ける技術の養成も目標とする。またあるトピックに基づいてリサーチを行い、それをまとめて発表するなどの演習も行う。	
			日本語表現法	日本語の特徴をふまえ、文章を読解し分析する能力、的確な表現による文章作成の能力を養うことを目的とする。文章には、情報伝達や記録報告などの客観的な文章と、自分の感情や思想を表出する主観的な文章とがあるが、読解や作文のためにはそれぞれの文章の特徴を理解する必要がある。また、言葉の意味、主述の関係などの文の構造、三段構成などの文章の構成といった基本的な知識や技術も習得させたい。様々な文章に触れながら、日本語の基礎力の養成を目指す。	
		情報リテラシー	情報処理	高度情報化が進む中で、社会生活や大学での研究を進めるために、情報処理・活用能力が不可欠となっている。このため、情報・知識の複眼的かつ論理的な分析・表現ができる能力を身につける。とくに、情報処理・通信技術(ICT)を用いた様々な方法の中から適切に選択し、モラルやセキュリティに配慮して有効に組合せることで、多様なデータを検索・収集・整理し、データの論理的な分析や効果的な加工を経て、客観的かつ適切に判断し、その結果を伝達するため資料の作成や公開をする、といった各段階で効果的に活用できる能力を培う。	
		人間力養成	スポーツ科学	本科目は、他者とのグループワークとディスカッションを通じてスポーツの技術面や戦術面などにおける課題を見出し、いかにその課題を解決するかを考え、実践する能力の育成を目的とする。スポーツ活動では、積極的な言語的、非言語的コミュニケーションを必要とする場面が多く、さらに身体動作における感覚や技術理論など議論の対象となるテーマが豊富に含まれている。したがって、単に与えられた実技課題をこなすのではなく、さまざまなレベルの受講者が個人のレベルに応じた課題を共に克服し、かつ安全に楽しく取り組むために、受講者自身が積極的に授業参画することにより主体性、課題解決力、チームワーク(協調性)の獲得を目指す。	
		人間力養成	初年次教育	初年次教育は、高校教育から大学教育への円滑な移行と大学での学びの方法の習得や専門を学んでいくための動機づけを担う科目である。 授業内容として、履修方法・図書館の利用方法・心と体の健康・高校と大学の学びの違い・レポートの書き方・愛校教育・安全と防災教育および専門科目への動機づけ等を行う。入学直後のガイダンスから学科オリエンテーションも利用し、早い段階で実施する。	
			キャリアデザイン1	大学あるいは大学院を卒業後、社会で活躍するためにはどのような能力を学生時代に身に付けておくべきか？ 大学での学習効果を向上させるための基本的な作法を習得した上で、自分の足りない部分を把握し、自分の目標を明確にするとともに、授業を通じて人とのコミュニケーション(話す能力・聴く能力・情報を収集して伝える能力)の楽しさを知ることにより、社会で必須となるコミュニケーション能力を高めつつ、目標を持って有意義な大学生活を送り、自らのキャリアデザインを描けるようになることを目的とする。	

教養科目	教養基礎科目	人間力養成	キャリアデザイン2	キャリアデザイン1で描いたキャリアデザインを意識しつつ、日本の社会構造および経済構造を学ぶとともに、企業が陥った過去の失敗例などを教訓にして、自分自身の将来と目標を再確認し、再度大学で何を成し遂げるかについて検討する。 また、企業が行っている経済活動や関連する法律について理解することで、目標を達成するために必要な基礎知識を得ることを目的とする。 さらに、本科目では、学生参加型で実施することにより、社会が求める要素の1つである主体性の獲得を目指す。	
			キャリアデザイン3	キャリアデザイン1・2で修得したキャリアデザインについて、振り返り、目標設定の進捗について、まずは検証を行う。検証した結果、目標の見直しが必要な学生については、要因等について、分析を行い、再設定をする。 また、進路について、学科毎に特性が偏る時期であることから、学科の分野を考慮した上で、卒業生に協力いただき、業界についての知識を深める(違いを知る)ことにより、学生が目指すキャリアデザインが達成するためのイメージを獲得することを目的とする。	
	教養共通科目	国際理解	異文化理解	本科目では、外国及び時空を異にする自国の文化、具体的には、その音楽、美術などの芸術、言語、思想、歴史、民族、社会、芸能、風俗、習慣等をいくつか取り上げ、先ず学生に紹介し、問題提起をし、意見を求め、自分の考えをまとめさせる。それから、それを自国の文化をも含めいろいろな文化と比較・検討し、必要ならば自分の考えを修正させる。そのことを通して、ものごとを多角的且つ客観的に見る、いわゆる複眼思考を養うと共に、結果として自国の文化を見つめ直し、より深く理解してもらう。	
			言語と文化1	本科目では、日常会話が自然と口から出てくることを目標に、日本語など他の言語との比較をも考慮しながら、英語以外の言語の基礎を発音から一つ一つ丁寧に学ぶ。また、その文化圏の人々の考え方を理解するために、積極的に人々の生活や文化、社会にも触れていく。以上のことを通して、多角的且つ客観的に日本及び日本文化を見つめ直し、理解を深めると同時に、日本が国際社会においてどのように見られ、評価されているのか、我が国の国際社会における立ち位置を確認したい。	
			言語と文化2	本科目は、「言語と文化1」の続編をなすもので、さらに「言語と文化1」で学んだ外国語及び文化・社会についての理解を深めて行くことを目的とする。語学一辺倒ではなく、その地域の文化・歴史・社会等をさまざまな角度からとりあげる。その際、文学や音楽等の文化的側面及び日本とその国との歴史的つながりばかりではなく、最近の日本をとりまく国際情勢や社会情勢などにも積極的に触れていきたい。以上の学習をとおして、ものごとをいろいろな角度・立場から眺め直す「複眼」を身に付けさせたい。	
			グローバル時代の法	そもそも法とは何であり、現代のグローバル社会において法の存在はいかなる意味を有しているのか。法というものの定義から始まり、法全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。まずは法の概念や法の分類といった一般的な問題について検討した上で、財産と家族について定める民法と、犯罪と刑罰について定める刑法法について学習し、さらに、グローバル時代においてますます重要性を増す国際法についても学習する。	
			国際社会論	国際社会の中に生きる人間として必要な知識と思考力とを養うため、世界の政治経済、言語、文化、歴史、人の移動、環境や食糧問題、平和に関する問題などについて多角的に学んでいく。その際単に個別の知識を並列的に得るだけではなく、それぞれのテーマを関連づけて理解することで、国際社会の現状に対する包括的な認識を獲得することを目指す。そして将来においても、世界の中で日々生まれてくる諸問題に対し自ら学び、積極的に取り組む態度を身につけることが目標である。	
		人間・社会・自然の理解	哲学	哲学を学ぶことを通じて、人間とは何か、また人間は世界といかに関わっているかという事柄について考え理解するための観点や思考方法を身につけることを目的とする。これまで展開されてきた哲学史の中でなされてきた議論の要点を参考にしながら、人間と世界のあり方を考察するための様々な問題設定の方法や論理的な思考方法を学ぶ。その上で、知識、行為、価値、存在、自由、自我、他者といった事象をめぐる諸問題について理解し、それについて自ら考える力を養い、さらに新たな問題を発見する態度を身につけることを目標とする。	
			倫理学	「倫理学」では、現代文明が直面する倫理的問題のなかでもいわゆる「応用倫理」と呼ばれるものをとりあげる。まずそれらが現代の科学技術によってつくりだされていることを確認したうえで、問題を解決しつつ問題発生を防止するためには、われわれ人間はこうした科学技術をいかに管理してゆくか、また、そのときに技術者の役割と責任はどのように考えるべきか、15回の講義をとおして事例などを紹介しつつ、考える力を養成することを狙いとす。	

教養科目	人間・社会・自然の理解	教養共通科目	文学と芸術	文学作品や芸術作品の鑑賞や批評を通じて、人間への洞察を深め、ものの見方、感じ方、考え方を広げることを目的とする。また、それぞれの作品が生み出された時代や社会の背景を理解する。人間の感情および思想の表象原理、作品の主題、その歴史的社会的意義を明らかにしながら、人生の目的や価値について考え、よりよく生きることの意味を探り、豊かな感受性を育む。さらに作品受容に関して、批評とはどのようなことかを検討し、批評主体の確立についても考察を深めたい。	
			歴史と人間	過去から現在に至る人類の歩みについて、政治・経済・社会・宗教といった幅広い観点から理解するための基本的な視座を提供する。日本史や世界史の基礎的な知識をあたえるだけでなく、それぞれの地域の歴史がもつ独自性と世界史的な普遍性の両面に光をあてることで、過去の事象を世界規模の時系列的な因果関係のなか位置づける能力を養う。他日、国際社会に出た学生が、独善に陥ることなく自国の置かれた立場を理解し、客観的に自らの立脚点を説明することに耐えられる資質を育てる。	
			心理学	本講義では、心のメカニズムについて科学的手法により解明された知見とその応用を解説する。具体的には、人の認知・思考、感情、行動のそれぞれの特徴、関連の仕方、発達の変容に関する理論を取り扱う。さらに、そういった心理学の知見や理論が社会の様々な場面で活用されていることを紹介し、グループワーク等も実施する。本講義のねらいは、学生が自分自身や他者に対する理解をより一層深めること、心理学の知識を生活に応用し役立てることができるようになることである。	
			身体と健康の科学	本科目は、単にヒトの「身体」や「健康」についての知識を獲得するのではなく、専門分野の枠を超えて人文科学、社会科学、自然科学などの様々な学問分野との関連を踏まえながら共通に求められる知識や思考法の獲得を目指す。特に、超少子高齢社会に突入した我が国では、人々が健康で豊かに過ごす時間を延伸することは非常に重要な課題となっている。それと同時に、ヒトの「身体」や「健康」とは何かについて考え直す時期にも来ている。社会構造の急激な変化や科学技術の進展に伴う人間の価値観の多様性を踏まえながら、「身体」や「健康」について考察する。	
			憲法と社会	そもそも憲法とは何であり、人間社会にとって憲法の実在はいかなる意味を有しているのか。憲法というものの定義から始まり、憲法全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。古今東西の様々な憲法に共通する憲法の基本原理を学んだ上で、とくに日本国憲法についての理解を深める。日本国憲法は統治機構と権利章典という大きく二つの部分から構成されているが、この両者についてできるだけ正確な知識を身に付けることをめざす。	
			政治と社会	そもそも政治とは何であり、人間社会にとって政治というものの存在はいかなる意味を有しているのか。政治というものの定義から始まり、政治全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。まずは政治の中心となる権力の概念や様々な政治思想について学んだ上で、とくに国家的な政治現象に焦点を合わせ、具体的な事例を取り上げつつ、地方自治を含む国内政治と、近年ますます重要性を増す国際政治をめぐる諸問題について考察する。	
			経済学	当科目では、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基本的な考え方や分析手法を習得するとともに、現代経済の各場面にそれらを応用し、経済学的に思考することや、それを通して社会を考察することの意義に気づくことができるようにする。価格機構／市場原理の理論やその社会的意味などを多面的に考察したのち、経済主体、金融、財政、社会保障などの分野に言及する。授業では、教員による講義のほか、演習問題などを通じて簡単な理論や数式を用いた分析を受講生自身に取り組ませる。	
			現代社会論	現代の日本社会、及び国際社会における諸問題について具体的に考察をしながら、現代社会のありかたについて認識を深めていくことを目的とする。とりわけ、労働問題、教育・青少年問題、国際的な公害・環境問題、戦争と平和をめぐる問題、家族や子育ての問題、福祉や社会保障の問題、情報環境の変化をめぐる問題等を取りあげながら、考察を深めていく。そして、授業を通じて、現代社会に生きる市民として、幅広い視野とグローバルな視点をもって自ら主体的に考え、行動することができる教養・態度・能力を身に付けることを目標とする。	
			科学技術史	本科目では、科学と技術の展開をそれらの相互関係を含めて歴史的に検討することを目的とする。科学の歴史としては、ニュートン力学を中心とした近代科学の成立過程を含めて、当時の自然哲学者・科学者たちが対峙した困難を当時の文脈から検討し、それらの科学的意義を理解していく。技術の歴史としては、イギリス産業革命における綿工業の展開や蒸気機関の発展などを理解するとともに、19世紀以降の科学と技術の接近とそれらの共進化的展開および社会との関係なども分析する。	
			環境科学概論	本講義は、科学技術の進歩に伴う地球規模での環境変化を事例に挙げ、広範で複雑な環境問題の現状を、物質を中心とした視点から把握すると同時に、科学的解決法の糸口を探ることを目的とする。特に温暖化、オゾンホール、酸性雨、生物多様性の喪失、食糧、砂漠化、原子力、廃棄物等の事例について詳細に解説し、これらの問題を解決するために開発された新技術や新素材による将来像を展望して、材料科学の観点からも環境科学を学ぶ。また、未来へと繋ぐ環境の姿を考察し、現代に生きる人間としての規範をも考える。	

教養科目	人間・社会・自然の理解	教養共通科目	生命科学	本講義では、生命の神秘、多様性、遺伝子支配の重要性についての理解を深め、人類が直面する資源、環境、エネルギー問題へと関心を高めさせることを目的とし、まず生物の生命の基本となる、細胞の理解に始まり、その構造と機能、細胞を構成する物質の理解、細胞の増殖・分化・老化・代謝（解糖系・呼吸・光合成・窒素同化）、細胞間相互作用等について学ぶ。さらに、多細胞生物に特有な発生・形態形成のメカニズムに触れ、遺伝子の本体、伴性遺伝、欠失、突然変異などの遺伝現象を理解する。	
			地球科学	人間の生活環境としての「地球」の創生と構造、進化をテーマとする地球科学の講義を行う。地球全体の歴史と関連させながら、地球や地球で生じている諸現象についての基礎知識を与える。また、人間活動と資源・エネルギー、地球環境の関係の調和を保ちながら、社会の持続的発展を考える契機を与えることを目標とする。講義で取りあげる主な項目は、地球の形状、地球の活動と歴史、プレートの運動、地層の形成と地質構造、地球の熱収支、大気と海水の運動、地球環境の変遷などである。	
			物理の世界と先端技術	現代の自然像の形成に大きな役割を果たしてきた種々の物理的視点について講義し、それらの視点に基づいて、物理の世界をより深く理解することを目指す。また、このような物理的視点が先端科学・技術にどの様に結びつき、人々の生活への影響を通して社会と如何に関わっているかについて、自発的に考える力を身につける。講義で取りあげる主な項目として、力と運動の関係を基礎とする力学的自然観、熱現象とエネルギー・エントロピー概念、電磁気現象と「場」の考え方、現代の物理的世界観（時間・空間と相対性、物質・光に対する粒子・波の二重性と量子論など）が挙げられる。	
			物質科学	本科目は、現代人の常識として必要な化学の基礎知識を修得し、化学の根底にある考え方を理解して、物質を科学的に見ることができる正しい見識を涵養することを目的とする。物質の分類と基本構造、化学結合と物質の性質、化学量論と化学反応の基礎等を教授し、様々な物質が満ちあふれている現代社会において物質を科学的にとらえて論理的に思考できる基礎を与える。また、身近な物質、材料開発の最前線などの話題を取り上げて、化学のおもしろさ、現代化学の自然観・物質観が理解できるように配慮する。	
	総合	教養特別科目	課題探究セミナー	本科目では、少人数制による主体的な学び、受講者同士の積極的な討論、グループワークなど、受講者自らの思考を促す能動的な学習方法であるアクティブラーニング形式により授業を展開する。具体的には、国際問題、日本文化、歴史、社会、人間、芸術、環境、健康、生活などのテーマや課題を選定し、それについて様々な学問分野の知識を活用しながら、総合的な判断力や解決力を育成する。また、個人やグループの考えをまとめ、文章や図表等を用いて論理的にかつ適切にプレゼンテーションする基本的な能力の獲得を目指す。	
			総合学際科目	本科目では、教員からの一方的な教授形態ではなく、幅広い応用的な知識・理解を深める講義と受講者同士の討論や発表などの演習を融合した受講者参画型の能動的な授業を展開する。このような授業形態を通じて、各学問分野の知識・理解を受講者自らが融合・発展させながら、国際問題、日本文化、歴史、社会、人間、芸術、環境、健康、生活などのテーマや課題について新たな視点や角度から捉え直すことにより総合的な判断力や理解力を身につける。また、個人やグループの考えを論理的にかつ適切に伝達する能力を修得する。	
	教養特別科目	教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング1	本授業では英語を単なる知識としてではなく積極的に運用する能力の養成を目指す。特にライティング能力を向上させることを目指した授業運営を行う。ある話題に基づいてリサーチを行い、A4で3枚程度（1500～2000語）のエッセイを完成させる。正確な英語表現だけでなく、パラグラフ内またはエッセイ全体で概念や意見を論理的に展開させる方法の習得を目指した作文練習や、教師または学生同士による添削を通じて、洗練された文章への感覚を養うことも目標とする。	
			イングリッシュアクティブラーニング2	本授業では英語を単なる知識としてではなく積極的に運用する能力の養成を目指す。特にプレゼンテーション・スタイルの授業運営を行う。ある話題に基づいてリサーチを行い、グループ内でのディスカッションを通じて内容を決め、最終的にグループごとに英語で5分程度のプレゼンテーションを行う。正確な英語表現のための演習に加えて、効果的なプレゼンテーションを行うための表現法（アイ・コンタクトやボディ・ランゲージ）の練習も行う。こうしたグループ内での共同作業を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力の養成も目指す。	
			イングリッシュアクティブラーニング3	本授業ではブリティッシュ・ヒルズ（福島県白河）を利用した冬季集中講義に参加し、英語を単なる知識としてではなく、積極的に運用する能力の養成を目指す。	集中
			スポーツアクティブラーニング	本科目は、スポーツ実践ならびにスポーツの様々な局面を題材としたグループワークとディスカッションを中心に授業を展開し、課題解決力、状況把握力、ストレスマネジメント力、リーダーシップ、チームワーク（協調性）を発展的に育成することを目的とする。特に、授業内では短期間の宿泊学習プログラムや他大学との連携プログラムなどを実施することにより、より高いレベルでのスポーツ活動を実践することで授業の目的を達成すると同時に、スポーツならびにその価値を幅広い視点から客観的にとらえ、多角的に物事を考え、実行する力の獲得を目指す。	集中

教養科目	教養特別科目	ソーシャルアクティブラーニング	個々の学科の専門的な学問体系を基礎とし地域、社会活動を体験することによって、学んできた知識を実際の体験から学問的な再確認をし、社会で活用できる知識とする。さらに、新たな視野を得るとともに、自らの社会的役割の認識をし、必要な資質や能力の向上を図る。自治体や地域社会との連携を重視し、より実践的な体験や問題に取り組むことにより調査、体験を主体とした活動の中から、自己の能力向上を図る。	
		国際インターン	本科目では、学生が夏休み等を利用し海外の企業等で2週間程度の期間就業体験を行い、世界で活躍する高度専門技術者として求められる専門知識やコミュニケーション能力を養うことを目的とする。具体的には、本学の海外交流協定校の協力を得ながら、海外に進出した日本企業や現地の大学、優良企業等でインターンシップを行う。本科目は受講資格として語学力による一定の制限を設ける。また、渡航前の指導として海外での生活や現地文化に関する講習を行い、学生からの海外就業体験報告書、面談等により科目成績評価を行う。本科目の運営及び成績評価は国際交流委員会が行う。	
		国内インターン	社会との差を実感することにより、技術者としての目標を明確にすることを目的とする。体験先は、本学の取り組みや学生気質を理解している産官学連携協議会の加盟企業や求人者をいただいている企業で行うことにより、目的の達成を目指す。 なお、事前指導については、目的を持って臨むためのワークやマナーについても行う。また、事後指導では、今後の目標を明確にするだけでなく、発表等を行うことで、学生間での情報共有を行い、社会で必要となる資質を理解すると共に、異なる業種・職種について理解をすることで、社会への理解も深める。	
		ボランティア	本科目は、社会の一員としての意識を持ち、社会の発展のために積極的に関与できる態度を養うことによる人間力を高めることを目的とする。 具体的には、事前指導により社会貢献の意義と役割について理解させ、ボランティア活動の現状と課題について認識したうえで、実際のボランティア活動を通して、体験的に学習し、ボランティア活動に対する理解を深めるとともに、社会貢献とボランティア活動との関連について学習することにより、地域貢献への参画意識を高める。	
		総合科学特論	本科目では、教養共通科目で扱った内容を発展させ、現代科学の幅広い分野の理解を深める講義と受講者間の討論や発表などの受講者参画型の授業を展開する。このような授業形態を通じて、各学問分野の知識を受講者自らが融合・発展させながら、現代社会が抱える諸問題について新たな視点から捉え直すことにより総合的な判断力や理解力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要			
（先進工学部生命科学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	専門 基礎 科目	生物学 1	本講義は、学科専門科目の基礎として位置づけ、高校生物から大学生物学へステップアップしつつ、生命の化学的基礎、細胞、遺伝および進化について概説する。具体的には、（1）生命と水のかかわり、生体分子の構造と機能、（2）細胞の構造と機能、呼吸および光合成、（3）減数分裂、染色体の挙動と遺伝、遺伝子の分子機構、ゲノムおよびウイルス、（4）集団の進化と種の起源、地球上の生命の歴史、などについてそれぞれ解説する。これらの内容を全15回で座学形式にて講義する。
		数学基礎	本講義は、各専門課程で必要とされる初等関数と微分積分の基本的な知識・計算力の習得を目標とする。各種の初等関数について、値の計算や、三角関数の加法定理、指数・対数法則等の基本的性質を論じる。また、微分係数、導関数の定義を説明して、初等関数の微分公式を詳述し、和・差、定数倍、積、商、合成関数の微分の計算に習熟させる。さらに、不定積分について、初等関数の積分公式、置換積分法、部分積分法を詳述し、また、定積分の基本的な計算にも触れる。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。
		化学基礎	本講義は、細胞や組織を分子集合体として捉え、遺伝子やタンパク質を分子と考えてミクロな視点で生命現象を扱える能力を身につけることを目的とする。まず、物質構造、化学結合、分子間相互作用などを電子論的に理解する。次いで可逆・不可逆変化、物質の状態変化、化学平衡とその法則、反応速度などを学び、生体内での化学変化を正しく理解する。さらに、酸と塩基の性質、緩衝作用および生化学を理解するための有機化学の基礎などについて学習する。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。
		生物学 2	本講義は、学科専門科目の基礎として位置づけ、高校生物から大学生物学へステップアップしつつ、生物の多様性、植物および動物の形態と機能および生態学について概説する。具体的には、（1）生物の系統、細菌と古細菌、植物、菌類、無脊椎動物、脊椎動物、（2）植物の構造、成長、分化、被子植物の生殖、内外シグナルに対する応答、（3）動物の形態、循環、免疫、浸透圧調節、内分泌系、生殖と発生、神経および行動、（4）個体群と群集および保全、などについてそれぞれ解説する。これらの内容を全15回で座学形式にて講義する。
		微分積分	本講義では「数学基礎」から更に進んだ内容の微分積分を学ぶ。講義の前半では微分の応用として、関数の近似の一つであるテイラー近似について述べ、これを用いて関数の極値や変曲点を調べる。微分の考えの基には近似の考えがあるが、微分を現実の問題に適用する際にも、近似は重要である。また、偏微分の定義、計算についても述べる。後半ではまず定積分の意味について述べる。力学や電磁気学に現れる物理量や法則の多くが積分により記述されるが、これらを学ぶ際に必要となる積分の知識を講義する。さらに、重積分について述べる。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。
		線形代数	本講義では、線形代数に関するエンジニアとしての最低限の素養を身につけさせることを目指す。具体的には、行列の演算（和・差、実数倍、積）の定義と性質を詳述する。連立1次方程式の解法として掃き出し法を取り上げて、行基本変形の計算に習熟させ、連立1次方程式の解の構造を様々な例を通じて理解させる。逆行列の定義と、掃き出し法を利用した逆行列の求め方を学ぶ。行列式について、種々の基本的性質を利用した計算に慣れさせ、余因子展開を詳述し、また、連立1次方程式と行列式の関連についても触れる。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。
		機器分析学	本講義では、材料構造と機能の相関解析や環境問題・生体関連現象の解析などに不可欠な各種機器分析法の基本原理と特徴、および、機器を取り扱う上で必要な基礎知識、測定の方法、結果の取扱い方法などを理解することを目的とする。具体的には、可視・紫外吸収スペクトル法、蛍光光度法、赤外・ラマン分光法、原子吸光分析、磁気共鳴分析などの電磁波分析法や、クロマトグラフィーなどの分離分析、さらには、質量分析や熱分析などの各種機器分析法の基礎的な原理と応用、分析を正しく行う上で必要な基本的な考え方や手法を中心に学ぶ。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。

専門科目	専門基礎科目	量子化学	本講義では、生命現象を分子論的な視点で捉え、また創薬分野で多用されるコンピューターを利用した計算化学的な手法の基礎を理解することを目的とする。まず水素原子のシュレディンガー方程式を理解する。次いで量子力学演算子、波動関数の性質、水素原子の原子軌道、原子の電子配置について学習する。また分子軌道理論や原子価結合法などの量子論にもとづく化学結合の理解、多原子電子の電子状態理論、フロンティア電子軌道論、創薬設計に必要な量子化学の基本的計算手法などについて理解する。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	
		基礎統計学	本講義では、身の周りにはあふれるさまざまな情報やデータを整理し、その奥底に見え隠れする興味深い特徴を抜き出すための知識と方法を習得することを目指す。コンピューターによる大量のデータに関する処理結果を正しく解釈するため、データの分布から平均や標準偏差などデータの性質や傾向を把握するための記述統計とよばれる分野について学習し、さまざまな統計量の意味を正確に判断する能力を養う。さらに、代表的な分布である正規分布について解説し、その応用についても触れる。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	
		生命科学基礎演習	本演習では、生命科学分野の学習のために必要なマナーとスキルの全体像を理解するとともに、基幹および展開科目の講義・実験における学習を効果的に進めるための基礎的能力を向上させることを目標とする。管理・情報・コミュニケーションの3つの視点により、時間・スケジュール・情報・データなどの管理、コンピュータ利用・情報および文献検索・データ収集分析などの情報処理、報告レポート作成・ディスカッション・プレゼンテーションなどのコミュニケーションについて、15回の演習を全教員による分担（教員一人当たり1+0.5回）で実施する。 (オムニバス方式／15回) (1 飯野正昭／1.5回) 管理 (2 河合剛太／1.5回) 管理 (3 黒崎直子／1.5回) 管理 (4 五明美智男／1.5回) 情報 (5 坂本泰一／1.5回) 情報 (6 滝口泰之／1.5回) 情報 (7 村上和仁／1.5回) 情報 (8 橋本香保子／1.5回) コミュニケーション (9 渡邊宇外／1.5回) コミュニケーション (10 根本直樹／1.5回) コミュニケーション	オムニバス方式
	専門基幹科目	分子生物学 1	本講義では、遺伝情報の発現を中心に、分子生物学の基礎について理解させる。1年生前期での開講を予定しているため、生体分子についての基礎知識についての説明を行った後、DNAと染色体の基本的構造、遺伝子の発現と調節の概略、転写開始のメカニズムとその調節機構、転写後プロセッシング、遺伝暗号とタンパク質の合成およびその調節について説明する。さらに、DNAの複製、修復および組換えについても説明する。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	

専門科目	専門基幹科目	生物物理学 1	生物は物質で構成されているので、その物理量は物理法則に厳密に従う。一方、生物を特徴付ける様々な現象論的パラメータの多くは物理量でないで、これらと物理学との関連性についての概念を学ぶことが本科目の目的である。講義内容は、物理学とその法則の概要から始まり、力学や電磁気学、熱力学などのマクロな法則と量子力学などのミクロな法則、および、ミクロとマクロをつなぐ情報論と統計力学から構成される。これらに基づく生体情報論や第一原理分子動力学法についても解説する。本講では、概念の理解のみ行い、数学による計算や演習問題は扱わない。これらの内容を全15回で座学形式にて講義する。	
		生化学 1	本講義では、我々の細胞を構成し、細胞の生命活動に関わる生体分子の種類、性質、働きや、それらがどのように化学反応し、生体の機能に結びついているかを理解させることを目標とする。具体的には、タンパク質を構成するアミノ酸の構造と性質、タンパク質の形、はたらきと生合成、ヌクレオチドの構造や核酸の性質と役割、糖質、脂質、ビタミン、補酵素などの化学構造と性質および生体内での役割について、全15回で座学形式にて講義する。	
		基礎生態学	本講義では、生物がどのような場でどのように生活しているかを研究対象とする、非常に広範囲の生命現象を対象とする学問分野である生態学の、基礎的な領域を扱い、生命活動に対する生物学的／非生物的要因の与える影響を理解するための基礎的な知識の習得を目的とする。具体的には、生態学の歴史、個体群生態学（ダーウィン生態学）、生態系生態学（オダム生態学）、さらに21世紀の環境問題解決のための学問的ツールとしての生態工学について、15回に分けて座学形式にて行う。	
		分子生物学 2	本講義では、分子生物学 1 の後続科目として、分子生物学の基礎を理解した上で、DNAからの転写翻訳後に産生されるタンパク質の分子構造や特徴を講義し、その動態を解説する。次いで細胞周期の制御と染色体、ウイルスとがん、細胞の生理的動態を担うシグナル伝達のメカニズムを解説する。その後視点を組織・個体レベルに移し、多細胞体制および脳と神経について解説し、さらにモデル生物の分子生物学からヒトの分子生物学を理解することを目標とし、これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	
		微生物学	本講義では、微生物を利用した研究や医療、産業を理解するための専門知識の修得とこれらの問題に対する解決方法について考える力を付けることを目標とする。具体的には、微生物学の歴史、微生物の実験での取扱いの原理と実際、微生物が関わる病気、生活や環境と微生物の関わり、グラム陰性細菌、グラム陽性細菌、古細菌、真菌、ウイルスや、その他の病原性および身近な微生物の種類、特徴、役割などについて、全15回で座学形式にて講義する。	
		生化学 2	本講義では、はじめに、生体を構成する分子が関与する様々な代謝反応および生化学的反応における自由エネルギー変化について解説する。次に、細胞が営む生命活動を化学的に理解すること、また、酵素触媒の特徴、酵素反応速度論などについて理解することを目標とする。具体的には、酵素の特徴、酵素反応速度論、自由エネルギー変化、糖代謝、クエン酸回路、電子伝達系、光合成、アミノ酸代謝、ヌクレオチド代謝、脂質代謝などについて、全15回で座学形式にて講義する。	
		遺伝子工学 1	本講義では、はじめに、遺伝子およびDNA、さらに遺伝子発現の基礎を解説する。次に、遺伝子工学で利用される基本的な酵素である制限酵素やリガーゼなどについて解説し、遺伝子工学で用いるプラスミドおよびベクターについても解説する。さらに、遺伝子のクローニングについて解説する。DNAを組換えて新しい塩基配列をもつDNAをつくる遺伝子工学は、バイオテクノロジーの中心的な技術であるが、その基礎を理解することを目標とし、15回に分けて座学形式にて行う。	
		細胞生物学	本講義では、真核細胞の分子レベルから顕微鏡レベルの構造、ならびにそれらのもつ様々な機能について理解することを目的とし、生体膜の構造と機能、さまざまな細胞小器官の構造と機能、膜輸送、細胞のエネルギー、シグナル伝達などについて説明する。また、これらの講義内容を通じて、細胞は生物の基本単位であること、細胞内において物質やエネルギーの生産、情報の伝達などの機能が高度にシステム化されていることについて、総合的に理解できるように説明する。これらの内容を全15回で座学形式にて講義する。	

専 門 科 目	専 門 基 幹 科 目	生物物理学 2	本講義では、非平衡系の生命活動を物理学の概念で理解することを目指す。生物は、代謝によるエネルギーを利用して、生きている非平衡状態を保ち、複雑な生命活動が実現していることから、講義内容は、ハミルトン力学の概要、非平衡の熱力学、および、複雑な系を記述する力学系の概要について理解する。さらに、具体的な複雑な、細胞膜現象、構成分子が引き起こす現象、および生物や細胞内で起こる生化学反応による現象などの生物物理学について学び、カオスやフラクタルについても解説する。本講では、概念の理解のみを行い、数学による計算や演習問題は扱わない。これらの内容を全15回で座学形式にて講義する。	
		遺伝子工学 2	本講義では、遺伝子工学 1 の後続科目として、はじめに、様々な遺伝子発現の方法、遺伝子や遺伝子産物の機能解析、RNA工学やタンパク質工学のための遺伝子工学について解説する。次に、遺伝子診断や遺伝子治療、生殖・発生工学のための遺伝子工学、遺伝子組換え動植物やゲノム工学などについて解説する。以上のような遺伝子工学の様々な応用について理解することを目標とする。全15回に分けて教員 2 名が分担し、座学形式にて行う。 (オムニバス方式／15回) (5 坂本泰一／8回) 様々な遺伝子発現の方法、遺伝子や遺伝子産物の機能解析、RNA工学やタンパク質工学のための遺伝子工学など (8 橋本香保子／7回) 遺伝子診断や遺伝子治療、生殖・発生工学のための遺伝子工学、遺伝子組換え動植物やゲノム工学など	オムニバス方式
		生命科学のための倫理・法律	本講義では、生命科学の基礎研究や応用の様々な局面での研究者・技術者の行動規範について理解することを目指す。具体的には、生命科学は、社会や自然と大きなかかわり合いについて人々の考えに影響を与えるものとして、生命現象を法則的に認識しようとするものであり、科学技術の急速な進歩に伴い、生命科学は工学、薬学、医学、農学等他分野との技術融合をしながら社会に应用されていることを理解し、生命倫理の歴史的考察、生命倫理と法の関係、生命科学の応用とその社会的責務、生命科学の適正な推進に向けて必要なこと等について、全15回で座学形式にて講義する。	
		生命科学基礎実験 1	本実験では、生命科学研究のための基礎となる実験操作方法および実験装置の使用方法とその原理について実習する。専門基幹科目のうち、前セメスターまでに学習した、分子生物学 1、生物物理学 1、微生物学、生化学 1 の内容を中心に、実験を通して理解させ、修得させることを目標とする実験、レポートの整理および講評を含め、15回で実施する。学科専任教員5名が担当する。 (オムニバス方式／15回) (1 飯野正昭／3回) 生物物理学実験 (2 河合剛太／3回) 分子生物学実験1 (3 黒崎直子／3回) 分子生物学実験2 (6 滝口泰之／3回) 微生物学実験 (10 根本直樹／3回) 生化学実験	オムニバス方式
		生命科学基礎実験 2	本実験では、生命科学研究のための基礎となる実験操作方法および実験装置の使用方法とその原理について実習する。専門基幹科目のうち、前セメスターまでに学習した、基礎生態学、細胞生物学、遺伝子工学 1 の内容を中心に、実験を通して理解させ、修得させることを目標とする。実験、レポートの整理および講評を含め、15回で実施する。学科専任教員5名が担当する。 (オムニバス方式／15回) (4 五明美智男 基礎生態学実験1／3回・5 坂本泰一 遺伝子工学実験1／3回・8 橋本香保子 遺伝子工学実験2／3回・7 村上和仁 基礎生態学実験2／3回・9 渡邊宇外 細胞生物学実験／3回)	オムニバス方式

専門科目	専門展開科目	構造生物学	本講義では、生体高分子の構造と機能に関する学問分野である構造生物学について理解させる。まず、DNAとRNAおよびタンパク質の構造について説明したのち、RNAポリメラーゼやリボソームなどの遺伝情報発現システム、さまざまな酵素あるいは免疫系のタンパク質などを題材として、立体構造と機能の関係について説明する。次に、立体構造決定法について、X線結晶構造解析法および核磁気共鳴法を中心に説明し、さらに相互作用の解析方法についても説明する。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	
		環境構造学	本講義では、無機的要因（非生物的要因）、有機的要因（生物的要因）およびそれらの相互作用によって提供される様々な機能に着目し、生物生息場、生態系の構造について解説する。構造の要素・材料・境界・階層・スケール、構造に見られるネットワーク・循環・システム・メカニズム・価値・デザインの視点を学ぶことにより、多様な生物生息場、生態系を構造面から観察し、生物保全・生態系修復を考えることのできる基礎的知識の習得を目的とする。これらの内容を15回に分けて座学形式にて進める。	
		ゲノム科学	本講義では、ゲノム科学の基礎およびエビジェネティクスについて理解させる。分子生物学1を履修していることを前提とする。ゲノム科学の概要について説明した後、ゲノム解析の方法論として、配列解析、遺伝子発現制御ネットワークあるいは分子ネットワークの解析方法について説明する。さらに、シグナル伝達、細胞分化、発生制御などについて説明する。次に、エビジェネティクスの概要を説明した後、エビジェネティクスの機構やnon-coding RNAの機能および哺乳類における機能あるいは病気との関連などについて説明する。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	
		ウイルス学	本講義では、ヒトの病気と関係するウイルス（病原ウイルス）を中心に、ウイルスの性質やヒトへの病原性等について理解することを目指す。具体的には、ウイルスの歴史、ウイルスの特性（ウイルスの大きさ、形、構造）、ウイルスの生態について説明したのち、ウイルスの種類と分類、ウイルスの感染病理、ウイルスの疫学、ウイルス感染の予防、抗ウイルス薬等の総論についても説明する。次に、DNAウイルスならびにRNAウイルスの各論について説明する。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	
		動物生理学1	本講義では、生体システムを構成している系の中でも特に神経系の統合機能について理解することを目標とする。本講義は、まず、神経の構成と構造、神経興奮のメカニズムについて説明したのち、自律神経系の特徴、自律神経系異常に伴う生理機能の変化について説明する。次に、運動機能、脳機能（情動、睡眠、記憶と学習、言語等）について説明したのち、体性感覚、視覚、聴覚および平衡感覚等についても説明する。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	
		植物生理学1	本講義では、植物の様々なレベルの構造と、それらにより発現される生理機能を理解することを目的とし、植物体を構成する器官・組織・細胞・細胞小器官の構造、光合成反応のしくみ、糖質代謝のしくみ、物質移動のしくみについて説明する。また、これらの講義内容を通じて、植物が場所を1カ所に固定して生育すること、植物体の構成に必要な物質を自立的に生産することなど、植物の特徴的な成長のしくみについて総合的に理解できるよう説明する。これらの内容を全15回で座学形式にて講義する。	
		分子進化学	本講義では、分子進化学の歴史、塩基置換と遺伝子重複、ゲノムDNAの解析方法と配列情報データベースの発展、塩基およびアミノ酸配列の解析法、分子進化速度の解析技法やその評価の方法、分子系統樹推定法など、分子進化学の基礎的な知識と手法について教え、更に生命の初期進化、真核生物の成立、多細胞動物の進化、脊椎動物の進化、ヒトの進化といった、分子系統進化学について理解させることを目標とする。これらの内容を全15回で座学形式にて講義する。	
		ゲノム生態学	本講義では、生物の環境適応・進化のメカニズムに関して、分子遺伝学、分子生物学、ゲノム科学、分子生態学などの手法を動員し、同種・異種生物間および生態系内における遺伝情報の動態ならびにその解析手法についての講義を行う。生態学の新たな領域である遺伝情報そのものの伝達・伝播・発現といった分子レベルでの生態学・進化学の観点から、全生物種共通の機能・構造および生理・生態を理解することを目的とし、これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	
		分子免疫学	本講義では、はじめに、病原微生物と感染症について、次いで生体を持つ生体防御の機能について解説する。様々な病原体に対する生体防御としての免疫反応の個体レベルでのメカニズム、細胞・分子レベルでのメカニズムから、免疫反応に基づいたワクチンや免疫治療の意義について講義する。本来防御のために持つ機能が破綻して疾患となるアレルギーや自己免疫疾患、拒絶反応に関して、さらにバイオテクノロジー技術を用いた実用の基礎や応用を理解することを目標とし、これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	

専門科目	専門展開科目	生体分子工学 1	本講義では、はじめに、さまざまな生体分子の物理化学的特性および生体分子の相互作用について解説する。次に、さまざまな酵素反応およびその阻害反応、それらの速度論的解析手法について解説する。さらに、タンパク質を改変する手法およびその例について解説する。生体分子による基質認識、酵素反応のメカニズムおよび酵素反応の速度論的解析の基礎理論と手法について理解し、生体分子工学の基礎を理解することを目標とし、これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	
		動物生理学 2	本講義では、健全な動物の生体機能がどのようなメカニズムで発現維持されているかを、物理・化学的手法を用いて明らかにする学問であり、運動や行動に関する項目と体内環境の維持に関する内容とに分類される動物生理学のうち、後者の体内環境の維持に関する生理学について理解することを目的とする。講義内容は、血液の生理学、血液循環、呼吸と体液調整、エネルギー代謝を含む生体の環境応答と、内分泌ホルモン系の生体制御機構の生理学とする。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	
		保全生物学	本講義では、生物の多様性がわたしたちの生活・社会の安全に不可欠であることを念頭に、生物の保全を考えるために必要な基本情報、生物の保全および多様性を脅かす様々な問題、生物の保全のための様々な取り組み、保全活動の戦略と将来展望について解説する。生物保全学の系譜、種・個体群・生物群集レベルの保全の手法と実践に関する基礎知識を身につけるとともに、科学技術と生物の保全との関係を考えることのできる広い科学的視野の習得を目的とする。これらの内容を具体的なケーススタディも含む15回に分けての座学形式にて行う。	
		生体生理工学	本講義では、生物のメカニズムを制御の立場から明らかとし、健康、スポーツ、医療および福祉に応用する基本的な考え方を理解する。講義内容は、まず、生体生理工学を理解したうえで、生理学におけるホメオスタシスとバイオフィードバックについて制御の立場から理解する。次に循環系、脳神経系の生体生理工学と、各種生理機能の計測方法と制御技術について学び、健康、スポーツへの応用について学ぶ。最後に、生体生理工学の医療への応用について、最新の手法を含め、紹介する。これらの内容を座学形式にて全15回実施する。 (オムニバス／全15回) (1 飯野正昭／7回) ホメオスタシス、バイオフィードバック、循環系・脳神経系の生体生理工学 (103 平川慶子／7回) (共同) 各種生理機能の計測方法・制御技術、健康・スポーツ・福祉・医療への応用	オムニバス・共同 (一部)
		公衆衛生学	本講義では、人々の健康問題にかかわる環境要因や人間と社会の関係性について理解することを目標とする。人々の健康意識を高め、社会全体の健康水準を向上させるために必要なことについて、社会貢献等も含めて講義する。本講義は全15回を2名の教員で担当する。 (オムニバス方式／15回) (3 黒崎直子／10回) 母子保健、学校保健、成人・老人保健、感染症、生活習慣病、食品衛生、栄養改善 (7 村上和仁／5回) 上下水道などの環境保健・環境衛生	オムニバス方式
		微生物生態学	本講義では、生態系の基幹をなす微生物生態系を対象とし、物質循環・エネルギーフロー・生物間相互作用という生態系の基本的な原理・原則から、環境微生物の検出、環境微生物による水質汚濁等の環境問題、環境微生物を活用した環境修復、環境バイオテクノロジーなどを扱う。また、実験室と自然生態系をつなぐツールとしてのモデル生態系であるマイクロコズムを活用した環境影響評価手法についても解説する。環境微生物の生理・生態および微生物生態系の構造・機能について理解することを目標とし、これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	

専門科目	専門展開科目	生命情報学	本講義では、複雑な生命現象を理解するために必要不可欠な生命情報学（バイオインフォマティクス）について理解させる。まず、生命情報学について概説したのち、配列比較などのデータベース解析とそれから得られる進化的情報について説明する。また、配列の特徴から機能に関連するモチーフ等を抽出する方法やさまざまな網羅的解析方法について説明する。さらに、生体高分子の立体構造モデリングあるいは代謝系や細胞内情報系のモデリングの手法についても説明する。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行うとともに、さまざまなデータベース公開ツールを利用した演習を課す。	
		植物生理学 2	本講義では、植物生理学1に続いて、植物の様々なレベルの構造と、それらにより発現される生理機能を理解することを目的とし、窒素代謝のしくみ、脂質代謝のしくみ、二次代謝のしくみ、細胞壁形成のしくみ、植物体の成長調節のしくみについて説明する。また、これらの講義内容を通じて、植物体の構成に必要な物質を自立的に生産すること、周囲の環境に高度に適応し形態形成を行うことなど、植物の特徴的な成長の仕組みについて総合的に理解できるように説明する。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	
		生物多様性科学	本講義では、生態系を創り出している生物種の多様性の意義から、生物多様性条約の内容、生物多様性を評価するための各種の指数、外来種問題に伴う既存の生態系および遺伝子の攪乱、モデルエコシステムを活用した実験などを解説する。生物の分類、種・個体群・生態系レベルでの生物多様性のもつ意味と重要性、各種の多様性指数・類似度指数の意味と活用法、生物多様性条約の内容と意義、および外来種問題の重要性と生態系保全の考え方を理解することを目標とし、これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	
		生体分子工学 2	本講義では、はじめに、核酸工学などの生体分子工学の手法および応用について解説する。次に、化学を利用したケミカルバイオロジーの手法とその応用について解説する。さらに、生体分子工学を利用した核酸医薬品、抗体医薬品などの分子標的薬の開発について解説する。生体分子工学 1 の後続科目として、RNA工学を主とした核酸工学、ケミカルバイオロジーなどさまざまな生体分子工学の応用について理解することを目標とし、これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	
		細胞遺伝学	本講義では、染色体の構造上の異常や染色体数の異常について理解し、遺伝性疾患の病因や予後に関する知見を学ぶことを目標とする。まず、遺伝学の基礎であるメンデル性遺伝の法則、染色体と遺伝子、ハーディ・ワインベルグの法則について説明したのち、遺伝性疾患の家系分析、近親婚と遺伝について解説する。次に、遺伝子頻度の浮動と移住、突然変異および放射線と遺伝、染色体異常と疾患について説明し、量的形質の遺伝、双生児法による遺伝と環境の問題についても説明する。これらの内容を15回に分けて座学形式にて行う。	
		微生物工学	本講義では、医薬品など有用な物質を微生物に生産させるための優れた変異体の取得とそれを用いた培養方法、食品やアルコール飲料などを生産するための乳酸菌や酵母などを用いた発酵、微生物の物質分解能力を利用したバイオレメディエーション、微生物の工業的な利用方法などについて、伝統的な方法から最先端の取り組みまで教え、専門知識の修得とこれらの問題に対する解決方法について考える力を付けることを目標とする。全15回で座学形式にて講義する。	
		医薬品生産技術	本講義では、先進諸国で今後も基幹製造業のひとつとなる医薬品の製造技術の概要について理解させる。まず、化学・生物学・薬学などに関連する医薬品学の基礎について実例を示しながら説明した後、現代医薬品の主流である低分子化合物による医薬品およびその生産についてマネジメントを含めて説明するとともに、与えられた課題に対する「ゴール設計書」を作成し、プレゼンテーションを行う。次に、今後の発展が期待されるバイオ医薬品およびその生産、さらには、製薬業界ビジネスの基礎と実際について、現場の専門家（非常勤教員）により実例を含めて概説する。これらの内容を15回に分けて主として座学形式にて行う。 (オムニバス／全15回) (2 河合剛太／10回) 医薬品学の基礎、低分子化合物による医薬品およびその生産についての基礎 (2 河合剛太 97 中村慎吾／5回) (共同) バイオ医薬品およびその生産についての基礎、製薬業界ビジネスの基礎と実際	オムニバス方式・共同 (一部)

専門科目	専門展開科目	生態系保全技術	本講義では、地球規模の生態系から地域の環境に至る様々なスケールで進んでいる生態系の劣化や破壊を修復するための工学技術および社会技術について解説する。生態系の劣化・破壊の現状と問題点、生態系修復のための様々な技術および事例、合意形成などの社会技術について、現場の専門家（非常勤教員）による実例を含めて学ぶとともに、与えられた課題に対する「ゴール設計書」を作成し、プレゼンテーションを行う。これらにより、国内および海外の生態系マネジメント手法を理解し、国際社会における生態系修復を支援、協力、協働等の様々な立場で考えることのできるグローバルな視点と技術を習得することを目的とする。これらの内容を15回に分けて主として座学形式にて行う。（オムニバス／全15回） （4 五明美智男／10回） 生態系の劣化と現状および修復取組の動向，生態系保全の進め方各論（構想・計画，調査・設計，施工・管理・モニタリング），生態系保全の工学技術各論（要素技術，水系，陸系），生態系保全の社会技術各論（環境アセスメント論，環境教育，NPO/NGO論） （4 五明美智男 113 森田健二／5回）（共同） 生態系保全の実施各論（企業の取り組みと技術・市民およびNPOの取り組みと協働，アマモ場の再生，干潟の再生，海苔養殖による環境教育，海外での保全実施例）	オムニバス方式・共同（一部）
		生命科学応用実験	本実験では、生命科学分野において研究を遂行するための先端的な実験手法あるいは実験装置の使用法について、その原理を含めて修得させることを目的とする。具体的には、学科の各専任教員が各自の研究室で行っている専門分野の実験から、学生に修得させたい実験内容を提案し、実施する。また、学生に研究内容や研究生活について興味を持たせた上で研究室を選ばせることを目標とする。実験概要説明，12回の実験、レポートの整理および講評を含め、1回2コマで全15回を学科全教員で分担して実施する。 （オムニバス方式／15回） （10 根本直樹／1回） 実験概要説明：第1週目に本実験の概要および運用方法等を説明する。 （2 河合剛太・3 黒崎直子・5 坂本泰一・10 根本直樹／4回）（共同） 分子生物学に関する実験：RNA、DNA、タンパク質等の分子生物学に関する実験を行う。 （1 飯野正昭・8 橋本香保子・9 渡邊宇外／4回）（共同） 細胞生理学に関する実験：生化学、生理学、免疫等の細胞生理学に関する実験を行う。 （4 五明美智男・6 滝口泰之・7 村上和仁／4回）（共同） 生物生態学に関する実験：微生物から環境生物まで生物生態学に関する実験を行う。 （全専任教員／2回）（共同） レポートの講評を行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		卒業研究準備実験	本実験では、専任教員の研究室に所属して専門分野の特定のテーマについて実践的な実験を行うことにより、研究の背景や実験操作の原理についてより深く理解させるとともに、卒業研究を行う上で必要な実験操作方法、実験装置の使用法とその原理、実験結果のまとめ方などを修得させること目標とする。また、研究計画の作成方法、実験結果の解釈と考察の仕方、プレゼンテーションの仕方についても指導する。実験を中心とし、1回2コマ15回で学科全教員で実施する。	
		卒業研究	専任教員の研究室に所属し、4年間の学習の総括として学部で得られた専門知識を活用し、一年間に亘りひとつの研究課題に取り組む。卒業研究を通して、専門知識を深めるとともに、文献の読解力、課題の解決能力、発表能力、討論する能力、論文作成能力などを養う。また、研究室ゼミでの実験報告に加えて、中間研究報告会、卒業研究報告会での発表を行ない、卒業論文として研究成果をまとめるように指導する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（先進工学部 知能メディア工学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 コミュニケーション 基礎科目	ステップアップ・イングリッシュ1	本授業では聞く、話す、読む、書くという基礎的な言語活動を通して高校における語彙や文法を十分に定着させ、4技能の基礎的な英語運用能力を養成する。主に基礎的な英文のインプットを繰り返すことにより英語の最低限のルールを習得する。4技能の言語活動をバランスよく計画的・系統的に取り入れることで、基礎的な語彙や文法事項をさまざまな言語活動のなかで繰り返し練習し、実際の場面で使える「能動語彙」や使える「文法力」の習得を目指す。	
	英語コミュニケーションA1	本授業では、高校までに学習してきた語意や文法を用いて、基礎的な英語運用能力の習得に必要な土台作りを目指す。スピーキングでは1対1の会話で相手の主張を理解して要約したり、平易な表現を用いて相手の質問に簡潔に答えたりといったペア・ワーク、またライティングでは英文和訳や自由英作文などで基礎的な文法事項を確認するなど演習形式の授業を通じてコミュニケーションの基礎力の養成を行う。また積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。	
	ステップアップ・イングリッシュ2	本授業ではコミュニケーションのコアとなる英文法の習得を目指す。多様な例文のインプットに加えて、話す、書くというアウトプットを多量に行うことで断片的になりがちな文法知識を有機的に関連させる。4技能の言語活動をバランスよく計画的・系統的に取り入れることで、基礎的な語彙や文法事項をさまざまな言語活動のなかで繰り返し練習し、知識としてだけでなく、実際の場面で使える「能動語彙」や使える「文法力」の習得を目指す。	
	英語コミュニケーションA2	本授業では、基礎的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。1対1のスピーキングでは基礎的な内容に加えてさまざまな話題についてのやりとりができるように演習形式の授業を行う。また相手の主張を要約する演習を通じて語彙力の強化も行う。ライティングでは英文和訳や自由英作文などで基礎的な文法事項を確認するなど演習形式の授業を通じてコミュニケーションの基礎力の養成を行う。	
	英語コンプリヘンションA1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、基礎的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読などを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配り、文章全体を把握する能力を養成する。	
	アドバンスト・コミュニケーションA1	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら標準的な英語コミュニケーション力の修得を目指す。2～3名のグループワークを中心にした授業運営を行い、会話やインタビューなど多様なスタイルを活用することで確固とした英語運用能力を定着させる。たとえば他人の意見をパラフレーズして説明することで語彙のネットワークを広げるなど。ライティングでは既習文法事項と新たな語彙を使いながら、より豊かな英語表現のための基礎力の養成を行う。	
	英語コンプリヘンションA2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、基礎的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配り、文章全体を把握する力を養成する。更には、その読んだ内容を平易な自分の言葉でまとめる演習を行う。	
	アドバンスト・コミュニケーションA2	本授業では、4技能（読解、聴解、会話、作文）を複合的に使いながら標準的な英語運用能力の習得を目指す。スピーキングでは2～3名のペア・ワークで一般的な内容に基づいてインタビューする演習を行う。ライティングではより豊かな英語表現のための基礎力の養成をめざして、具体的な状況や話題（大学生活や学習内容）についての作文を行う。また、学生同士でのピア・レビューを通じて、より正確で洗練された英語表現を目指す。	
	センテンス・ストラクチャ1	長い文を含む文章を読む場合、文の構造を理解する能力が不可欠である。本授業の目的は、文構造を把握するテクニックを身に付け、それを駆使しながら実際に文章を読むことにある。また文構造を把握するテクニックを習得するために、前置詞、動名詞、分詞などの文を長くする原因となる様々な文法事項の復習も行う。	
	英語コミュニケーションB1	本授業では、高校までに学習した内容に加えて新たに語彙力の強化を行いながら、標準的な英語運用能力の修得に必要な土台作りを目指す。スピーキングでは2～3名のグループ内で互いにインタビューをしたり、他人の意見をパラフレーズして説明したりするなどのグループ・ワーク、またライティングでは高校までの既習文法事項と新たな語彙を使いながら、より豊かな英語表現のための基礎力の養成を行う。また積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。	

教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	センテンス・ストラクチャ2	長い文を含む文章を読む場合、文の構造を理解する能力が不可欠である。本授業の目的は、文構造を把握するテクニックを身に付け、それを駆使しながら実際に文章を読むことにある。また文構造を把握するテクニックを習得するために、不定詞、同格、等位接続詞、従属節などの文を長くする原因となる様々な文法事項の復習も行う。	
			英語コミュニケーションB2	本授業では、標準的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。2-3名のスピーキングではより複雑な構文や難度の高い語彙を用いて互いにインタビューする演習を行う。ライティングではより豊かな英語表現のための基礎力の養成をめざして、具体的な状況や話題(大学生活や学習内容)についての作文を行う。また、学生同士でのピア・レビューを通じて、より正確で洗練された英語表現を目指す。	
			アドバンス・コンプリヘンションB1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、標準的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ、文章全体を把握し、最終的には、読んだ内容を自分の言葉でまとめられるようになることを目指す。	
			アドバンス・コミュニケーションB1	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら実践的な英語運用能力の習得を目指す。5-6名のグループワークを中心とした授業運営を行う。教員对学生だけではなく、学生同士のアクティビティを積極的に取り入れることで、自発的な英語運用能力を定着させる。スピーキングでは学生生活などの身近なテーマに基づいて30秒程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは50語程度の自由作文を使って学生同士の添削(peer-review)など、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			アドバンス・コンプリヘンションB2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、標準的な英文で書かれた読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ、文章全体を把握し、最終的には、読んだ内容を自分の言葉でまとめられるようになることを目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			アドバンス・コミュニケーションB2	本授業では、技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら実践的な英語運用能力の習得を目指す。スピーキングでは一般的な話題だけではなく、社会問題などについて自分の意見を表現するまとめたスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでも自分の意見を論理的に展開する100語程度の自由作文を作成するなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語コンプリヘンションC1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、社会問題や時事問題等を扱った読み物を用い、まず、音読などを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ文章全体を把握し、更には、その読んだ内容を自分の言葉でまとめる能力を養成する。	
			英語コミュニケーションC1	本授業では、実践的な英語運用能力の習得のための語彙の強化や構文の確認といったコミュニケーション能力の土台作りを目指す。それと同時に積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲の養成も目指す。スピーキングでは学生生活などの身近なテーマに基づいて30秒程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは50語程度の自由作文を使って学生同士でのピア・レビューなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			英語コンプリヘンションC2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解する能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、社会問題や時事問題等を扱った読み物を用い、まず、音読やディクテーションなどを通じて英語の正しい発音を確認するとともに、英語の自然な流れやスピードにも慣れ親しむ機会を設ける。次に、その読み物を精読し、その過程の中で、単に一つ一つの英文を正確に深く理解するだけでなく、文と文とのつながりや内容の展開などにも目を配りつつ文章全体を把握する能力を養成する。更には、その読んだ内容を自分の言葉でまとめ、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			英語コミュニケーションC2	本授業では、実践的な英語運用能力と積極的にコミュニケーションと取ろうとする意欲の習得に向けた演習中心の授業を行う。スピーキングでは社会問題や科学的な話題などの複雑なテーマに基づいて1分程度のスピーチを作成し、互いに発表し内容をまとめる演習を繰り返し行う。またライティングでは100語程度の自由作文を使って学生同士でのピア・レビューなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	

教養科目	教養基礎科目	コミュニケーションスキル	アドバンスト・コンプリヘンションC1	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解し、それらに対する自らの考えや意見をより深める能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、主に特定の社会問題などを扱った読み物や新聞・雑誌記事などを複数使い、様々が角度から一つの事柄を理解し、その内容を自らの言葉でまとめられるような力を養う。読む方法としても「精読」だけに留まらず、必要な情報や考えをスピーディに探したすのに有効な「速読」などにも挑戦する。また、音読やディクテーションに加え、内容に関する英語の質疑応答などを通じて、聴いている内容の展開やポイントを的確に押さえる能力の養成を目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築し、発表する演習を行う。	
			アドバンスト・コミュニケーションC1	本授業では、会話や作文だけでなく読解や聴解など4技能を複合的に使いながら高度な英語運用能力の習得を目指す。グループ内だけでなく教員やグループ間での双方向的な活動を取り入れた授業運営を行う。スピーキングでは複雑な話題に基づく一分程度のスピーチに対して質疑応答を行ったり、ライティングでは論理的に内容を展開するパラグラフ・ライティングなどを行ったりするなど、より正確で洗練された英語表現を目指した演習形式の授業を行う。	
			アドバンスト・コンプリヘンションC2	本授業ではリスニングとリーディングを中心に、英語で発信された情報や考えなどを的確に理解し、それらに対する自らの考えや意見をより深める能力を伸ばすことを主眼とする。題材としては、主に特定の社会問題などを扱った読み物や新聞・雑誌記事などを複数使い、様々が角度から一つの事柄を理解し、その内容を自らの言葉でまとめられるような力を養う。読む方法としても「精読」だけに留まらず、必要な情報や考えをスピーディに探したすのに有効な「速読」などにも挑戦する。また、音読やディクテーション等に加え、内容に関する英語の質疑応答などを通じて、聴いている内容の展開やポイントを的確に押さえる能力の養成を目指す。更には、その内容に対する自分の意見を構築・発表し、授業内で英語での意見交換をする演習を行う。	
			アドバンスト・コミュニケーションC2	本授業では、4技能(読解、聴解、会話、作文)を複合的に使いながら高度な英語運用能力の習得を目指す。一般的な話題だけではなく、社会問題など複雑な話題に基づいて自分の意見や考えを論理的に展開するスピーチやパラグラフ・ライティングを作成するだけでなく、相手の主張を要約したりそれに対して自分の意見を述べるなど、コミュニケーションを続ける技術の養成も目標とする。またあるトピックに基づいてリサーチを行い、それをまとめて発表するなどの演習も行う。	
			日本語表現法	日本語の特徴をふまえ、文章を読解し分析する能力、的確な表現による文章作成の能力を養うことを目的とする。文章には、情報伝達や記録報告などの客観的な文章と、自分の感情や思想を表出する主観的な文章とがあるが、読解や作文のためにはそれぞれの文章の特徴を理解する必要がある。また、言葉の意味、主述の関係などの文の構造、三段構成などの文章の構成といった基本的な知識や技術も習得させたい。様々な文章に触れながら、日本語の基礎力の養成を目指す。	
		情報リテラシー	情報処理	高度情報化が進む中で、社会生活や大学での研究を進めるために、情報処理・活用能力が不可欠となっている。このため、情報・知識の複眼的かつ論理的な分析・表現ができる能力を身につける。とくに、情報処理・通信技術(ICT)を用いた様々な方法の中から適切に選択し、モラルやセキュリティに配慮して有効に組合せることで、多様なデータを検索・収集・整理し、データの論理的な分析や効果的な加工を経て、客観的かつ適切に判断し、その結果を伝達するため資料の作成や公開をする、といった各段階で効果的に活用できる能力を培う。	
		人間力養成	スポーツ科学	本科目は、他者とのグループワークとディスカッションを通じてスポーツの技術面や戦術面などにおける課題を見出し、いかにその課題を解決するかを考え、実践する能力の育成を目的とする。スポーツ活動では、積極的な言語的、非言語的コミュニケーションを必要とする場面が多く、さらに身体動作における感覚や技術理論など議論の対象となるテーマが豊富に含まれている。したがって、単に与えられた実技課題をこなすのではなく、さまざまなレベルの受講者が個人のレベルに応じた課題を共に克服し、かつ安全に楽しく取り組むために、受講者自身が積極的に授業参画することにより主体性、課題解決力、チームワーク(協調性)の獲得を目指す。	
		人間力養成	初年次教育	初年次教育は、高校教育から大学教育への円滑な移行と大学での学びの方法の習得や専門を学んでいくための動機づけを担う科目である。 授業内容として、履修方法・図書館の利用方法・心と体の健康・高校と大学の学びの違い・レポートの書き方・愛校教育・安全と防災教育および専門科目への動機づけ等を行う。入学直後のガイダンスから学科オリエンテーションも利用し、早い段階で実施する。	
			キャリアデザイン1	大学あるいは大学院を卒業後、社会で活躍するためにはどのような能力を学生時代に身に付けておくべきか？ 大学での学習効果を向上させるための基本的な作法を習得した上で、自分の足りない部分を把握し、自分の目標を明確にするとともに、授業を通じて人とのコミュニケーション(話す能力・聴く能力・情報を収集して伝える能力)の楽しさを知ることにより、社会で必須となるコミュニケーション能力を高めつつ、目標を持って有意義な大学生活を送り、自らのキャリアデザインを描けるようになることを目的とする。	

教養科目	教養基礎科目	人間力養成	キャリアデザイン2	キャリアデザイン1で描いたキャリアデザインを意識しつつ、日本の社会構造および経済構造を学ぶとともに、企業が陥った過去の失敗例などを教訓にして、自分自身の将来と目標を再確認し、再度大学で何を成し遂げるかについて検討する。 また、企業が行っている経済活動や関連する法律について理解することで、目標を達成するために必要な基礎知識を得ることを目的とする。 さらに、本科目では、学生参加型で実施することにより、社会が求める要素の1つである主体性の獲得を目指す。	
			キャリアデザイン3	キャリアデザイン1・2で修得したキャリアデザインについて、振り返り、目標設定の進捗について、まずは検証を行う。検証した結果、目標の見直しが必要な学生については、要因等について、分析を行い、再設定をする。 また、進路について、学科毎に特性が偏る時期であることから、学科の分野を考慮した上で、卒業生に協力いただき、業界についての知識を深める(違いを知る)ことにより、学生が目指すキャリアデザインが達成するためのイメージを獲得することを目的とする。	
	教養共通科目	国際理解	異文化理解	本科目では、外国及び時空を異にする自国の文化、具体的には、その音楽、美術などの芸術、言語、思想、歴史、民族、社会、芸能、風俗、習慣等をいくつか取り上げ、先ず学生に紹介し、問題提起をし、意見を求め、自分の考えをまとめさせる。それから、それを自国の文化をも含めいろいろな文化と比較・検討し、必要ならば自分の考えを修正させる。そのことを通して、ものごとを多角的且つ客観的に見る、いわゆる複眼思考を養うと共に、結果として自国の文化を見つめ直し、より深く理解してもらう。	
			言語と文化1	本科目では、日常会話が自然と口から出てくることを目標に、日本語など他の言語との比較をも考慮しながら、英語以外の言語の基礎を発音から一つ一つ丁寧に学ぶ。また、その文化圏の人々の考え方を理解するために、積極的に人々の生活や文化、社会にも触れていく。以上のことを通して、多角的且つ客観的に日本及び日本文化を見つめ直し、理解を深めると同時に、日本が国際社会においてどのように見られ、評価されているのか、我が国の国際社会における立ち位置を確認したい。	
			言語と文化2	本科目は、「言語と文化1」の続編をなすもので、さらに「言語と文化1」で学んだ外国語及び文化・社会についての理解を深めて行くことを目的とする。語学一辺倒ではなく、その地域の文化・歴史・社会等をさまざまな角度からとりあげる。その際、文学や音楽等の文化的側面及び日本とその国との歴史的つながりばかりではなく、最近の日本をとりまく国際情勢や社会情勢などにも積極的に触れていきたい。以上の学習をとおして、ものごとをいろいろな角度・立場から眺め直す「複眼」を身に付けさせたい。	
			グローバル時代の法	そもそも法とは何であり、現代のグローバル社会において法の存在はいかなる意味を有しているのか。法というものの定義から始まり、法全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。まずは法の概念や法の分類といった一般的な問題について検討した上で、財産と家族について定める民事法と、犯罪と刑罰について定める刑事法について学習し、さらに、グローバル時代においてますます重要性を増す国際法についても学習する。	
			国際社会論	国際社会の中に生きる人間として必要な知識と思考力とを養うため、世界の政治経済、言語、文化、歴史、人の移動、環境や食糧問題、平和に関する問題などについて多角的に学んでいく。その際単に個別の知識を並列的に得るだけではなく、それぞれのテーマを関連づけて理解することで、国際社会の現状に対する包括的な認識を獲得することを目指す。そして将来においても、世界の中で日々生まれてくる諸問題に対し自ら学び、積極的に取り組む態度を身につけることが目標である。	
		人間・社会・自然の理解	哲学	哲学を学ぶことを通じて、人間とは何か、また人間は世界といかに関わっているかという事柄について考え理解するための観点や思考方法を身につけることを目的とする。これまで展開されてきた哲学史の中でなされてきた議論の要点を参考にしながら、人間と世界のあり方を考察するための様々な問題設定の方法や論理的な思考方法を学ぶ。その上で、知識、行為、価値、存在、自由、自我、他者といった事象をめぐる諸問題について理解し、それについて自ら考える力を養い、さらに新たな問題を発見する態度を身につけることを目標とする。	
			倫理学	「倫理学」では、現代文明が直面する倫理的問題のなかでもいわゆる「応用倫理」と呼ばれるものをとりあげる。まずそれらが現代の科学技術によってつくりだされていることを確認したうえで、問題を解決しつつ問題発生を防止するためには、われわれ人間はこうした科学技術をいかに管理してゆくか、また、そのときに技術者の役割と責任はどのように考えるべきか、15回の講義をとおして事例などを紹介しつつ、考える力を養成することを狙いとする。	

教養科目	人間・社会・自然の理解	教養共通科目	文学と芸術	文学作品や芸術作品の鑑賞や批評を通じて、人間への洞察を深め、ものの見方、感じ方、考え方を広げることを目的とする。また、それぞれの作品が生み出された時代や社会の背景を理解する。人間の感情および思想の表象原理、作品の主題、その歴史的社会的意義を明らかにしながら、人生の目的や価値について考え、よりよく生きることの意味を探り、豊かな感受性を育む。さらに作品受容に関して、批評とはどのようなことかを検討し、批評主体の確立についても考察を深めたい。	
			歴史と人間	過去から現在に至る人類の歩みについて、政治・経済・社会・宗教といった幅広い観点から理解するための基本的な視座を提供する。日本史や世界史の基礎的な知識をあたえるだけでなく、それぞれの地域の歴史がもつ独自性と世界史的な普遍性の両面に光をあてることで、過去の事象を世界規模の時系列的な因果関係のなか位置づける能力を養う。他日、国際社会に出た学生が、独善に陥ることなく自国の置かれた立場を理解し、客観的に自らの立脚点を説明することに耐えられる資質を育てる。	
			心理学	本講義では、心のメカニズムについて科学的手法により解明された知見とその応用を解説する。具体的には、人の認知・思考、感情、行動のそれぞれの特徴、関連の仕方、発達の変容に関する理論を取り扱う。さらに、そういった心理学の知見や理論が社会の様々な場面で活用されていることを紹介し、グループワーク等も実施する。本講義のねらいは、学生が自分自身や他者に対する理解をより一層深めること、心理学の知識を生活に応用し役立てることができるようになることである。	
			身体と健康の科学	本科目は、単にヒトの「身体」や「健康」についての知識を獲得するのではなく、専門分野の枠を超えて人文科学、社会科学、自然科学などの様々な学問分野との関連を踏まえながら共通に求められる知識や思考法の獲得を目指す。特に、超少子高齢社会に突入した我が国では、人々が健康で豊かに過ごす時間を延伸することは非常に重要な課題となっている。それと同時に、ヒトの「身体」や「健康」とは何かについて考え直す時期にも来ている。社会構造の急激な変化や科学技術の進展に伴う人間の価値観の多様性を踏まえながら、「身体」や「健康」について考察する。	
			憲法と社会	そもそも憲法とは何であり、人間社会にとって憲法の実在はいかなる意味を有しているのか。憲法というものの定義から始まり、憲法全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。古今東西の様々な憲法に共通する憲法の基本原理を学んだ上で、とくに日本国憲法についての理解を深める。日本国憲法は統治機構と権利章典という大きく二つの部分から構成されているが、この両者についてできるだけ正確な知識を身に付けることをめざす。	
			政治と社会	そもそも政治とは何であり、人間社会にとって政治というものの存在はいかなる意味を有しているのか。政治というものの定義から始まり、政治全体にわたる基本的な知識を習得することがこの授業の目的である。まずは政治の中心となる権力の概念や様々な政治思想について学んだ上で、とくに国家的な政治現象に焦点を合わせ、具体的な事例を取り上げつつ、地方自治を含む国内政治と、近年ますます重要性を増す国際政治をめぐる諸問題について考察する。	
			経済学	当科目では、ミクロ経済学およびマクロ経済学の基本的な考え方や分析手法を習得するとともに、現代経済の各場面にそれらを応用し、経済学的に思考することや、それを通して社会を考察することの意義に気づくことができるようにする。価格機構／市場原理の理論やその社会的意味などを多面的に考察したのち、経済主体、金融、財政、社会保障などの分野に言及する。授業では、教員による講義のほか、演習問題などを通じて簡単な理論や数式を用いた分析を受講生自身に取り組ませる。	
			現代社会論	現代の日本社会、及び国際社会における諸問題について具体的に考察をしながら、現代社会のありかたについて認識を深めていくことを目的とする。とりわけ、労働問題、教育・青少年問題、国際的な公害・環境問題、戦争と平和をめぐる問題、家族や子育ての問題、福祉や社会保障の問題、情報環境の変化をめぐる問題等を取りあげながら、考察を深めていく。そして、授業を通じて、現代社会に生きる市民として、幅広い視野とグローバルな視点をもって自ら主体的に考え、行動することができる教養・態度・能力を身に付けることを目標とする。	
			科学技術史	本科目では、科学と技術の展開をそれらの相互関係を含めて歴史的に検討することを目的とする。科学の歴史としては、ニュートン力学を中心とした近代科学の成立過程を含めて、当時の自然哲学者・科学者たちが対峙した困難を当時の文脈から検討し、それらの科学的意義を理解していく。技術の歴史としては、イギリス産業革命における綿工業の展開や蒸気機関の発展などを理解するとともに、19世紀以降の科学と技術の接近とそれらの共進化的展開および社会との関係なども分析する。	
			環境科学概論	本講義は、科学技術の進歩に伴う地球規模での環境変化を事例に挙げ、広範で複雑な環境問題の現状を、物質を中心とした視点から把握すると同時に、科学的解決法の糸口を探ることを目的とする。特に温暖化、オゾンホール、酸性雨、生物多様性の喪失、食糧、砂漠化、原子力、廃棄物等の事例について詳細に解説し、これらの問題を解決するために開発された新技術や新素材による将来像を展望して、材料科学の観点からも環境科学を学ぶ。また、未来へと繋ぐ環境の姿を考察し、現代に生きる人間としての規範をも考える。	

教養科目	人間・社会・自然の理解	教養共通科目	生命科学	本講義では、生命の神秘、多様性、遺伝子支配の重要性についての理解を深め、人類が直面する資源、環境、エネルギー問題へと関心を高めさせることを目的とし、まず生物の生命の基本となる、細胞の理解に始まり、その構造と機能、細胞を構成する物質の理解、細胞の増殖・分化・老化・代謝（解糖系・呼吸・光合成・窒素同化）、細胞間相互作用等について学ぶ。さらに、多細胞生物に特有な発生・形態形成のメカニズムに触れ、遺伝子の本体、伴性遺伝、欠失、突然変異などの遺伝現象を理解する。	
			地球科学	人間の生活環境としての「地球」の創生と構造、進化をテーマとする地球科学の講義を行う。地球全体の歴史と関連させながら、地球や地球で生じている諸現象についての基礎知識を与える。また、人間活動と資源・エネルギー、地球環境の関係の調和を保ちながら、社会の持続的発展を考える契機を与えることを目標とする。講義で取りあげる主な項目は、地球の形状、地球の活動と歴史、プレートの運動、地層の形成と地質構造、地球の熱収支、大気と海水の運動、地球環境の変遷などである。	
			物理の世界と先端技術	現代の自然像の形成に大きな役割を果たしてきた種々の物理的視点について講義し、それらの視点に基づいて、物理の世界をより深く理解することを目指す。また、このような物理的視点が先端科学・技術にどの様に結びつき、人々の生活への影響を通して社会と如何に関わっているかについて、自発的に考える力を身につける。講義で取りあげる主な項目として、力と運動の関係を基礎とする力学的自然観、熱現象とエネルギー・エントロピー概念、電磁気現象と「場」の考え方、現代の物理的世界観（時間・空間と相対性、物質・光に対する粒子・波の二重性と量子論など）が挙げられる。	
			物質科学	本科目は、現代人の常識として必要な化学の基礎知識を修得し、化学の根底にある考え方を理解して、物質を科学的に見ることが出来る正しい見識を涵養することを目的とする。物質の分類と基本構造、化学結合と物質の性質、化学量論と化学反応の基礎等を教授し、様々な物質が満ちあふれている現代社会において物質を科学的にとらえて論理的に思考できる基礎を与える。また、身近な物質、材料開発の最前線などの話題を取り上げて、化学のおもしろさ、現代化学の自然観・物質観が理解できるように配慮する。	
	総合	教養特別科目	課題探究セミナー	本科目では、少人数制による主体的な学び、受講者同士の積極的な討論、グループワークなど、受講者自らの思考を促す能動的な学習方法であるアクティブラーニング形式により授業を展開する。具体的には、国際問題、日本文化、歴史、社会、人間、芸術、環境、健康、生活などのテーマや課題を選定し、それについて様々な学問分野の知識を活用しながら、総合的な判断力や解決力を育成する。また、個人やグループの考えをまとめ、文章や図表等を用いて論理的にかつ適切にプレゼンテーションする基本的な能力の獲得を目指す。	
			総合学際科目	本科目では、教員からの一方向的な教授形態ではなく、幅広い応用的な知識・理解を深める講義と受講者同士の討論や発表などの演習を融合した受講者参画型の能動的な授業を展開する。このような授業形態を通じて、各学問分野の知識・理解を受講者自らが融合・発展させながら、国際問題、日本文化、歴史、社会、人間、芸術、環境、健康、生活などのテーマや課題について新たな視点や角度から捉え直すことにより総合的な判断力や理解力を身につける。また、個人やグループの考えを論理的にかつ適切に伝達する能力を修得する。	
	教養特別科目	教養特別科目	イングリッシュアクティブラーニング1	本授業では英語を単なる知識としてではなく積極的に運用する能力の養成を目指す。特にライティング能力を向上させることを目指した授業運営を行う。ある話題に基づいてリサーチを行い、A4で3枚程度（1500-2000語）のエッセイを完成させる。正確な英語表現だけでなく、パラグラフ内またはエッセイ全体で概念や意見を論理的に展開させる方法の習得を目指した作文練習や、教師または学生同士による添削を通じて、洗練された文章への感覚を養うことも目標とする。	
			イングリッシュアクティブラーニング2	本授業では英語を単なる知識としてではなく積極的に運用する能力の養成を目指す。特にプレゼンテーション・スタイルの授業運営を行う。ある話題に基づいてリサーチを行い、グループ内でのディスカッションを通じて内容を決め、最終的にグループごとに英語で5分程度のプレゼンテーションを行う。正確な英語表現のための演習に加えて、効果的なプレゼンテーションを行うための表現法（アイ・コンタクトやボディ・ランゲージ）の練習も行う。こうしたグループ内での共同作業を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする能力の養成も目指す。	
			イングリッシュアクティブラーニング3	本授業ではブリティッシュ・ヒルズ（福島県白河）を利用した冬季集中講義に参加し、英語を単なる知識としてではなく、積極的に運用する能力の養成を目指す。	集中
			スポーツアクティブラーニング	本科目は、スポーツ実践ならびにスポーツの様々な局面を題材としたグループワークとディスカッションを中心に授業を展開し、課題解決力、状況把握力、ストレスマネジメント力、リーダーシップ、チームワーク（協調性）を発展的に育成することを目的とする。特に、授業内では短期間の宿泊学習プログラムや他大学との連携プログラムなどを実施することにより、より高いレベルでのスポーツ活動を実践することで授業の目的を達成すると同時に、スポーツならびにその価値を幅広い視点から客観的にとらえ、多角的に物事を考え、実行する力の獲得を目指す。	集中

教養科目	教養特別科目	ソーシャルアクティブラーニング	個々の学科の専門的な学問体系を基礎とし地域、社会活動を体験することによって、学んできた知識を実際の体験から学問的な再確認をし、社会で活用できる知識とする。さらに、新たな視野を得るとともに、自らの社会的役割の認識をし、必要な資質や能力の向上を図る。自治体や地域社会との連携を重視し、より実践的な体験や問題に取り組むことにより調査、体験を主体とした活動の中から、自己の能力向上を図る。	
		国際インターン	本科目では、学生が夏休み等を利用し海外の企業等で2週間程度の期間就業体験を行い、世界で活躍する高度専門技術者として求められる専門知識やコミュニケーション能力を養うことを目的とする。具体的には、本学の海外交流協定校の協力を得ながら、海外に進出した日本企業や現地の大学、優良企業等でインターンシップを行う。本科目は受講資格として語学力による一定の制限を設ける。また、渡航前の指導として海外での生活や現地文化に関する講習を行い、学生からの海外就業体験報告書、面談等により科目成績評価を行う。本科目の運営及び成績評価は国際交流委員会が行う。	
		国内インターン	社会との差を実感することにより、技術者としての目標を明確にすることを目的とする。体験先は、本学の取り組みや学生気質を理解している産官学連携協議会の加盟企業や求人者をいただいている企業で行うことにより、目的の達成を目指す。 なお、事前指導については、目的を持って臨むためのワークやマナーについても行う。また、事後指導では、今後の目標を明確にするだけでなく、発表等を行うことで、学生間での情報共有を行い、社会で必要となる資質を理解すると共に、異なる業種・職種について理解をすることで、社会への理解も深める。	
		ボランティア	本科目は、社会の一員としての意識を持ち、社会の発展のために積極的に関与できる態度を養うことによる人間力を高めることを目的とする。 具体的には、事前指導により社会貢献の意義と役割について理解させ、ボランティア活動の現状と課題について認識したうえで、実際のボランティア活動を通して、体験的に学習し、ボランティア活動に対する理解を深めるとともに、社会貢献とボランティア活動との関連について学習することにより、地域貢献への参画意識を高める。	
		総合科学特論	本科目では、教養共通科目で扱った内容を発展させ、現代科学の幅広い分野の理解を深める講義と受講者間の討論や発表などの受講者参画型の授業を展開する。このような授業形態を通じて、各学問分野の知識を受講者自らが融合・発展させながら、現代社会が抱える諸問題について新たな視点から捉え直すことにより総合的な判断力や理解力を身につける。	

授 業 科 目 の 概 要				
(先進工学部 知能メディア工学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	専門 基礎 科目	数学基礎	本講義は、各専門課程で必要とされる初等関数と微分積分の基本的な知識・計算力の習得を目標とする。各種の初等関数について、値の計算や、三角関数の加法定理、指数・対数法則等の基本的性質を論じる。また、微分係数、導関数の定義を説明して、初等関数の微分公式を詳述し、和・差、定数倍、積、商、合成関数の微分の計算に習熟させる。さらに、不定積分について、初等関数の積分公式、置換積分法、部分積分法を詳述し、また、定積分の基本的な計算にも触れる。	
		線形代数	本講義では、線形代数に関するエンジニアとしての最低限の素養を身に付けさせることを目指す。具体的には、行列の演算(和・差、実数倍、積)の定義と性質を詳述する。連立1次方程式の解法として掃き出し法を取り上げて、行基本変形の計算に習熟させ、連立1次方程式の解の構造を様々な例を通じて理解させる。逆行列の定義と、掃き出し法を利用した逆行列の求め方を学ぶ。行列式について、種々の基本的性質を利用した計算に慣れさせ、余因子展開を詳述し、また、連立1次方程式と行列式の関連についても触れる。	
		確率統計	本講義は、様々な不確实现象を取り扱い、データから情報を引き出すための基本的考え方の習得を目標とする。集合の考え方を土台とする確率論を展開し、基本的概念(和事象、積事象、余事象、条件付き確率など)を理解させ、諸法則(加法定理、乗法定理など)を用いた計算に習熟させる。また、確率分布の概念を導入して、2項分布や正規分布などの典型的な確率分布とその応用例を説明し、複数の確率変数の独立性について論じる。さらに、確率論を基に、統計的な応用についても紹介する。	
		物理学基礎	物理学の基本分野である力学の講義と演習を行う。基本法則および物理的概念の習得を通じて科学的思考力を養い、更に工学に関する知識・技能に結びつけて考える能力を身につける。また、問題演習を通じて、講義で習得した基本事項を具体的に理解させるとともに、計算・数式処理能力を養う。 主な内容として、速度・加速度の微分による定義や座標系による運動の表し方、運動の基本法則、力のつり合い、一定の力の下での物体の運動の記述、単振動、等速円運動、仕事とエネルギー、運動量と力積の概念に基づく運動の記述などを取りあげる。	
		物理学実験	力学、熱力学、振動・波動と光学、電磁気の分野にわたる物理基礎実験を行う。実験装置の取り扱い、測定値の整理、実験結果の解析を通じてレポートにまとめるまでの一連の作業能力を養う。受講者を少人数のグループに分け、グループ毎に個別のテーマの実験を行う。主な実験題目として、ノギス、マイクローメータの使い方、ボルダの振り子による重力加速度の測定、種々の弾性定数の測定(力学)、固体の比熱、気柱の共鳴(波動、熱学)、レーザーによる光の干渉(光学)、電子の比電荷、放射線の測定(電磁気)などの基本的内容を取りあげる。	
		知能メディア基礎数学	本講義では、複素数、フーリエ級数、フーリエ変換に関する基礎的概念の習得および基本的な計算に習熟することをめざす。まず、複素数に関する基本事項として、四則演算、複素平面、極座標、オイラーの公式を学ぶ。フーリエ級数、フーリエ変換は、関数を可能な振動数による重ね合わせに分解する道具であり、振動や信号の解析などの工学的問題に応用される。ここでは、周期系に対するフーリエ級数展開から始め、複素数表示へと進み、さらにフーリエ変換の基本的性質と計算について学ぶ。	
		離散数学	本講義では、集合論、写像、命題論理、述語論理等の概念、記号、重要な定理等の基礎を学ぶことにより、論理的・工学的思考力の基盤となる数理的能力を得ることを目的とする。講義を通して抽象度の高い数学概念を学ぶとともに、数学記号を用いた議論に習熟することにより、対象物の具体的なイメージに頼らない強靱な数理的思考力を養う。これにより、後続の科目に関する専門書を読み進めるための数学的基礎を身に付けることができる。	
		統計解析	データの統計的分析方法の基礎知識の習得を目的とする。加えて、これらの知識を用いて実験や測定で得られたサンプルを適切に分析・評価する能力、特に、限られたサンプルによる母集団の一般的特性の推定や、サンプル群の差に対する科学的判断が行える能力を養う。主な内容としては、基本統計量、母集団とデータ、中心極限定理、相関分析(相関係数、決定係数)、回帰分析(単回帰分析、重回帰分析)、分散分析(一元配置法、二元配置法)、有意差検定(t検定、カイ2乗検定)などを取りあげる。	

専 門 科 目	専 門 基 幹 科 目	プログラミング言語基礎	本講義では、コンピュータを制御し様々な問題をソフトウェアによって解決するための基本的な考え方と能力を養うために、プログラミング言語の基礎を学習する。具体的には、プログラミングに必要な基礎知識として、プログラミング環境の構築方法および実行方法、プログラミング言語の書法、データ型、データ入出力、条件分岐処理、繰り返し処理、配列、数値計算時における誤差などに関する基礎的な項目を学習する。授業は講義と演習を交えて行い、数回の課題を課す。	講義20時間 演習10時間
		視覚造形基礎	2年次以降の専門科目の基盤となる授業と位置づけ、モノ作りのための基礎的な知識と技術の習得を目的とする。 スケッチや色彩表現などの視覚化のための基礎と、立体物の造形などのモノ作りのための基礎を体験を通して学び、手を動かしながら考える習慣を身につけることを目指す。 授業内では、モノの形をとらえること、形を平面で表現すること、形を立体で表現することを体系的に学べるようにし、色彩についても取り上げる。複数週をかけてひとつの課題制作に取り組み、課題毎にグループワークと個人での作業を組み合わせ実施していく。	共同
		コンピュータ工学	本講義では、今日では社会生活と個人生活の様々な局面において利用され必須なものとなっているコンピュータに関する基礎を理解することを目的とする。具体的には、コンピュータの機能と構造を、その中心的枠割を果たすCPUの内部構造、アーキテクチャ、マシン語プログラムの実行、周辺装置、システムソフトウェアなどの側面から理解し、コンピュータを利用するために必要な基礎知識に関して理解する。また、技術的な内容だけでなく、利用法等についても説明することで、理解を深める。	
		デジタルデザイン基礎演習	デザイナーが利用するソフトウェア(Illustrator, Photoshop, InDesign)を用いて、ソフトウェアによるデザイン表現の基礎を習得する。具体的には、画像のデジタル加工処理、文書デザインのレイアウトに主眼を置き、印刷媒体やwebをデザインする際の基礎技術を習得する。ソフトウェアの活用方法としては、単独ソフトウェアの使用方法に留まらず、各ソフトウェアの利点を生かした連携の方法についても学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (9 中本和宏／8回) デジタルデザインの基礎について講義、Photoshopを利用した画像加工、表現について演習、IllustratorとPhotoshopを連携した手法、表現について演習 (10 田邊里奈／7回) DTP、デジタル版組についての基礎講義、Illustrator、Indesignを利用したデザインについて演習	オムニバス方式
		ネットワーク基礎	本講義では、現在の社会においてインフラとして必要不可欠なものとなったインターネットの基礎となる技術について、その意味と目的、特徴、仕組みを理解することを目的とする。具体的には、インターネットの概要、インターネット上で展開されている各種サービスである電子メールやWWWなどのサービスの仕組み、ホームページの仕組みと簡単なスクリプト言語の基礎、情報セキュリティやモラルを理解する。授業は講義と演習を交えて行い、数回の課題を課す。	講義20時間 演習10時間
		ヒューマンインタフェース論	人間と人工物の接点となるヒューマンインタフェースの概念、仕組みや技術、またそれらをデザインする手法を習得する。具体的には人間の情報処理モデル、入力系、出力系のインタフェース、インタラクション、評価等について学習する。まず概念やアプローチについて、事例を取り上げ説明し概要を理解させる。その後受講者自身も身近な商品や例を探索、分析する。最後に未来のインタフェースについて概要を学び、受講者自身がヒューマンインタフェースの基礎概念に基づき提案を行い、当該分野に関する理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) (9 中本和宏／8回) ヒューマンインタフェースの役割、概念やアプローチについて、事例を取り上げ説明する。続いて未来のヒューマンインタフェースの動向とアプローチについて講義を行う。 (10 田邊里奈／7回) 身近な商品で実例を通し、ヒューマンインタフェースをデザインするための考え方と手法について講義を行う。	オムニバス方式

専門科目	専門基幹科目	プログラミング言語応用	本講義では、プログラミング言語基礎において学習した基礎知識及び、コンピュータ工学において学習したコンピュータに関する基礎知識に引き続いて、より高度なプログラミング技術について理解を深めることを目的とする。具体的には、C言語を用いてポインタ、構造体、共用体、再帰処理、分割プログラミングなどの項目を学習し、他の高水準プログラミング言語などを用いて高度なアルゴリズムの学習をする。授業は講義と演習を交えて行い、数回の課題を課す。	講義20時間 演習10時間
	専門基幹科目	デジタルファブリケーション	立体物を完成させるための制作工程について、特にその成形方法や技術を中心に学習する。形状、目的に適した手段を適切に選択し、デザインプロトタイプとして成形できることを目標とする。実習では、手法を体験しながら習得する。最初にプロトタイプの考え方、立体の構成方法、生成の概念について講義を行う。これらの知識を基に、3DCG、3Dスキャナと用いて3Dプリンティングデータを作成しデジタルファブリケーションのプロセスを学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (9 中本和宏／8回) 3DCG基礎、スキャナによる3Dプリンティングデータの作成、修正方法、3Dプリンタで加工 (2 山崎和彦／7回) プロトタイプの考え方、立体の構成、生成の概念について講義	オムニバス方式 講義14時間 演習16時間
		メディアデザイン論	webシステム、アプリケーションを始めとした各種メディアについて、技術やデザイン手法、デザインプロセスについて学習する。また、デジタルメディア、情報環境についての表現や動向についても取り上げ、検討を行う。具体的には、webやアプリケーションの基本的な概念に始まり、web、アプリケーションのシステムについて実例をもとに解説する。その後インタフェースや利用者の側面からの説明を中心に講義を行う。最終的にコンテンツデザインの実例やデザイン手法、評価について解説し、実際にデザインをする視点を養う。 (オムニバス方式／全15回) (9 中本和宏／8回) web、アプリケーションの基礎、web、アプリケーションのシステムについて実例を解説、インタフェースや利用者の側面からの説明を中心に講義 (6 安藤昌也／7回) コンテンツデザインの実例や手法について、実際にデザインを行う際の視点について	オムニバス方式
		メディア史	デザインの歴史とメディアの歴史を取り上げ、オムニバス形式で学ぶ。デザインの歴史では、産業革命以降の歴史を取り上げ、アール・ヌーヴォーやモダンデザイン、バウハウスなど、近代のデザイン観の基盤となっている事象を取り上げ解説する。メディアの歴史では、印刷や写真、映像、音など、それぞれのメディアを取り上げ、メディアの発達や技術の変化に伴う変遷を見ていく。また、コンピュータや電子メディアと深く関わるメディアアートにも着目して解説する。 (オムニバス方式／全15回) (10 田邊里奈／8回) 近代のデザイン観の基盤になる産業革命以降のデザインの歴史を解説する。 (6 安藤昌也／7回) 印刷、写真、映像、音の4つのメディアの発達や技術の変化を解説する、メディアアートの事例を用いて解説する。	オムニバス方式
		人間中心設計	本講義では、人間中心設計の考え方を学ぶとともに、実践的な手法の修得を目標とする。まず、ISO9241-210で示された人間中心設計の概念を学習した後、ユーザーの実際の利用状況を理解し、デザイン・設計の要件に結び付けるための「ユーザー調査・分析」の手法として、Contextual Inquiry及び定性情報分析法について学ぶ。次に、製品がユーザーにとって使いやすいためであるかを評価するための「ユーザー評価」の手法としてヒューリスティック評価及びユーザビリティテストについて学ぶ。	
		技術者倫理	本講義では、国際的基準を満足する技術者に必須の知識となっている技術者倫理に関して、企業の社会的責任、製造物責任、内部告発、専門家の責任などの様々なトピックを事例を通して学び、各自の考察をレポートにまとめることによって、その重要性をより深く認識することを目的とする。これにより、技術者としての倫理観と良識を有し、人と環境を含む地球全体の将来を見据えた行動を選択できる素養を磨くとともに、一生涯を通じ切磋琢磨することで絶えず高い技術を求め続けることで、社会に貢献できる技術者を養成する下地を作る。	

専門科目	専門基幹科目	メディア基礎	本講義では、音響、音声、画像、グラフィックス、文字などの情報を処理する際に必要となる基本的な知識と能力の習得を目的とする。まず、音や画像などのアナログ信号をデジタル信号に変換するための基礎知識を習得する。さらに、デジタル化した信号を目的に応じて適切に処理する能力を養う。アナログ信号の標本化・量子化(サンプリング定理、量子化誤差)、離散フーリエ変換、高速フーリエ変換、インパルス応答、伝達関数、畳込み積分、Z変換、窓関数、IIRフィルタ、FIRフィルタなどを取りあげる。	
		情報理論	本講義では、情報量を定量化するという基本的なアイデアを軸として整備された理論体系である情報理論について、その理論と応用の基礎を理解することを目的とする。具体的な内容としてはまず、エントロピー、相互エントロピー、相互情報量等の定義を学び、続いて情報源符号化や通信路符号化定理について学習する。これらの学習を通して、情報理論が機械学習、メディア処理・圧縮など幅広い分野においてその基礎を支える重要な概念であることを理解する。	
		コミュニケーションデザイン演習	コミュニケーションにとって重要な要素となる「伝える」ことに着目し、人に伝えるデザイン、伝わるデザインを課題を通して体験的に学ぶことを目的とする。 授業内では文字やレイアウトなど、グラフィック表現にとって重要な項目を取り上げるほか、インフォグラフィックスや図解表現など、ビジュアルデザインや情報デザインの基礎的な手法、技術を取り上げる。 演習課題は個人制作とし、レタリングなどの手描きの課題やポスター制作などのデジタルで制作するもの課題を織り交ぜて実施していく。	共同
		知能メディア体験演習	知能メディア工学科を支える3つの領域の概要を理解すると共に、それぞれの領域に関するテーマについて、課題制作を行う。これにより、体験的に学科での学びの全体像を理解することを目的とする。なお、課題制作は、科学的な研究プロセス及びものづくりのプロセスを踏まえたものであり、問題解決のプロセスについても理解する。本演習は、グループにより実施し、協働によるコミュニケーション能力の向上も狙いとする。 (オムニバス方式／全15回) (7 今野将・9 中本和宏／1回) (共同) 演習方法等の説明 (1 飯田一博・3 竹本浩典・4 荻木禎史・8 宮田高道・／4回) (共同) メディア体験演習 (5 森信一郎・7 今野将／4回) (共同) データ処理演習 (2 山崎和彦・6 安藤昌也・10 田邊里奈・9 中本和宏／4回) (共同) 情報デザイン体験演習 (7 今野将・9 中本和宏／1回) (共同) 発表会準備 (全教員／1回) (共同) 発表会	オムニバス方式・ 共同(一部)
		知能メディアプロジェクト1	講義・演習で学んだ基礎的な技術を応用し、基礎的なフィジカルコンピューティング技術を活用したメディア制作を行う。本PBL(Project Based Learning)では、完成度の高い可動プロトタイプを制作する。制作と評価を繰り返し、完成度を高めていくエンジニアリングの基礎的な経験を通して、講義・演習で得た知識の定着と不足知識への気づきを与えることが目的である。また、ものづくりの共同作業を通して、グループによる協働の作法やルールなど、技術コミュニケーションの重要性を理解する。	共同
		知能メディアプロジェクト2	知能メディアプロジェクト1での提案物に対して、ユーザー(使う人)を考慮し、より魅力的なものとなるような改善・改良を行い、デモ機として可動できる程度の高い完成度を目指す。技術的な制限は加えず、新しい技術へのチャレンジを促進する。また、提案物を第三者に対して、正確にかつ魅力敵にプレゼンテーションする技術を養う。プロジェクトは個人ワークとし、総合的な能力の向上を目指すと共に、将来的な進路を考える手掛かりとなることを狙いとする。	共同
専門科目	専門展開科目	メディア工学実験	本実験では、メディア工学に関する実験を通して同分野のエンジニアとして必要な技術を身に付けることを目的とする。実験テーマは、先行する専門基礎・基幹科目で学習した数学・物理の知識に基づいた音声・画像等の五感メディアの取得、生成、処理技術からなっている。これらの課題に対してグループワークで取り組んだのち、グループ毎に学習した内容のプレゼンテーションを行う。これにより、技術者として必須の技能である工学的思考法、チームワーク力、プレゼンテーション能力を修得できる。	共同

専門科目	専門展開科目	音響工学基礎	音の物理的側面および聴覚的側面の概念を習得し、これらを系統だった工学的知識として理解することを目的とする。音の物理的側面としては、弾性波としての音の記述方法(音圧レベル、音響インピーダンス)、音の伝搬(球面波、平面波、波動方程式)、共鳴現象(ヘルムホルツの共鳴器)などを取りあげる。音の聴覚的側面としては、ヒトの聴覚器官(外耳、中耳、内耳)、聴覚の知覚特性(ラウドネス、マスキング、ピッチ、音色、方向、距離、広がり)などを取りあげる。	
		画像処理基礎	本講義では、先行科目のメディア基礎で学習した内容を発展させ、五感メディアの一角を担う画像情報の取得、処理、蓄積に関する基礎的技術を学習することを目的とする。具体的な内容としては、デジタル画像の取得、画像の空間フィルタリングによる平滑化、先鋭化、それらの処理の周波数領域における位置づけ、画像符号化の基礎などが含まれる。これらの基礎的事項の学習を通して、後続科目である画像処理応用等を理解するための基礎を培う。	
		音声工学	本講義では、ヒトがコミュニケーションを行ううえで非常に重要なメディアである音声について、その発生および知覚の基礎的知識を習得し、これらを系統だった工学的知識として理解することを目的とする。まず基礎的事項として、音声の物理的性質、音声分析法などを取りあげる。次に、音声の発生に関して、音声生成モデル、音声合成(録音編集方式、規則合成方式)などを取りあげる。さらに、音声の知覚に関して、音声認識(孤立単語音声認識、連続音声認識)、話者認識などを取りあげる。	
		音響工学応用	音響に関する工学的知識を統合して、音響システムの構築・開発を行うための能力の習得を目的とする。室内音響(音の反射・吸収・透過、残響)、室内音場の予測手法(コンピュータシミュレーション、可聴化)、騒音(騒音計、測定方法、環境基準)、遮音、電気音響システム(マイクロホン、スピーカ、エフェクタ)、ホールやスタジアムの音響システム、3次元音響システム(頭部伝達関数、バイノーラル再生)、音のデジタル信号処理などを取りあげる。	
		画像処理応用	本講義では、先行科目である画像処理基礎の知識に加え、これまでに学習した線形代数、微分積分、確率・統計等の知識を総動員し、画像処理・生成における種々の課題を数理的にとらえて解決する手法を学ぶ。具体的には、数値最適化、統計的最適化の基礎を学んだのち、これらの問題を実際の画像処理の課題に応用した近年の研究成果について学ぶことで、理論と応用とを結びつける柔軟な思考力を養う。これにより、同時期開講のデータマイニングや後続科目のバーチャルリアリティを正しく理解するための基盤が養成できる。	
		バーチャルリアリティ	本講義では、現実世界が人間に与えるものと同等のリアリティ(現実感)を、計算機によってシミュレートした五感情報を通して作り出すバーチャルリアリティの技術について学習する。人間の感覚系の仕組みを生理的・心理的側面から理解するとともに、実際に現実感を生成するためのハードウェア、ソフトウェアの仕組みについて学ぶことで、バーチャルリアリティの理論と実装の基礎を学ぶ。また、遠隔会議、エンターテインメント、医療分野などにおけるバーチャルリアリティの応用例についても学習する。	
		人工知能基礎	本講義では、人間の知能をコンピュータシステム上に実現するための技術である人工知能の基礎技術に関して理解することを目的とする。具体的には、人工知能の概論としてその歴史などを理解し、人工知能の基礎技術である幅優先探索、深さ優先探索、発見的探索、AND/OR探索、意味ネットワーク、プロダクションシステム、フレーム理論、ベイジアンネット、述語論理、同定木の学習、パーセプトロン、SVM、遺伝アルゴリズム、強化学習、推論などの技術について学習をする。	
		知識工学	本講義では、データサイエンス基礎に引き続いて、人工知能の重要な研究分野の一つである知識工学について応用例を用いて理解を深める事を目的とする。具体的には、人工知能の応用例としてエキスパートシステムを用い、エキスパートシステムの概念、エキスパートシステムの動作、知識ベースの作成方法、知識の表現方法、蓄積すべき知識の取得方法、学習による知識の更新方法及びマルチエージェントシステムの構成方法について学習をする。	
		機械学習	本講義は、データ化された事例にもとづいてソフトウェアに知的な動作を行わせるための技術である機械学習について、その理論と応用の両面に関する基礎を学ぶことを目的とする。具体的には、ベイズ確率を含む確率統計に関する復習を行ったのちに、回帰、クラス分類などの教師あり学習や、密度推定、クラスタリングなどの教師なし学習の理論を学ぶ。さらに、学習した手法を実際のデータに適用することで、個別の問題に応じた各手法の扱い方を身につける。	

専門科目	専門展開科目	コンピュータネットワーク	本講義では、電子メールやWWW等現代社会に欠かせない基盤となっているコンピュータネットワークに関し、その全体像、要素技術、利用法、課題、今後の展望等について学習する。技術的にはインターネットのプロトコルやサービスを主体にするが、その基礎となる概念や技術の説明も行う。また、技術内容だけでなく、その背景、利用法等についても説明することで、理解を深める。本講義が扱う技術は、コンピュータネットワークの構築、維持管理、またインターネットサービスシステム構築に必要となるものである。	
		ネットワーク・データ工学実験	本実験では、ネットワーク・データ工学に関する実験を行い、ネットワーク・データ工学分野に関する技術者となるため技術を習得し、工学的な考え方、データの処理、結果に対する考察、設計開発の能力の育成を目的とする。具体的な実験テーマは、ネットワークパケットの解析、データマイニング、マルチエージェントシステムの構築、ロボット制御(ロボコン)をグループ単位で行い、グループ内で討議し発表会を通じて報告することで、協調作業、自己表現、作業指導の訓練をつむこともでき、技術者の基礎的素養を身に付けることができる。	共同
		データマイニング	本講義では、大量のデータから有用な情報を取り出すための手段であるデータマイニングおよび多変量解析に関する基礎を理解することを目的とする。具体的には、関連係数、エントロピー、数量化理論、決定木、重回帰分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析、k-means、自己組織化マップ、ニューラルネットワーク、遺伝アルゴリズム、記憶ベース推論、テキストマイニングについて学習する。これらの学習を通して、データマイニングに関連する技術がビッグデータなどの大量のデータを分析する際に重要な技術であることを理解する。	
		データベース工学	本講義では、大量のデータを組織的に管理し、インターネットを介した情報検索などに不可欠な道具であるデータベース管理システムに関する基礎を理解することを目的とする。具体的には、リレーショナルデータベースを中心に、データベースの基礎、データベースの概要、データモデル、リレーショナル演算、リレーショナル代数、SQL言語、データベース設計などについて学習する。これらの学習を通して、データベースに関連する技術がネットワーク社会において重要な技術であることを理解する。	
		ネットワーク・データ工学応用	本講義は、これまで学んできたネットワーク・データ工学分野の各講義の総括として、ネットワーク・データ工学分野の社会における役割や重要性について理解することを目的とする。具体的には、人工知能、知識工学、機械学習、データマイニング、コンピュータネットワーク、データベースの各種技術が現代の情報ネットワーク社会においてどのように利用・応用されているのか、その具体的な事例について外部講師などもまじえて紹介し学ぶことで理解を深める。	
		情報デザイン基礎	本演習では、情報デザインの基本である、調査・分析、発想・視覚化、評価・提案する基礎的なスキルを養うことを目的とする。対象は、平面的な情報グラフィック、動画を含めた情報コンテンツ、操作を含んだ情報インタフェース、製品を含んだ情報プロダクトの領域を対象とする。本演習では、身体を動かして情報デザインの基礎を体験的に学ぶ。最終的には、演習での作品制作と評価・提案を通して学び、情報デザインの基礎的なデザイン力を養成する。	共同
		情報デザイン演習	本演習では、情報デザインの基本である、情報プロダクトと情報インタフェースに関する、テーマ設定、ユーザー調査・分析、デザインコンセプト提案、発想、視覚化、ユーザー評価、発表するスキルを養うことを目的とする。実社会の具体的な課題に対して、情報デザインの観点から解決案を提案するとともに、情報プロダクトと情報インタフェースのプロトタイプを制作して、提案発表をする。最終的には、これらの演習を通して、情報デザインの実践的なデザイン力を養成する。	共同
		情報デザイン論	本講義では、情報デザインの基本的な考え方やデザインプロセスおよび代表的な手法について学ぶ。本講義は、情報デザインの全体像を俯瞰的にとらえる視点を養うことである。そのため、デザインプロセスやデザインの諸手法、評価法などの各論を学びつつも、具体的な事例を題材に議論を行う。事例による議論を通して、様々なレベルの“情報”を扱ってモノやサービスをデザインすることの意義やデザインされたものを論評できる素養を身に付けることを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (6 安藤昌也／8回) デザイン調査、デザインプロセス、デザイン評価、総合討議 (2 山崎和彦／7回) デザインコンセプト、視覚化	オムニバス方式

専門科目	専門展開科目	テクノロジーアート	本講義では、テクノロジーアートのアプローチ、歴史、多様なアーティスト、作品と技術について学習する。対象とする分野は、空間、プロダクト、サウンド、サイエンス、ビデオ、インタラクション/インタフェースを含める。対象とするアーティストや作品は、歴史的な作品と近代的な作品を含める。また、テクノロジーアートを生み出す技術について、どのような技術が活用されているのか学ぶ。最終的には、テクノロジーアートをデザインに活用する視点を養う。 (オムニバス方式／全15回) (2 山崎和彦／8回) テクノロジーアートのアプローチプロダクトアート、サウンドアート、サイエンスアート、ビデオアートについての講義 (9 中本和宏／7回) テクノロジーアートの技術、インタラクションアートについての講義	オムニバス方式
		情報デザイン応用	情報デザインの新しい領域である、総合的なデザイン、サービスデザイン、デザイン思考、ソーシャルデザイン、コミュニティデザイン、ビジネスデザイン、組織デザインについて学ぶ。この新しい領域に対して、基本的な考え方や実践のアプローチや代表的な手法について学ぶ。最終的に、新しい領域の事例やアプローチ、新しい領域のためのコンセプトデザイン手法、発想視覚化手法、プロトタイプ手法、ユーザー調査手法、評価方法や提案方法について解説して、実際に新しい分野のデザインをする視点を養う。 (オムニバス方式／全15回) (2 山崎和彦／8回) コンセプトデザイン、発想視覚化、プロトタイプ (6 安藤昌也／7回) ユーザー調査、ユーザー評価、提案	オムニバス方式
		情報デザイン応用演習	本演習では、情報デザインの新しい領域であるサービスデザインに関する提案力を養うことを目的とする。実社会の具体的な課題に対して、サービスデザインの観点から解決案を提案するとともに、サービスを実現するために不可欠な人工物（ハードウェア、ソフトウェア、ヒューマンウェア等）のプロトタイプを制作する。これらの演習を通して、これまでに学んだ情報デザインに諸知識を応用し、総合的なデザイン力を養成する。	共同
		フィジカルインタフェース	インタラクションデザインの一部として、人間の自然な動作を含めた人工物機器への入力を主対象とし、デザインプロセスと基礎的な技術、技法を学ぶ。併せてユーザーインタフェースにおける多様なデバイスや表現技術を学び、新たなサービスに適用するための基礎技術を習得する。 まずフィジカルコンピューティングの概念、事例を解説する。続いて各自でテーマに沿った制作、最終的に成果物をプレゼンテーションする。これらによりフィジカルコンピューティングのプロセスとサービスへの適用手法を理解する。	
		ユーザエクスペリエンスデザイン	本講義では、前半部において、プロダクトやサービスを利用する際のユーザーの体験について、人間科学や心理学に基づく知見について解説する。人間の視聴覚、記憶、知識、問題解決、学習といった人間の認知特性を学ぶとともに、社会的な存在としてのコミュニケーションや説得といった社会的な心理傾向や特性について学ぶ。後半部では、こうした人間の特性を活用して、インタフェースやサービスをデザインするための考え方や評価の方法などについて解説する。	

専門科目	専門展開科目	知能メディアチャレンジ	協力企業などから提供された現実の課題に対して、解決策を検討・制作することを通して、総合的な問題解決力を養うことを目的とする。与えられた問題だけに留まらず、自ら問題を発見・創造する能力も期待される。講義・演習で得た知識と技術を、実際の問題解決の過程で適用することにより、知識の定着と応用力の向上を狙いとする。 (オムニバス方式／全15回) (8 宮田高道・6 安藤昌也／1回)(共同) 講義等の説明 (8 宮田高道・7 今野将・6 安藤昌也／3回)(共同) メディア、データ、情報デザインの分野を担当 (1 飯田一博・7 今野将・2 山崎和彦／3回)(共同) メディア、データ、情報デザインの分野を担当 (3 竹本浩典・5 森信一郎・9 中本和宏／3回)(共同) メディア、データ、情報デザインの分野を担当 (4 苅木禎史・5 森信一郎・10 田邊里奈／3回)(共同) メディア、データ、情報デザインの分野を担当 (8 宮田高道・6 安藤昌也／1回)(共同) 発表会準備 (全教員／1回)(共同) 発表会	オムニバス方式・共同(一部)
		ゼミナール1	今後の研究に向けて必要な文献調査能力や読解力を高め、基礎知識と技術を習得する。受講者が興味を持っている分野について、当該分野の現状と動向を把握し、課題を発掘するための基礎的能力を身に付ける。それに加え、関連した分野についても基礎的・専門的知識を追求し、深化させることを目標とする。 さらには社会との関わりを考察することにより、問題意識や深い関心を目覚めさせ、主体性を持って今後の研究に取り組めるようにする。	
		ゼミナール2	卒業研究を進めていくために必要な基礎知識を習得する。そのプロセスを学ぶとともに、基本的な調査手法や実験手法等、そして得られた結果のまとめ方について学ぶ。 これらを基礎として、卒業研究テーマを設定し学習を進める。課題に対して問題点を明確にし、その解決へのアプローチを計画、遂行できる能力を身につける。そのために調査手法、実験手法等を理解し、それらを応用、実行できることを目標とする。 本科目は卒業研究のテーマに直結しており、原則として各自が選んだテーマに沿って学習を進める。	
		ゼミナール3	卒業研究を最終的な研究成果としてまとめ、発表するための知識と技術を習得する。 各自で設定した卒業研究のテーマに沿って研究を進め、その中で表出した課題や疑問について、適切な手法を考案、適用して解決する。再度の検討が必要な箇所や、より深く検討すべき箇所を洗い出し、卒業研究の完成度を高める。また、論文や、テーマに関連した制作物について、発表方法や展示方法を検討する。これらにより、研究を適切かつ効果的に伝えるための手段、方法を習得することを目標とする。	
		卒業研究	本科目は、実社会における現実の問題に直面したときに自らの力で解決するために必要な基本的な能力を身につけることを目標とする。配属された研究室において、教員の指導・助言のもとに各自の研究テーマについて調査・考察し、解決策を提案する。問題を多面的に捉え、社会情勢、環境、技術動向等を加味した上で解決策を立案し、計画的に遂行することが求められる。 本科目を通じ、課題の設定能力ならびに解決能力、発表能力、論文等作成能力、討論による自己主張能力を涵養する。	

8 校地校舎等の図面

(1) 都道府県内における位置関係の図面



(2) 最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



■津田沼校舎

- ・JR総武線 津田沼駅前（南口）
- ・新京成線 新津田沼駅から
徒歩3分
- ・京成線 京成津田沼駅から
徒歩10分

津田沼校舎～新習志野校舎間は
スクールバスも運行
(約15分 3.5km)

■新習志野校舎

- ・JR京葉線 新習志野駅南口から
徒歩6分
- ・JR総武線 津田沼駅南口バスターミナルから
京成バス新習志野駅行(約15分)で
「千葉工業大学入口」下車 徒歩3分



■茜浜運動施設

茜浜運動施設

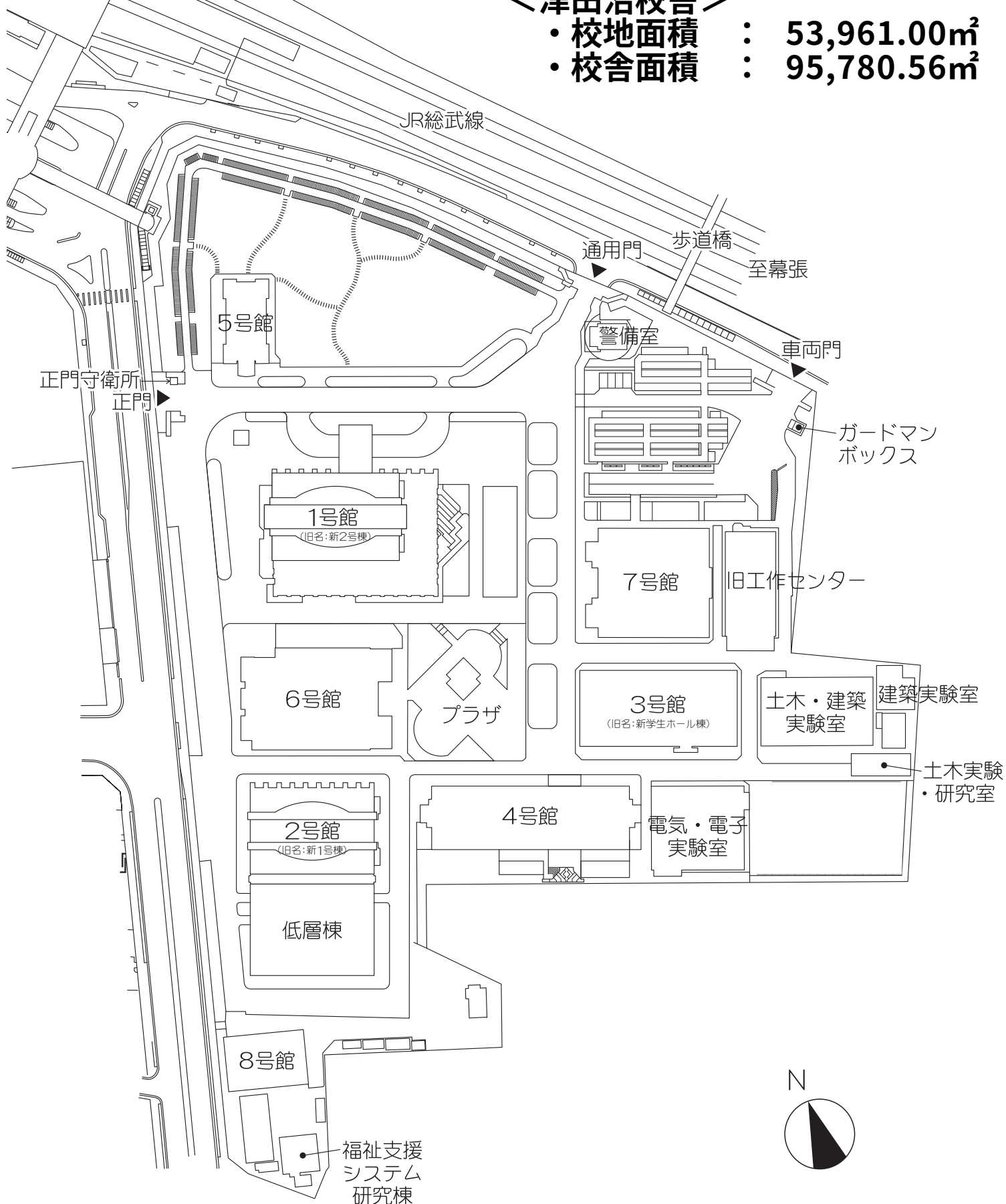
■新習志野校舎

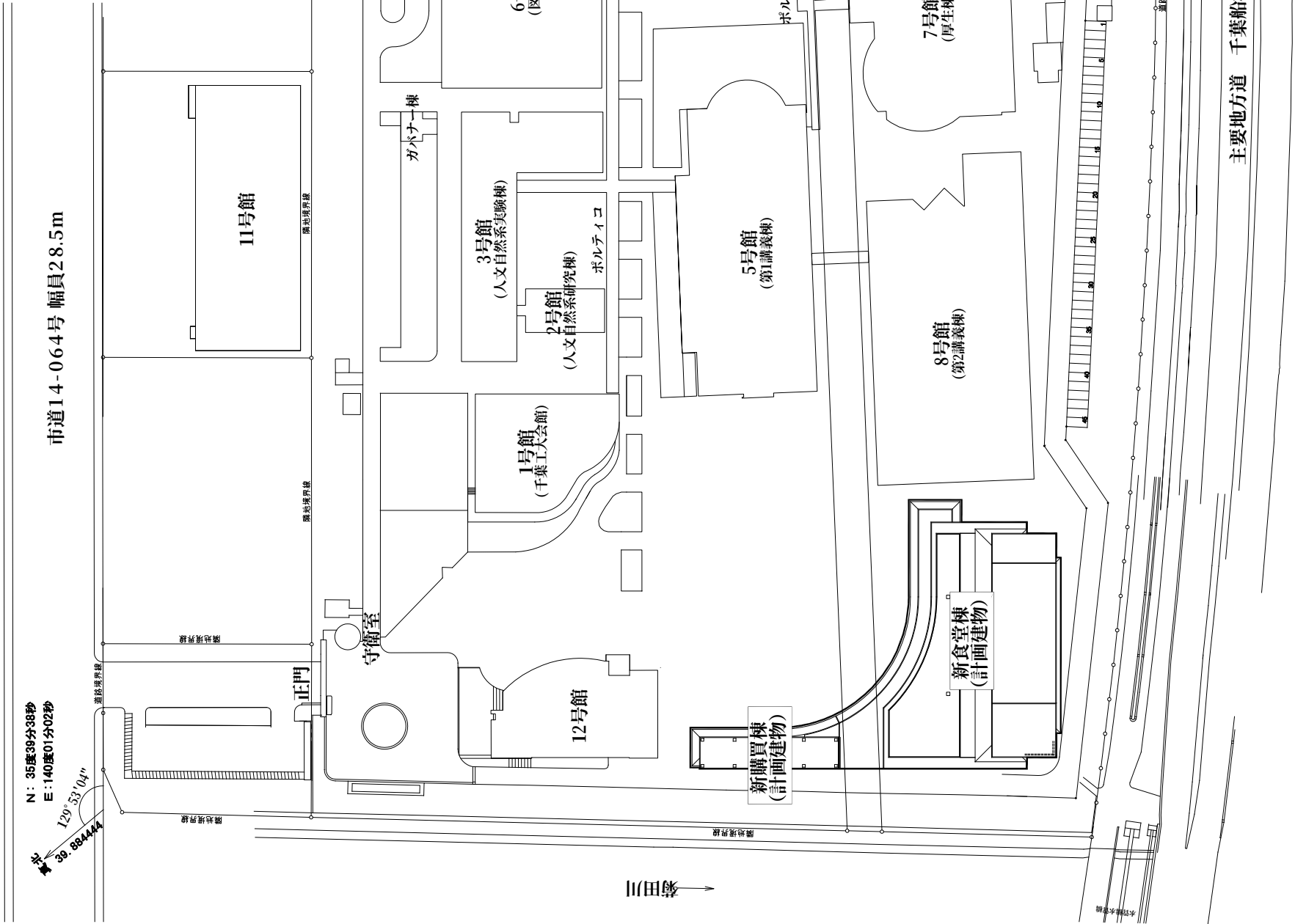
新習志野校舎～茜浜運動施設
(約0.5km 徒歩約5分)

(3) 校舎、運動場等の配置図

＜津田沼校舎＞

・校地面積 : 53,961.00m²
 ・校舎面積 : 95,780.56m²





＜新習志野校舎＞

- 敷地面積：123,574.00㎡
- 内校地面積：103,101.46㎡
- 校舎面積：46,410.50㎡

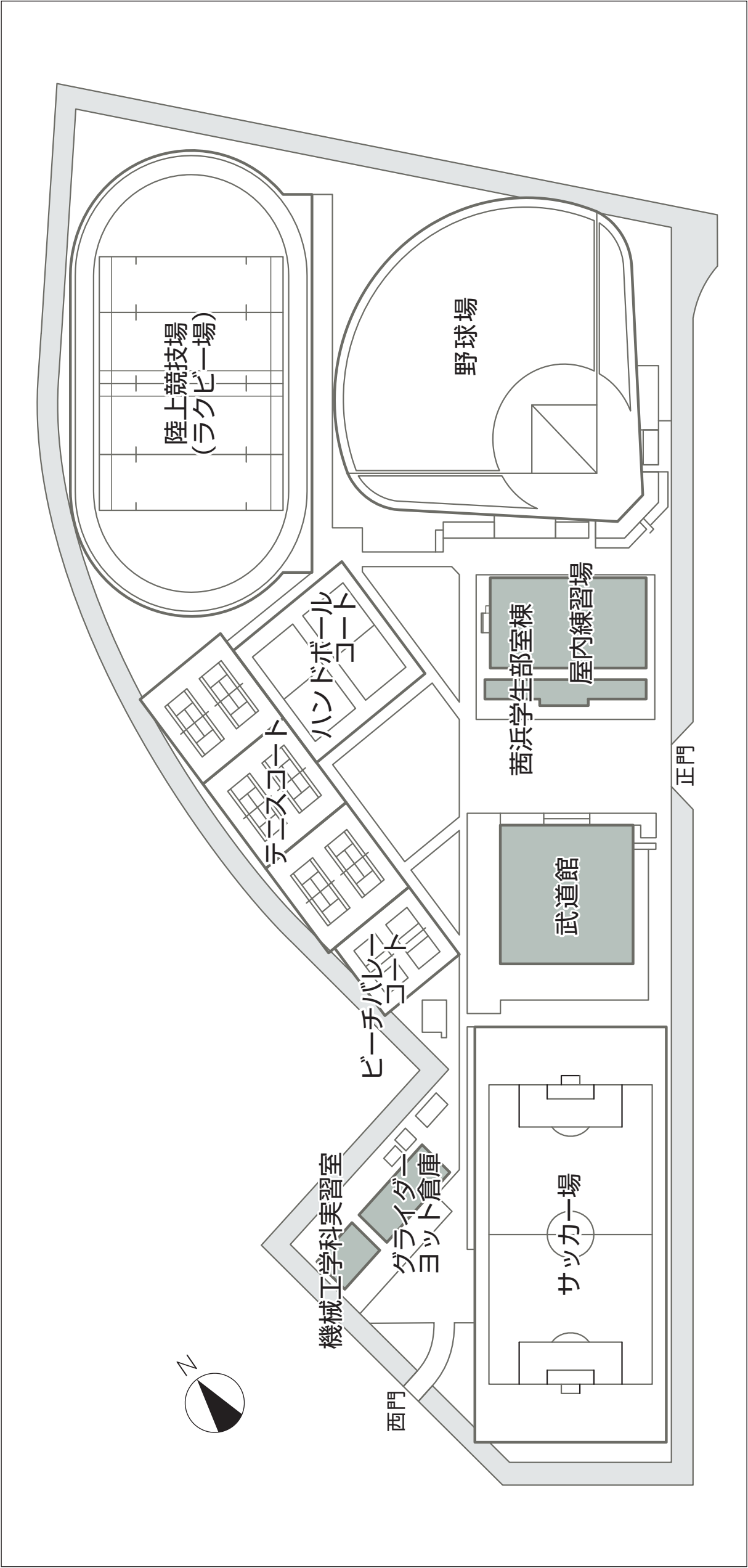
※校地校舎面積は計画建物竣工後の予定数値



計画配置図

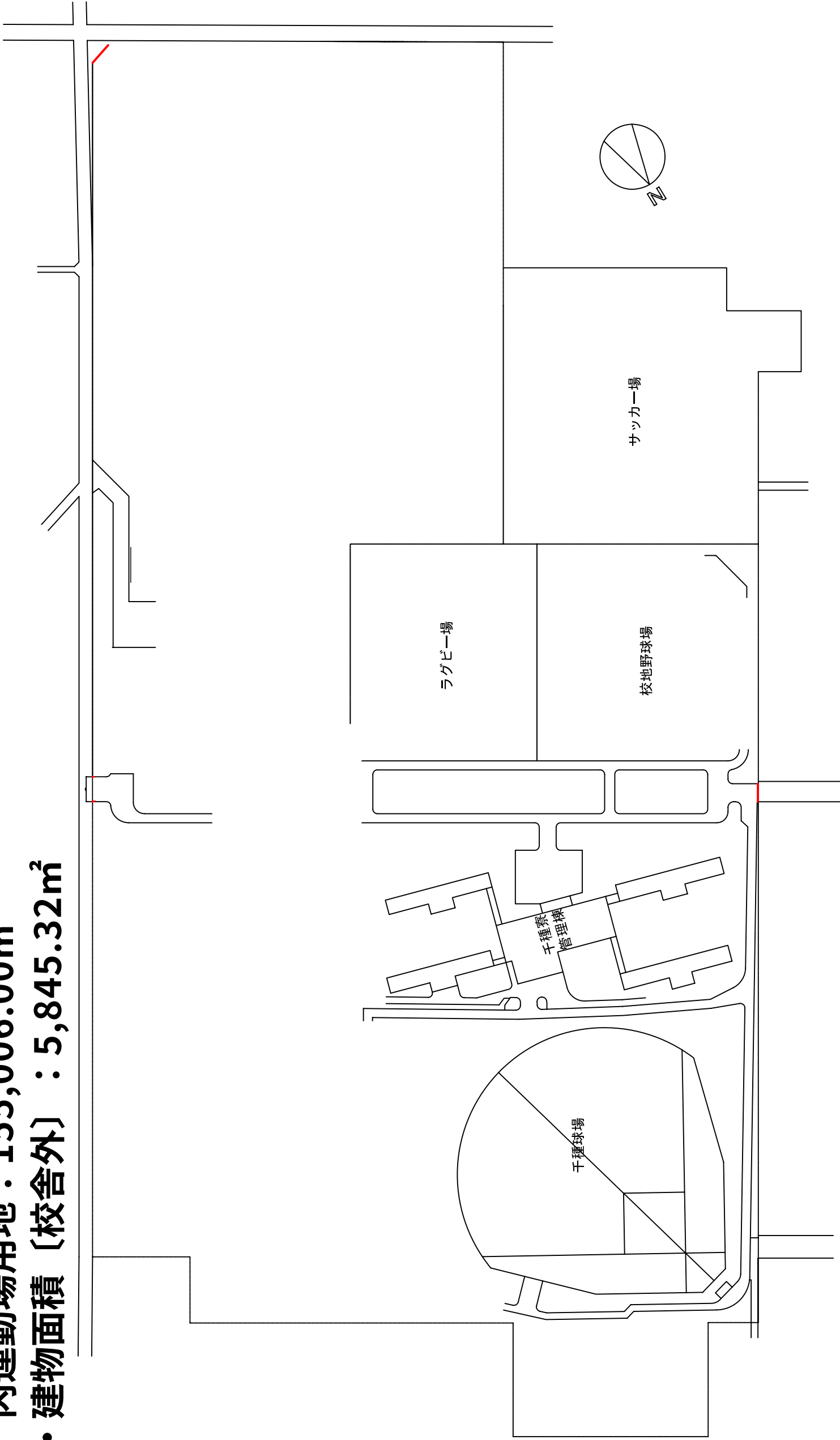
＜茜浜運動施設＞

- 敷地面積〔運動場用地〕：98,304.00㎡
 - 建物面積：6,812.88㎡
- 内校舎面積： 411.47㎡



＜千種校地＞

- 敷地面積：169,898.00㎡
- 内運動場用地：155,006.00㎡
- 建物面積〔校舎外〕：5,845.32㎡



千葉工業大学学則

第1章 目的

(目的)

第1条 本学は、教育基本法に則り学校教育法の定める大学として、科学技術の理論と応用を教授研究するとともに、豊かな教養を備え人類福祉のため進んで協力する意欲と識見をもつ人材を養成することを目的とする。

(自己評価等)

第1条の2 本学は、その教育・研究の向上を図り、前条の目的を達成するため、教育・研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価に関する事項は別に定める。

第2章 組織

(学部)

第2条 本学に工学部、創造工学部、先進工学部、情報科学部及び社会システム科学部を置く。

2 前項の学部には置く学科並びにその入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

	学 科	入学定員	収容定員
工 学 部	機械工学科	140名	560名
	機械電子創成工学科	110名	440名
	先端材料工学科	110名	440名
	電気電子工学科	140名	560名
	情報通信システム工学科	110名	440名
	応用化学科	110名	440名
	小 計	720名	2,880名
創 造 工 学 部	建築学科	140名	560名
	都市環境工学科	110名	440名
	デザイン科学科	120名	480名
	小計	370名	1,480名
先 進 工 学 部	未来ロボティクス学科	120名	480名
	生命科学科	110名	440名
	知能メディア工学科	110名	440名
	小計	340名	1,360名

情報科学部	情報工学科	140名	560名
	情報ネットワーク学科	140名	560名
	小 計	280名	1,120名
社会システム科学部	経営情報科学科	110名	440名
	プロジェクトマネジメント学科	110名	440名
	金融・経営リスク科学科	60名	240名
	小 計	280名	1,120名
合 計		1,990名	7,960名

(学部教育・研究上の目的)

第2条の2 工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、専門知識を応用する工学分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

2 創造工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、創造性を要する工学分野およびその学際的領域において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

3 先進工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、科学技術における先進的な分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

4 情報科学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として社会の変化と進展に対応し、また、守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、情報処理分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

5 社会システム科学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、分野横断的な学問領域を基礎とし、社会システムやマネジメント手法の分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

(大学院)

第3条 本学に大学院を置く。

2 大学院の学則は別に定める。

(附属図書館)

第4条 本学に附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する事項は別に定める。

(研究所)

第4条の2 本学に次の研究機関を置く。

- (1) 附属研究所
- (2) 未来ロボット技術研究センター
- (3) 惑星探査研究センター
- (4) 人工知能・ソフトウェア技術研究センター

2 研究機関に関する事項は別に定める。

(施設)

第4条の3 本学に次の施設を置く。

- (1) 学生寮
- (2) 軽井沢研修センター
- (3) 御宿研修センター

2 前項の各号に関する必要な事項は別に定める。

(事務局)

第5条 本学に事務局を置く。

2 事務局に関する必要な事項は別に定める。

第3章 職員組織

(学長)

第6条 本学に学長を置く。

- 2 学長は、校務をつかさどり、所属教育職員を統督する。
- 3 必要があるときは副学長を置くことができる。
- 4 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

(学部長)

第6条の2 学部 to 学部長を置く。

- 2 学部長は、学部に関する学務をつかさどる。
- 3 学部長に関する事項は別に定める。

(職員)

第7条 本学に教育職員及び一般職員を置く。

2 教育職員として、教授、准教授、助教及び助手を置く。

- (1) 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- (2) 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- (3) 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
- (4) 助手は、その所属する組織における教育・研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

- 3 一般職員として、事務職員、技術職員、労務職員及びその他必要な職員を置く。
- 4 職員に関する規則は別に定める。

第4章 学部長会及び教授会

(学部長会)

第8条 本学に、大学の教育・運営に関する重要事項を協議及び審議するため学部長会を置く。

- 2 学部長会は、学長が招集し、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

- (1) 教育・研究に関する基本方針等、その運営における全学的な事項
- (2) 教授会の審議に関する基本的共通的な事項
- (3) その他、本学の教育・研究の運営に必要と認められる事項

- 3 学部長会に関する規則は、別に定める。

(教授会)

第8条の2 学部に教授会を置く。

- 2 教授会は、学部の専任教授をもって組織する。
- 3 教授会は、学部長が招集し議長となる。
- 4 学部長は、必要あると認めた場合に、教授会の承認を得て教授会に准教授、助教及びその他の職員を参加させることができる。
- 5 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり意見を述べるものとする。
 - (1) 学生の入学及び卒業に関する事項
 - (2) 学位の授与に関する事項
 - (3) 前二号に掲げるもののほか、教育・研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 6 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育・研究に関する事項について審議し、及び学長又は学部長の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 7 教授会の運営に関する規則は別に定める。

第8条の3 学部に共通する事項について意見を聴くため、学長は、必要により合同教授会を招集することができる。

- 2 合同教授会は、次に掲げる事項について学長に意見を述べるものとする。
 - (1) 学則の改正に関する事項
 - (2) 前号に掲げるもののほか、教育・研究に関する重要な事項で、合同教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
- 3 合同教授会に関する規則は、別に定める。

第5章 学年、学期及び休業日

(学年)

第9条 学年は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

(学期)

第10条 学年を次の2学期に分ける。

(1) 前期 4月1日から9月17日まで

(2) 後期 9月18日から翌年3月31日まで

2 必要がある場合は、学長は学部長会の意見を聴いて前項の期間を変更することができる。

(休業日)

第11条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に定める休日

(3) 開学記念日 5月15日

(4) 春期休業日 3月1日から3月31日まで

(5) 夏期休業日 7月28日から9月17日まで

(6) 冬期休業日 12月21日から1月7日まで

2 必要がある場合は、学長は学部長会の意見を聴いて前項の休業日を変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は学部長会の意見を聴いて臨時の休業日を定めることができる。

4 特別の必要がある場合は、学長は学部長会の意見を聴いて休業日に授業を行うことができる。

第6章 修業年限及び在学年限

(修業年限)

第12条 修業年限は、4年とする。

(在学年限)

第13条 学生は、8年を超えて在学することができない。

2 第20条、第21条及び第22条の規定により入学した学生は、在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することができない。

3 第1項及び第2項の規定にかかわらず、工学部、創造工学部、先進工学部及び情報科学部においては、同一学年に3年を超えて在学することができない。

第7章 入学

(入学時期)

第14条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、再入学については、学期の始めとすることができる。

(入学資格)

第15条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 学校教育法第90条第2項の規定により他大学に入学した者であって、当該者をその後に入学させる本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

(入学者選考)

第16条 本学に入学を志願する者は、入学願書と別に定める入学検定料及び所定の書類を添えて、期日までに提出するものとする。

- 2 前項の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第17条 前条の選考の結果に基づき合格した者は、所定の期日までに、別に定める学生納付金を納入し、保証人の連署する誓約書その他所定の書類を提出するものとする。

- 2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

(保証人)

第18条 学生は、在学中、保証人を置くものとする。

- 2 保証人は、父母又は独立の生計を営む成年者で、学生の在学中の身上に関し責任を負いうる者とする。

(変更届)

第19条 学生は、氏名、現住所の変更及び保証人の変更若しくはその現住所に変更があったときは、速やかに届け出るものとする。

(転部、転科)

第19条の2 本学に在籍する学生で、転学部、転学科を願い出た者については、欠員のある場合に限る、学長はこれを許可することができる。

- 2 転学部、転学科に関する規則は別に定める。

(編入学)

第20条 次の各号の一に該当する者で、本学への入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、学長は教授会の意見を聴いて相当年次に入学を許可することができる。

- (1) 他の大学の2年次を修了した者
- (2) 短期大学を卒業した者又は高等専門学校を卒業した者
- (3) 学校教育法施行規則附則第7条に規定する者

2 編入学に関する規則は別に定める。

(学士入学)

第21条 次の各号の一に該当する者で、本学への入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、学長は教授会の意見を聴いて相当年次に入学を許可することができる。

- (1) 本学を卒業した者
- (2) 他の大学を卒業した者

2 学士入学に関する規則は別に定める。

(再入学)

第22条 本学を退学した者又は除籍された者で、再入学を志願する者があるときは、学長は事情を考慮した上、相当年次に入学を許可することができる。ただし、懲戒による退学者及び第41条第1項第2号及び第4号並びに第5号の規定により除籍された者の再入学は許可しない。

2 再入学に関する規則は別に定める。

第8章 教育課程及び履修方法等

(授業科目区分)

第23条 授業科目を分けて、教養科目及び専門科目及び教職課程に関する科目とする。

(教育課程編成方法)

第24条 教育課程は、各授業科目を必修科目、指定科目及び選択科目に分け、これを各年次に配当して編成する。

2 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(授業科目及び履修方法)

第25条 授業科目及びその単位数は、別表第1、別表第2、別表第3、別表第4、別表第5、別表第6及び別表第7のとおりとする。

2 授業科目の履修方法は別に定める。

(成績評価基準等の明示等)

第25条の2 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学は、学修の成果に係る評価並びに卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(単位計算方法)

第26条 授業科目の単位計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準による。

(1) 講義は、15時間をもって1単位とする。ただし、外国語の授業は、30時間をもって1単位とする。

(2) 演習、実技、実験、実習及び製図は、30時間をもって1単位とする。

(授業期間)

第27条 一年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

2 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別に必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(単位授与)

第28条 授業科目を履修し、その試験等により合格と判定された者には、所定の単位を与える。

(成績の評価)

第29条 授業科目の成績は、A、B、C、Dの4段階により表示し、A、B、Cを合格としDは不合格とする。

(他大学等における授業科目履修等)

第30条 教育上有益と認めるときは、他大学等との協議に基づき、学生に当該他大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修し修得した授業科目の単位を、60単位を限度として卒業の要件となる単位として認めることができる。

(入学前の既修得単位取扱)

第31条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において修得した単位を、本学において修得したものとして認定することができる。

2 前項の単位の認定は、編入学の場合を除き、前条により認める単位数と合せて60単位を超えない範囲で行うことができる。ただし、修業年限の短縮は行うことができない。

(進級)

第32条 上級年次に進級するための条件を定めることができる。

(卒業必要単位数)

第33条 卒業に必要な単位数は、別に定める所定の単位を含め、124単位以上とする。

(教育職員免許状)

第34条 本学において、取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりとする。

工学部

機械工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
機械電子創成工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
先端材料工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
電気電子工学科	工業	高等学校教諭一種免許状
応用化学科	理科	高等学校教諭一種免許状

		中学校教諭一種免許状	
創造工学部			
都市環境工学科	工業	高等学校教諭一種免許状	
情報科学部			
情報工学科	数学	高等学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	
	情報	高等学校教諭一種免許状	
情報ネットワーク学科	数学	高等学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	
	情報	高等学校教諭一種免許状	
社会システム科学部			
経営情報科学科	数学	高等学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	
	工業	高等学校教諭一種免許状	
	商業	高等学校教諭一種免許状	
プロジェクトマネジメント学科	数学	高等学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	
	情報	高等学校教諭一種免許状	

- 2 前項の教育職員免許状を取得するために履修する授業科目の種類及びその単位数は別に定める。
- 3 第1項に規定する教育職員免許状を取得するための受講手続料は別に定める。

第9章 休学，復学，外国留学，退学及び除籍

(休学)

第35条 疾病その他やむを得ない理由により、年度内に6か月以上修学することができない者は、所定の休学願を学長に提出するものとする。

- 2 疾病のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

(休学期間)

第36条 休学期間は1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。

- 2 休学期間は、通算して4年を超えることができない。
- 3 休学期間は在学期間には算入しない。

(復学)

第37条 休学した者は、休学期間が満了し、又は休学の理由が解消したときは、遅滞なく所定の復学願を学長に提出するものとする。

(外国留学)

第38条 本学の学生が外国の大学等の授業科目を履修するため、留学を志願し学長に願い出た場合、学長は、教育上有益と認めるときはこれを許可することができる。

- 2 留学した期間は、第13条に定める在学期間に含める。
- 3 留学して履修した授業科目について修得した単位については、第30条第2項に準じて卒業の要件となる単位として含めることができる。
- 4 留学に関する規則は別に定める。

(退学)

第39条 退学しようとする者は、所定の退学願を学長に提出するものとする。

(休学、復学、及び退学許可)

第40条 休学、復学及び退学については、学長がこれを許可することができる。

(除籍)

第41条 次の各号の一に該当する者は、学長が除籍する。

- (1) 所定の学生納付金を滞納し、督促を受けても納入しない者
- (2) 在学期間の限度を超過した者
- (3) 休学期間の限度を超過した者
- (4) 長期間行方不明の者
- (5) 工学部、創造工学部、先進工学部及び情報科学部においては、休学による場合を除き、同一学年に3年在学してなお進級できない者

第10章 卒業及び学位

(卒業)

第42条 本学に4年（第20条、第21条及び第22条により入学した者は、在学すべき年数）以上在学し、第33条に定める単位数を取得したものは、教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与する。

- 2 前項の規定にかかわらず、本学の学生として3年以上在学し、学部の定める卒業要件を優秀な成績で修得したと認める場合、3年以上の在学で卒業を認めることができる。

(学位)

第43条 本学を卒業した者に授与する学位は次のとおりとする。

工学部	学士（工学）
創造工学部	学士（工学）
先進工学部	学士（工学）
情報科学部	学士（情報科学）
社会システム科学部	
経営情報科学科	学士（経営情報科学）
プロジェクトマネジメント学科	学士（プロジェクトマネジメント）
金融・経営リスク科学科	学士（リスク科学）

第11章 賞罰

(表彰)

第44条 学業優秀な者及び課外活動等において顕著な功績のあった者は、選考の上、表彰することができる。

2 前項の選考に関する取り扱いは別に定める。

(懲戒)

第45条 本学則に違反し又は学生としての本分に反する行為のあった者は、教授会の意見を聴いて、学長が懲戒する。

2 懲戒は、訓告、譴責、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがない者

(2) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第12章 研究生，科目等履修生，特別聴講学生及び外国人留学生等

(研究生)

第46条 本学において特定の教員の指導のもとに研究することを志願する者があるときは、学部の教育・研究に支障のない場合に限り、学長は研究生として許可することができる。

2 研究生に関する規則は別に定める。

(科目等履修生)

第47条 本学の授業科目の履修又は受講のみを志願する者があるときは、学部の教育に支障のない場合に限り、学長は科目等履修生として許可することができる。

2 科目等履修生に関する規則は別に定める。

(特別聴講学生)

第48条 他の大学又は短期大学との協定に基づき、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、学長は特別聴講学生として許可することができる。

2 特別聴講学生に関する規則は別に定める。

(外国人留学生等)

第49条 日本国以外の国籍を有する者で、第15条に定める入学資格がある者は、選考のうえ、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 前項の外国人留学生に対しては、第25条に定めるもののほか、日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

日本語科目及び日本事情に関する科目については、別表第4のとおりとする。

3 日本国籍を有し、外国において相当の中等教育を受けた者で、第15条に定める入学資格がある者については前項を準用する。

4 外国人留学生等に関する規則は別に定める。

第13章 入学検定料及び学生納付金等

(入学検定料, 学生納付金)

第50条 入学検定料は, 別表第8の1のとおりとする。

2 学生納付金は, 別表第8の2のとおりとする。

(学生納付金の納入)

第51条 学生納付金は, 所定の期日までに納入するものとする。

2 学生納付金の納入に関する規則は, 別に定める。

(研究生及び科目等履修生申込手数料等)

第52条 研究生の審査料及び科目等履修生の申込手数料等は別に定める。

(納付金不還付)

第53条 既納の入学検定料, 学生納付金, 審査料等は返還しない。

第14章 公開講座

(公開講座)

第54条 社会人の教養を高め, 文化の向上に資するため, 本学に公開講座を開設することができる。

第15章 学則の変更

(学則変更)

第55条 本学則の変更は, 理事会の議決を経るものとする。

附則

本学則は昭和43年4月1日から施行する。

附則

本学則は昭和61年4月1日から施行する。

附則

本学則は昭和62年4月1日から施行する。

附則

本学則は昭和63年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成元年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成2年4月1日から施行する。

附則

1 本学則は平成3年4月1日から施行する。

2 第2条第2項の規定にかかわらず, 平成3年度から平成11年度までの間, 入学定員は次のとお

りとする。

学 部	学 科	入学定員
工学部第一部	機 械 工 学 科	1 2 0 名
	工 業 経 営 学 科	1 2 0 名
	電 気 工 学 科	1 2 0 名
	電 子 工 学 科	1 2 0 名
	工 業 化 学 科	1 0 0 名
	土 木 工 学 科	1 1 0 名
	建 築 学 科	1 2 0 名
	精密機械工学科	1 1 0 名
	情 報 工 学 科	1 2 0 名
	工業デザイン学科	9 0 名

附則

本学則は平成3年9月10日から施行する。

附則

本学則は平成4年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成5年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成5年7月22日から施行する。

附則

本学則は平成6年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成7年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成8年4月1日から施行する。

附則

- 1 本学則は平成9年4月1日から施行する。
- 2 第2条第2項及び附則（平成3年4月1日施行）の規定にかかわらず、平成9年度から平成11年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工学部第一部	工 業 経 営 学 科	1 0 0 名
	情 報 工 学 科	1 0 0 名

附則

本学則は平成10年4月1日から施行する。

附則

- 1 本学則は平成11年4月1日から施行する。
- 2 第2条第2項の規定にかかわらず、平成11年度の入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
工学部	機械工学科 昼間主コース	120名
	工業経営学科 昼間主コース	100名
	電気工学科 昼間主コース	120名
	電子工学科 昼間主コース	120名
	工業化学科 昼間主コース	100名
	土木工学科 昼間主コース	110名
	建築学科 昼間主コース	120名
	精密機械工学科 昼間主コース	110名
	情報工学科 昼間主コース	100名
	工業デザイン学科 昼間主コース	90名

- 3 千葉工業大学工学部第二部は、平成11年4月から募集を停止し、平成11年3月31日現在当該学部在学する者が当該学部在学しなくなった時点で廃止する。

なお、第二部学生の取り扱いについては、従前のとおりとする。

附則

- 1 本学則は平成12年4月1日から施行する。
- 2 第2条第2項の規定にかかわらず、平成12年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学 科		入 学 定 員				
		12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
機械工学科	昼間主コース	118名	116名	114名	112名	110名
工業経営学科	昼間主コース	98名	96名	94名	92名	90名
電気工学科	昼間主コース	118名	116名	114名	112名	110名
電子工学科	昼間主コース	118名	116名	114名	112名	110名
工業化学科	昼間主コース	98名	96名	94名	92名	90名
土木工学科	昼間主コース	109名	108名	107名	106名	105名
建築学科	昼間主コース	118名	116名	114名	112名	110名
精密機械工学科	昼間主コース	109名	108名	107名	106名	105名
情報工学科	昼間主コース	98名	96名	94名	92名	90名
工業デザイン学科	昼間主コース	89名	88名	87名	86名	85名

附則

- 1 本学則は平成13年4月1日から施行する。
- 2 第2条第2項の規定にかかわらず、平成13年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学 部・学 科		入 学 定 員			
		13年度	14年度	15年度	16年度
工学部					
機械工学科	昼間主コース	116名	114名	112名	110名
電気工学科	昼間主コース	116名	114名	112名	110名
電子工学科	昼間主コース	116名	114名	112名	110名
工業化学科	昼間主コース	94名	90名	86名	80名
土木工学科	昼間主コース	105名	103名	101名	100名
建築学科	昼間主コース	116名	114名	112名	110名
精密機械工学科	昼間主コース	105名	103名	101名	100名
工業デザイン学科	昼間主コース	88名	87名	86名	85名

- 3 千葉工業大学工学部工業経営学科、情報工学科、情報ネットワーク学科及びプロジェクトマネ

ジメント学科は、平成13年4月から募集を停止し、平成13年3月31日現在当該学部学科に在学する者が当該学部学科に在学しなくなった時点で廃止する。

なお、募集を停止する当該4学科に在学する学生の取り扱いについては、従前のおりとする。

附則

本学則は平成14年4月1日から施行する。

附則

1 本学則は平成15年4月1日から施行する。

2 千葉工業大学工学部機械工学科、金属工学科、電気工学科、電子工学科、工業化学科、土木工学科、建築学科、精密機械工学科及び工業デザイン学科は、平成15年4月から募集を停止し、平成15年3月31日現在当該学部学科に在学する者が当該学部学科に在籍しなくなった時点で廃止する。

なお、募集を停止する当該9学科に在学する学生の取り扱いについては、従前のおりとする。

附則

本学則は平成16年4月1日から施行する。

附則

本学則は平成17年4月1日から施行する。

附則

1 本学則は平成18年4月1日から施行する。

2 千葉工業大学工学部第二部は当該学部中に在学する者がなくなったため、平成18年3月31日をもって廃止する。

附則

1 本学則は平成19年4月1日から施行する。

2 千葉工業大学工学部情報ネットワーク学科及びプロジェクトマネジメント学科は、当該学科中に在籍する者がなくなったため、平成19年3月31日をもって廃止する。

附則

1 本学則は平成20年4月1日から施行する。

2 千葉工業大学工学部情報工学科及び工業経営学科は、当該学科中に在学する者がなくなったため、平成20年3月31日をもって廃止する。

附則

1 本学則は平成21年4月1日から施行する。

2 千葉工業大学工学部金属工学科、工業化学科、土木工学科、建築学科及び工業デザイン学科は、当該学科中に在学する者がなくなったため、平成21年3月31日をもって廃止する。

附則

1 本学則は平成22年4月1日から施行する。

2 千葉工業大学工学部電子工学科及び精密機械工学科は、当該学科中に在学する者がなくなったため、平成22年3月31日をもって廃止する。

附則

- 1 本学則は平成23年4月1日から施行する。
- 2 千葉工業大学工学部機械工学科及び電気工学科は、当該学科に在学する者がなくなったため、平成23年3月31日をもって廃止する。

附則

- 1 本学則は平成24年4月1日から施行する。
- 2 学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程第4条第1項に規定する継続教員は、第8条の2第5項第5号を審議する教授会及び第8条の3第2項第1号を審議する合同教授会の構成員とはならない。

附則

本学則は平成25年4月1日から施行する。

附則

本学則は、平成26年4月1日から施行する。

附則

本学則は、平成27年4月1日から施行する。

附則

- 1 本学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 千葉工業大学工学部機械サイエンス学科、電気電子情報工学科、生命環境科学科、建築都市環境学科、デザイン科学科及び未来ロボティクス学科は、平成28年4月から募集を停止し、平成28年3月31日現在当該学部学科に在学する者が当該学部学科に在籍しなくなった時点で廃止する。
なお、募集を停止する当該6学科に在学する学生の取り扱いについては、従前のおとりとする。

別表第1(第25条関係)

工学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
ステップアップ・イングリッシュ1		1
英語コミュニケーションA1		1
ステップアップ・イングリッシュ2		1
英語コミュニケーションA2		1
英語コンプリヘンションA1		1
アドバンスト・コミュニケーションA1		1
英語コンプリヘンションA2		1
アドバンスト・コミュニケーションA2		1
センテンス・ストラクチャ1		1
英語コミュニケーションB1		1
センテンス・ストラクチャ2		1
英語コミュニケーションB2		1
アドバンスト・コンプリヘンションB1		1
アドバンスト・コミュニケーションB1		1
アドバンスト・コンプリヘンションB2		1
アドバンスト・コミュニケーションB2		1
英語コンプリヘンションC1		1
英語コミュニケーションC1		1
英語コンプリヘンションC2		1
英語コミュニケーションC2		1
アドバンスト・コンプリヘンションC1		1
アドバンスト・コミュニケーションC1		1
アドバンスト・コンプリヘンションC2		1
アドバンスト・コミュニケーションC2		1
日本語表現法	1	
情報処理	2	
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
総合科学特論		2

機械工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
物理学基礎	2	
化学基礎	2	
線形代数	2	
微分積分学		2
物理学応用		2
化学実験	2	
物理学実験	2	
確率統計		2
ものづくり基礎演習	2	
ものづくり演習	2	
機械工学概論	2	
工業力学	2	
機械材料		2
機構学		2
工業数学	2	
基礎材料力学	2	
基礎機械設計	2	
基礎機械製図	2	
力学総合演習	1	
基礎機械力学	2	
生産加工学	2	
材料力学	2	
応用材料力学		2
構造力学		2
材料強度学		2
機械力学		2
振動工学		2
制御工学		2
自動制御		2
熱力学	2	
応用熱力学		2
熱機関		2
伝熱工学		2
流れ学	2	

授業科目	単位数	
	必修	選択
応用流れ学		2
流体力学		2
機械設計	2	
機械製図	2	
CAD演習	2	
応用機械設計製図	2	
計測工学		2
技術英語		2
機械の技術史		2
工作機械		2
数値解析		2
環境工学		2
技術者倫理	2	
先端機械工学	2	
機械工学実験1	2	
機械工学実験2	2	
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

機械電子創成工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
微分積分	2	
微分方程式		2
応用数学		2
線形代数基礎	2	
線形代数応用		2
基礎統計学		2
物理学基礎	2	
物理学実験		2
化学基礎		2
デジタルものづくり		2
機構学		2
力学		2
材料力学		2
電気磁気学		2
電気回路		2
電子デバイス		2
機械電子創成概論	2	
機械電子創成基礎実験・実習	2	
機械設計製図学		2
機械力学		2
機械加工法		2
材料とその性質		2
シミュレーション工学		2
トライボロジー		2
熱・流体工学		2
精密加工		2
アナログ回路		2
デジタル回路		2
半導体電力変換工学		2
電気機器学		2
プログラミング言語		2
組込みシステム		2
ネットワークプログラミング		2
システム制御理論		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
センサ工学		2
システム制御工学		2
計測工学		2
機械電子創成発展講義1		2
機械電子創成発展講義2		2
技術者倫理		2
機械電子創成基盤実験・実習	2	
機械電子創成応用実験・実習	2	
機械電子創成発展実験・実習	2	
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

先端材料工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数	2	
確率統計		2
微分方程式		2
工業数学		2
物理学基礎	2	
物理学応用		2
化学基礎	2	
物理化学	2	
物理学実験	2	
化学実験	2	
先端材料工学概論	2	
エネルギー工学概論	2	
リサイクル概論	2	
基礎材料工学	2	
工業英語	2	
工学基礎	2	
基礎製図		2
材料物理学	2	
材料熱化学	2	
固体物理学	2	
材料組織学	2	
材料電気化学	2	
材料力学及び演習	2	
創造工学及び演習	2	
構造材料1		2
構造材料2		2
半導体材料		2
磁性材料		2
電池材料		2
光機能材料		2
セラミックス・ポリマー材料		2
エネルギー材料		2
材料化学プロセス工学1		2
材料化学プロセス工学2		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
化学反応工学		2
リサイクル工学		2
材料強度学1		2
材料強度学2		2
材料加工法及び演習		2
材料評価法及び演習		2
材料シミュレーション		2
塑性加工学		2
融体成形工学		2
接合工学		2
表面工学		2
粉体材料工学		2
技術者倫理	2	
先端材料工学実験1	2	
先端材料工学実験2	2	
先端材料ゼミナール	1	
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

電気電子工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数基礎	2	
物理学基礎	2	
複素数とベクトル	2	
線形代数応用	2	
微分積分	2	
化学基礎	2	
微分方程式	2	
物理学応用	2	
確率統計		2
量子力学基礎		2
物理学実験	2	
化学実験		2
電気電子工学入門	2	
電気電子基礎数学及び演習	2	
電気磁気学及び演習1	2	
電気磁気学及び演習2	2	
電気回路及び演習1	2	
計測工学	2	
電子物性	2	
プログラミング言語及び演習	2	
電気回路及び演習2	2	
電子回路及び演習1	2	
電子デバイス及び演習1	2	
電気回路解析学	2	
文献輪読	2	
電気電子工学実験1	2	
電気電子工学実験2	2	
電気電子工学実験3	2	
デジタル回路		2
信号処理論		2
電子回路2		2
電子デバイス2		2
電磁エネルギー変換工学		2
制御工学1		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
変電工学		2
送配電工学		2
プラズマエレクトロニクス		2
コンピュータ工学		2
電気音響工学		2
計測システム工学		2
パワーエレクトロニクス		2
制御工学2		2
発電工学		2
高電圧工学		2
電気電子材料		2
光エレクトロニクス		2
数値計算工学		2
電子回路3		2
技術者倫理	2	
ゼミナール1	2	
電気機器設計・製図		2
電気法規		2
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

情報通信システム工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数基礎	2	
物理学基礎	2	
物理学実験	2	
微分積分	2	
物理学応用	2	
情報通信基礎数学及び演習	3	
線形代数応用		2
確率統計		2
微分方程式	2	
フレッシュマンセミナー	2	
情報通信応用数学及び演習	3	
電気回路及び演習1	3	
情報基礎論	2	
電気磁気学及び演習1	3	
電気回路及び演習2	3	
プログラミング言語及び演習	3	
計測工学		2
電気磁気学及び演習2	3	
情報通信工学基礎実験	2	
電子回路及び演習1	3	
電子デバイス		2
電子回路及び演習2	3	
文献輪読	2	
プログラミング応用演習	1	
情報理論		2
アルゴリズムとデータ構造		2
ディジタル回路		2
情報通信工学実験1	2	
数値計算工学		2
通信理論		2
無線通信工学		2
電気回路解析学		2
ソフトウェア工学		2
コンピュータ工学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
情報通信工学実験2	2	
ゼミナール1	2	
通信システム工学		2
光通信工学		2
信号処理論		2
制御工学		2
コンピュータネットワーク		2
データベース工学		2
技術者倫理	2	
ゼミナール2	2	
システム数理工学		2
電波法		2
卒業研究	5	

応用化学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
化学基礎		2
物理学基礎		2
数学基礎		2
線形代数基礎		2
化学実験	2	
化学応用		2
微分積分		2
線形代数応用		2
物理学実験	2	
生物学基礎		2
物理学応用		2
統計力学基礎		2
確率統計		2
有機化学1		2
応用化学概論	2	
有機化学2		2
物理化学1		2
有機化学3		2
無機化学1		2
物理化学2		2
分析化学		2
応用化学研究法		2
無機化学2		2
物理化学3		2
量子化学1		2
機器分析学1		2
技術者倫理		2
環境マネジメント		2
生化学		2
化学反応工学		2
量子化学2		2
地球環境科学		2
機器分析学2		2
特許及び情報検索法		2
高分子化学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
高分子材料		2
無機合成化学		2
結晶科学		2
界面化学		2
電気化学		2
有機合成化学		2
バイオマテリアル		2
機能性無機材料		2
錯体化学		2
エネルギー・環境化学工学		2
分子設計		2
触媒化学		2
エコマテリアル		2
サステナブル資源科学		2
応用化学実験1	2	
応用化学実験2	2	
応用化学実験3	2	
ゼミナール	2	
卒業研究	5	

別表第2(第25条関係)

創造工学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
ステップアップ・イングリッシュ1		1
英語コミュニケーションA1		1
ステップアップ・イングリッシュ2		1
英語コミュニケーションA2		1
英語コンプリヘンションA1		1
アドバンスト・コミュニケーションA1		1
英語コンプリヘンションA2		1
アドバンスト・コミュニケーションA2		1
センテンス・ストラクチャ1		1
英語コミュニケーションB1		1
センテンス・ストラクチャ2		1
英語コミュニケーションB2		1
アドバンスト・コンプリヘンションB1		1
アドバンスト・コミュニケーションB1		1
アドバンスト・コンプリヘンションB2		1
アドバンスト・コミュニケーションB2		1
英語コンプリヘンションC1		1
英語コミュニケーションC1		1
英語コンプリヘンションC2		1
英語コミュニケーションC2		1
アドバンスト・コンプリヘンションC1		1
アドバンスト・コミュニケーションC1		1
アドバンスト・コンプリヘンションC2		1
アドバンスト・コミュニケーションC2		1
日本語表現法	1	
情報処理	2	
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
総合科学特論		2

建築学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
世界の文化と建築	2	
創造工学基礎演習1	2	
創造工学基礎演習2	2	
建築のための人文社会	2	
建築のための英語		2
物理学基礎		2
化学基礎		2
数学基礎		2
微分積分		2
基礎統計学		2
線形代数		2
物理学実験		2
化学実験		2
日本建築史	2	
西洋建築史	2	
建築設計1	3	
温熱環境学	2	
空気環境学	2	
光環境学		2
建築音響学		2
静定梁・静定トラスの力学及び力学演習	2	
静定構造の力学及び力学演習	2	
建築の構造1	2	
建築の構造2	2	
建築構造材料	2	
建築計画1	2	
建築計画2	2	
現代建築論		2
建築デザイン論		2
建築設計2	3	
建築設計3	3	
建築設計4	3	
建築設計5		3
建築設備計画	2	
建築設備		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
不静定構造の力学		2
地盤工学		2
鉄骨構造		2
鉄筋コンクリート構造		2
建築基礎構造		2
構造・材料実験		2
建築耐震構造		2
建築仕上げ材料		2
建築生産	2	
建築法規	2	
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

都市環境工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数	2	
微分積分	2	
基礎統計学	2	
物理学基礎	2	
物理学実験		2
化学基礎	2	
化学実験		2
創造工学基礎演習1	2	
創造工学基礎演習2	2	
構造力学1	2	
構造力学2	2	
建設材料工学	2	
土質力学	2	
応用力学	2	
水理学1	2	
水理学2	2	
環境アセスメント	2	
地球環境学	2	
国土・地域計画	2	
都市計画	2	
防災工学	2	
測量実習	2	
測量学	2	
技術者倫理	2	
橋梁工学		2
地盤工学		2
鉄筋コンクリート		2
河川・海岸工学		2
衛生工学		2
水圏環境学		2
大気環境学		2
まちづくり論		2
交通計画		2
交通工学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
都市・地域経済学		2
景観工学		2
地理情報システム		2
建設施工		2
環境音響学		2
住宅・住宅地計画		2
建築・都市関連法規		2
空間情報工学		2
インテリアデザイン基礎		2
インテリア設計		2
都市環境工学実験	2	
都市環境工学演習	2	
専門特別講義1		2
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

デザイン科学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎		2
基礎統計学		2
物理学基礎		2
物理学実験		2
化学基礎		2
化学実験		2
情報活用及び演習	2	
創造工学基礎演習1	2	
創造工学基礎演習2	2	
デザイン概論	2	
デザイン基礎1	2	
デザイン史	2	
デザイン基礎2	2	
製品デザイン基礎		2
インテリアデザイン基礎		2
人とデザイン1		2
生活とデザイン		2
インテリア計画		2
デザインスキル演習1	1	
人とデザイン2		2
空間とデザイン		2
デザインスキル演習2	1	
デザインプレゼンテーション	1	
産業とデザイン		2
情報とデザイン		2
技術とデザイン		2
材料とデザイン		2
社会とデザイン		2
環境とデザイン		2
創造デザイン基礎	2	
工学デザイン基礎	2	
創造デザイン論及び演習	4	
工学デザイン論及び演習	4	
インテリア設計		2
ソーシャルデザイン論及び演習		4

授業科目	単位数	
	必修	選択
インテリアデザイン論及び演習		4
構造力学及び演習		4
デジタルデザイン論及び演習		4
プロダクトデザイン論及び演習		4
ディスプレイデザイン論及び演習		4
インテリア施工		2
専門特別講義1		2
デザイン学外実習		1
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
卒業研究	5	

別表第3(第25条関係)

先進工学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
ステップアップ・イングリッシュ1		1
英語コミュニケーションA1		1
ステップアップ・イングリッシュ2		1
英語コミュニケーションA2		1
英語コンプリヘンションA1		1
アドバンスト・コミュニケーションA1		1
英語コンプリヘンションA2		1
アドバンスト・コミュニケーションA2		1
センテンス・ストラクチャ1		1
英語コミュニケーションB1		1
センテンス・ストラクチャ2		1
英語コミュニケーションB2		1
アドバンスト・コンプリヘンションB1		1
アドバンスト・コミュニケーションB1		1
アドバンスト・コンプリヘンションB2		1
アドバンスト・コミュニケーションB2		1
英語コンプリヘンションC1		1
英語コミュニケーションC1		1
英語コンプリヘンションC2		1
英語コミュニケーションC2		1
アドバンスト・コンプリヘンションC1		1
アドバンスト・コミュニケーションC1		1
アドバンスト・コンプリヘンションC2		1
アドバンスト・コミュニケーションC2		1
日本語表現法	1	
情報処理	2	
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
総合科学特論		2

未来ロボティクス学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
ロボット体験実習	2	
プログラミング基礎	2	
未来ロボティクス総合セミナー	2	
数学基礎		2
線形代数学		2
微分積分学		2
物理学基礎		2
ロボット設計製作論実習1	2	
ロボット設計製作論実習2	2	
ロボット設計製作論実習3	2	
ロボット設計製作論実習4	2	
ロボット設計製作論実習5	2	
機械製図		1
ロボット機構学		2
ロボット電子回路		4
ロボットプログラミング		2
メカニクス1		4
制御工学		4
電気電子回路論		4
信号処理論		2
ロボット制御学		2
ロボットシステム学		2
科学技術開発マネジメント		2
科学技術基礎英語		2
電磁気学		2
コミュニケーション論		2
基礎統計学		2
ロボティクスチャレンジ		1
ロボットマニピュレータ		2
センサ工学		2
数値解析学1		2
数値解析学2		2
メカニクス2		2
組込み用コンピュータ実装論		2
認識工学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
ロボットビジョン		2
認知科学		2
ロボットインターフェイス設計論		2
ロボット構造力学		2
アクチュエータ工学		2
CAD/CAM/CAE		2
流体力学		2
ゼミナール1		2
ゼミナール2		2
ゼミナール3		2
ゼミナール4		2
卒業研究	5	

生命科学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
生物学1	2	
数学基礎		2
化学基礎		2
生物学2	2	
微分積分		2
線形代数		2
機器分析学		2
量子化学		2
基礎統計学		2
生命科学基礎演習	1	
分子生物学1		2
生物物理学1		2
生化学1		2
基礎生態学		2
分子生物学2		2
微生物学		2
生化学2		2
遺伝子工学1		2
細胞生物学		2
生物物理学2		2
遺伝子工学2		2
生命科学のための倫理・法律	2	
生命科学基礎実験1	2	
生命科学基礎実験2	2	
構造生物学		2
環境構造学		2
ゲノム科学		2
ウイルス学		2
動物生理学1		2
植物生理学1		2
分子進化学		2
ゲノム生態学		2
分子免疫学		2
生体分子工学1		2
動物生理学2		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
保全生物学		2
生体生理工学		2
公衆衛生学		2
微生物生態学		2
生命情報学		2
植物生理学2		2
生物多様性科学		2
生体分子工学2		2
細胞遺伝学		2
微生物工学		2
医薬品生産技術		2
生態系保全技術		2
生命科学応用実験	2	
卒業研究準備実験	2	
卒業研究	5	

知能メディア工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
数学基礎	2	
線形代数	2	
確率統計	2	
物理学基礎	2	
物理学実験	2	
知能メディア基礎数学	2	
離散数学		2
統計解析		2
プログラミング言語基礎	2	
視覚造形基礎	2	
コンピュータ工学		2
デジタルデザイン基礎演習		2
ネットワーク基礎		2
ヒューマンインタフェース論		2
プログラミング言語応用		2
デジタルファブリケーション		2
メディアデザイン論		2
メディア史		2
人間中心設計	2	
技術者倫理		2
メディア基礎	2	
情報理論	2	
コミュニケーションデザイン演習	2	
知能メディア体験演習	2	
知能メディアプロジェクト1	2	
知能メディアプロジェクト2	2	
メディア工学実験	2	
音響工学基礎		2
画像処理基礎		2
音声工学		2
音響工学応用		2
画像処理応用		2
バーチャルリアリティ		2
人工知能基礎		2
知識工学		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
機械学習		2
コンピュータネットワーク		2
ネットワーク・データ工学実験	2	
データマイニング		2
データベース工学		2
ネットワーク・データ工学応用		2
情報デザイン基礎		2
情報デザイン演習	2	
情報デザイン論		2
テクノロジーアート		2
情報デザイン応用		2
情報デザイン応用演習		2
フィジカルインタフェース		2
ユーザエクスペリエンスデザイン		2
知能メディアチャレンジ		1
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
ゼミナール3	2	
卒業研究	5	

別表第4(第25条関係)

情報科学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
ステップアップ・イングリッシュ1		1
英語コミュニケーションA1		1
ステップアップ・イングリッシュ2		1
英語コミュニケーションA2		1
英語コンプリヘンションA1		1
アドバンスト・コミュニケーションA1		1
英語コンプリヘンションA2		1
アドバンスト・コミュニケーションA2		1
センテンス・ストラクチャ1		1
英語コミュニケーションB1		1
センテンス・ストラクチャ2		1
英語コミュニケーションB2		1
アドバンスト・コンプリヘンションB1		1
アドバンスト・コミュニケーションB1		1
アドバンスト・コンプリヘンションB2		1
アドバンスト・コミュニケーションB2		1
英語コンプリヘンションC1		1
英語コミュニケーションC1		1
英語コンプリヘンションC2		1
英語コミュニケーションC2		1
アドバンスト・コンプリヘンションC1		1
アドバンスト・コミュニケーションC1		1
アドバンスト・コンプリヘンションC2		1
アドバンスト・コミュニケーションC2		1
日本語表現法	1	
情報処理	2	
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
総合科学特論		2

情報工学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
微分積分基礎		2
微分積分応用		2
線形代数基礎		2
線形代数応用		2
確率統計		2
微分方程式		2
応用解析		2
現代代数		2
物理学基礎		2
物理学応用		2
現代物理学		2
物理学実験		2
情報技術		2
情報処理演習	2	
情報処理応用演習	2	
プログラミング演習	2	
プログラミング応用演習	2	
情報工学概論		2
情報基礎論		2
計算機工学		2
論理回路		2
アルゴリズム		2
エレクトロニクス		2
エレクトロニクス応用		2
離散数学基礎		2
離散数学応用		2
ソフトウェア工学		2
プログラミング言語		2
システム理論		2
システムソフトウェア		2
オペレーティングシステム		2
情報理論		2
ソフトウェア基礎演習	2	
ソフトウェア応用演習	2	
情報工学実験	3	

授業科目	単位数	
	必修	選択
計算機制御実験	3	
論理学基礎		2
数値解析		2
情報工学英語		2
データ構造		2
コンパイラ		2
データベース		2
計算機アーキテクチャ		2
デジタル通信		2
デジタル信号処理		2
コンピュータビジョン		2
コンピュータグラフィックス		2
人工知能		2
自然言語理解		2
コンピュータネットワーク		2
ロボット工学		2
音響工学		2
デジタルメディア		2
情報倫理	2	
情報工学基礎ゼミナール	2	
情報工学応用ゼミナール	2	
卒業研究	5	

情報ネットワーク学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
微分積分基礎		2
微分積分応用		2
確率統計		2
微分方程式		2
応用解析		2
線形代数基礎		2
線形代数応用		2
現代代数		2
物理学基礎		2
物理学応用		2
現代物理学		2
物理学実験		2
情報ネットワーク入門		2
情報社会とビジネス		2
情報と論理		2
情報ネットワーク概論		2
情報リテラシ演習		2
Webプログラミング演習		2
ネットワークプログラミング演習		2
ネットワークプログラミング応用演習		2
ICT基礎		2
情報数学基礎		2
情報数学応用		2
OSとシステムソフトウェア		2
アルゴリズム		2
コンピュータネットワーク基礎		2
情報理論		2
情報メディア基礎		2
デジタル回路		2
情報心理学		2
情報心理学応用		2
数値計算		2
ソフトウェア開発論		2
知識工学		2
データベース		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
デジタル信号処理		2
デジタル通信		2
LAN		2
広域ネットワーク		2
ネットワーク応用		2
分散処理		2
音響科学		2
認知科学		2
ビジュアルコンテンツデザイン		2
コンピュータグラフィックス		2
コンピュータビジョン		2
オーディオコンテンツ		2
情報ネットワーク英語		2
Webシステム基礎実験		2
Webアプリケーション構築実験		2
情報倫理		2
ネットワーク管理実習		2
情報ネットワーク基礎ゼミナール	2	
情報ネットワーク応用ゼミナール	2	
卒業研究	5	

別表第5(第25条関係)

社会システム科学部 教養科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
ステップアップ・イングリッシュ1		1
英語コミュニケーションA1		1
ステップアップ・イングリッシュ2		1
英語コミュニケーションA2		1
英語コンプリヘンションA1		1
アドバンスト・コミュニケーションA1		1
英語コンプリヘンションA2		1
アドバンスト・コミュニケーションA2		1
センテンス・ストラクチャ1		1
英語コミュニケーションB1		1
センテンス・ストラクチャ2		1
英語コミュニケーションB2		1
アドバンスト・コンプリヘンションB1		1
アドバンスト・コミュニケーションB1		1
アドバンスト・コンプリヘンションB2		1
アドバンスト・コミュニケーションB2		1
英語コンプリヘンションC1		1
英語コミュニケーションC1		1
英語コンプリヘンションC2		1
英語コミュニケーションC2		1
アドバンスト・コンプリヘンションC1		1
アドバンスト・コミュニケーションC1		1
アドバンスト・コンプリヘンションC2		1
アドバンスト・コミュニケーションC2		1
日本語表現法	1	
情報処理	2	
スポーツ科学	2	
初年次教育	1	
キャリアデザイン1	1	
キャリアデザイン2	1	
キャリアデザイン3	1	
異文化理解	2	
言語と文化1	2	
言語と文化2	2	
グローバル時代の法		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
国際社会論		2
哲学		2
倫理学		2
文学と芸術		2
歴史と人間		2
心理学		2
身体と健康の科学		2
憲法と社会		2
政治と社会		2
経済学		2
現代社会論		2
科学技術史		2
環境科学概論		2
生命科学		2
地球科学		2
物理の世界と先端技術		2
物質科学		2
課題探究セミナー		2
総合学際科目		2
イングリッシュアクティブラーニング1		1
イングリッシュアクティブラーニング2		1
イングリッシュアクティブラーニング3		1
スポーツアクティブラーニング		2
ソーシャルアクティブラーニング		1
国際インターン		1
国内インターン		1
ボランティア		1
総合科学特論		2

経営情報科学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
基礎数学および演習		4
線形代数入門		2
データ解析入門		2
データマイニング入門		2
オペレーションズリサーチ入門		2
コンピュータリテラシ	2	
情報リテラシ		2
ベンチャービジネス論		2
科学技術者倫理		2
環境保護と法		2
社会システム科学入門	2	
社会システムと意思決定		2
企業の法的環境		2
ビジネスコミュニケーション		2
フィールドアクティビティ		2
情報処理基礎および演習		4
コンピュータサイエンス入門		2
プログラム言語基礎		2
プログラム言語とプログラミング		2
プログラム言語応用		2
データ構造入門		2
離散数学		2
微分方程式		2
情報システム基礎		2
情報ネットワーク		2
オペレーションズリサーチ応用		2
知的財産権		2
企業と経営		2
インターンシップ概論		2
会計システムおよび演習		4
リスクマネジメント概論		2
原価管理および演習		4
経営管理論		2
システム方法論		2
環境システム科学		2
金融工学入門		2
プロジェクトマネジメント概論	2	
プロジェクトとシステム構築		2
プロジェクトとシステム運用		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
プロジェクトと表現技法		2
ナレッジマネジメント		2
コミュニケーションマネジメント		2
産官学連携ビジネス創成論		2
プロジェクト計画		2
コストマネジメント		2
プロジェクト運営と意思決定		2
プロジェクトエンジニアリング		2
人間工学概論		2
行動科学分析		2
生産システム工学		2
組織学習		2
技術経営		2
生産管理		2
品質管理		2
環境リスクマネジメント		2
マーケティングマネジメント		2
ロジスティクス		2
情報数学		2
オブジェクト指向システム設計		2
モデリング手法概論		2
問題解決システム		2
応用情報処理および演習		4
経営情報システム		2
マルチメディア情報処理		2
流通情報システム論		2
情報システム開発および演習		2
環境マネジメントおよび演習		2
多変量解析および演習		2
作業環境設計および演習		2
生産システムおよび演習		2
企業実習		2
情報システム開発		2
プロジェクトマネジメント実験		2
プロジェクトマネジメント演習		2
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
課題研究		2
卒業研究	5	

プロジェクトマネジメント学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
基礎数学および演習		4
線形代数入門		2
データ解析入門		2
データマイニング入門		2
オペレーションズリサーチ入門		2
コンピュータリテラシ	2	
情報リテラシ		2
ベンチャービジネス論		2
科学技術者倫理		2
環境保護と法		2
社会システム科学入門	2	
企業の法的環境		2
社会システムと意思決定		2
ビジネスコミュニケーション		2
フィールドアクティビティ		2
情報処理基礎および演習		4
コンピュータサイエンス入門		2
プログラム言語基礎		2
プログラム言語とプログラミング		2
プログラム言語応用		2
データ構造入門		2
離散数学		2
微分方程式		2
情報システム基礎		2
情報ネットワーク		2
オペレーションズリサーチ応用		2
知的財産権		2
企業と経営		2
インターンシップ概論		2
会計システムおよび演習		4
リスクマネジメント概論		2
経営管理論		2
システム方法論		2
環境システム科学		2
金融工学入門		2
プロジェクトマネジメント概論	2	
プロジェクトとシステム構築		2
プロジェクトとシステム運用		2
プロジェクトと表現技法		2
プロジェクトリスク管理		2
ナレッジマネジメント		2
コミュニケーションマネジメント		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
産官学連携ビジネス創成論		2
プロジェクト計画		2
コストマネジメント		2
プロジェクト運営と意思決定		2
品質マネジメント		2
プロジェクトエンジニアリング		2
モデリングとシミュレーション		2
情報とセキュリティ		2
マルチメディアシステム概論		2
コンピュータネットワークとアプリケーション		2
ソフトウェア開発の定量化技法		2
ソフトウェア開発管理		2
プロジェクト評価		2
情報技術社会論		2
数理計画		2
プロジェクトと企業行動		2
経営システム工学		2
創造技法		2
スケジューリング技法		2
社会技術概論		2
プロジェクト戦略と事業企画		2
研究開発技法		2
生産システムマネジメント		2
経営戦略		2
ものづくりマネジメント		2
サービスマネジメント		2
サイバーマニュファクチャリング		2
ユーザ要求とシステム設計		2
ユーザビリティエンジニアリング		2
技術経営論		2
情報システム開発		2
プロジェクトマネジメント実験		2
プロジェクトマネジメント演習		2
環境マネジメントおよび演習		2
多変量解析および演習		2
作業環境設計および演習		2
生産システムおよび演習		2
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
課題研究		2
卒業研究	5	

金融・経営リスク科学科 専門科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
基礎数学および演習		4
線形代数入門		2
データ解析入門		2
データマイニング入門		2
オペレーションズリサーチ入門		2
コンピュータリテラシ		2
情報リテラシ		2
ベンチャービジネス論		2
科学技術者倫理		2
環境保護と法		2
社会システム科学入門	2	
企業の法的環境		2
社会システムと意思決定		2
ビジネスコミュニケーション		2
フィロソフィ・アクティビティ		2
情報処理基礎および演習		4
プログラム言語基礎		2
コンピュータサイエンス入門		2
リスク科学概論	2	
経済金融入門	2	
ファイナンス概論		2
現代技術論	2	
環境リスク		2
確率論		2
安全システム工学		2
投資意思決定の数理		2
知的財産権		2
経営管理論		2
リスク対策と保険		2
会計システム		2
金融リスク論	2	
情報リスクマネジメント	2	
製品安全マネジメント	2	
環境リスク分析	2	
生活とリスク		2
安全と安心の心理		2
社会心理学		2
グローバル・スタディーズⅠ		2
グローバル・スタディーズⅡ		2

授業科目	単位数	
	必修	選択
データサイエンスおよび演習		2
サービスサイエンス入門		2
組織運営のリスクマネジメント		2
金融工学		2
投資戦略と評価		2
コーポレートファイナンス		2
情報技術社会論		2
情報システム開発		2
サイバーリスクマネジメント		2
技術開発リスクマネジメント		2
資源・エネルギーリスクマネジメント		2
産業・組織心理学		2
防災および危機管理システム		2
環境リスクマネジメントおよび演習		2
ヒューマンファクタのリスクおよび演習		2
リスクコミュニケーションおよび演習		2
生産システムおよび演習		2
投資シミュレーションおよび演習		2
金融・経営リスクマネジメント実験	2	
ゼミナール1	2	
ゼミナール2	2	
課題研究	2	
卒業研究	5	

別表第6(第25条関係)

教職課程に関する科目(学士の学位を授与するための授業科目を除く。)

1. 教職に関する科目

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
教職概論		2	※
教育原理		2	※
教育心理学		2	※
教育行政学		2	※
教育と社会		2	
教育課程論		2	※
数学科教育法1		2	中・高一種免(数学)必修
数学科教育法2		2	中・高一種免(数学)必修
数学科教育法3		2	
数学科教育法4		2	
理科教育法1		2	中・高一種免(理科)必修
理科教育法2		2	中・高一種免(理科)必修
理科教育法3		2	
理科教育法4		2	
情報科教育法1		2	高一種免(情報)必修
情報科教育法2		2	高一種免(情報)必修
工業科教育法1		2	高一種免(工業)必修
工業科教育法2		2	高一種免(工業)必修
商業科教育法1		2	高一種免(商業)必修
商業科教育法2		2	高一種免(商業)必修
道德教育の理論と実践		2	中一種免のみ履修可(必修)
特別活動論		2	※
教育工学		2	※
生徒指導・進路指導論		2	※
教育相談		2	※
教育実習事前事後指導		1	高一種免(工業)以外は必修
教育実習A		4	高一種免(工業)以外は必修
教育実習B		2	高一種免(工業)以外は必修
教職実践演習(中・高)		2	※

(注)※印の科目は、全教職課程履修者必修。

2. 教科に関する科目

工学部 機械工学科, 機械電子創成工学科, 先端材料工学科, 電気電子工学科

創造工学部 都市環境工学科

社会システム科学部 経営情報科学科

(工業)

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
職業指導1		2	高一種免(工業)必修

工学部 応用化学科

(理科)

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
電磁気学		2	
宇宙科学		2	
生物学実験		2	中一種免(理科)必修
地学実験		2	中一種免(理科)必修

情報科学部 情報工学科, 情報ネットワーク学科

社会システム科学部 経営情報科学科, プロジェクトマネジメント学科

(数学)

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
代数学1		2	中・高一種免(数学)必修
代数学2		2	中・高一種免(数学)必修
代数学3		2	
幾何学1		2	中・高一種免(数学)必修
幾何学2		2	中・高一種免(数学)必修
幾何学3		2	
解析学1		2	中・高一種免(数学)必修
解析学2		2	中・高一種免(数学)必修
解析学3		2	
統計解析		2	※1
数学特論1		2	※2
数学特論2		2	※3

(注)※1 情報科学部のみ履修可。

※2・3 社会システム科学部のみ履修可。

情報科学部 情報工学科, 情報ネットワーク学科
 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
 (情報)

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
情報と職業		2	高一種免(情報)必修

社会システム科学部 経営情報科学科
 (商業)

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
職業指導2		2	高一種免(商業)必修

3. 教科又は教職に関する科目

工学部 応用化学科
 情報科学部 情報工学科, 情報ネットワーク学科
 社会システム科学部 経営情報科学科, プロジェクトマネジメント学科

授業科目	単位数		備 考
	必修	選択	
介護体験入門		1	中一種免必修

別表第7(第49条関係)

授業科目		単位数	
		必修	選択
日本語	日本語基礎1		1
	日本語基礎2		1
	日本語初級1		3
	日本語初級2		3
	日本語中級1		2
	日本語中級2		2
	日本語表現		1
	理工系日本語		1
日本事情	日本事情1		2
	日本事情2		2
	日本事情3		2
	日本事情4		2
	日本事情5		2
	日本事情6		2
	日本事情7		2
	日本事情8		2
	日本事情ゼミナール		2

別表第8(第50条関係)

1 平成28年度入学検定料 単位:円

試験種別	1試験種の検定料
推薦・AO・特別入学試験	30,000

単位:円

試験種別	1つのタイプで出願した場合の検定料	2つのタイプで出願した場合の検定料
大学入試センター利用入学試験(前期)	15,000	20,000

※この試験には2種類のタイプがあります。

単位:円

試験種別	検定料
大学入試センター利用入学試験(中期)	15,000

単位:円

試験種別	1日分の検定料	2日目以降の追加検定料(1日あたり)
A日程入学試験	30,000	5,000
B日程入学試験	30,000	5,000
大学入試センター利用入学試験(後期)	20,000	
C日程入学試験	30,000	

2 平成28年度入学生納付金

単位:円

学部	入学金	授業料	合計
工学部 創造工学部 先進工学部 情報科学部 社会システム科学部	200,000	1,350,000	1,550,000

3 平成28年度入学生の次年度以降の授業料は、3学部共毎年3万円増とする。

なお、社会情勢により金額は変動することがある。

千葉工業大学教授会運営規程

(目的)

第1条 この規程は、千葉工業大学学則（以下「学則」という。）第8条の2第7項に基づき、教授会を円滑に運営するために必要な事項を定めることを目的とする。

(構成)

第2条 教授会は、当該学部には所属する専任教授により組織する。

2 学部長は、必要あると認めた場合に、教授会の承認を得て、教授会に当該学部には所属する准教授、助教及びその他の職員を参加させることができる。

(審議事項)

第3条 教授会は、学則第8条の2第5項に定められた次の事項について学長に意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学及び卒業に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育・研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

(招集)

第4条 教授会は、学部長が必要と認めたときに招集する。

2 学部長は、当該学部には所属する教授の3分の1以上の請求があるときは、10日以内に教授会を招集しなければならない。

3 学部長は、学長の請求があるときは、10日以内に教授会を招集しなければならない。

(成立)

第5条 当該学部には所属する教授は、教授会に出席するものとする。ただし、止むを得ない理由により欠席する場合は、委任状をもって出席に代えることができる。

2 教授会は、委任状を含め2分の1以上の出席をもって成立する。

(議長)

第6条 教授会の議長は、学部長とする。

2 学部長に事故あるときは、副学部長又は教授会で互選された者が議長となる。

(議決)

第7条 教授会の議決は、出席者の過半数の同意をもって可決する。ただし、可否同数の場合は、議長がこれを採決する。

(報告)

第8条 学部長は、教授会終了後、第3条に規定する事項について、当該教授会の意見をすみやかに学長に報告しなければならない。

(事務)

第9条 教授会の事務は、学務部が所管する。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、理事会の議決を経なければならない。

附則

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成17年2月22日から施行する。

附則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附則

1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。

2 学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程第4条第1項に規定する継続教員は、第2条第1項の規定にかかわらず、第3条第1項第5号を審議する教授会の構成員とはならない。

附則

1 この規程は、平成27年4月1日から施行する。

2 学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程第4条第1項に規定する継続教員は、第2条第1項の規定にかかわらず、教員の教育・研究業績に関し意見を述べる教授会の構成員とはならない。

千葉工業大学合同教授会運営規程

(目的)

第1条 この規程は、千葉工業大学学則（以下「学則」という。）第8条の3第3項に基づき、合同教授会を円滑に運営するために必要な事項を定めることを目的とする。

(構成)

第2条 合同教授会は、学長及び専任教授により組織する。

2 学長は、必要があると認めた場合に、合同教授会の承認を得て、合同教授会に准教授、助教及びその他の職員を参加させることができる。

(審議事項)

第3条 合同教授会は、学則第8条の3第2項に定める次の事項について学長に意見を述べるものとする。

(1) 学則の改正に関する事項

(2) 前号に掲げるもののほか、教育・研究に関する重要な事項で、合同教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項

(招集)

第4条 合同教授会は、学長が必要と認めたときに招集する。

2 学長は、専任教授の3分の1以上の請求があるときは、10日以内に合同教授会を招集しなければならない。

(成立)

第5条 教授は、合同教授会に出席するものとする。ただし、止むを得ない理由により欠席する場合は、委任状をもって出席に代えることができる。

2 合同教授会は、委任状を含め2分の1以上の出席をもって成立する。

(議長)

第6条 合同教授会の議長は、学長とする。

2 学長に事故あるときは、副学長又は合同教授会で互選された者が議長となる。

(議決)

第7条 合同教授会の議決は、出席者の過半数の同意をもって可決する。ただし、可否同数の場合は、議長がこれを採決する。

(事務)

第8条 合同教授会の事務は、学務部が所管する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、合同教授会の審議を経て、理事会の議決を経なければならない。

付則

この規程は、平成13年4月1日より施行する。

附則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附則

- 1 この規程は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程第4条第1項に規定する継続教員は、第2条第1項の規定にかかわらず、第3条第1項第1号を審議する合同教授会の構成員とはならない。

附則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類 目次

ア 設置の趣旨及び必要性	P. 1
イ 学部・学科等の特色	P. 7
ウ 学部・学科等の名称及び学位の名称	P.10
エ 教育課程の編成の考え方及び特色	P.14
オ 教員組織の編成の考え方及び特色	P.27
カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	P.29
キ 施設、設備等の整備計画	P.31
ク 入学者選抜の概要	P.34
ケ 取得可能な資格	P.37
コ 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的な計画	P.37
サ 管理運営	P.38
シ 自己点検・評価	P.39
ス 情報の公表	P.41
セ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P.43
ソ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	P.44

設置の趣旨を記載した書類

ア 設置の趣旨及び必要性

1. 大学及び学部等の沿革

千葉工業大学は、昭和 17 年に予科 3 年、学部 3 年の旧制興亜工業大学として設立されて以来、伝統的な工業系の単科大学として発展を続け、昭和 21 年には大学名称を千葉工業大学に変更、平成 13 年からは時代の変化や社会の要請を踏まえて、新たに情報科学部及び社会システム科学部を設置、平成 15 年には工学部の学科を再編するとともに、平成 18 年には工学部に未来ロボティクス学科を設置、平成 21 年には社会システム科学部に金融・経営リスク科学科を設置し、3 学部 11 学科体制により現在に至っている。

本学は、開学以来、関東圏を中心とする地域社会や地域産業を支える技術者の養成を目指して、建学の精神である「世界文化に技術で貢献する」に基づき、学部教育における教育目標を達成するために、常に、教育・研究環境の整備充実に努めるとともに、当該専門分野に関する実践的な教育を展開してきたことから、8 万人余の有為な人材を輩出することにより、地域社会を中心に多大な貢献をもたらしてきた。

本学の工学部は、平成 15 年に既設の機械工学科、金属工学科、電気工学科、電子工学科、工業化学科、土木工学科、建築学科、精密機械工学科、工業デザイン学科を母体として、機械サイエンス学科、電気電子情報工学科、生命環境科学科、建築都市環境学科、デザイン科学科の 5 学科体制に改編し、現在では未来ロボティクス学科を加えた 6 学科体制により、工学と工業の発展に対応しうる基礎知識及びものづくりに関する知見を有した創造性豊かな人材の養成を目指した教育・研究を展開している。

2. 設置の趣旨及び必要性

近年、社会及び産業界における科学技術の波は急速に進展しており、科学技術の高度化や多様化により、工学分野の教育研究領域は大きな広がりを見せていることから、将来における学問研究の進展も視野に入れ、複合的な分野を含めて広く工学分野の学問的な成果を取り込める教育環境を整備することにより、今後の高度技術

化社会に一層貢献できる学部教育としての充実が求められている。

また、現代社会においては、工学における基幹分野に関する専門教育の重要性が認知されている一方、基幹分野の一つを中核とした学問分野の拡がり、基幹分野間の融合、基幹分野から社会的応用への展開、さらには、基幹分野全域の総合化などの多様な教育体系が求められていることから、工学における基幹分野に関する基礎教育の充実とともに、工学教育の学際化や総合化への対応にむけて、既設の工学部の教育組織を発展的に改組再編する必要性が生じてきている。

このことから、時代の変化と社会の要請に柔軟に対応しつつ、学部教育の多様な発展と特色ある教育研究への取り組みにむけて、既設の工学部の未来ロボティクス学科と生命環境科学科において展開してきた教育内容を基盤として、その教育課程及び教員組織並びに施設設備等を基礎としつつ、当該分野のさらなる教育研究の発展と充実を目指して、未来ロボティクス学科、知能メディア工学科、生命科学科の3学科から組織される先進工学部を設置することとした。(資料1)

3. 卒業後の進路と養成する人材を受け入れる側の需要

(1) 未来ロボティクス学科

①卒業後の進路

未来ロボティクス学科の卒業後の進路としては、知能機械器具製造業、生活用機械器具製造業、産業用機械器具製造業、生産用機械器具製造業などをはじめとする機械製造関連分野を中心として、企画・開発、設計・管理などの職種に携わることであり、幅広く活躍することが期待される。

②基礎となる学科の求人実績

未来ロボティクス学科の基礎となる既設の工学部の未来ロボティクス学科では、開設以来、学科教育における人材養成の目的を達成するために、常に教育研究の改善に努めてきたことから、地域社会からの高い評価と信頼を得ており、これまでに寄せられた求人件数については、相当数の実績を有していることから、人材を受け入れる側の需要の高さを窺うことができる。(資料2)

今般の未来ロボティクス学科の設置計画においては、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、既設の未来ロボティクス学科における卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を十分に勘案したうえで、地域社会の多様な場におい

て活躍する幅広い職業人の養成を目的として、教育内容を充実して設置することから、これまで以上の求人件数を見込むことができるものと考えている。

③卒業生の採用意向調査

未来ロボティクス学科の設置計画を策定するうえで、卒業後の具体的な進路や地域社会の人材需要の見通しなどについて把握するために、民間企業などを対象として、未来ロボティクス学科において養成する人材や設置の必要性、未来ロボティクス学科の卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、民間企業などにおいては、先進工学部で養成する人材については、有効回答数 808 社の約 38%にあたる 309 社が必要性を認めており、先進工学部の設置については、有効回答数 808 社の約 64%にあたる 520 社がその必要性を認めており、また、未来ロボティクス学科を卒業した人材に対する採用意向については、有効回答数 808 社の約 28%にあたる 233 社が採用の意向を示しており、今般の限定された民間企業などに対する調査結果においても、未来ロボティクス学科を卒業した人材への需要は高いことが認められることから、卒業後の進路は十分に見込めるものと考えられる。(資料 3)

(2) 生命科学科

①卒業後の進路

生命科学科の卒業後の進路としては、食料品製造業や飲料製造業、化学工業製品製造業、医薬品製造業などをはじめ、理学・農学研究所や医学・薬学研究所などの学術・開発研究機関等において、研究・開発や企画・管理などの職種に携わることであり、幅広く活躍することが期待される。

②基礎となる学科の求人実績

生命科学科の基礎となる既設の工学部の生命環境科学科では、開設以来、学科教育における人材養成の目的を達成するために、常に教育研究の改善に努めてきたことから、地域社会からの高い評価と信頼を得ており、これまでに寄せられた求人件数については、相当数の実績を有していることから、人材を受け入れる側の需要の高さを窺うことができる。(資料 2)

今般の生命科学科の設置計画においては、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、既設の生命環境科学科における卒業生の進路や卒業生を受け入れ

る側の需要を十分に勘案したうえで、地域社会の多様な場において活躍する幅広い職業人の養成を目的として、教育内容を充実して設置することから、これまで以上の求人件数を見込むことができるものと考えている。

③卒業生の採用意向調査

生命科学科の設置計画を策定するうえで、卒業後の具体的な進路や地域社会の人材需要の見通しなどについて把握するために、民間企業などを対象として、生命科学科において養成する人材や設置の必要性、生命科学科の卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、民間企業などにおいては、先進工学部で養成する人材については、有効回答数 808 社の約 38%にあたる 309 社が必要性を認めており、先進工学部の設置については、有効回答数 808 社の約 64%にあたる 520 社がその必要性を認めており、また、生命科学科を卒業した人材に対する採用意向については、有効回答数 808 社の約 11%にあたる 93 社が採用の意向を示しており、今般の限定された民間企業などに対する調査結果においても、生命科学科を卒業した人材への需要は高いことが認められることから、卒業後の進路は十分に見込めるものと考えられる。(資料 3)

(3) 知能メディア工学科

①卒業後の進路

知能メディア工学科の卒業後の進路としては、ソフトウェア業や情報処理・提供サービス業、映像・音声・文字情報制作業及び映像・音声・文字情報制作に附随するサービス業、インターネット附随サービス業、映像・音響機械器具製造業などにおいて、企画・開発、設計・管理などの職種に携わることにより、幅広く活躍することが期待される。

②基礎となる学科の求人実績

知能メディア工学科の基礎となる既設の工学部の電気電子情報工学科及びデザイン科学科では、開設以来、学科教育における人材養成の目的を達成するために、常に教育研究の改善に努めてきたことから、地域社会からの高い評価と信頼を得ており、これまでに寄せられた求人件数については、相当数の実績を有していることから、人材を受け入れる側の需要の高さを窺うことができる。(資料 2) ※過去 5

年間の就職者（求職者数、求人件数、就職者数）実績

今般の知能メディア工学科の設置計画においては、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、既設の電気電子情報工学科及びデザイン科学科における卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を十分に勘案したうえで、地域社会の多様な場において活躍する幅広い職業人の養成を目的として、教育内容を充実して設置することから、これまで以上の求人件数を見込むことができるものと考えている。

③卒業生の採用意向調査

知能メディア工学科の設置計画を策定するうえで、卒業後の具体的な進路や地域社会の人材需要の見通しなどについて把握するために、民間企業などを対象として、知能メディア工学科において養成する人材や設置の必要性、知能メディア工学科の卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、民間企業などにおいては、先進工学部で養成する人材については、有効回答数 808 社の約 38%にあたる 309 社が必要性を認めており、先進工学部の設置については、有効回答数 808 社の約 64%にあたる 520 社がその必要性を認めており、また、知能メディア工学科を卒業した人材に対する採用意向については、有効回答数 808 社の約 18%にあたる 153 社が採用の意向を示しており、今般の限定された民間企業などに対する調査結果においても、知能メディア工学科を卒業した人材への需要は高いことが認められることから、卒業後の進路は十分に見込めるものと考えられる。（資料 3）

3. 教育研究上の目的及び養成する人材並びに研究対象とする学問分野

（1）先進工学部

先進工学部では、「先端科学技術や学際的領域に関する教育研究を通して、専門分野の基礎的・基本的な知識や技術及び技能を身に付けるための教育とともに、新しい時代に即した基礎と応用の融合による教育を行うことで、人間の生活における利便性を向上させ、専門分野における先進的な領域を開拓していく素養と実践的な能力を身に付けた幅広い職業人を育成することにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的とする。

また、先進工学部では、学部教育における教育研究上の目的を踏まえたうえで、

「先端科学技術や学際的領域の専門分野に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得とともに、産業構造の変化や科学技術の進歩等の情勢の変化に対応しつつ、異なる分野の知識や技術及び技能を融合・組み合わせて、新しい知識の創造や先進的な技術を開発することができる実践的な能力や態度を身に付けた工業技術者を養成する」こととしている。

(2) 未来ロボティクス学科

未来ロボティクス学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「ロボティクス学分野」として、「機械工学、電気工学、電子工学、情報工学、制御工学に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ロボットに関する基本的な原理を理解させるとともに、人間の生活における利便性を向上させ、将来、ロボティクスの先進的な領域を開拓していく素養と実践的な能力を育成することにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、未来ロボティクス学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」のもとに、「機械設計、電気・電子回路設計、プログラミング、制御システム設計に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力を身に付けるとともに、将来的な発展性が期待されている制御技術や人工知能に関する製造技術者や開発技術者となり得る素養や資質を有する人材を養成する」こととしている。

(3) 生命科学科

生命科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「生命科学分野」として、「生命科学に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における生命科学の意義や役割を理解させるとともに、生命現象や利用技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観を持って解決し、将来、生命科学の先進的な領域を開拓していく素養と実践的な能力を育成することにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、生命科学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」のもとに、「生命科学の基本的な概念や原理と法則の理解を深め、生命

の複雑なシステムや生命現象及び個々の生命機能など、生命現象の共通性や多様性の理解とともに、これらを人類の健康や福祉の増進や人類が直面している環境課題や食料問題などの解決に活用することができる柔軟な発想力と問題解決能力を有した人材を養成する」こととしている。

(4) 知能メディア工学科

知能メディア工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「メディア工学分野」として、「メディア情報の処理に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、マルチメディア対応の人工知能分野の基礎と応用についての理解を通して、人間の生活における利便性を向上させ、将来、メディア工学の先進的な領域を開拓していく素養と実践的な能力を育成することにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、知能メディア工学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」のもとに、「音響・音声・画像などのメディア処理技術及びマルチメディアを活用した情報表現とマルチメディアに関連した情報技術の基礎的な知識と技術を習得させるとともに、将来的な発展性が期待されているマルチメディア対応の人工知能分野のシステム開発やコンテンツ・デザイン制作ができる技術者となり得る素養や資質を有する人材を養成する」こととしている。

イ 学部、学科の特色

1. 先進工学部

先進工学部では、「先端科学技術や学際的領域に関する教育研究を通して、専門分野の基礎的・基本的な知識や技術及び技能を身に付けるための教育とともに、新しい時代に即した基礎と応用の融合による教育を行うことで、人間の生活における利便性を向上させ、専門分野における先進的な領域を開拓していく素養と実践的な能力を身に付けた幅広い職業人を育成することにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的とする。

また、先進工学部では、学部教育における教育研究上の目的を踏まえたうえで、「先端科学技術や学際的領域の専門分野に関する基礎的・基本的な知識と技術の習

得とともに、産業構造の変化や科学技術の進歩等の情勢の変化に対応しつつ、異なる分野の知識や技術及び技能を融合・組み合わせて、新しい知識の創造や先進的な技術を開発することができる実践的な能力や態度を身に付けた工業技術者を養成する」こととしている。

このことから、先進工学部が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえたうえで、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことによる学部教育としての明確化を図ることとする。

2. 未来ロボティクス学科

未来ロボティクス学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「ロボティクス学分野」として、「機械工学、電気工学、電子工学、情報工学、制御工学に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ロボットに関する基本的な原理を理解させるとともに、人間の生活における利便性を向上させ、将来、ロボティクスの先進的な領域を開拓していく素養と実践的な能力を育成することにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、未来ロボティクス学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」のもとに、「機械設計、電気・電子回路設計、プログラミング、制御システム設計に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力を身に付けるとともに、将来的な発展性が期待されている制御技術や人工知能に関する製造技術者や開発技術者となり得る素養や資質を有する人材を養成する」こととしている。

さらに、未来ロボティクス学科の卒業後の進路としては、知能機械器具製造業、生活用機械器具製造業、産業用機械器具製造業、生産用機械器具製造業などをはじめとする機械製造関連分野を中心として、企画・開発、設計・管理などの職種に携わることにより、幅広く活躍することが期待される。

このことから、未来ロボティクス学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申による「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、ロボティクス分野における教育・研究を通して、

「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことによる特色の明確化を図ることとしている。

3. 生命科学科

生命科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「生命科学分野」として、「生命科学に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における生命科学の意義や役割を理解させるとともに、生命現象や利用技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観を持って解決し、将来、生命科学の先進的な領域を開拓していく素養と実践的な能力を育成することにより、国際社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、生命科学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」のもとに、「生命科学の基本的な概念や原理と法則の理解を深め、生命の複雑なシステムや生命現象及び個々の生命機能など、生命現象の共通性や多様性の理解とともに、これらを人類の健康や福祉の増進や人類が直面している環境課題や食料問題などの解決に活用することができる柔軟な発想力と問題解決能力を有した人材を養成する」こととしている。

さらに、生命科学科の卒業後の進路としては、食料品製造業や飲料製造業、化学工業製品製造業、医薬品製造業などをはじめ、理学・農学研究所や医学・薬学研究所などの学術・開発研究機関等において、研究・開発や企画・管理などの職種に携わることにより、幅広く活躍することが期待される。

このことから、生命科学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申による「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、生命科学分野における教育・研究を通して、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことによる特色の明確化を図ることとしている。

4. 知能メディア工学科

知能メディア工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「メディア工学分野」として、「メディア情報の処理に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、マルチメディア対応の人工知能分野の基礎と応用についての理解を通して、人間の生活における利便性を向上させ、将来、メディア工学の

先進的な領域を開拓していく素養と実践的な能力を育成することにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、知能メディア工学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」のもとに、「音響・音声・画像などのメディア処理技術及びマルチメディアを活用した情報表現とマルチメディアに関連した情報技術の基礎的な知識と技術を習得させるとともに、将来的な発展性が期待されているマルチメディア対応の人工知能分野のシステム開発やコンテンツ・デザイン制作ができる技術者となり得る素養や資質を有する人材を養成する」こととしている。

さらに、知能メディア工学科の卒業後の進路としては、ソフトウェア業や情報処理・提供サービス業、映像・音声・文字情報制作業及び映像・音声・文字情報制作に附帯するサービス業、インターネット附随サービス業、映像・音響機械器具製造業などにおいて、企画・開発、設計・管理などの職種に携わることにより、幅広く活躍することが期待される。

このことから、知能メディア工学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申による「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、メディア工学分野における教育・研究を通して、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うことによる特色の明確化を図ることとしている。

ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

1. 先進工学部

先進工学部では、「先端科学技術や学際的領域に関する教育研究を通して、専門分野の基礎的・基本的な知識や技術及び技能を身に付けるための教育とともに、新しい時代に即した基礎と応用の融合による教育を行うことで、人間の生活における利便性を向上させ、専門分野における先進的な領域を開拓していく素養と実践的な能力を身に付けた幅広い職業人を育成することにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的とする。

また、先進工学部では、学部教育における教育研究上の目的を踏まえたうえで、

「先端科学技術や学際的領域の専門分野に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得とともに、産業構造の変化や科学技術の進歩等の情勢の変化に対応しつつ、異なる分野の知識や技術及び技能を融合・組み合わせて、新しい知識の創造や先進的な技術の開発をすることができる実践的な能力や態度を身に付けた工業技術者を養成する」こととしている。

このような、先進工学部における教育研究上の目的や養成する人材と組織として教育研究対象とする中心的な学問分野などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科名称を「先進工学部」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、「Faculty of Advanced Engineering」とすることとした。

なお、学部名称に「先進」を冠することとした理由については、先進工学部では、先端科学技術や学際的領域に関する教育研究を通して、専門分野における基礎的・基本的な知識と技術及び技能の習得のもとに、異なる分野の知識や技術及び技能を融合・組み合わせて、新しい知識の創造や先進的な技術の開発をすることができる実践的な能力や態度を育成することからである。

学部の名称

先進工学部 「Faculty of Advanced Engineering」

2. 未来ロボティクス学科

未来ロボティクス学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「ロボティクス学分野」として、「機械工学、電気工学、電子工学、情報工学、制御工学に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ロボットに関する基本的な原理を理解させるとともに、人間の生活における利便性を向上させ、将来、ロボティクスの先進的な領域を開拓していく素養と実践的な能力を育成することにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、未来ロボティクス学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」のもとに、「機械設計、電気・電子回路設計、プログラミング、制御システム設計に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力を身に付けるとともに、将来的な発展性が期待されている制御技術や人工知能に関する製

造技術者や開発技術者となり得る素養や資質を有する人材を養成する」こととしている。

このような、未来ロボティクス学科における教育研究上の目的や養成する人材と組織として教育研究対象とする中心的な学問分野などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科名称を「未来ロボティクス学科」、学位を「学士（工学）」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、学科の英訳名称を「Department of Advanced Robotics」、学位の英訳名称を「Bachelor of Engineering」とすることとした。

なお、学科名称に「未来」を付す理由については、未来ロボティクス学科では、将来的な発展性が期待されている制御技術や人工知能に関する製造技術者や開発技術者となり得る先端的な素養や資質を有する人材の養成を目的としていることから、「未来ロボティクス学科」とすることとした。

学科の名称

未来ロボティクス学科 「Department of Advanced Robotics」

学位の名称

学士（工学） 「Bachelor of Engineering」

3. 生命科学科

生命科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「生命科学分野」として、「生命科学に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における生命科学の意義や役割を理解させるとともに、生命現象や利用技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観を持って解決し、将来、生命科学の先進的な領域を開拓していく素養と実践的な能力を育成することにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、生命科学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」のもとに、「生命科学の基本的な概念や原理と法則の理解を深め、生命の複雑なシステムや生命現象及び個々の生命機能など、生命現象の共通性や多様性の理解とともに、これらを人類の健康や福祉の増進や人類が直面している環境課題や食料問題などの解決に活用することができる柔軟な発想力と問題解決能力を有

した人材を養成する」こととしている。

このような、生命科学科における教育研究上の目的や養成する人材と組織として教育研究対象とする中心的な学問分野などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科名称を「生命科学科」、学位を「学士（工学）」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、学科の英訳名称を「Department of Life Science」、学位の英訳名称を「Bachelor of Engineering」とすることとした。

学科の名称

生命科学科 「Department of Life Science」

学位の名称

学士（工学） 「Bachelor of Engineering」

4. 知能メディア工学科

知能メディア工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「メディア工学分野」として、「メディア情報の処理に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、マルチメディア対応の人工知能分野の基礎と応用についての理解を通して、人間の生活における利便性を向上させ、将来、メディア工学の先進的な領域を開拓していく素養と実践的な能力を育成することにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、知能メディア工学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」のもとに、「音響・音声・画像などのメディア処理技術及びマルチメディアを活用した情報表現とマルチメディアに関連した情報技術の基礎的な知識と技術を習得させるとともに、将来的な発展性が期待されているマルチメディア対応の人工知能分野のシステム開発やコンテンツ・デザイン制作ができる技術者となり得る素養や資質を有する人材を養成する」こととしている。

このような、知能メディア工学科における教育研究上の目的や養成する人材と組織として教育研究対象とする中心的な学問分野などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科名称を「知能メディア工学科」、学位を「学士（工学）」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたう

えて、学科の英訳名称を「Department of Advanced Media」、学位の英訳名称を「Bachelor of Engineering」とすることとした。

学科の名称

知能メディア工学科 「Department of Advanced Media」

学位の名称

学士（工学） 「Bachelor of Engineering」

エ 教育課程編成の考え方及び特色

1. 未来ロボティクス学科

（1）教育課程の編成方針

教育課程編成の考え方については、教育研究上の目的及び養成する人材を踏まえたうえで、既設の工学部の未来ロボティクス学科において展開してきたロボティクス学分野の教育内容を基盤として、「機械設計、電気・電子回路設計、プログラミング、制御システム設計に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力を身に付けるとともに、将来的な発展性が期待されている制御技術や人工知能に関する製造技術者や開発技術者となり得る素養や資質を有する人材の養成」を目指した教育課程の編成としている。

また、未来ロボティクス学科では、教育研究上の目的や人材養成の目的を達成することから、教育課程を「教養科目」と「専門科目」の科目群から編成することとしており、特に、「専門科目」においては、4年間の体系的な科目履修を通して、知識と技術を身につけることが可能となるように、基礎から基幹、基幹から展開へと発展させるための教育課程の編成としている。

（2）教養科目

「教養科目」は、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえたうえで、養成する人材で掲げている「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」を目指すことから、「教養基礎科目」と「教養共通科目」及び「教養特別科目」の科目群から編成することとしている。

①教養基礎科目

「教養基礎科目」は、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」、「人間力養成」の科目群から編成することとしており、「コミュニケーションスキル」では、英語による基礎的なコミュニケーション能力の習得を図るための科目として、24科目24単位を選択科目として配置し、また、日本語による文章を書くための基本的な技術やルールを習得するための科目として、「日本語表現法」1単位を必修科目として配置している。

「情報リテラシー」では、ICTを用いて情報を収集、分析、活用するための基礎的な能力を習得する科目として、「情報処理」2単位を必修科目として配置し、

「人間力養成」では、健康増進のための運動効果や健康づくり運動に関する基本的な知識と方法の理解及び生涯にわたって運動に親しむ態度を養うための科目として、「スポーツ科学」2単位を必修科目として配置している。

また、学部教育における主体的な学習のあり方やアカデミック・スキルを習得するための科目として、「初年次教育」1単位を必修科目として配置するとともに、卒業後も自律・自立して学習するとともに、職業観を涵養し、職業に関する知識・技能を身に付けさせ、自己の個性を理解した上で主体的に進路を選択できる能力・態度を育成するための科目として、「キャリアデザイン1」1単位、「キャリアデザイン2」1単位、「キャリアデザイン3」1単位を必修科目として配置している。

②教養共通科目

「教養共通科目」は、「国際理解」、「人間・社会・自然の理解」、「総合」の科目群から編成することとしており、「国際理解」では、世界の多様な国や地域の言語や文化と社会に関する知識を習得する科目として、「異文化理解」2単位、「言語と文化1」2単位、「言語と文化2」2単位を必修科目として配置し、「グローバル時代の法」2単位、「国際社会論」2単位を選択科目として配置している。

「人間・社会・自然の理解」では、人間や人間理解に関する知識を習得する科目として、「哲学」2単位、「倫理学」2単位、「心理学」2単位、「身体と健康の科学」2単位を選択科目として配置し、自らがよって立つ国の歴史や文化、芸術に関する知識を習得する科目として、「文学と芸術」2単位、「歴史と人間」2単位を選択科目として配置している。

また、現代社会が直面する基本的な諸課題に関する知識を習得する科目として、

「憲法と社会」 2 単位、「政治と社会」 2 単位、「経済学」 2 単位、「現代社会論」 2 単位を選択科目として配置し、自然と環境や科学技術に関する基礎的な知識を習得する科目として、「科学技術史」 2 単位、「環境科学概論」 2 単位、「生命科学」 2 単位、「地球科学」 2 単位、「物理の世界と先端技術」 2 単位、「物質科学」 2 単位を選択科目として配置している。

「総合」では、問題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析、整理し、その問題を確実に解決できる能力を習得する科目として、「課題探求セミナー」 2 単位を選択科目として配置するとともに、これまでに獲得した知識、技能、態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を習得する科目として、「総合学際科目」 2 単位を選択科目として配置している。

③教養特別科目

「教養特別科目」は、英語の運用能力を高めるための科目として、「イングリッシュアクティブラーニング 1」 1 単位、「イングリッシュアクティブラーニング 2」 1 単位、「イングリッシュアクティブラーニング 3」 1 単位を選択科目として配置し、スポーツ実践を通して、課題解決力、状況把握力、ストレスマネジメント力、リーダーシップ、チームワークを育成するための科目として、「スポーツアクティブラーニング」 2 単位を選択科目として配置している。

また、地域活動や社会活動などの実体験を通して、自らの社会的役割を認識するための科目として、「ソーシャルアクティブラーニング」 1 単位を選択科目として配置し、国内外における就業体験のための科目として、「国際インターン」 1 単位、「国内インターン」 1 単位を選択科目として配置している。

さらに、ボランティア活動を通じて、人間力を高めるための科目として「ボランティア」 1 単位を選択科目として配置するとともに、「教養共通科目」で扱った内容を発展させ、現代社会が抱える諸問題について新たな視点からとらえ直すことにより、総合的な判断力や理解力を高めるための科目として、「総合科学特論」 2 単位を選択科目として配置している。

(3) 専門科目

未来ロボティクス学科の「専門科目」は、教育研究上の目的及び養成する人材を踏まえたうえで、教育目標を達成するために、基礎・基本を重視し、専門の骨格を

正確に把握させるとともに、科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮し、系統性と順次性のある教育課程を編成することとしており、また、専門教育を体系的に展開することから、「専門基礎科目」、「専門基幹科目」、「専門展開科目」から編成している。

①専門基礎科目

「専門基礎科目」は、ロボティクス学分野における学問体系と基本的な知識を理解する科目として、「未来ロボティクス総合セミナー」2単位、「ロボット体験実習」2単位、「プログラミング基礎」2単位を必修科目として配置するとともに、ロボティクス学分野に必要となる基礎としての数学・物理などの自然科学に関する科目として、「数学基礎」2単位、「線形代数学」2単位、「微分積分学」2単位、「物理学基礎」2単位を選択科目として配置している。

②専門基幹科目

「専門基幹科目」は、専門教育を体系的に学習するうえでの導入、総論となる科目で、ロボティクス学に関する知識や内容について、体験的な理解を促進させるための科目として、「ロボット設計製作論実習1」2単位、「ロボット設計製作論実習2」2単位、「ロボット設計製作論実習3」2単位、「ロボット設計製作論実習4」2単位、「ロボット設計製作論実習5」2単位を必修科目として配置している。

そのうえで、ロボティクス分野に必要となる基礎としての機械工学、電気工学、電子工学、情報工学、制御工学に関する基礎的・基本的な知識と技術に関する科目として、「機械製図」1単位、「ロボット機構学」2単位、「ロボット電子回路」4単位、「ロボットプログラミング」2単位、「メカニクス1」4単位、「制御工学」4単位、「電気電子回路論」4単位、「信号処理論」2単位、「ロボット制御学」2単位、「ロボットシステム学」2単位、「電磁気学」2単位、「基礎統計学」2単位を選択科目として配置している。

また、科学技術者として求められるマネジメント能力やコミュニケーション能力を習得するための科目として、「科学技術開発マネジメント」2単位、「コミュニケーション論」2単位を選択科目として配置するとともに、科学技術に関する基礎的な英語運用能力を習得するための科目として、「科学技術基礎英語」2単位を選択科目として配置している。

③専門展開科目

「専門展開科目」は、「専門基幹科目」を受けて学習するロボットに関する基本的な原理を理解させるための専門分野の体系全般にわたる科目として、「ロボティクスチャレンジ」1単位、「ロボットマニピュレータ」2単位、「センサ工学」2単位、「数値解析学1」2単位、「数値解析学2」2単位、「メカニクス2」2単位2単位を選択科目として配置している。

また、「組込み用コンピュータ実装論」、「認識工学」2単位、「ロボットビジョン」2単位、「認知科学」2単位、「ロボットインターフェイス設計論」2単位、「ロボット構造力学」2単位、「アクチュエータ工学」2単位、「CAD／CAM／CAE」2単位、「流体力学」2単位を選択科目として配置している。

さらに、入門段階としての基礎的な研究能力の養成と研究意識を涵養するとともに、学生の興味と関心に応じて、自己の研究成果に関する卒業論文の作成へと結び付けるための科目として、「ゼミナール1」2単位、「ゼミナール2」2単位、「ゼミナール3」2単位、「ゼミナール4」2単位を選択科目として配置したうえで、卒業論文の作成指導のための科目として、「卒業研究」5単位を必修科目として配置している。

2. 生命科学科

(1) 教育課程の編成方針

教育課程編成の考え方については、教育研究上の目的及び養成する人材を踏まえたうえで、既設の工学部の生命環境科学科において展開してきた生命科学分野の教育内容を基盤として、「生命科学の基本的な概念や原理と法則の理解を深め、生命の複雑なシステムや生命現象及び個々の生命機能など、生命現象の共通性や多様性の理解とともに、これらを人類の健康や福祉の増進や人類が直面している環境課題や食料問題などの解決に活用することができる柔軟な発想力と問題解決能力を有した人材の養成」を目指した教育課程の編成としている。

また、生命科学科では、教育研究上の目的や人材養成の目的を達成することから、教育課程を「教養科目」と「専門科目」の科目群から編成することとしており、特に、「専門科目」においては、4年間の体系的な科目履修を通して、知識と技術を身につけることが可能となるように、基礎から基幹、基幹から展開へと発展させる

ための教育課程の編成としている。

(2) 教養科目

「教養科目」は、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえ、また、養成する人材で掲げている「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」を目指すことから、「教養基礎科目」と「教養共通科目」及び「教養特別科目」の科目群から編成することとしている。

①教養基礎科目

「教養基礎科目」は、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」、「人間力養成」の科目群から編成することとしており、「コミュニケーションスキル」では、英語による基礎的なコミュニケーション能力の習得を図るための科目として、24科目24単位を選択科目として配置し、また、日本語による文章を書くための基本的な技術やルールを習得するための科目として、「日本語表現法」1単位を必修科目として配置している。

「情報リテラシー」では、ICTを用いて情報を収集、分析、活用するための基礎的な能力を習得する科目として、「情報処理」2単位を必修科目として配置し、「人間力養成」では、健康増進のための運動効果や健康づくり運動に関する基本的な知識と方法の理解及び生涯にわたって運動に親しむ態度を養うための科目として、「スポーツ科学」2単位を必修科目として配置している。

また、学部教育における主体的な学習のあり方やアカデミック・スキルを習得するための科目として、「初年次教育」1単位を必修科目として配置するとともに、卒業後も自律・自立して学習するとともに、職業観を涵養し、職業に関する知識・技能を身に付けさせ、自己の個性を理解した上で主体的に進路を選択できる能力・態度を育成するための科目として、「キャリアデザイン1」1単位、「キャリアデザイン2」1単位、「キャリアデザイン3」1単位を必修科目として配置している。

②教養共通科目

「教養共通科目」は、「国際理解」、「人間・社会・自然の理解」、「総合」の科目群から編成することとしており、「国際理解」では、世界の多様な国や地域の言語や文化と社会に関する知識を習得する科目として、「異文化理解」2単位、「言語と

文化1」2単位、「言語と文化2」2単位を必修科目として配置し、「グローバル時代の法」2単位、「国際社会論」2単位を選択科目として配置している。

「人間・社会・自然の理解」では、人間や人間理解に関する知識を習得する科目として、「哲学」2単位、「倫理学」2単位、「心理学」2単位、「身体と健康の科学」2単位を選択科目として配置し、自らがよって立つ国の歴史や文化、芸術に関する知識を習得する科目として、「文学と芸術」2単位、「歴史と人間」2単位を選択科目として配置している。

また、現代社会が直面する基本的な諸課題に関する知識を習得する科目として、「憲法と社会」2単位、「政治と社会」2単位、「経済学」2単位、「現代社会論」2単位を選択科目として配置し、自然と環境や科学技術に関する基礎的な知識を習得する科目として、「科学技術史」2単位、「環境科学概論」2単位、「生命科学」2単位、「地球科学」2単位、「物理の世界と先端技術」2単位、「物質科学」2単位を選択科目として配置している。

「総合」では、問題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析、整理し、その問題を確実に解決できる能力を習得する科目として、「課題探求セミナー」2単位を選択科目として配置するとともに、これまでに獲得した知識、技能、態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を習得する科目として、「総合学際科目」2単位を選択科目として配置している。

③教養特別科目

「教養特別科目」は、英語の運用能力を高めるための科目として、「イングリッシュアクティブラーニング1」1単位、「イングリッシュアクティブラーニング2」1単位、「イングリッシュアクティブラーニング3」1単位を選択科目として配置し、スポーツ実践を通して、課題解決力、状況把握力、ストレスマネジメント力、リーダーシップ、チームワークを育成するための科目として、「スポーツアクティブラーニング」2単位を選択科目として配置している。

また、地域活動や社会活動などの実体験を通して、自らの社会的役割を認識するための科目として、「ソーシャルアクティブラーニング」1単位を選択科目として配置し、国内外における就業体験のための科目として、「国際インターン」1単位、「国内インターン」1単位を選択科目として配置している。

さらに、ボランティア活動を通じて、人間力を高めるための科目として「ボランティア」 1 単位を選択科目として配置するとともに、「教養共通科目」で扱った内容を発展させ、現代社会が抱える諸問題について新たな視点からとらえ直すことにより、総合的な判断力や理解力を高めるための科目として、「総合科学特論」 2 単位を選択科目として配置している。

(3) 専門科目

生命科学科の「専門科目」は、教育研究上の目的及び養成する人材を踏まえたうえで、教育目標を達成するために、基礎・基本を重視し、専門の骨格を正確に把握させるとともに、科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮し、系統性と順次性のある教育課程を編成することとしており、また、専門教育を体系的に展開することから、「専門基礎科目」、「専門基幹科目」、「専門展開科目」から編成している。

①専門基礎科目

「専門基礎科目」は、生命科学分野における学問体系と基本的な知識を理解する科目として、「生命科学基礎演習」 2 単位を必修科目として配置するとともに、生命科学分野に必要な基礎としての数学・生物・化学などの自然科学に関する科目として、「生物学 1」 2 単位、「生物学 2」 2 単位を必修科目として配置し、「数学基礎」 2 単位、「化学基礎」 2 単位、「微分積分」 2 単位、「線形代数」 2 単位、「機器分析学」 2 単位、「量子化学」 2 単位、「基礎統計学」 2 単位を選択科目として配置している。

②専門基幹科目

「専門基幹科目」は、専門教育を体系的に学習するうえでの導入、総論となる科目で、生命科学分野に関する基礎的な知識を理解する科目として、「分子生物学 1」 2 単位、「生物物理学 1」 2 単位、「生化学 1」 2 単位、「基礎生態学」 2 単位、「分子生物学 2」 2 単位、「微生物学」 2 単位、「生化学 2」 2 単位、「遺伝子工学 1」 2 単位、「細胞生物学」 2 単位、「生物物理学 2」 2 単位、「遺伝子工学 2」 2 単位、を選択科目として配置している。

また、技術者として求められる倫理や法律について学習するための科目として、「生命科学のための倫理・法律」 2 単位を必修科目として配置するとともに、講義科目において習得した生命科学分野に関する基礎的な知識について、体験的な理解

を促進させるための科目として、「生命科学基礎実験 1」 2 単位、「生命科学基礎実験 2」 2 単位を必修科目として配置している。

③専門展開科目

「専門展開科目」は、「専門基幹科目」を受けて学習する生命科学分野の基本をより具体的に理解するための専門分野の体系全般にわたる科目として、「構造生物学」 2 単位、「環境構造学」 2 単位、「ゲノム科学」 2 単位、「ウイルス学」 2 単位、「動物生理学 1」 2 単位、「植物生理学 1」 2 単位、「分子進化学」 2 単位、「ゲノム生態学」 2 単位、「分子免疫学」 2 単位、「生体分子工学 1」 2 単位、「動物生理学 2」 2 単位、「保全生物学」 2 単位、「生体生理工学」 2 単位、「公衆衛生学」 2 単位、「微生物生態学」 2 単位、「生命情報学」 2 単位、「植物生理学 2」 2 単位、「生物多様性科学」 2 単位、「生体分子工学 2」 2 単位、「細胞遺伝学」 2 単位、「微生物工学」 2 単位、「医薬品生産技術」 2 単位、「生態系保全技術」 2 単位を選択科目として配置している。

講義科目において習得した生命科学分野に関する知識や内容について、体験的な理解を促進させるための科目として、「生命科学応用実験」 2 単位を必修科目として配置している。

さらに、入門段階としての基礎的な研究能力の養成と研究意識を涵養するとともに、学生の興味と関心に応じて、自己の研究成果としての卒業研究へと結び付けるための科目として、「卒業研究準備実験」 2 単位を必修科目として配置したうえで、卒業研究のための科目として、「卒業研究」 5 単位を必修科目として配置している。

3. 知能メディア工学科

(1) 教育課程の編成方針

教育課程編成の考え方については、教育研究上の目的及び養成する人材を踏まえたうえで、既設の工学部の電気電子情報工学科及びデザイン科学科において展開してきたメディア工学分野の教育内容を基盤として、「音響・音声・画像などのメディア処理技術及びマルチメディアを活用した情報表現とマルチメディアに関連した情報技術の基礎的な知識と技術を習得させるとともに、将来的な発展性が期待されているマルチメディア対応の人工知能分野のシステム開発やコンテンツ・デザイン制作ができる技術者となり得る素養や資質を有する人材の養成」を目指した教育

課程の編成としている。

また、知能メディア工学科では、教育研究上の目的や人材養成の目的を達成することから、教育課程を「教養科目」と「専門科目」の科目群から編成することとしており、特に、「専門科目」においては、4年間の体系的な科目履修を通して、知識と技術を身につけることが可能となるように、基礎から基幹、基幹から展開へと発展させるための教育課程の編成としている。

(2) 教養科目

「教養科目」は、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえ、養成する人材で掲げている「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」を目指すことから、「教養基礎科目」と「教養共通科目」及び「教養特別科目」の科目群から編成することとしている。

①教養基礎科目

「教養基礎科目」は、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」、「人間力養成」の科目群から編成することとしており、「コミュニケーションスキル」では、英語による基礎的なコミュニケーション能力の習得を図るための科目として、24科目24単位を選択科目として配置し、また、日本語による文章を書くための基本的な技術やルールを習得するための科目として、「日本語表現法」1単位を必修科目として配置している。

「情報リテラシー」では、ICTを用いて情報を収集、分析、活用するための基礎的な能力を習得する科目として、「情報処理」2単位を必修科目として配置し、

「人間力養成」では、健康増進のための運動効果や健康づくり運動に関する基本的な知識と方法の理解及び生涯にわたって運動に親しむ態度を養うための科目として、「スポーツ科学」2単位を必修科目として配置している。

また、学部教育における主体的な学習のあり方やアカデミック・スキルを習得するための科目として、「初年次教育」1単位を必修科目として配置するとともに、卒業後も自律・自立して学習するとともに、職業観を涵養し、職業に関する知識・技能を身に付けさせ、自己の個性を理解した上で主体的に進路を選択できる能力・態度を育成するための科目として、「キャリアデザイン1」1単位、「キャリアデザ

イン2」 1単位、「キャリアデザイン3」 1単位を必修科目として配置している。

②教養共通科目

「教養共通科目」は、「国際理解」、「人間・社会・自然の理解」、「総合」の科目群から編成することとしており、「国際理解」では、世界の多様な国や地域の言語や文化と社会に関する知識を習得する科目として、「異文化理解」2単位、「言語と文化1」2単位、「言語と文化2」2単位を必修科目として配置し、「グローバル時代の法」2単位、「国際社会論」2単位を選択科目として配置している。

「人間・社会・自然の理解」では、人間や人間理解に関する知識を習得する科目として、「哲学」2単位、「倫理学」2単位、「心理学」2単位、「身体と健康の科学」2単位を選択科目として配置し、自らがよって立つ国の歴史や文化、芸術に関する知識を習得する科目として、「文学と芸術」2単位、「歴史と人間」2単位を選択科目として配置している。

また、現代社会が直面する基本的な諸課題に関する知識を習得する科目として、「憲法と社会」2単位、「政治と社会」2単位、「経済学」2単位、「現代社会論」2単位を選択科目として配置し、自然と環境や科学技術に関する基礎的な知識を習得する科目として、「科学技術史」2単位、「環境科学概論」2単位、「生命科学」2単位、「地球科学」2単位、「物理の世界と先端技術」2単位、「物質科学」2単位を選択科目として配置している。

「総合」では、問題を発見し、解決に必要な情報を収集、分析、整理し、その問題を確実に解決できる能力を習得する科目として、「課題探求セミナー」2単位を選択科目として配置するとともに、これまでに獲得した知識、技能、態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力を習得する科目として、「総合学際科目」2単位を選択科目として配置している。

③教養特別科目

「教養特別科目」は、英語の運用能力を高めるための科目として、「イングリッシュアクティブラーニング1」1単位、「イングリッシュアクティブラーニング2」1単位、「イングリッシュアクティブラーニング3」1単位を選択科目として配置し、スポーツ実践を通して、課題解決力、状況把握力、ストレスマネジメント力、リーダーシップ、チームワークを育成するための科目として、「スポーツアクティ

ブラーニング」 2 単位を選択科目として配置している。

また、地域活動や社会活動などの実体験を通して、自らの社会的役割を認識するための科目として、「ソーシャルアクティブラーニング」 1 単位を選択科目として配置し、国内外における就業体験のための科目として、「国際インターン」 1 単位、「国内インターン」 1 単位を選択科目として配置している。

さらに、ボランティア活動を通じて、人間力を高めるための科目として「ボランティア」 1 単位を選択科目として配置するとともに、「教養共通科目」で扱った内容を発展させ、現代社会が抱える諸問題について新たな視点からとらえ直すことにより、総合的な判断力や理解力を高めるための科目として、「総合科学特論」 2 単位を選択科目として配置している。

(3) 専門科目

知能メディア工学科の「専門科目」は、教育研究上の目的及び養成する人材を踏まえたうえで、教育目標を達成するために、基礎・基本を重視し、専門の骨格を正確に把握させるとともに、科目間の関係や履修の順序、単位数等に配慮し、系統性と順次性のある教育課程を編成することとしており、また、専門教育を体系的に展開することから、「専門基礎科目」、「専門基幹科目」、「専門展開科目」から編成している。

①専門基礎科目

「専門基礎科目」は、知能メディア工学分野に必要となる基礎としての数学・物理などの自然科学に関する科目として、「数学基礎」 2 単位、「線形代数」 2 単位、「確率統計」 2 単位、「物理学基礎」 2 単位、「物理学実験」 2 単位、「知能メディア基礎数学」 2 単位を必修科目として配置するとともに、「離散数学」 2 単位、「統計解析」 2 単位を選択科目として配置している。

②専門基幹科目

「専門基幹科目」は、専門教育を体系的に学習するうえでの導入、総論となる科目で、知能メディア工学分野における学問体系と基本的な知識を理解する科目として、「プログラミング言語基礎」 2 単位、「視覚造形基礎」 2 単位、「人間中心設計」 2 単位、「メディア基礎」 2 単位、「情報理論」 2 単位、「コミュニケーションデザイン演習」 2 単位、「知能メディア体験演習」 2 単位、「知能メディアプロジェクト

1」2単位、「知能メディアプロジェクト2」2単位を必修科目として配置している。

そのうえで、「コンピュータ工学」2単位、「デジタルデザイン基礎演習」2単位、「ネットワーク基礎」2単位、「ヒューマンインタフェース論」2単位、「プログラミング言語応用」2単位、「デジタルファブリケーション」2単位、「メディアデザイン論」2単位、「メディア史」2単位、「技術者倫理」2単位を選択科目として配置している。

③専門展開科目

「専門展開科目」は、「専門基幹科目」を受けて学習する知能メディア工学分野の基本をより具体的に理解するための専門分野の体系全般にわたる科目として、「音響工学基礎」2単位、「画像処理基礎」2単位、「音声工学」2単位、「音響工学応用」2単位、「画像処理応用」2単位、「バーチャルリアリティ」2単位、「人工知能基礎」2単位、「知能工学」2単位、「機械学習」2単位、「コンピュータネットワーク」2単位を選択科目として配置している。

また、「データマイニング」2単位、「データベース工学」2単位、「ネットワーク・データ工学応用」2単位、「情報デザイン基礎」2単位、「情報デザイン論」2単位、「テクノロジーアート」2単位、「情報デザイン応用」2単位、「情報デザイン応用演習」2単位、「フィジカルインタフェース」2単位、「ユーザエクスペリエンスデザイン」2単位、「知能メディアチャレンジ」1単位を選択科目として配置している。

そのうえで、講義科目や演習科目において習得した知能メディア工学に関する知識や内容について、体験的な理解を促進させるための科目として、「メディア工学実験」2単位、「ネットワーク・データ工学実験」2単位、「情報デザイン演習」2単位を必修科目として配置している。

さらに、入門段階としての基礎的な研究能力の養成と研究意識を涵養するとともに、学生の興味と関心に応じて、自己の研究成果に関する卒業論文の作成へと結び付けるための科目として、「ゼミナール1」2単位、「ゼミナール2」2単位、「ゼミナール3」2単位を必修科目として配置したうえで、卒業論文の作成指導のための科目として、「卒業研究」5単位を必修科目として配置している。

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 未来ロボティクス学科

未来ロボティクス学科は、既設の工学部の未来ロボティクス学科を基礎として設置することから、既存の教員組織を最大限に活用しつつ、学部教育における教育成果をより一層発揮することが可能となる教員組織の編成とするとともに、教育研究上の目的及び養成する人材並びに教育課程編成の考え方を踏まえたうえで、これらの目的を達成することが可能となる教員組織として編成している。

具体的には、未来ロボティクス学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「ロボティクス学分野」としていることから、教員組織の編成においては、「ロボティクス学分野」を専門とする専任教員を中心とした教員組織としていたとともに、専門科目の授業科目数や単位数に応じて、各専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教授7人、准教授3人を配置する計画としている。

また、未来ロボティクス学科の教員組織の年齢構成については、30歳代1人、40歳代6人、50歳代3人から構成することとしており、特定の年齢層に偏ることのないよう計画しているとともに、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない教員組織の編成となるように配慮している。

なお、未来ロボティクス学科の教員組織の編成においては、本学における教育研究以外の業務に従事する専任教員の配置はしていないこととしており、専任教員の配置計画における支障はないものと考えている。

2. 生命科学科

生命科学科は、既設の工学部の生命環境科学科を基礎として設置することから、既存の教員組織を最大限に活用しつつ、学部教育における教育成果をより一層発揮することが可能となる教員組織の編成とするとともに、教育研究上の目的及び養成する人材並びに教育課程編成の考え方を踏まえたうえで、これらの目的を達成することが可能となる教員組織として編成している。

具体的には、生命科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「生命科学分野」としていることから、教員組織の編成においては、「生命科学分野」を

専門とする専任教員を中心とした教員組織としているとともに、専門科目の授業科目数や単位数に応じて、各専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教授 7 人、准教授 3 人を配置する計画としている。

また、生命科学科の教員組織の年齢構成については、40 歳代 4 人、50 歳代 5 人、60 歳代 1 人から構成することとしており、特定の年齢層に偏ることのないよう計画しているとともに、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない教員組織の編成となるように配慮している。

なお、生命科学科の教員組織の編成においては、本学における教育研究以外の業務に従事する専任教員の配置はしていないこととしており、また、完成年度までに定年に達する者 1 人を配置する計画としているが、定年に達した者の任用については、本学が定める「学校法人千葉工業大学定年後再雇用教員に関する規程」において別途規定されていることから、専任教員の配置計画における支障はないものと考えている。

3. 知能メディア工学科

知能メディア工学科は、既設の工学部の電気電子情報工学科及びデザイン科学科を基礎として設置することから、既存の教員組織を最大限に活用しつつ、学部教育における教育成果をより一層発揮することが可能となる教員組織の編成とするとともに、教育研究上の目的及び養成する人材並びに教育課程編成の考え方を踏まえたうえで、これらの目的を達成することが可能となる教員組織として編成している。

具体的には、知能メディア工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「メディア工学分野」としていることから、教員組織の編成においては、「メディア工学分野」を専門とする専任教員を中心とした教員組織としているとともに、専門科目の授業科目数や単位数に応じて、各専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する教授 8 人及び准教授 1 人、助教 1 人を配置する計画としている。

また、知能メディア工学科の教員組織の年齢構成については、30 歳代 1 人、40 歳代 6 人、50 歳代 2 人、60 歳代 1 人から構成することとしており、特定の年齢層に偏ることのないよう計画しているとともに、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない教員組織の編成となるように配慮している。

なお、知能メディア工学科の教員組織の編成においては、本学における教育研究以外の業務に従事する専任教員の配置はしていないこととしており、専任教員の配置計画における支障はないものと考えている。

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 教育方法

(1) 授業の方法

先進工学部における授業方法は、知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技術や技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式及び実験形式や実習形式による授業形態を採ることとしている。

(2) 学生数の設定

①未来ロボティクス学科

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に則した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、講義形式は 60 人から 120 人、演習形式は 60 人から 120 人、実習形式及び実践形式は 30 人から 120 人とする。

②生命科学科

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に則した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、講義形式は 50 人から 110 人、演習形式は 50 人から 110 人、実習形式及び実践形式は 25 人から 60 人とする。

③知能メディア工学科

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に則した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、講義形式は 90 人から 110 人、演習形式は 60 人から 90 人、実習形式及び実践形式は 60 人から 90 人とする。

(3) 配当年次

配当年次は、基礎から基幹へと体系的な学習が可能となるようにするとともに、特に、専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識、技能、応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意するとともに、単位制度の 4 年間における制度設計の観点を踏まえて、特定の学年や学期において偏りのある履修登

録がなされないように配慮した配当としている。

(4) 履修科目の登録上限

単位制度の実質化の観点から踏まえたうえで、学生の主体的な学習を促し、教室における授業と教室外の学習を合わせた充実した授業を展開することにより学習効果を高めるために、1年間あたりの卒業要件科目の標準的な履修単位数の上限を40単位とする。

(5) 厳格なる成績評価

卒業時における学生の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行うとともに、客観的な評価基準を適用することから、厳格な成績評価の方法として、GPA制度を導入する。

2. 履修指導方法

先進工学部における履修指導方法は、授業を受ける学生に対して、教員が相談に応じる専用の時間を設けることにより、きめ細やかな教育指導を行う体制を整えるとともに、学期ごとに学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて学生の履修科目の選択に関する助言を行う専門的な職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、学生の履修指導体制を整備する。

また、専門科目では、専門分野の学問体系と学習段階に即した授業科目を配置しており、学部教育段階では、基礎的な専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置くことが重要であることを踏まえたうえで、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示する。(資料4)

3. 卒業要件

先進工学部における卒業要件は、学部に4年以上在学し、体系的な授業科目の履修により、124単位以上を修得することとし、「教養科目」については、必修科目15単位を含む36単位以上、「専門科目」については、未来ロボティクス学科では、必修科目23単位を含む63単位以上、生命科学科では、必修科目20単位を含む60単位以

上、知能メディア工学科では、必修科目47単位を含む88単位以上を修得することとする。

(1) 教養科目

「教養科目」は、必修科目10科目15単位、選択科目53科目75単位としており、卒業要件については、「教養科目」全体として、必修科目15単位を含む36単位以上を修得することとする。

(2) 専門科目

未来ロボティクス学科における「専門科目」の「専門基礎科目」は、必修科目3科目6単位、選択科目4科目8単位、「専門基幹科目」は、必修科目5科目10単位、選択科目15科目37単位、「専門展開科目」は、必修科目1科目5単位、選択科目19科目37単位としており、卒業要件は、「専門科目」全体として、必修科目23単位を含む63単位以上を修得することとする。

生命科学科における「専門科目」の「専門基礎科目」は、必修科目3科目5単位、選択科目7科目14単位、「専門基幹科目」は、必修科目3科目6単位、選択科目11科目22単位、「専門展開科目」は、必修科目3科目9単位、選択科目23科目46単位としており、卒業要件は、「専門科目」全体として、必修科目20単位を含む60単位以上を修得することとする。

知能メディア工学科における「専門科目」の「専門基礎科目」は、必修科目6科目12単位、選択科目2科目4単位、「専門基幹科目」は、必修科目9科目18単位、選択科目9科目18単位、「専門展開科目」は、必修科目7科目17単位、選択科目21科目41単位としており、卒業要件は、「専門科目」全体として、必修科目47単位を含む88単位以上を修得することとする。

キ 施設、設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

本学は、津田沼と新習志野に各々校舎を有しており、津田沼校舎は、JR総武線津田沼駅から徒歩約1分の習志野市津田沼に位置し、校地面積約54,000㎡を有している。新習志野校舎は、JR京葉線新習志野駅から徒歩約6分の習志野市芝園に位置し、校地面積約103,000㎡を有しており、学生の休息その他の利用のための適当

な空地を含む十分な校地面積を確保していることから、大学教育に相応しい環境を整えている。

運動場は、J R 京葉線新習志野駅から徒歩約15分の習志野市茜浜に位置し、約98,000㎡の面積を有しており、新習志野校舎とも隣接した環境にある。運動用設備としては、野球場や武道館をはじめとして、陸上トラック兼ラグビー場、テニスコート、サッカー場や屋内練習場などを備えており、主に学生の課外活動を中心として利用している。

2. 校舎等施設の整備計画

津田沼校舎では、16棟の校舎等施設を有しており、その総面積は約96,000㎡で、学部教育に必要となる主要な教室等の内訳としては、講義室45室、演習室39室、実験・実習室283室、情報処理室3室の他、教員研究室221室、講師控室、図書館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを備えている。

また、新習志野校舎では、15棟の校舎等施設を有しており、その総面積は約46,500㎡で、学部教育に必要となる主要な教室等の内訳としては、講義室51室、演習室9室、実験・実習室23室、情報処理室2室の他、教員研究室70室、講師控室、図書館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを備えていることから、津田沼校舎及び新習志野校舎の利用計画における教育研究上の支障はないものと考えている。

先進工学部は、既設の工学部の学科を基礎として、現有の収容定員の範囲内において設置することから、校舎等施設の整備計画としては、既存の校舎等施設を有効的に利用することとしているが、一方で、新習志野校舎では、大学全体における学生数を踏まえ、新たな学生厚生施設等の建設計画を有している。計画概要としては、地上4階・鉄骨構造、延べ床面積約8,400㎡の食堂棟（1階・2階は合計1,700席の食堂、3階は多目的ホール）と、地上2階・鉄骨構造、延べ床面積約3,700㎡の体育館（大アリーナ；バスケットコート3面）を整備することによる教育研究環境のさらなる充実を図ることとしている。（資料5）

先進工学部の設置に伴う教員の研究室の整備計画については、教員組織として計画している専任教員数30名（教授22名、准教授7名、助教1名）に対して、1室当たり約100㎡の専任教員研究室30室を設けることとしている。

設備の整備計画については、これまで、大学全体として使用していた教具や備品を有効的に転共用することとしている。

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

(1) 図書等の資料の整備計画

津田沼校舎の図書館では、図書等の資料について、現在、図書63,875冊（うち外国書6,877冊）を所蔵しているとともに、学術雑誌1,419誌（うち外国雑誌987誌）のほか、ビデオやDVDなどの視聴覚資料837点の整備がなされており、また、新習志野校舎の図書館では、図書等の資料について、現在、図書148,655冊（うち外国書18,276冊）を所蔵しているとともに、学術雑誌2,534誌（うち外国雑誌710誌）のほか、ビデオやDVDなどの視聴覚資料1,763点の整備がなされており、加えて電子ジャーナル3,463種が両館で閲覧できることから、教育研究上の支障はないものと考えている。

先進工学部の設置計画に伴う図書等の資料の整備計画としては、これまで、大学全体として整備してきた専門図書35,295冊を有効的に転用するとともに、新たに先進工学部の教育研究を行うために必要となる図書等の資料の整備計画として、専門図書4,548冊（うち外国書120冊）、映像資料やCD-ROM等の視聴覚資料160点を整備することとしている。

(2) 図書館の整備計画

図書館の機能については、津田沼校舎の図書館では、収容定員の約5%にあたる259席の閲覧座席数を整備しているとともに、サービスカウンター、レファレンスカウンター、グループ学習室、視聴覚コーナー、ブラウジングコーナー、探索用パソコン7台、コピー機2台を整備している。

また、新習志野校舎の図書館では、収容定員の約19%にあたる769席の閲覧座席数を整備しているとともに、サービスカウンター、レファレンスカウンター、グループ学習室、視聴覚コーナー、ブラウジングコーナー、グローバルラウンジ、探索用パソコン8台、コピー機2台を整備している。また、2015年3月から主として外国語学習のためのスペースとしてグローバルラウンジを開設している。

図書館システムについては、京セラ丸善システムインテグレーション株式会社製の「CARIN-i」を導入している。

また、2015年4月から導入した米国EBSCO社製の文献検索データベース「EBSCO Discovery Service」を通じて、国内はもとより海外の大学図書館等が所蔵する文献複写や相互貸借等のサービスについても可能としている。

ク 入学者選抜の概要

(1) アドミッションポリシー

まず先進工学部の入学者受入方針（アドミッションポリシー）は以下の通りである。

【先進工学部のアドミッションポリシー】

本学では、建学の精神、教育目標等に示す教育基本理念を理解した上で、本学の教育研究に強い関心を持って自らを向上させ、技術者としての知識と技能を身につける意欲にあふれた人材、教養と専門知識を兼ね備えた技術者に成長できる資質を持った人材を求めている。特に本学部では、高等学校での理数系の科目に対する基礎的素養があり、技術・計画・設計やデザインの融合によるものづくり・仕組みづくり・空間づくり・都市づくりに強い興味と学習意欲をもち、この分野において創造力にあふれた新しいデザインを提案したいと希求する人材を求めている。

次に先進工学部各学科の入学者受入方針（アドミッションポリシー）は以下の通りである。

【未来ロボティクス学科】

未来ロボティクス学科では、産業用、家庭用、医療・介護用、情報関係の機器や道具に使われているロボティクス関連の技術や考え方を学び、社会や人の役に立つものを設計・開発することを志し、そのような能力を身に付けたいと望んでいる人物を求めている。そのための基礎力として、機械、電気電子、情報、デザイン、制御工学、人間工学などを基礎から幅広く勉強する意欲を持ち、それを応用した実践的な能力を習得するための実習・演習・研究・討論に対し、熱意と向上心を持って取り組める者を望む。論理的な思考を展開でき、数学や物理学を駆使した科学的、工学的な考察ができ、それに基づく的確な作業や行動ができる者を望む。

【生命科学科】

生命科学科では、生命科学および関連分野に関する幅広い知識および高度な技能を

有し、複合的な視点から生命科学に関する諸問題の解決に取り組む人材の養成を行う。生命やそれを取りまく環境に興味を持ち、生命活動の仕組みに関する基礎的研究、人間の疾患治療や健康増進などに関する応用的研究、さらには生命の持続的発展のための工学的研究などに対して意欲があり、将来の生命科学分野の研究・技術開発の発展への貢献とその指導的役割を目指す人を求める。

【知能メディア工学科】

知能メディア工学科では、「音響・映像」「人工知能」「情報 デザイン」に関わる分野に興味を持ち、イノベーションを通じて社会や産業の発展に貢献し得る人材を求める。そのための基礎的な資質として、これらの分野に関する知的探究心と向学心を持ち、知識・技術・技能を総合的に活用し、システムの企画・研究開発・デザインに取り組む意欲を有する者を望む。さらに、自らの思考・判断のプロセスを論理的に説明し、共同作業を円滑に進めることができる者を求める。

(2) 入学試験の概要

アドミッションポリシーに基づき以下の選抜入学試験を行い、多様な学生を受け入れる。

- ① 一般入学試験
- ② 大学入試センター試験利用入学試験
- ③ 推薦入学試験
- ④ A O 創造入学試験
- ⑤ 特別入学試験（帰国生・社会人・外国人留学生）

① 一般入学試験

一般入学試験は本学独自の試験として「A日程」「B日程」「C日程」の3回実施する。A日程では建築学科と都市環境工学科は3教科型入試（数学・英語を必須とし、物理・化学・生物の中から1科目を選択）により選抜する。デザイン科学科は2教科型入試（数学・英語）により選抜する。B日程では全学科とも2教科型入試（数学を必須とし、英語・物理・化学・生物の中から1科目を選択）により選抜する。C日程でも2教科入試（同一時間内に数学・英語・理科＜物理または化学＞の中から2教科を選択）により選抜する。

② 大学入試センター試験利用入学試験

大学入試センター試験の得点を利用した試験として「前期」「中期」「後期」の3回実施する。前期では受験したすべての教科の中から高得点3教科3科目を合否判定に採用する「タイプⅠ」と数学または理科の高得点科目を2倍した科目とその他の高得点2教科2科目を合否判定に採用する「タイプⅡ」により選抜する。中期では数学または理科の高得点1科目と外国語または国語の高得点1科目の2教科2科目を合否判定に採用して選抜する。後期ではセンター試験の数学を含む高得点2科目または高得点1科目と本学独自の数学の得点を合否判定に採用する2つの採点方式で選抜する。

③ 推薦入学試験

推薦入学試験は一般入試では評価し難い能力・適正などを多面的に審査・評価する選抜として実施する。指定校制推薦入学試験、公募制推薦入学試験、専門高校推薦入学試験、帰国生徒推薦（指定校制）入学試験の区分を設けて実施する。推薦入学試験の選考は高等学校からの調査書および面接により行う。主に学習能力・志望理由・入学後の抱負・人物等を見極める。

④ AO創造入学試験

AO創造入学試験は一般入試では評価し難い能力を多面的に審査・評価する選抜として実施する。選考は自己評価・志望理由書・高等学校からの調査書等の書類および面接のほか、全学科でものづくり・デッサン・プレゼンテーション等の実技試験を行い、それらを総合的に評価して選抜する。

⑤ 特別入学試験

特別入学試験は特色ある学生の受け入れを目的として外国人留学生特別入学試験、帰国生徒特別入学試験、社会人特別入学試験の区分を設けて実施する。調査書及び面接により選考を行う。外国人留学生特別入学試験は書類審査および面接のほか、日本留学試験の結果も合否判定の基準に加える。帰国生徒特別入学試験と社会人特別入学試験は書類審査および面接のほか、小論文の内容も合否判定の基準に加えて選抜する。尚、社会人特別入学試験の出願資格は入学時に満22歳に達している者で高等学校を卒業またはそれと同等の学力を持ち、継続して一定の職業を有する者とする。

これらの入学試験を適正に実施するにあたり、学長を筆頭とした入学試験委員会を組織している。入学試験委員会では試験の方針・実施方法・運営・選抜などを審議している。また、入学試験委員会の決定事項を踏まえて入試広報部が入学試験実施業務を厳格な体制のもと適正に行っている。

ケ 資格取得を目的とする場合

1. 取得可能な資格

なし

2. 資格取得の条件

なし

コ 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

先進工学部では、1年次及び2年次の学部教育を新習志野校舎にて行うこととし、3年次及び4年次の学部教育を津田沼校舎にて行うこととしており、津田沼校舎と新習志野校舎との距離は約4km、移動に要する時間はスクールバスを利用した場合、約15分程度であることから、教員及び学生の両校舎の利用上における支障が生じることはないものと考えている。

1. 専任教員の配置

先進工学部における新習志野校舎において1年次及び2年次の授業科目を担当する専任教員（共通教育科目を担当する先進工学部においては「兼担」となる専任教員を含む）の配置人数は83人、津田沼校舎において3年次及び4年次の授業科目を担当する専任教員（共通教育科目を担当する先進工学部においては「兼担」となる専任教員を含む）の配置人数は59人としていることから、教育体制上における支障はないものと考えている。

2. 教員の移動への配慮

2つの校舎の移動における教員への配慮としては、現在、既に本学が所有している6台のスクールバス（大型バス5台、マイクロバス1台）による2校舎間の定期運行を行っており、新習志野校舎と津田沼校舎間のスクールバスの1日の定期運行本数は38往復となっていることから、2つの校舎の教員の移動における支障はな

いものと考えている。

3. 施設設備等

施設設備等については、1年次及び2年次の授業を行う新習志野校舎は、J R 京葉線新習志野駅から徒歩約6分の習志野市芝園に位置し、校地面積約103,000 m²、校舎面積約46,500 m²を有しており、学生の休息その他の利用のための適当な空地についても十分な確保がなされ、大学教育に相応しい環境を整えている。施設は、講義室51室、演習室9室、情報処理室2室の他、教員研究室70室、講師控室、図書館、体育館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを備えており、各種施設に見合う設備を有していることから、教育体制上の支障はないものと考えている。

一方、3年次及び4年次の授業を行う津田沼校舎は、J R 総武線津田沼駅から徒歩約1分の習志野市津田沼に位置し、校地面積約54,000 m²、校舎面積約96,000 m²を有しており、学生の休息その他の利用のための適当な空地についても十分な確保がなされ、大学教育に相応しい環境を整えている。施設は、講義室45室、演習室39室、情報処理室3室の他、教員研究室221室、講師室、図書館、体育館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを備えており、新習志野校舎と同様、各種施設に見合う十分な設備を有していることから、教育体制上の支障はないものと考えている。

4. 時間割の編成

2つの校地において教育を行うに際しての時間割上の配慮としては、先進工学部では、1年次及び2年次の授業を新習志野校舎にて行い、3年次及び4年次の授業を津田沼校舎にて行うこととしており、原則として、学生が同日に新習志野校舎と津田沼校舎の両校舎で授業を受けることのないよう時間割を編成していることから、学生の負担はないものと考えている。

サ 管理運営

1. 教授会

教授会は学部ごとに設置され、原則として学部の専任教授で構成されるが、本学では専任の准教授、助教及び助手も含めた拡大教授会として「教授総会」を毎月1

回定期的に開催するほか、必要に応じて教授のみで構成する教授会も開催している。

学長が教授会の意見を聴く事項は別途内規において定められており、学生の入学及び卒業、学位の授与、退学及び除籍等に関する事項のほか、教育課程の編成、教員の教育・研究業績に関する事項等、教育・研究に関する重要な事項について学長に意見を述べることとしている。また、学則の改正等学部に通ずる事項については、全学部の教員により構成される合同教授会を開催し、学長に意見を述べるものとしている。

2. 学部長会

本学の教育・研究に関する基本方針や、教育・研究の運営に必要な重要事項を協議するため、学長が学部長会を招集し、意見を聴くこととしている。

学部長会の構成員は、学長、副学長、学部長、学長補佐、教育センター長及び副教育センター長、大学事務局長及び担当職員であり、毎月1回定期的に開催するほか、必要に応じて臨時に開催している。

学部長会において意見を聴き学長が決定した事項や、以降の教授会で意見を聴く事項は、学部連絡会議を通じて各学科及び教育センターに報告される。学部連絡会議の構成員は、学部長会構成員のほか附属研究所長、図書館長補佐、教務委員長、学生委員長、入学試験委員長、就職委員長、図書館・情報メディア委員長、FD委員長及び教育センター各教室代表者であり、各委員会からの連絡、各学科からの要望等も学部連絡会議で伝達される。

3. 教授会以外の委員会

学長及び学部長がつかさどる教育・研究に関する事項の検討や起案等のために、教務委員会、学生委員会、就職委員会、入学試験委員会、FD委員会等の各種委員会を設置している。各委員会の委員長は学長が指名し、委員は本学の専任教員及び所管事務局の部課長で構成され、各委員会の規程に基づき定期的に、必要に応じて臨時にも開催している。

シ 自己点検・評価

1. 実施方法

本学では、大学教育における教育の理念や目標に照らして、教育活動及び研究活

動の状況を点検、評価することにより、現状を正確に把握、認識するとともに、その達成状況を評価し、評価結果に基づく改善の推進を図ることを目的として、自己点検・評価を3年に一度実施している。

自己点検・評価の実施方法については、自己点検・評価を自らの教育研究活動の改善のサイクルの中に明確に位置付け、自己点検・評価を行う責任体制を明確にしたうえで、(公財)日本高等教育評価機構の定める評価項目ごとに、全学的な自己点検評価委員会による自己点検・評価を行うこととしている。

2. 実施体制

本学では、自己点検・評価は、全教職員により全学的に取り組むことを基本としており、全体的な自己点検・評価については、学校法人千葉工業大学自己点検評価に関する規程に基づき、理事長が最高責任者の自己点検評価改善本部を置き、改善本部のもとに自己点検評価委員会を設置し、構成員は、理事長・学長が指名する教職員で構成している。自己点検評価委員会は、各委員会・事務局による自己点検評価を統括し、各委員会・事務局の報告を評価し、自己点検評価報告書を作成する。

作成した評価報告書は改善本部に報告し、改善本部は評価報告書に基づいて、必要に応じて各機関に対し、改善を指示している。

3. 公表及び評価項目

自己点検・評価の結果については、積極的に社会に公表し、社会の評価を受けることを通して、教育内容や方法の継続的な見直しや改善を図ることにより、自らの教育研究水準の一層の向上に努めていくとともに、これらの効果を一層確かなものとするために、自己点検・評価の結果をホームページを利用し公表している。また、大学機関別認証評価を6年に一度受審し、自己点検評価報告書とともにホームページで公表している。

評価項目は以下のとおりである。

- ① 大学の使命・目的
- ② 教育目的の適切性・有効性
- ③ 学生の受入れ
- ④ 教育課程・教授方法
- ⑤ 学修・授業支援

- ⑥ キャリア支援
- ⑦ 教育目的の達成状況の評価
- ⑧ 学生生活支援
- ⑨ 教育環境整備
- ⑩ 経営と管理
- ⑪ 自己点検・評価

ス 情報の公表

1. 実施方法

学部等における人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的について、学則及び規則等を適切な形式により定め、これを広く社会に公表するとともに、教育研究活動等の状況など大学に関する情報全般について、インターネット上のホームページや大学案内などの刊行物への掲載、その他広く一般に周知を図ることができる方法により積極的に提供することとしている。

特に、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表することとし、その際、大学の教育力の向上の観点から、学生がどのようなカリキュラムに基づき、何を学ぶことができるのかという観点が明確になるよう留意することとしている。

教育情報の公表については、そのための適切な体制を整えるとともに、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって行うこととしている。

2. 実施項目

次の教育研究活動等の状況についての情報を公表する。

- ① 大学の教育研究上の目的に関すること。
(<http://www.it-chiba.ac.jp/info/disclosure/purpose.html>)
- ② 教育研究上の基本組織に関すること。
(<http://www.it-chiba.ac.jp/institute/system.html>)
- ③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
(<http://www.it-chiba.ac.jp/info/disclosure/staff.html>)

- ④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。

(<http://www.it-chiba.ac.jp/faculty/policy/adm.html>)

(<http://www.it-chiba.ac.jp/info/disclosure/entrant.html>)

(<http://www.it-chiba.ac.jp/info/disclosure/student.html>)

(<http://www.it-chiba.ac.jp/info/disclosure/graduate.html>)

- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。

(<http://risyu.is.it-chiba.ac.jp/syllabus/syplss0100>)

- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。

(<http://www.it-chiba.ac.jp/info/disclosure/valuation.html>)

- ⑦ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。

(<http://www.it-chiba.ac.jp/info/disclosure/campus.html>)

- ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること。

(<http://www.it-chiba.ac.jp/support/expense/expense.html>)

- ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。

(http://www.it-chiba.ac.jp/entrance/edu_program/index.html)

(http://www.it-chiba.ac.jp/support/job_information.html)

(<http://www.it-chiba.ac.jp/support/campuslife.html>)

3. 公表内容

教育研究活動等の状況についての情報を公表するに際しては、以下の点に留意したうえで行うこととする。

- ① 大学の教育研究上の目的に関する情報については、学部ごとに、それぞれ定めた目的を公表する。
- ② 教育研究上の基本組織に関する情報については、学部、学科又は課程等の名称を明らかにする。
- ③ 教員組織に関する情報については、組織内の年齢構成等を明らかにし、効果的

な教育を行うため組織的な連携を図っていることを積極的に明らかにする。

- ④ 教員の数については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表することとし、法令上必要な専任教員数を確保していることや男女別、職別の人数等の詳細をできるだけ明らかにする。
- ⑤ 各教員の業績については、研究業績等にとどまらず、各教員の多様な業績を積極的に明らかにすることにより、教育上の能力に関する事項や職務上の実績に関する事項など、当該教員の専門性と提供できる教育内容に関することを確認できるという点に留意したうえで公表する。
- ⑥ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する情報については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表する。
- ⑦ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報については、教育課程の体系性を明らかにする観点に留意するとともに、年間の授業計画については、シラバスや年間授業計画の概要を活用する。
- ⑧ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報については、必修科目、選択科目の別の必要単位修得数を明らかにし、取得可能な学位に関する情報を明らかにする。
- ⑨ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する情報については、学生生活の中心であるキャンパスの概要のほか、運動施設の概要、課外活動の状況及びそのために用いる施設、休息を行う環境その他の学習環境、主な交通手段等の状況をできるだけ明らかにする。
- ⑩ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する情報について明らかにする。
- ⑪ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する情報については、留学生支援や障害者支援など大学が取り組む様々な学生支援の状況をできるだけ明らかにする。

セ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

1. 実施体制

授業の質的向上ならびに内容・方法の改善を図るための組織的な取組みについては、「FD委員会規程」を制定するとともに、当該委員会が、その計画の立案と実施の推進を図ることとする。

2. 実施内容

授業の内容及び方法の改善を図るための実施内容については、以下に掲げる項目による取組みを行う。

- ① シラバスの記載項目や記載内容、記載方法などに関する規則を整備するとともに、個別教員に対する記載指導を実施する。
- ② 入学時に学生の基礎学力を測るための学力調査を実施し、適切な習熟度クラス運営の基礎データとして活用する。学生に対して授業アンケート調査を実施し、学生の授業に対する要望や意見を取りまとめ、授業改善に活用する。
- ③ 教員に対して授業点検書への回答を義務づけ、自らの授業運営に対する振り返りを促す。
- ④ 他の教員の授業を参観して、自らの授業の内容及び方法の改善に役立てるための教員相互の授業参観を実施する。
- ⑤ 授業技術や教材開発に関する定期的な研究成果の発表会を開催する。
- ⑥ FD に関する最新の動向を周知するため、学外の有識者を招聘した研修会を定期的に開催する。

ソ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内における取組み

「教養科目」においては、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能及び態度・志向性の習得を図るとともに、国際理解及び人間・社会・自然の理解と課題解決能力の習得を図ることから、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」、「人間力養成」の科目群から構成する「教養基礎科目」と「国際理解」、「人間・社会・自然の理解」、「総合」の科目群から構成する「教養共通科目」及び「教養特別科目」により編成することとしており、「教養科目」全体を通して、社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的な知識や技能と態度を習得することとしている。

特に、「教養基礎科目」の「人間力養成」に配置している「キャリアデザイン1」1単位、「キャリアデザイン2」1単位、「キャリアデザイン3」1単位の3科目を教育課程内における直接的な社会的・職業的自立に関する科目として位置付け、職業人が果たす役割と責任や自覚と態度を身に付けるとともに、職業現場への興味と関心と自らの職業選択に対する意識の涵養を図ることとしており、この教育課程内の取組みにおける組織体制としては、社会的・職業的自立に関する指導等について検討を行う「学部教育に関する横断的ワーキンググループ」を設けることとしている。

2. 教育課程外の取組み

社会的・職業的自立を図るための教育課程外の取組みとしては、キャリア支援年間計画に基づき、職業興味検査、資格と仕事のセミナー、インターンシップなどの実施により職業観の涵養を図るとともに、各種資格取得講座、公務員対策講座、キャリア支援講座、就職試験対策講座などによる職業・就職に関する知識・技能の習得を図ることとしている。

また、個別カウンセリング、Uターンガイダンス、各種仕事に関するガイダンスなどの進路・就職指導及び相談に加えて、企業等採用説明会、国家試験対策講座や国家試験対策指導など就職志望者に対する取組みを行うこととしており、教育課程外の取組みにおける組織体制としては、就職委員会及び就職・進路支援部就職課が担当することとしている。(資料6)

設置の趣旨等を記載した書類 資料目次

資料 1. 組織の移行表

資料 2. 過去 5 年間の求職者（求職者数、求人件数、就職者数）実績

資料 3. 新学部・新学科に関するアンケート〈企業対象〉

資料 4. 履修モデル

資料 5. 新習志野校舎 再開発計画工程表

資料 6. 社会的・職業的自立に関する指導及び体制の概要

学校法人千葉工業大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成27年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
千葉工業大学				→	千葉工業大学				
工学部 機械サイエンス学科	315	-	1,260		工学部 機械工学科	140	-	560	学科の設置(届出)
工学部 電気電子情報工学科	300	-	1,200		工学部 機械電子創成工学科	110	-	440	学科の設置(届出)
工学部 生命環境科学科	230	-	920		工学部 先端材料工学科	110	-	440	学科の設置(届出)
工学部 建築都市環境学科	300	-	1,200		工学部 電気電子工学科	140	-	560	学科の設置(届出)
工学部 デザイン科学科	180	-	720		工学部 情報通信システム工学科	110	-	440	学科の設置(届出)
工学部 未来ロボティクス学科	110	-	440		工学部 応用化学科	110	-	440	学科の設置(届出)
					創造工学部 建築学科	140	-	560	学部の設置(届出)
					創造工学部 都市環境工学科	110	-	440	学部の設置(届出)
					創造工学部 デザイン科学科	120	-	480	学部の設置(届出)
					先進工学部 <u>未来ロボティクス学科</u>	<u>120</u>	-	<u>480</u>	学部の設置(届出)
					先進工学部 <u>生命科学科</u>	<u>110</u>	-	<u>440</u>	学部の設置(届出)
					先進工学部 <u>知能メディア工学科</u>	<u>110</u>	-	<u>440</u>	学部の設置(届出)
情報科学部 情報工学科	140	-	560		情報科学部 情報工学科	140	-	560	
情報科学部 情報ネットワーク学科	140	-	560		情報科学部 情報ネットワーク学科	140	-	560	
社会システム科学部 経営情報科学科	110	-	440		社会システム科学部 経営情報科学科	110	-	440	
社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科	110	-	440		社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科	110	-	440	
社会システム科学部 金融・経営リスク科学科	60	-	240		社会システム科学部 金融・経営リスク科学科	60	-	240	
計	1,995	-	7,980		計	1,990	-	7,960	
千葉工業大学大学院					千葉工業大学大学院				
工学研究科 機械サイエンス専攻(M)	80	-	160		工学研究科 機械サイエンス専攻(M)	80	-	160	
工学研究科 電気電子情報工学専攻(M)	70	-	140		工学研究科 電気電子情報工学専攻(M)	70	-	140	
工学研究科 生命環境科学専攻(M)	80	-	160		工学研究科 生命環境科学専攻(M)	80	-	160	
工学研究科 建築都市環境学専攻(M)	80	-	160		工学研究科 建築都市環境学専攻(M)	80	-	160	
工学研究科 デザイン科学専攻(M)	40	-	80		工学研究科 デザイン科学専攻(M)	40	-	80	
工学研究科 未来ロボティクス専攻(M)	30	-	60		工学研究科 未来ロボティクス専攻(M)	30	-	60	
工学研究科 工学専攻(D)	24	-	72		工学研究科 工学専攻(D)	24	-	72	
情報科学研究科 情報科学専攻(M)	70	-	140		情報科学研究科 情報科学専攻(M)	70	-	140	
情報科学研究科 情報科学専攻(D)	4	-	12		情報科学研究科 情報科学専攻(D)	4	-	12	
社会システム科学研究科 マネジメント工学専攻(M)	40	-	80		社会システム科学研究科 マネジメント工学専攻(M)	40	-	80	
社会システム科学研究科 マネジメント工学専攻(D)	2	-	6		社会システム科学研究科 マネジメント工学専攻(D)	2	-	6	
計	520	-	1,070		計	520	-	1,070	

過去5カ年の求職者(求職者数、求人件数、就職者数)実績

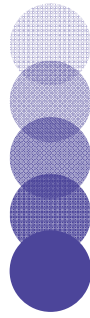
<学部>

学科名	平成21年度(2010年卒)			平成22年度(2011年卒)			平成23年度(2012年卒)			平成24年度(2013年卒)			平成25年度(2014年卒)		
	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数
機械サイエンス学科	6,328	262	214	5,730	175	152	6,698	217	195	7,099	249	226	8,092	219	201
電気電子情報工学科	6,437	195	150	5,998	154	139	6,785	194	171	7,254	188	170	8,227	209	196
生命環境科学科	5,727	139	115	5,251	116	101	6,144	155	125	6,471	149	122	7,446	156	138
建築都市環境学科	6,050	217	182	5,518	187	166	6,490	197	182	6,930	213	195	8,041	226	223
デザイン科学科	5,718	112	81	5,256	92	73	6,164	113	85	6,478	105	93	7,476	118	110
未来ロボティクス学科	5,783	43	33	5,311	56	53	6,228	68	67	6,598	67	64	7,594	79	77

<大学院>

専攻名	平成21年度(2010年卒)			平成22年度(2011年卒)			平成23年度(2012年卒)			平成24年度(2013年卒)			平成25年度(2014年卒)		
	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数
機械サイエンス専攻	4,212	56	53	3,303	47	43	4,147	35	31	4,745	42	41	5,545	26	23
電気電子情報工学専攻	4,267	38	36	3,381	33	31	4,223	53	52	4,849	44	42	5,662	28	26
生命環境科学専攻	3,859	38	34	3,077	33	33	3,818	37	32	4,383	39	34	5,196	24	22
建築都市環境学専攻	4,043	32	25	3,221	33	26	4,042	28	26	4,627	20	16	5,553	20	18
デザイン科学専攻	3,852	19	16	3,073	22	21	3,830	34	31	4,380	28	26	5,206	20	19
未来ロボティクス専攻				3,126	5	5	3,873	35	35	4,477	24	23	5,301	18	18

千葉工業大学 御中



千葉工業大学 新学部・新学科に関するアンケート＜企業対象＞

調査結果報告書

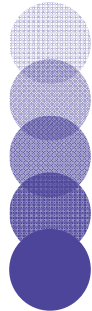
2015年1月

KOKOKUSHA
■ 廣 告 社 株 式 会 社

資料3

大学専門のマーケティング&リサーチ、コンサルティング会社
廣告タグループ

株式会 社 大 学 ソ リ ュ ー シ ョ ン パ ー ト ナ ー ス



目次

▶ 調査概要	03
▶ 回答企業プロフィール	04
【調査結果】	
▶ サマリ	10
▶ 設置計画案① : 工学部	16
▶ 設置計画案② : 創造工学部	30
▶ 設置計画案③ : 先進工学部	40
▶ 参考 : 千葉工業大学全体に対するご意見・ご要望	51
▶ 資料 : 調査票	53
▶ 資料 : 自由回答集(別紙)	57

▶ 調査目的

- 千葉工業大学で設置を計画している新学部を卒業した学生について、企業に採用意向等を調査し、受容性を確認する。

▶ 調査対象

- 全国の千葉工業大学への求人実績のある企業・団体

▶ 調査方法

- 郵送配布・回収によるアンケート調査

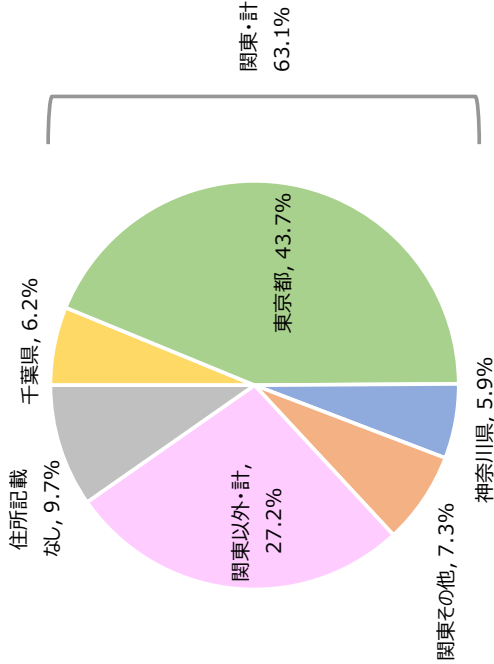
▶ 回収数

- 808サンプル(有効回答数)

▶ 調査期間

- 2014年10月22日(水)配布開始 ～ 2014年11月26日(水)回収分まで

■ 企業所在地 (全体／単一回答)



調査数	関東・計		関東以外・計					住所記載なし			
	千葉県	東京都	神奈川県	関東その他	甲信越	北陸・東海	関東以外その他				
全体	808	63.1% (510)	6.2% (50)	43.7% (353)	5.9% (48)	7.3% (59)	27.2% (220)	4.5% (36)	14.1% (114)	8.7% (70)	9.7% (78)

※下段 () 内の数字はn数

※地域名に含まれる都道府県

関東その他

甲信越

北陸・東海

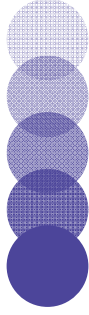
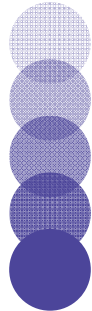
関東以外その他

：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県

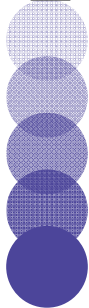
：山梨県、長野県、新潟県

：富山県、石川県、福井県、静岡県、愛知県、岐阜県、三重県

：北海道・東北・近畿・中国・四国・九州・沖縄



回答企業プロフィール



回答企業プロフィール：主業種／正社員数

<主業種>

▶全体では、「製造業」が33%で最も多く、「建設業」「情報処理関連業」も20%台(主要3業種で全体の8割強を占める)。

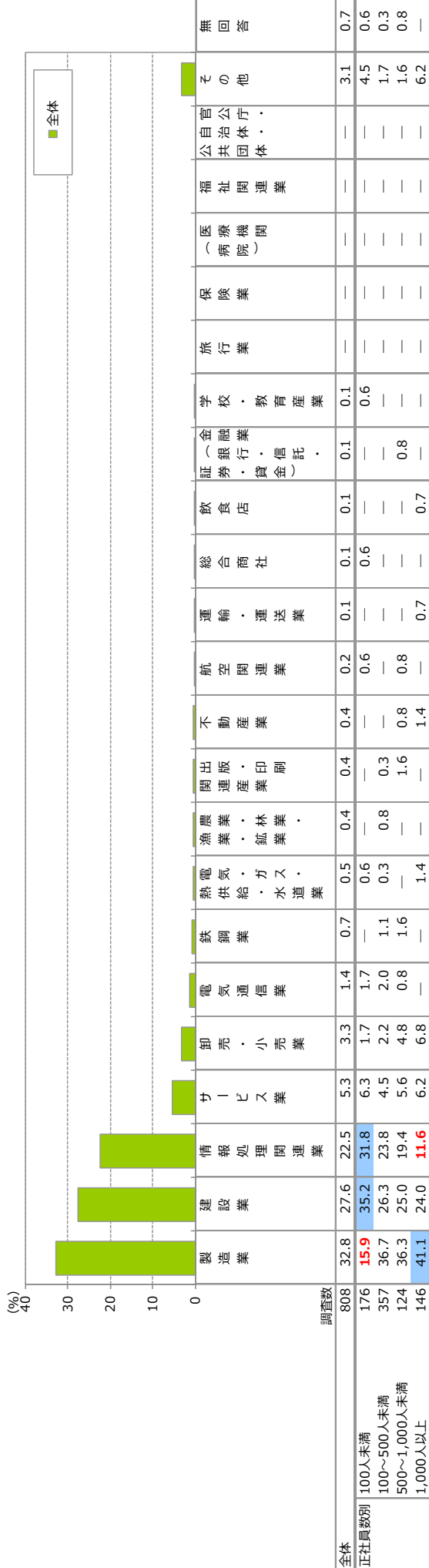
－ 主要3業種以外(以後、主業種別では「その他の業種」と表記)では、「サービス業」「卸売・小売業」が多い。

<正社員数>

▶全体では、「100～500人未満」が44%で最も多く、次に多い「100人未満」(22%)を含めると、「500人未満」の企業が約2/3。

■主業種 (全体／単一回答)

F1. 貴社の主業種をお選びください。



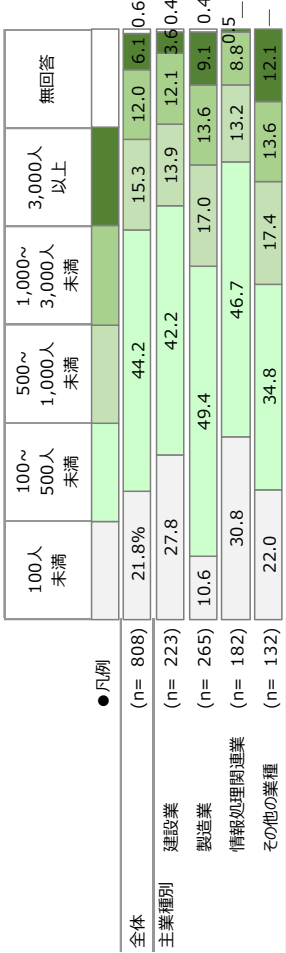
※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ■ = 10pt以上低い

※全体値の降順にソート

11001

■正社員数 (全体／単一回答)

F2. 貴社の正社員数をお選びください。



11002

＜新卒採用者の最終学歴（3年以内）＞
 ▲全体では、「大学卒」が97%で最も多く、次いで「大学院卒」（70%）。

- 主要3業種と比較すると、製造業と情報処理関連の大学院卒採用実績は8割弱と高い。
- また、建設業と製造業は高校卒、情報処理関連は専門学校卒の採用が多い。

＜大学・大学院新卒者の採用人数(2014年4月入社)＞

▶ 過去3年以内に新卒採用のあった企業でみると、96%が2014年4月も新卒採用ありと回答。採用人数は「1～9人」が53%と最も多く、「10～49人」が35%と続く。

＜千葉工業大卒業生の採用実績(2014年4月入社)＞

▲2014年4月に新卒採用のあった企業のうち、27%が「採用した」と回答。

■大学・大学院新卒者の採用人数（2014年4月入社）（過去3年以内に新卒採用あり・計／単一回答）

F4. 貴社の2014年4月入社の新卒採用状況についてお聞きます。大学・大学院卒の方の採用数としてあてはまるものをお選びください。

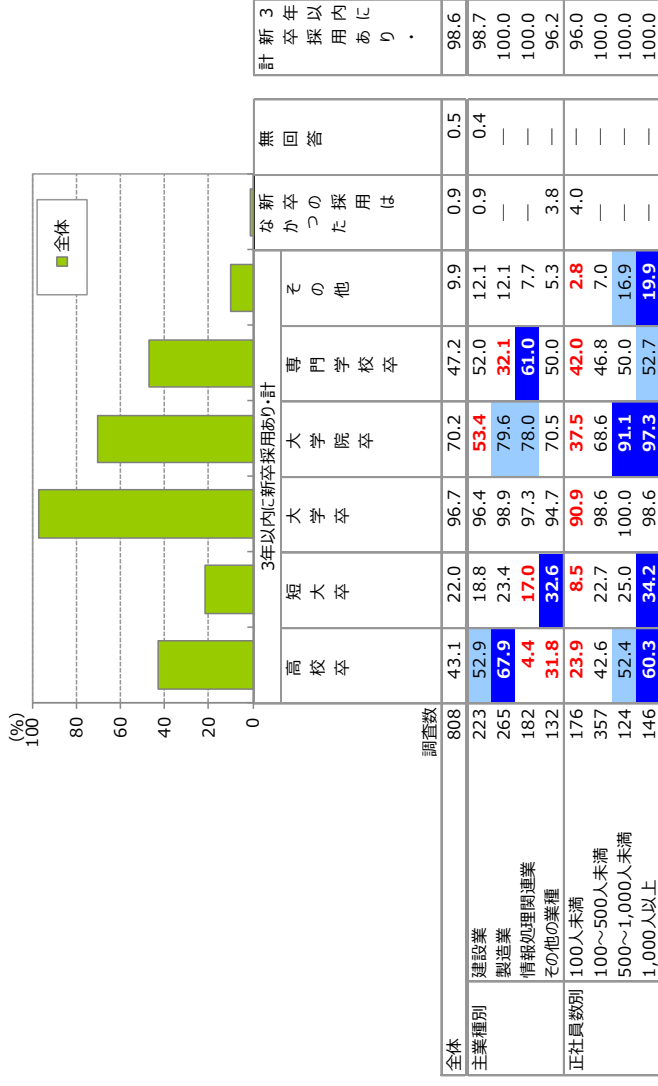
主業種別	2014年4月新卒採用あり・計				新卒は採用しなかった (0人)	無回答
	1~9人	10~49人	50~99人	100~499人		
●凡例						
全体	(n= 797)	52.7%		35.3	53.3	33.4
建設業	(n= 220)	51.4		35.0	59.2	44.5
製造業	(n= 265)	59.2		30.6	42.2	33.1
情報処理関連業	(n= 182)	54.4		40.1	34.1	33.1
その他の業種	(n= 127)	39.4		38.6	8.7	3.9
正社員数別	(n= 169)	87.0			24.4	10.1
100人未満	(n= 357)	65.8			30.8	1.1
100~500人未満	(n= 124)	23.4	71.0			32.6
500~1,000人未満	(n= 146)	62	53.4	23.3	14.4	0.7
1,000人以上						

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

11012

■新卒採用者の最終学歴（3年以内）（全体／複数回答）

F3. 貴社で過去3年以内に採用した新卒者の「最終学歴」をお選びください。



※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

11011

■千葉工業大卒業生の採用実績（2014年4月入社）

(2014年4月新卒採用あり／単一回答)

F4SF1. 2014年4月入社における本学卒業生の採用実績としてあてはまるものをお選び下さい。

		● 凡例				採用した	採用は なかった	未詳 (わから ない)	無回答
全体		(n = 768)	27.1%	64.1	0.5	8.3			
主業種別	建設業	(n = 209)	28.7	61.7	—	9.6			
	製造業	(n = 255)	22.0	66.7	1.2	10.2			
	情報処理関連業	(n = 180)	28.9	64.4	—	6.7			
	その他の業種	(n = 121)	32.2	62.8	—	5.1			
正社員数別	100人未満	(n = 152)	17.8	65.1	1.3	15.8			
	100～500人未満	(n = 349)	23.5	65.9	0.6	10.0			
	500～1,000人未満	(n = 123)	29.3	69.1	—	1.1			
	1,000人以上	(n = 143)	44.1	53.8	—	2.2			

11013

＜新卒採用数の増減(2015年4月入社)＞

▲全体では、38%が「2014年4月よりも増えると思う」、49%が「同程度」、1%が「減る」と回答。

- － 主要3業種と比較すると、情報処理関連業の増加志向がやや強く(42%)、製造業の増加志向がやや弱い(32%)。

履歴となる最終採用対象の新卒後のV

▲全体では、「大学卒」が99%で最も多く、次いで「大学院卒」(78%)。

- 主要3業種と比較すると、製造業と情報処理関連業では、「大学院卒」を新卒採用対象と考えている割合が84～86%と高い。

■新卒採用数の増減（2015年4月入社）（全体／単一回答）

F5. 2015年4月入社の新卒採用数について、現時点でどのようにお考えですか。貴社の方針に近いものをお選び下さい。

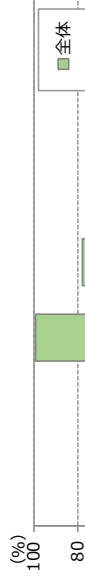
	2015年4月新卒採用予定あり・計			新卒の採用は行わない予定	未定 (わからない)	無回答	2015年 4月 新卒採用 予定あり・ 計
	2014年 よりも 増えると思う	2014年と 同程度だと 思う	2014年 よりも 減ると思う				
● 凡例							
全体	(n = 808)	37.5%		48.8		105.2	96.8
主業種別							
建設業	(n = 223)	35.9		50.7		85.0	95.1
製造業	(n = 265)	32.1		54.7		113.0	98.1
情報処理関連業	(n = 182)	42.3		48.4		88.0	99.5
その他の業種	(n = 132)	44.7		35.6		152.4	95.5
正社員数別							
100人未満	(n = 176)	36.9		45.5		114.0	93.8
100～500人未満	(n = 357)	35.9		50.4		120.1	98.3
500～1,000人未満	(n = 124)	38.7		51.6		9.7	100.0
1,000人以上	(n = 146)	42.5		47.3		68.3	96.6

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い □ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

1100

■ 今後の新卒者採用対象となる最終学歴（全体／複数回答）

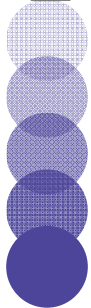
F6. 今後の新卒者の採用にあたり、どのような「最終学歴」の方の採用をお考えですか。貴社にとって採用対象となると思われるものをすべてお選びください。



主業種別	調査数	今後の新卒採用予定あり・計						新卒の採用予定は	無回答	
		今後の新卒採用予定あり・計								
		高校卒	短大卒	大学卒	大学院卒	専門学校卒	その他			
全体	808	42.3	33.0	99.4	78.1	53.5	12.7	—	0.5	99.5
建設業 製造業 情報処理関連業 その他の業種	223	52.5	31.4	99.6	64.6	59.2	14.3	—	0.4	99.6
	265	63.8	26.4	99.6	83.8	35.8	15.5	—	—	100.0
	182	4.9	39.6	100.0	85.7	70.9	11.0	—	—	100.0
	132	35.6	41.7	100.0	81.1	55.3	7.6	—	—	100.0
正社員数別	176	25.0	35.2	100.0	57.4	60.2	5.1	—	—	100.0
	357	44.5	31.4	99.7	76.2	53.2	9.2	—	—	100.0
	124	51.6	29.0	100.0	92.7	49.2	21.0	—	—	100.0
	146	50.7	38.4	100.0	97.3	50.7	24.0	—	—	100.0

60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0
60	40	20	0

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

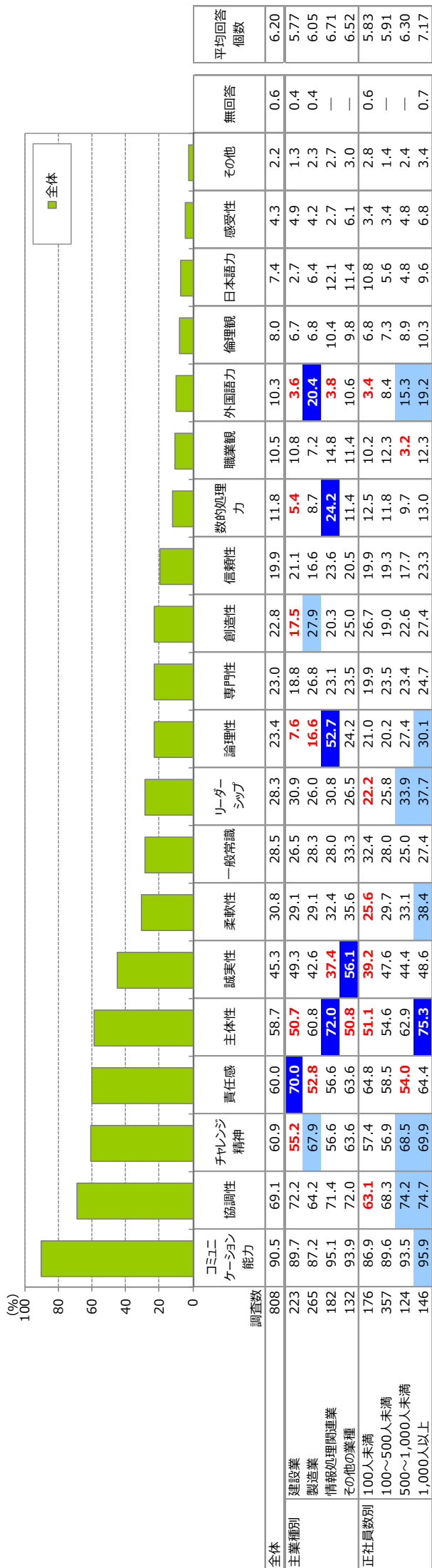


回答企業プロフィール：大学卒採用で期待する能力・素養

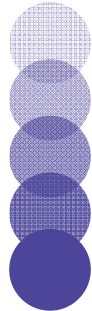
- ▶ 全体では、「コミュニケーション能力」が**91%**と最も高く、「協調性」「チャレンジ精神」「責任感」「主体性」が**50%以上**。
 - － 主要3業種で見ると、各業種とも「コミュニケーション能力」を最も期待している（87～95%）。建設業では、「協調性」「責任感」が70%台と高く、特に「責任感」は全体より10ポイント高い。製造業では、「外国語力」（20%）が全体よりも10ポイント高く、「チャレンジ精神」「創造性」も5～7ポイント高い。情報処理関連業では、「協調性」「主体性」が70%台と高く、全体と比べると、「論理性」が29ポイント、「主体性」が13ポイント、「数的処理力」が12ポイント高い。
 - － 正社員数で見ると、全般的に人数が多いほど、期待する能力・素養の数が増えている（平均回答個数は、「100人未満」が5.8個、「1,000人以上」が7.2個）。
 - ・特に、「主体性」は、正社員数の規模によるスコア差が大きく、「1,000人以上」の企業が75%と、全体より17ポイントも高い。

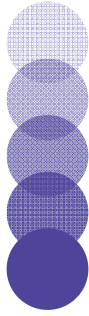
■ 大学卒採用で期待する能力・素養（全体／複数回答）

F7. 今後の新卒者を含めた採用活動に際し、貴社ではどのような能力を重視するお考えですか。あてはまる能力を以下からすべてお選びください。



※ 全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ※ 全体値の降順にソート





【調査結果】 サマリ

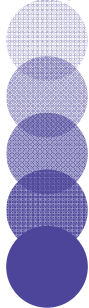
▲「工学部」81%／「創造工学部」61%／「先進工学部」64%

—「ある程度必要になる」を含めた「必要になる・計」では、「工学部」が最も高く(97%)、「創造工学部」「先進工学部」は9割前後。

■各学部の“設置の理念”の必要性（全体／各単／各回）

Q1/Q5/Q9. 「工学部」「創造工学部」「先進工学部」の「設置の理念」について、社会にとってどの程度必要だと考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。

	必要になる・計			どちらとも いえない	あまり必要に ならない	必要に ならない	無回答	必要になる・計 (社数)	必要になる・計 (社数)	コメント
	必要になる	ある程度 必要になる								
● 凡例										
工学部 (n= 808)			81.2%				16.2	656社	787社	現在の工業界の基幹となっている工学分野、すなわち機械・電気・電子・情報通信、材料、化学の分野、及び機械と電気の融合分野における専門技術者を育成することで社会のニーズに応えます。
創造工学部 (n= 808)		61.0			28.8		7.7	493社	726社	従来の工学部の建築都市環境工学とデザイン科学の教育・研究領域を再構築し、新たな社会ニーズに対応させ、建築学・建設工学・都市工学・デザイン科学等の基礎的な知識・技術を確実に学べる学部を創設します。
先進工学部 (n= 808)		64.4			27.4		0.7 6.1	520社	741社	従来の工学分野を基礎として、時代の変化に対応した先進的な科学技術と学際的な新領域への応用を目指し、基礎から実践までを確実に修得できる教育と最先端の研究を行います。



2. 各学部の“養成する人材像”の企業にとっての必要性(「必要になる」と回答した割合)

▶「工学部」 **72%**／「創造工学部」 **40%**／「先進工学部」 **38%**

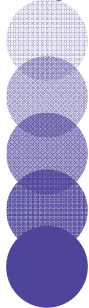
－「ある程度必要になる」を含めた「必要になる・計」では、「工学部」が最も高く(92%)、次いで「先進工学部」(75%)。

■各学部の“養成する人材像”の必要性(貴社にとって) (全体／各単一回答)

Q2/Q6/Q10. 「工学部」/「創造工学部」/「先進工学部」の“養成する人材像”について、貴社にとってどの程度必要があると考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。

	必要になる・計		どちらとも いえない	あまり必要に ならない	必要に ならない	無回答	必要になる・計	
	必要になる	ある程度 必要になる					必要になる (社数)	必要になる・計 (社数)
● 凡例								
工学部 (n= 808)			71.5%		20.0	1.9 4.3 1.4	578社	740社
創造工学部 (n= 808)		39.9		26.7	20.9	9.4 2.7	322社	538社
先進工学部 (n= 808)		38.2		36.4	16.8	5.1 2.6	309社	603社

コメント文
現代社会を支える工学の知識と技術を修得し、ものづくりやシステムづくりに活用できる専門技術者を養成します。学科に応じた産業分野における研究開発、設計・製造、品質管理、保守点検などを担います。
創造工学と各学科での専門知識を身につけることで、建築・建設・住宅・インテリア・製品等に関わる生産や、それらに関わる調査・企画・計画・設計、維持管理・マネジメント等の業種で活躍できる人材を養成します。
工学における先進的な産業分野において広範に活躍できる人材を養成します。工業機械や家電メーカーから、情報・環境・福祉、サービス系企業まで、幅広い進路への就職に加え、大学院進学も積極的に推奨します。



3. 学科別の新卒採用意向(「採用意向・計」の割合)

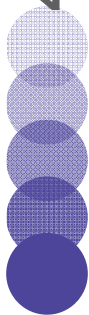
- ▶ **全学科とも三分の一以上の企業から採用意向あり**(「とても採用したい」「または「採用を検討したい」と回答)。
- ▶ 四分の三以上の企業から採用意向あったのは2学科。
「工学部・電気電子工学科」 77%／「工学部・機械工学科」 76%
- ▶ 工学部では、「機械電子創成工学科」「情報通信システム工学科」への採用意向も6割台と高い。
 - その他、「工学部・先端材料工学科」「創造工学部・建築学科」「創造工学部・都市環境工学科」「先進工学部・未来ロボティクス学科」への採用意向が5割台。

■ 学科別の新卒採用意向 (全体／各単一回答)

Q3/Q7/Q11. 「工学部」「創造工学部」「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社の考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

採用意向・計										採用したい (社数)	採用意向・計									
採用意向・計			採用を 検討したい		どちらでもない		あまり 採用したくない		採用したくない		無回答									
● 凡例																				
(n=808)																				
工学部	機械工学科			49.0%				26.9		15.8		75.9	396社	613社						
	機械電子創成工学科			37.6				30.9		21.2		68.6	304社	554社						
	先端材料工学科			23.3		32.5				31.7		55.8	188社	451社						
	電気電子工学科			48.0				28.8		15.1		76.9	388社	621社						
	情報通信システム工学科			38.4		30.7		27.1		21.8		65.5	310社	529社						
応用化学科												16.8	30.7	35.0	6.9	5.2	5.3	47.5	136社	384社
創造工学部	建築学科			30.9		21.0		33.9		5.3		52.0	250社	420社						
	都市環境工学科			30.9		21.0		33.9		5.7		52.0	250社	420社						
	デザイン科学科			20.8		28.3		35.1		6.8		49.1	168社	397社						
	未来ロボティクス学科			28.8		29.3		29.8		3.5		58.2	233社	470社						
先進工学部	生命科学科			11.5		25.2		44.2		8.5		36.8	93社	297社						
	知能メディア工学科			18.9		28.5		36.6		6.1		47.4	153社	383社						

12001



4. 各学部各学科の新卒採用意向理由(1/2)

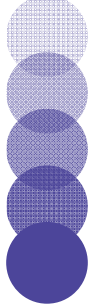
【工学部】

▶「機械工学科」「機械電子創成工学科」「先端材料工学科」「電気電子工学科」「応用化学学科」;
「(各学科の)専門技術者として採用したい」「業務に必要な知識だから」

▶「情報通信システム工学科」;
「情報処理知識や技術は有用で、SEとしての知識・経験に期待」「システムに精通した人・体系的に学んだ人を採用したい」

学部	学科	新卒採用意向理由
工学部	機械工学科	■ 機械系として採用したい／技術職採用／製造工場を保有し必要な人材。 “ゼネコン業務の中で、建設設備業務従事者を確保する為”(建設業／500～1,000人未満) “機械系の50代が定年をこれから迎える為、人材を補充していきたい”(製造業／500～1,000人未満)
	機械電子創成工学科	■ 人材不足を補充するため。 “弊社にとって人材不足であり、年齢構成から若手をどんどん採用したい”(建設業／100～500人未満)
	先端材料工学科	■ 材料に知識がある人材を採用したい。 “素材メーカーの為、材料(特に鉄)の知識を有している人は採用したい。他は人物を見て評価となる”(鉄鋼業／500～1,000人未満)
	電気電子工学科	■ 電気系技術者を採用したい／電気設備事業者として必要な人材。 “マンション建設等において電気設備設計職が不足しています。電気知識を志す学生を採用したいと考えます”(建設業／100～500人未満) “当社で扱う「看板」の業界においては、環境問題・省エネルギー化が進んでおり、その観点から特に電気電子工学科の学生さんへの採用意向を強く持っています”(製造業／100人未満)
	情報通信システム工学科	■ 情報処理知識や技術は有用／SEとしての基礎知識やプログラミング経験に期待。 “ITの知識がある程度あれば、入社後の研修にも入りやすく即戦力になるまでの期間も短いと考えられる為”(情報処理関連業／100人未満)
	応用化学学科	■ システムに精通した人・体系的に学んだ人を採用したい。 “システムソリューションを事業としており、基礎技術としてシステム工学の知識が必要となる。しかし、最終的にはシステムの取りまとめ等を行なう為、システム工学に限らず社会をIGTで支える人材を求めている為”(情報処理関連業／1,000～3,000人未満)
工学部	化学系の専門知識が必須の為。	■ 化学系の専門知識が必須の為。 “・技術職＝合成樹脂塗床材分野、無機系セメント系塗床材分野→研究開発、改良に理系の考え方が必要。・営業職＝文系社員より理系営業は知識や考え方として強い”(卸売・小売業／100～500人未満)

※工学部6学科のうち、当該1学科のみ「採用したい」と回答した企業から抜粋。
※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数



4. 各学部各学科の新卒採用意向理由(2/2)

【創造工学部】

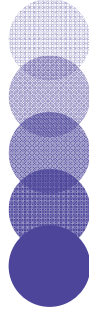
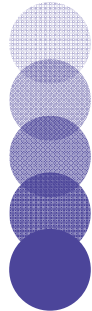
- ▶「建築学科」「都市環境工学科」：「学科の内容が事業に近いから」「(各学科の)学生は事業に必要／専門技術者として採用したい」
- ▶「デザイン科学科」：「パッケージや機械設計において、デザイナーは重要」「デザイナーを採用したい」

【先進工学部】

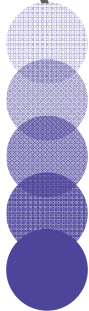
- ▶「未来ロボティクス学科」：「ロボットは今後必要とされる、研究開発領域」
- ▶「生命科学科」：「学科の内容が事業に近いから」
- ▶「知能メディア工学科」：「学科の内容に興味がある／今後事業拡大したい領域」

学部	学科	新卒採用意向理由
創造工学部	建築学科	■ 建築系の学生は貴重・事業に必要／現場監理できる人材・施工管理者を採用したい。 － “現場監理のできる人材を採用したいと考えています。また設計の分野で空間デザイン、プレゼンテーション能力等のある人材を求めています” (建設業／100人未満)
	都市環境工学科	■ 学科の内容が事業に近いから／インフラの全てに関係する。 － “都市環境工学科は当社の環境(エネルギー)見える化ソリューションと関連性がある為”(情報処理関連業／100～500人未満)
	デザイン科学科	■ パッケージや機械設計において、デザイナー力は重要。 － “人間工学的な点から、機械を設計する事は重要な分野であり、その為のデザイナーは無視する事ができないと考えます”(製造業／100～500人未満) ■ グラフィックデザイナー、Webデザイナーを採用したい。 － “グラフィックデザイナー、Webデザイナーを採用したい”(出版・印刷関連産業／500～1,000人未満)
	未来ロボティクス学科	■ ロボットは今後必要とされる、研究開発領域。 － “今後、新たなニーズが見込まれる(未来ロボティクス)”(製造業／1,000～3,000人未満)
	生命科学科	■ 学科の内容が事業に近いから。 － “生命科学科に期待しております(弊社は造園・緑化等にも力を入れており、社員には農学部、林学等の卒業生も多数在籍しております)” (建設業／100人未満)
先進工学部	知能メディア工学科	■ 学科の内容に興味がある／今後事業拡大したい領域。 － “「ユーザエクスペリエンス」というキーワードに興味を持った。ビッグデータ解析は事業として取り組んでいきたいと考えている分野であり、興味を持った為”(情報処理関連業／100～500人未満)

※各学部3学科のうち、当該1学科のみ「採用したい」と回答した企業から抜粋。
※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数



【調査結果】 設置計画案③ : 先進工学部



1.「先進工学部」の“設置の理念”の社会にとっての必要性

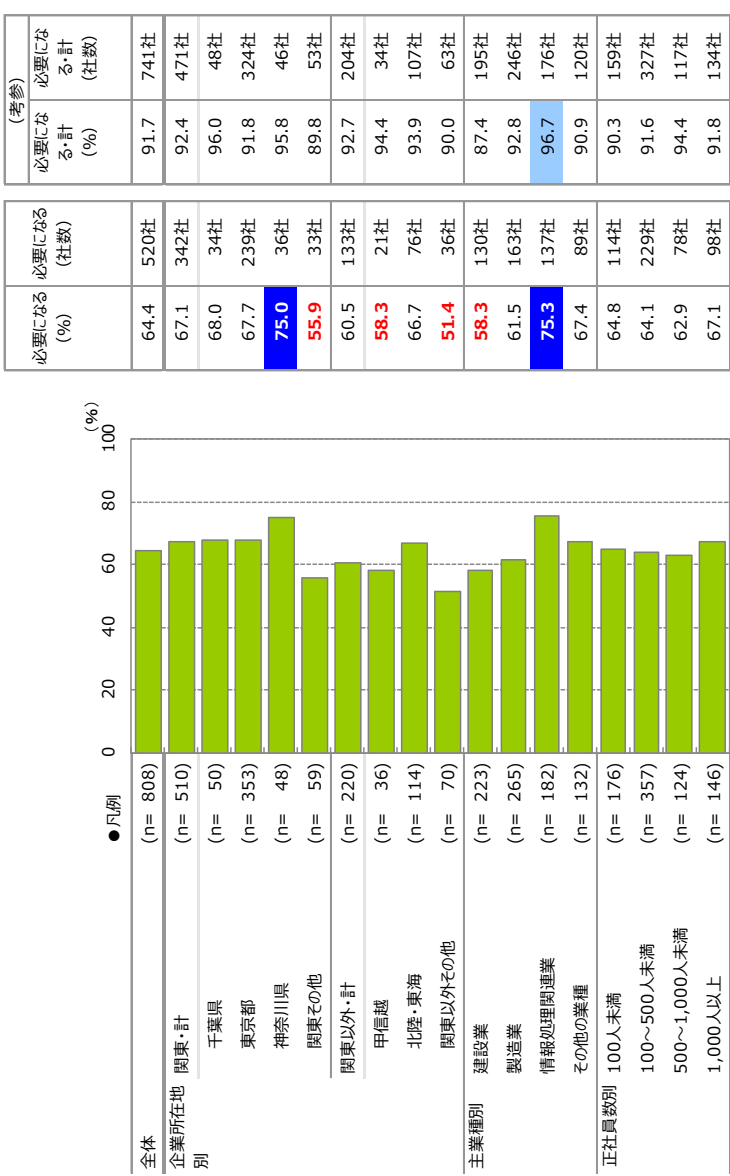
▶「先進工学部」の設置の理念が社会にとってどの程度必要になるか尋ねたところ、企業の64%が「必要になる」と回答。

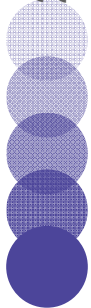
- 主要3業種で見ると、「情報処理関連業」では75%が「必要になる」と回答。

- 企業所在地別に見ると、「神奈川県」では「必要になる」と回答した割合が高い（75%）。

■「先進工学部」の“設置の理念”の必要性（社会にとって）：「必要になる」一覧（全体／単一回答）

Q9.「先進工学部」の“設置の理念”について、社会にとってどの程度必要があると考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。





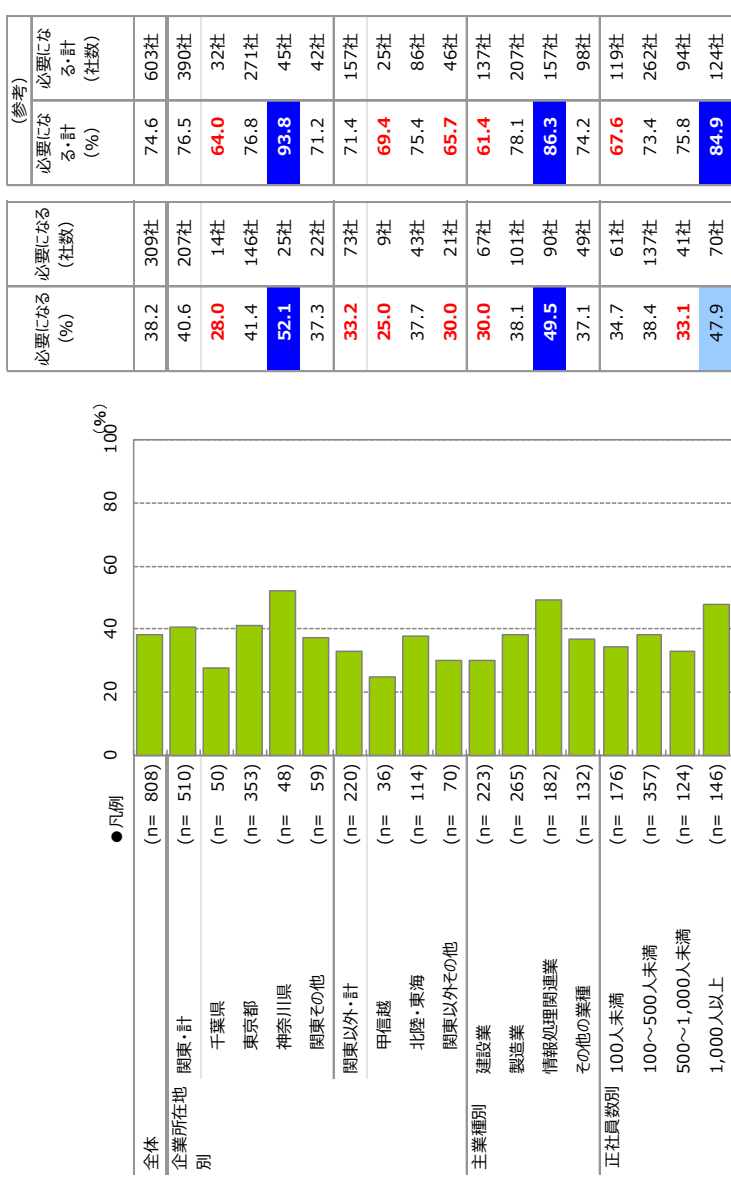
2. 「先進工学部」の“養成する人材像”の企業にとっての必要性

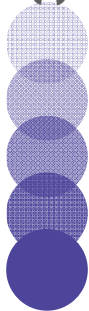
▶「先進工学部」の養成する人材像が企業にとってどの程度必要になるか尋ねたところ、企業の38%が「必要になる」と回答。

- 主要3業種で見ると、「情報処理関連業」の50%が「必要になる」と回答。
- 正社員数で見ると、「1,000人以上」では「必要になる」と回答した割合がやや高い(48%)。
- 企業所在地別に見ると、「神奈川県」では「必要になる」と回答した割合が高い(52%)。

■「先進工学部」の“養成する人材像”の必要性（貴社にとって）：「必要になる」一覧（全体／単一回答）

Q10. 「先進工学部」の“養成する人材像”について、貴社にとってどの程度必要があると考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。





3. 先進工学部 各学科の新卒採用意向

- ▶ 主要3業種の学科別採用意向の特徴(全体と比べて、「採用意向・計」の割合が高い業種)。
 - － 「製造業」： 「未来ロボティクス学科」への採用意向が、全体より10ポイント以上高い。
 - － 「情報処理関連業」： 全学科とも採用意向が高く、なかでも、「知能メディア工学科」への採用意向は全体より30ポイント以上も高い。
- ▶ 正社員数規模による学科別採用意向の特徴(全体と比べて、「採用意向・計」の割合が高い企業規模)。
 - － 全学科とも、人数が多いほど採用意向が高く、「1,000人以上」の企業では、各学科とも全体より10ポイント前後高い。

■「先進工学部」各学科の新卒採用意向：「採用意向・計」一覧（全体／各単一回答）

Q11. 「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。



12301.00

4-1. 未来ロボティクス学科 新卒採用意向

▲全体の採用意向: **58%**(先進工学部3学科の中で最も高い)

- 主要3業種で見ると、「情報処理関連業」(76%)、「製造業」(69%)での採用意向が高い。
- 正社員数で見ると、人数が多い企業ほど高くなり、「1,000人以上」での採用意向が7割台。
- 企業所在地別にみると、「神奈川県」での採用意向が高い(75%)。

■「先進工学部-未来ロボティクス学科」の新卒採用意向(全体/単一回答)

Q11. 「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

[illegible]

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

12301 01

▲全体の採用意向: 37%

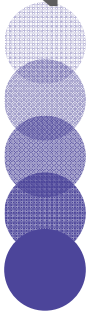
- 主要3業種で見ると、「情報処理関連業」での採用意向が5割台と高い。
- 正社員数で見ると、人数が多い企業ほど高くなり、「500～1,000人未満」「1,000人以上」での採用意向が4割台。
- 企業所在地別にみると、「東京都」での採用意向がやや高い。

■「先進工学部—生命科学科」の新卒採用意向（全体／単一回答）

Q11. 「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学号ごとにお選びください。

	●凡例	採用意向・計			どちらでもない	あまり採用したくない	採用したくない	無回答
		採用したい	採用を検討したい					
全体	(n= 808)	11.5%	25.2	44.2		8.5	72.3	
企業所在地別	関東・計	(n= 510)	13.7	25.1	43.7		8.2	59.3
	千葉県	(n= 50)	6.0	28.0	52.0		10.0	40.0
	東京都	(n= 353)	16.7	26.6	41.9		7.1	48.2
	神奈川県	(n= 48)	10.4	25.0	41.7	8.3	8.3	6.3
	関東その他	(n= 59)	5.1	13.6	49.2	13.6	11.9	6.8
	関東以外・計	(n= 220)	5.9	25.0	46.4	10.0	10.5	2.4
	甲信越	(n= 36)	2.8	19.4	44.4	11.1	22.2	-
	北陸・東海	(n= 114)	7.0	23.7	45.6	11.4	9.6	2.6
	関東以外その他	(n= 70)	5.7	30.0	48.6		7.1	5.7
	建設業	(n= 223)	6.3	19.7	47.1	10.8	12.6	3.6
主業種別	製造業	(n= 265)	7.5	23.8	46.4		11.7	8.7
	情報処理関連業	(n= 182)	20.9	34.6		37.4	4.4	0.5
	その他の業種	(n= 132)	15.9	25.8	44.7		4.5	4.4
	100人未満	(n= 176)	9.1	22.7	43.8	8.5	10.8	5.1
	100～500人未満	(n= 357)	9.8	22.7	47.6		9.8	7.6
正社員数別	500～1,000人未満	(n= 124)	15.3	29.8				
	1,000人以上	(n= 146)	15.8	30.8	38.4		7.3	2.4

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い



4－3. 知能メディア工学科 新卒採用意向

▶ 全体の採用意向： 47%

- － 主要3業種でみると、「情報処理関連業」での採用意向が8割弱ととても高い。
- － 正社員数でみると、人数が多い企業ほど高くなり、「1,000人以上」での採用意向が6割台。
- － 企業所在地別にみると、「神奈川県」「東京都」での採用意向が5割台。

■「先進工学部－知能メディア工学科」の新卒採用意向（全体／単一回答）

Q11. 「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社の考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

	採用意向・計							採用意向・計	採用したい (社数)	採用意向・計 (社数)
	採用意向・計			あまり採用したくない	採用したくない	無回答				
	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない							
● 凡例										
全体	(n= 808)	18.9%	28.5	36.6	6.1	6.8	3.1	47.4	153社	383社
企業所在地	関東・計	(n= 510)	21.8	28.2	34.7	6.3	6.1	50.0	111社	255社
別	千葉県	(n= 50)	10.0	28.0	52.0		6.0	38.0	5社	19社
	東京都	(n= 353)	24.1	30.3	31.4	5.9	5.4	54.4	85社	192社
	神奈川県	(n= 48)	29.2	29.2	31.3	2.1	6.3	58.3	14社	28社
	関東その他	(n= 59)	11.9	15.3	42.4	11.9	11.9	27.1	7社	16社
	関東以外・計	(n= 220)	11.8	27.3	44.1	5.5	9.1	39.1	26社	86社
	甲信越	(n= 36)	8.3	22.2	47.2	2.8	19.4	30.6	3社	11社
	北陸・東海	(n= 114)	11.4	30.7	41.2	5.3	8.8	42.1	13社	48社
	関東以外その他	(n= 70)	14.3	24.3	47.1	7.1	4.3	38.6	10社	27社
主業種別	建設業	(n= 223)	7.6	19.7	46.2	10.3	12.6	27.4	17社	61社
	製造業	(n= 265)	10.6	30.6	41.9	8.3	7.2	41.1	28社	109社
	情報処理関連業	(n= 182)	44.0	35.7	17.6	0.5	1.6	79.7	80社	145社
	その他の業種	(n= 132)	21.2	29.5	37.1	2.3	5.3	50.8	28社	67社
正社員数別	100人未満	(n= 176)	18.8	23.3	35.8	6.8	10.2	42.0	33社	74社
	100～500人未満	(n= 357)	18.5	24.6	41.7	5.3	7.6	43.1	66社	154社
	500～1,000人未満	(n= 124)	18.5	34.7	37.1		5.6	53.2	23社	66社
	1,000人以上	(n= 146)	21.2	39.0	26.0	7.5	4.8	60.3	31社	88社

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

12301.03

5. 先進工学部全般に対しての新卒採用意向理由

▶ 先進工学部全学科について「採用したい」企業からは、自社がものづくりの会社であり、学科の内容が採用基準に合致していたり、学科で身に付けた専門知識を仕事で活かしてほしい、あるいは新しい技術／分野に調整したい学生を歓迎するという声が寄せられた。

－ また、優れたOBを輩出している点も挙げられた。

【「先進工学部 全3学科」の新規卒業生について「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由(自由回答)の抜粋】

■ ものづくりの会社、学科の内容が採用基準に合致している。

- － “弊社が進めているビジネス(ビジネスソリューション、産業機器事業等)に必要となる人材に合致すると考えている為”(その他／3,000人以上)
- － “弊社の事業内容に通ずる部分がある為、良い学生さんであればぜひ採用したい”(情報処理関連業／100～500人未満)
- 学科で身に付けた専門知識を仕事に活かしてほしい／業務に役立ちそう。
 - － “システムサービスを提供する為には専門的な知識が要求される”(その他／100人未満)
 - － “ロボット制御工学等の分野を専攻された方は、当社のエンジニアとして活躍が期待できる為”(建設業／1,000～3,000人未満)
 - － “工学分野の基礎に最先端研究に関わっている学部と捉えておりますので、充分に弊社で活躍頂けると考えます”(製造業／1,000～3,000人未満)
 - － “先進工学関連は情報通信業にとって大切になると予想される”(情報処理関連業／100人未満)
 - － “組込プログラム、人工知能の分野、医療分野でソフトウェア開発は重要と考えています”(情報処理関連業／100人未満)

■ 新しい技術／分野に挑戦したい意欲のある学生、柔軟な発想力のある学生を歓迎。

- － “既存の枠にとらわれない柔軟な発想で新しい挑戦に取り組む事ができる方を求めている為”(サービス業／3,000人以上)
- － “時代の変化に柔軟に対応している力や考え方が、今後のビジネスに必要不可欠だと考える為”(情報処理関連業／1,000～3,000人未満)
- － “柔軟な発想ができる事は大変重要である事や、新しい先端技術を知る学生さんには会社で新しい知識を入れてくれる事を期待する”(建設業／100～500人未満)
- － “当社でも工業的な基礎を大切にしながら旧来の枠にとらわれない柔軟な発想を追い求めている為、当学部の方針に共感しております”(製造業／100人未満)
- － “未来思考で柔軟な発想を持った人材を採用できそうだから”(建設業／100～500人未満)

■ 論理的思考力、ITへの強さ、自己管理能力、創造性など学生の能力・学力に期待。

- － “ITに強い知識を身に付けていると思いますので”(建設業／100人未満)
- － “ハードウェアとソフトウェア両方の知識がある人材を採用したいと考えている為”(情報処理関連業／1,000～3,000人未満)
- － “問題解決能力や実験・研究を行なう事で論理的思考等も身に付いており、IT業界で活躍できる人材と考えております”(情報処理関連業／500～1,000人未満)

■ OBが優れており積極採用したい。

- － “千葉工業大学様のロボティクス研究は有名であり、優秀な学生さんが多いと感じた為”(卸売・小売業／500～1,000人未満)

■ 人物・ポテンシャル重視で様々な学科から採用したい。

- － “学部・学科問わず採用活動を行なっています。私どもの事業では医療に関わるシステムや制御や組み込みといった仕事等もしております。そういった中で、先進工学部で学んできた学生さんが学んだ事を活かせる機会がたくさんあると考えています”(情報処理関連業／100～500人未満)
- － “全学科応募可。人間性重視した採用を行なっています”(情報処理関連業／100人未満)

※自由回答末尾 ○ 凡例 並びは、業種／正社員数

6. 先進工学部 各学科の新卒採用意向理由

- ▶「未来ロボティクス学科」の採用意向理由として、「学科の内容が事業に近いか」「ロボットに関する知識・設計力等に期待／事業に活かそう」「ロボットは今後必要とされる、研究開発領域」を挙げている企業が多い。
- ▶「生命科学学科」の採用意向理由として、「学科の内容が事業に近いか」「事業に必要な知識がありそう」が挙げられている。
- ▶「知能メディア工学科」の採用意向理由として、「学科の内容が事業に近いか／SE、NEに関わる学科に思える」「学科の内容に興味がある／今後事業拡大したい領域」「ICT分野のエンジニアが必要／プログラミングできる学生を採用したい」が挙げられている。

【「未来ロボティクス学科」の新規卒業生についてのみ、「採用したい」と回答した企業の「採用したい」と回答した企業の（自由回答）の抜粋】

- 学科の内容が事業に近いかから。
 - “ロボティクス学科は弊社生産設備で関連するが、他の学科は思い浮かばない”（製造業／100～500人未満）
 - “当社の事業内容から未来ロボティクス学科は求める人材にマッチしており、ぜひ採用したい”（情報処理関連業／100～500人未満）
 - “生命科学と工学部の応用化学との差をはっきりと感じられない。未来ロボは設計者不足の当社にとって魅力ある学科”（製造業／100～500人未満）
- ロボットに関する知識・設計力等に期待／事業に活かそう。
 - “機械・電気・設計等、仕事に活かせる事が多い為”（建設業／1,000～3,000人未満）
 - “生産技術分野において必要な設計力と実践力の養成に期待できるから”（製造業／1,000～3,000人未満）
 - “当社は計測器（レコーダ等）、情報機器（プロッタ、スキナー、ガッター）のメーカーの為、エレキ・メカ・ファームの技術がないと物作りができない”（製造業／100～500人未満）
- ロボットは今後必要とされる、研究開発領域。
 - “今後、新たなニーズが見込まれる（未来ロボティクス）”（製造業／1,000～3,000人未満）
 - “弊社においても市場での製品用途拡大が見込まれている為”（製造業／500～1,000人未満）
 - “弊社開発業務において必要とする学科の為（未来ロボティクス学科）”（情報処理関連業／100～500人未満）

【「生命科学学科」の新規卒業生についてのみ、「採用したい」と回答した企業の「採用したい」と回答した企業の（自由回答）の抜粋】

- 学科の内容が事業に近いかから。
 - “生命科学学科に期待しております（弊社は造園・緑化等にも力を入れており、社員には農学部、林学等の卒業生も多数在籍しております）”（建設業／100人未満）
 - “当社はバイオエネルギーを活用した工場を増設しており、今年度で全国で累計15工場が設置予定である。その工場の機械を稼働させる機械職や、材料の品質を管理する試験職は生命科学学科に対応している”（建設業／1,000～3,000人未満）
- 事業に必要な知識がありそう。
 - “生命科学の課程が高度管理医療機器の管理者として必要な知識である為（コンタクトレンズ）”（製造業／100～500人未満）
 - “当社の業務とさほど関連がないと思われる。生命科学学科に関しては、当初では農作物に関する知見も重要な為、興味深い”（製造業／500～1,000人未満）

【「知能メディア工学科」の新規卒業生についてのみ、「採用したい」と回答した企業の「採用したい」と回答した企業の（自由回答）の抜粋】

- 学科の内容が事業に近いかから／SE、NEに関わる学科に思える。
 - “SE、NEに関わる学科に思える為”（情報処理関連業／100～500人未満）
 - “当社では音楽ホール等の音響システムや映像システムの施工など業務として行なっていますので、ご希望者は採用を検討します”（卸売・小売業／100～500人未満）
- 学科の内容に興味がある／今後事業拡大したい領域。
 - “「ユーザエクスペリエンス」というキーワードに興味を持った。ビッグデータ解析は事業として取り組んでいきたいと考えている分野であり、興味を持った為”（情報処理関連業／100～500人未満）
 - “世にあふれる情報をいかに活用するかが今後のテーマとなってくる。ビッグデータを解析駆使し、ユーザーが求めるものを提供していく事で、社会貢献する事ができる”（情報処理関連業／100人未満）
- ICT分野のエンジニアが必要／プログラミングできる学生を採用したい。
 - “ICT分野のエンジニアが必要”（建設業／1,000～3,000人未満）
 - “プログラムができる学生を求めています（技術面では）”（情報処理関連業／100～500人未満）

※自由回答末尾 ○ 凡例 並びは、業種／正社員数

千葉工業大学 新学部・新学科に関するアンケート調査＜企業＞

7. 「先進工学部」に対するご意見・ご要望

- ▶ クリエイティブな発想ができて、チャレンジ精神旺盛な人材、技術動向に敏感な人材の育成への期待が寄せられている。
- ▶ また、先進工学部の内容が、今後の社会に必要な分野と認識されており、大学の研究活動や技術開発力も期待されている。

【「先進工学部」に対するご意見・ご要望(自由回答)の抜粋】

■ クリエイティブな発想ができる人材、チャレンジ精神旺盛な人材の育成に期待。

- “技術面のみならず、人間的にも枠にとらわれないクリエイティブな発想を持つ学生が増えると嬉しく思います”(製造業／100人未満／〇〇〇)
- “世界のレベルに対抗できる技術開発へ意欲と夢をお持ちの人材育成に期待します”(製造業／100～500人未満／〇〇〇)
- “何事にもチャレンジする学生が欲しいです”(製造業／100～500人未満／〇ー＊)

■ 学外の専門家を招聘した授業を含め、技術動向に敏感な人材を育成して欲しい。

- “世間の進歩、動向に敏感であり、産業界から先生を連れてくるような施策も検討してほしい”(製造業／100～500人未満／〇＊△)
- “新しい技術は日々進化していくので、その感覚を必要とする学生を育てて下さい”(建設業／100～500人未満／△△△)
- “日本の技術力を支える力になるような人材を育てて下さい”(建設業／100人未満／△△△)

■ 今後の社会に必要な分野。

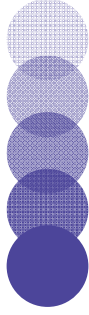
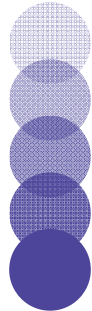
- “今後の日本を担う重要な3分野だと思います”(情報処理関連業／500～1,000人未満／△△〇)
- “今後の社会に必要な分野であり、事業拡大等で当社にとっても必要な知識となる可能性もある為注目していきたい”(製造業／100～500人未満／〇＊＊)
- “産業構造が変革し、縦割り職務では対応しにくくなったことや、単なるモノ作りがアジアにシフトする中で科学をベースに、かつ学科融合の考え方は、将来のモノ・コト創り日本に寄与する取組と考えます”(製造業／3,000人以上／〇△×)
- “将来的にロボットの開発はこれからの日本には重要になってくるので重要である”(情報処理関連業／100～500人未満／＊×＊)

■ データ収集・解析プログラムなどの大学の研究活動や技術開発力に期待したい。

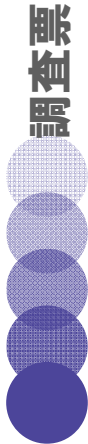
- “スマートデバイスを利用した研究もぜひ推進してほしいと感じています”(情報処理関連業／100人未満／〇〇〇)
- “生命科学科のカリキュラムに“データ収集・解析プログラミング”を含めて頂けると、弊社との連携も図りやすいと考えます(MATLAB等)”(情報処理関連業／100人未満／〇＊〇)
- “今後の技術開発の方向性を強く打ち出してほしい。早期に”(情報処理関連業／100～500人未満／〇＊△)

※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数／各学科（未来ロボティクス、生命科学、知能メディア）の採用意向
採用意向：○採用したい／△採用を検討したい／＊どちらでもない／×あまり採用したくない・採用したくない／ー無回答





資料：調査票



調査票

はじめに、貴社についてお聞きます。

F1. 貴社の主業種をお選びください。(ひとつに○)

1. 農業・林業・漁業・鉱業	2. 建設業	3. 製造業
4. 鉄鋼業	5. 出版・印刷関連産業	6. 電気・ガス・熱供給・水道業
7. 運輸・運送業	8. 航空関連業	9. 旅行業
10. 電気通信業	11. 情報処理関連業	12. 卸売・小売業
13. 総合商社	14. 飲食店	15. 金融業(銀行・信託・証券・貸金)
16. 保険業	17. 不動産業	18. サービス業
19. 医療機関(病院)	20. 福祉関連業	21. 学校・教育産業
22. 官公庁・自治体・公共団体	23. その他 ()	

F2. 貴社の正社員数をお選びください。(ひとつに○)

1. 100 人未満	2. 100～500 人未満	3. 500～1,000 人未満
4. 1,000～3,000 人未満	5. 3,000 人以上	

F3. 貴社で過去 3 年以内に採用した新卒者の「最終学歴」をお選びください。(いくつでも○)

1. 高校卒	2. 短大卒	3. 大学卒	4. 大学院卒
5. 専門学校卒	6. その他 ()		
7. 新卒の採用はなかった → F5 へお進みください			

F4. 貴社の 2014 年 4 月入社の新卒採用状況についてお聞きます。

大学・大学院卒の方の採用数としてあてはまるものをお選びください。(ひとつに○)

1. 1～9 人	2. 10～49 人	3. 50～99 人	4. 100～499 人
5. 500 人以上	6. 新卒は採用しなかった(0 人) → F5 へお進みください		

SF1. 2014 年 4 月入社における本学卒業生の採用実績としてあてはまるものをお選び下さい。

1. 採用した	2. 採用はなかった	3. 未詳(わからない)

F5. 2015 年 4 月入社の新卒採用数について、現時点でどのようなようにお考えですか。

貴社の方針に近いものをお選び下さい。(ひとつに○)

1. 2014 年よりも増えると思う	2. 2014 年と同程度だと思う	3. 2014 年よりも減ると思う
4. 新卒の採用は行わない予定	5. 未定(わからない)	

F6. 今後の新卒者の採用にあたり、どのような「最終学歴」の方の採用をお考えですか。

貴社にとって採用対象となると思われるものをすべてお選びください。(いくつでも○)

1. 高校卒	2. 短大卒	3. 大学卒	4. 大学院卒
5. 専門学校卒	6. その他 ()		
7. 新卒の採用は行わない予定			

※調査票1ページ目のあいさつ文(アンケート協力のお願い)は割愛。

F7. 今後の新卒者を含めた採用活動に際し、貴社ではどのような能力を重視するお考えですか。

あてはまる能力を以下からすべてお選びください。(いくつでも○)

1. コミュニケーション能力	2. 主体性	3. 協調性
4. チャレンジ精神	5. 誠実性	6. 責任感
7. 論理性	8. 専門性	9. 職業観
10. 創造性	11. 柔軟性	12. 信頼性
13. リーダーシップ	14. 一般常識	15. 外国語力
16. 日本語力	17. 数的処理力	18. 倫理観
19. 感受性	20. その他 ()	

ここからは、千葉工業大学の新しい学部/学科に関する設問です

！別添の「新しい学部学科紹介」をよく読んでいただき、お答えください。

※新しい3つの学部(工学部、創造工学部、先進工学部)それぞれについて伺います。

設置計画案①:工学部

Q1. 「工学部」の「設置の理念」について、社会にとってどの程度必要があると考えますか。

あなたのお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「工学部」 設置の理念	現在の工業界の基幹となっている工学分野、すなわち機械、電気電子、情報通信、材料、化学の分野、及び機械と電気の融合分野における専門技術者を育成することで社会のニーズに応えます。

1. 必要になる	2. ある程度必要になる	3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない	5. 必要にならない	

Q2. 「工学部」の「養成する人物像」について、貴社にとって今後どの程度必要になると考えますか。

貴社のお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「工学部」 養成する人物像	現代社会を支える工学の知識と技術を修得し、ものづくりやシステムづくりに活用できる専門技術者を養成します。学科に応じた産業分野における研究開発、設計製造、品質管理、保守点検などを担います。

1. 必要になる	2. ある程度必要になる	3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない	5. 必要にならない	

※Q3は、新卒採用をお考えの方にお聞きます。(F6で『7. 新卒の採用は行わない予定』を選択した方はQ4へお進みください)

Q3.「工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますが。

貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。(それぞれひとつに○)

大学名	学部名	学科名	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない	採用したくない	採用したくない
千葉工業大学	工学部	機械工学科	1	2	3	4	5
		機械電子創成工学科	1	2	3	4	5
		先端材料工学科	1	2	3	4	5
		電気電子工学科	1	2	3	4	5
		情報通信システム工学科	1	2	3	4	5
		応用化学科	1	2	3	4	5

SQ1. 上記ご回答についての理由をお書き添え下さい。

Q4.「工学部」に対するご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

設置計画案②：創造工学部

Q5.「創造工学部」の“設置の理念”について、社会にとっての程度必要があると考えますが。

あなたのお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「創造工学部」設置の理念

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

Q6.「創造工学部」の“養成する人物像”について、貴社にとって今後どの程度必要になると考えますか。

貴社のお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「創造工学部」	創造工学と各学科での専門知識を身につけることで、建築・建設・住宅・インテリア・製品等に関わる生産や、それらに関する調査・企画・計画・設計、維持管理、マネジメント等の業種で活躍できる人材を養成します。

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

※Q7は、新卒採用をお考えの方にお聞きます。(F6で『7. 新卒の採用は行わない予定』を選択した方はQ8へお進みください)

Q7.「創造工学部」の新規卒業生について、貴社としてどの程度採用意向をお持ちになりますか。

貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。(それぞれひとつに○)

大学名	学部名	学科名	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない	採用したくない	採用したくない
千葉工業大学	創造工学部	建築学科	1	2	3	4	5
		都市環境工学科	1	2	3	4	5
		デザイン科学科	1	2	3	4	5

SQL2. 上記ご回答についての理由をお書き沿え下さい。

Q8.「創造工学部」に対するご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

設置計画案③:先進工学部

Q9.「工学部」の“設置の理念”について、社会にとってどの程度必要かと考えますか。
あなたのお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「先進工学部」 設置の理念	従来の工学分野を基礎として、時代の変化に対応した先進的な科学技術と学際的な新領域への応用を目指し、基礎から実践までを確実に修得できる教育と最先端の研究を行います。		

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

Q10.「先進工学部」の“養成する人物像”について、貴社にとって今後どの程度必要になると考えますか。
貴社のお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「先進工学部」 養成する人物像	工学における先進的な産業分野において広範に活躍できる人材を養成します。工業機械や家電メーカーから、情報、環境、福祉、サービス系企業まで、幅広い進路への就職に加え、大学院進学も積極的に推奨します。		

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

※Q11は、新卒採用をお考えの方にお聞きします。(F6で「7. 新卒の採用は行わない予定」を選択した方はQ12へお進みください)

Q11.「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお待ちになりますか。
貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。(それぞれひとつに○)

大学名	学部名	学科名	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない	採用したくない	採用したくない
千葉工業大学	先進工学部	未来ロボティクス学科	1	2	3	4	5
		生命科学科	1	2	3	4	5
		知能メディア工学科	1	2	3	4	5

SQ3. 上記ご回答についての理由をお書き添え下さい。

Q12.「先進工学部」に対するご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

最後に、千葉工業大学全体に関する設問です

Q13.「千葉工業大学」全体に対するご意見・ご要望がございましたら、どのようなことでも構いませんのでご記入ください。

質問はこれで終了です。
長時間ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

未来ロボティクス学科 履修モデル

科 目		履修年次				1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		単位計	卒業要件			
		1 S(前期)	単位	2 S(後期)	単位	3 S(前期)	単位	4 S(後期)	単位	5 S(前期)	単位	6 S(後期)	単位			7 S(前期)	単位	8 S(後期)
教養基礎科目	コミュニケーションスキル	センテンス・ストラクチャ1	1	センテンス・ストラクチャ2	1	7トランス・コグニションB1	1											
		英語コミュニケーションB1	1	英語コミュニケーションB2	1	7トランス・コグニションB1	1											
		日本語表現法	1															
		情報処理	2															
教養基礎科目	人間力養成	スポーツ科学	2	キャリアデザイン2	1													
		キャリアデザイン1	1															
教養共通科目	国際理解	初年次教育	1															
教養特別科目	総合																	
専門基礎科目																		
専門基幹科目																		
専門展開科目																		
単位計															13	7		

必修科目	選択科目

未来ロボティクス学科 履修モデル

[illegible]

必修科目	選択科目

生命科学科 履修モデル

生命科学に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、特に遺伝子工学分野に強みを持つ技術者。ならびに生命科学の研究者

科目	履修年次				1年次				2年次				3年次				4年次				単位計	卒業要件
	1 S(前期)	単位	2 S(後期)	単位	1 S(前期)	単位	2 S(後期)	単位	3 S(前期)	単位	4 S(後期)	単位	5 S(前期)	単位	6 S(後期)	単位	7 S(前期)	単位	8 S(後期)	単位		
教養基礎科目	センテンス・ストラクチャ1	1	センテンス・ストラクチャ2	1	7Aハンスト・コグニションB1	1															36 単位以上	36 単位以上
	英語コミュニケーションB1	1	英語コミュニケーションB2	1	7Bハンスト・コミュニケーションB1	1																
	日本語表現法	1																				
	情報処理	2																				
教養共通科目	スポーツ科学	2	キャリアデザイン2	1																	36 単位以上	36 単位以上
	キャリアデザイン1	1																				
	初年次教育	1																				
	勇文化理解	2	芸術と文化2	2																		
教養特別科目	言語と文化1	2																			124 単位以上	124 単位以上
	人間・社会・自然の理解																					
	総合																					
専門基礎科目	生物学1	2	生物学2	2																	13 単位以上	13 単位以上
	数学基礎	2	生命科学基礎演習	1																		
	化学基礎	2																				
専門応用科目	分子生物学1	2	生化学1	2	生命科学基礎実験1	2	生命科学基礎実験2	2													28 単位以上	28 単位以上
	生物物理学1	2	基礎生化学	2	生命科学のための倫理・法律	2	生物物理学2	2														
			分子生物学2	2	生化学2	2	遺伝子工学2	2														
			微生物学	2	遺伝子工学1	2	細胞生物学	2														
専門展開科目																					47 単位以上	47 単位以上
単位計	23		16		22		40		18		22		40		18		0		5		124 単位以上	124 単位以上

必修科目
選択科目

生命科学に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、特に植物バイオテクノロジー分野に強みを持つ技術者。ならびに植物科学の研究者

生命科学 履修モデル

[illegible]

必修科目	選択科目

必修科目	選択科目

知能メディア工学科 履修モデル

メディア情報の処理に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、特にメディア工学分野に強みを持つ技術者

履修年次		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		単位計	卒業要件
科目		1 S(前期)	2 S(後期)	3 S(前期)	4 S(後期)	5 S(前期)	6 S(後期)	7 S(前期)	8 S(後期)		
教養基礎科目	コミュニケーションスキル	センテンス・ストラクチャ1 1	センテンス・ストラクチャ2 1	7AハンズオンプロジェクトB1 1						36	36 単位以上
		英語コミュニケーションB1 1	英語コミュニケーションB2 1	7BハンズオンプロジェクトB1 1							
	情報処理	日本語表現法 1									
	スポーツ科学	情報処理 2									
教養共通科目	人間力養成	キャリアデザイン1 1	キャリアデザイン2 1							36	36 単位以上
		キャリアデザイン1 1									
	国際理解	初年次教育 1									
		異文化理解 2	言語と文化2 2								
教養特別科目	人間・社会・自然の理解	言語と文化1 2								36	36 単位以上
			倫理学 2	歴史と人間 2				経済学 2	物理の世界と先端技術 2		
			文学と芸術 2								
	総合				課題探究セミナー 2	イングリッシュライティング1 1					
専門基礎科目	数学基礎		複素統計 2							16	12 単位以上
	線形代数		物理学実験 2	離散数学 2	統計解析 2						
	物理学基礎		知能メディア基礎数学 2								
専門基幹科目	知能メディア体験演習	2	プログラミング言語基礎 2	情報理論 2	メディア基礎 2	人間中心設計 2				34	26 単位以上
			視覚造形基礎 2	知能メディアプロジェクト1 2	知能メディアプロジェクト2 2						
				コミュニケーションデザイン演習 2	プログラミング言語応用 2						
				コンピュータ工学 2	デジタルフォトリケーション 2						
専門展開科目				デジタルデザイン基礎演習 2	メディアデザイン論 2					89	88 単位以上
				ネットワーク基礎 2	メディア史 2						
				ヒューマンインタフェース論 2							
					人工知能基礎 2	メディア工学実験 2	ゼミナール1 2	ゼミナール2 2	ゼミナール3 2		
単位計		21	19	20	20	22	10	6	7	125	124 単位以上
単位計										39	32 単位以上

必修科目
選択科目

知能メディア工学科 履修モデル

メディア情報の処理に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけ、特にネットワーク・データ工学分野に強みを持つ技術者

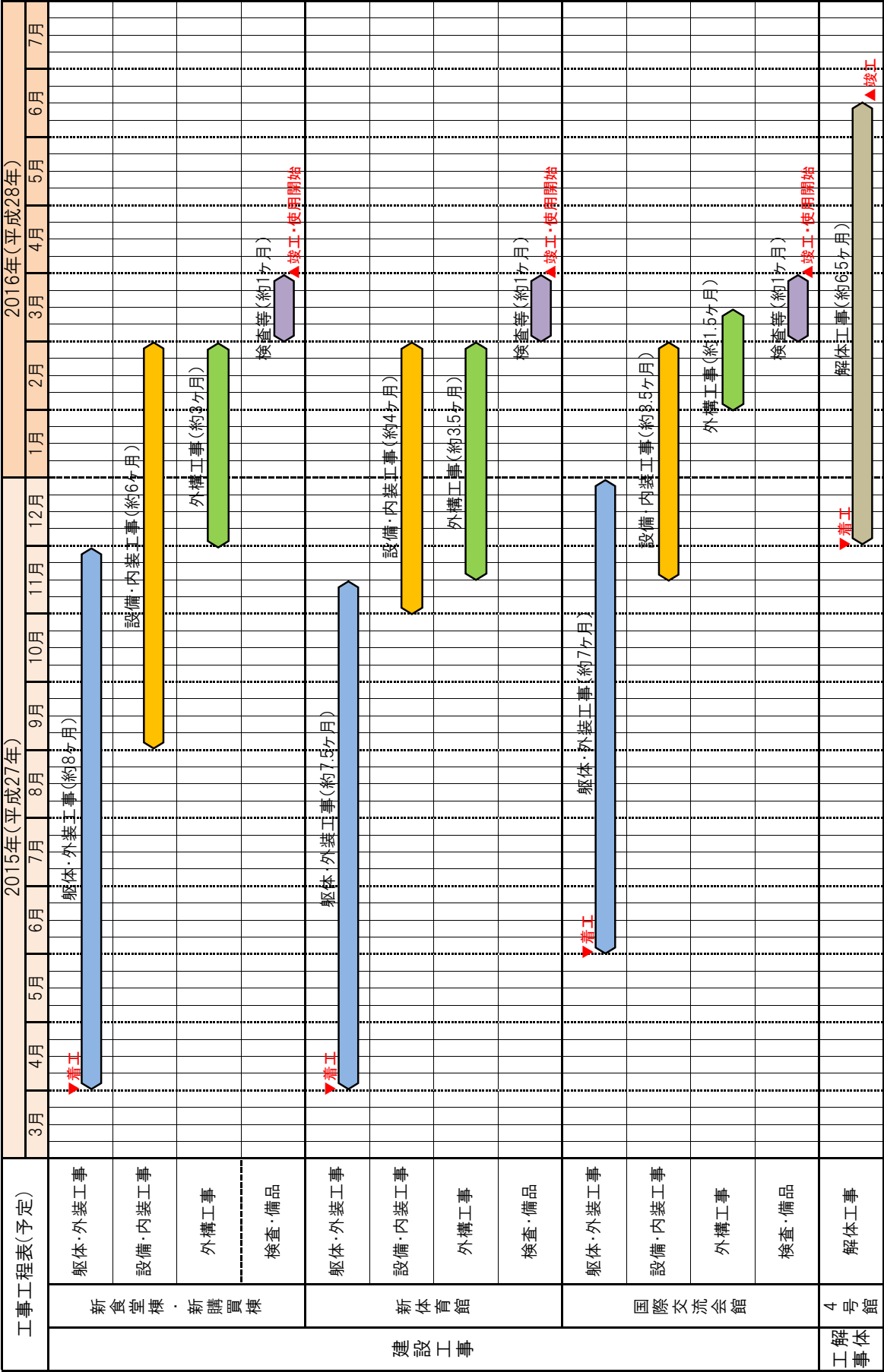
科目		履修年次		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次		単位計		卒業要件			
		1 S(前期)	単位	2 S(後期)	単位	3 S(前期)	単位	4 S(後期)	単位	5 S(前期)	単位	6 S(後期)	単位		7 S(前期)	単位	8 S(後期)
教養基礎科目	コミュニケーションスキル	センテンス・ストラクチャ1	1	センテンス・ストラクチャ2	1	7Aハンス・コフマン・ジョンB1	1										
		英語コミュニケーションB1	1	英語コミュニケーションB2	1	7Aハンス・コフマン・ジョンB1	1										
		日本語表現法	1														
		情報処理	2														
		スポーツ科学	2	キャリアデザイン2	1												
		キャリアデザイン1	1														
		初年次教育	1														
		異文化理解	2	言語と文化2	2												
		言語と文化1	2														
				倫理学	2	歴史と人間	2										
教養共通科目	人間・社会・自然の理解			文学と芸術	2												
教養特別科目	総合																
専門基礎科目																	
専門基幹科目																	
専門展開科目																	
単位計		21	40	19	40	20	40	20	32	22	10	6	13	7			

必修科目
選択科目

知能メディア工学科 履修モデル

[illegible]

■千葉工業大学 新習志野校舎 再開発計画工程表



■社会的・職業的自立に関する指導及び体制の概要

【教育課程内の取組における組織体制】

- 社会的・職業的自立の指導等を検討する
学部教育に関する横断的ワーキンググループ

【教育課程外の取組における組織体制】

- 就職委員会
○就職・進路支援部就職課



【教育課程内の取組】

- 教養科目全体を通じた取組み
- ・知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能及び態度・志向性の習得
 - ・国際理解及び人間・社会・自然の理解と課題解決能力の習得
 - ・職業現場への興味と関心と自らの職業選択に対する意識の涵養を図る
 - ・職業人が果たす役割と責任や自覚と態度を身に付ける

【教育課程外の取組】

- キャリア支援年間計画に基づく取組
- ・職務適性検査／自己分析講座
 - ・インターンシップ
 - ・公務員対策講座
 - ・キャリア支援講座
 - ・個別カウンセリング
 - ・Uターンガイダンス
 - ・企業等採用説明会
 - ・TOEIC 対策講座
 - ・知的財産管理技能検定対策講座
 - ・秘書技能検定対策講座
 - ・国語（文章）力トレーニング講座
 - ・特別英会話トレーニング
 - ・筆記試験対策（一般常識・SPI・CAB/GAB・クレペリン）
 - ・OB・OG 懇談会
 - ・就職講演会
 - ・業界研究セミナー
 - ・進路ガイダンス・就職準備ガイダンス
 - ・履歴書・エントリーシート対策講座
 - ・就職マナー講座
 - ・女子学生支援
 - ・集団面接・個別面接
 - ・グループディスカッション対策
 - ・合宿セミナー

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

未来ロボティクス学科の基礎となる工学部未来ロボティクス学科は、過去5年間の全試験種での平均志願者数が入学定員110人に対し3,904人となっており、平均定員倍率は35.5倍となっていた。また、入学者も定員を確保しており、今回の未来ロボティクス学科においても定員を充足することは十分可能であると考えている。

生命科学科の基礎となる生命環境科学科は、過去5年間の全試験種での平均志願者数が入学定員230人に対し3,287人となっており、平均定員倍率は14.3倍となっていた。また、入学者も定員を確保しており、生命科学科においても定員を充足することは十分可能であると考えている。

知能メディア工学科の基礎となる電気電子情報工学科は、過去5年間の全試験種での平均志願者数が入学定員300人に対し5,272人となっており、平均定員倍率は17.6倍となっていた。また、入学者も定員を確保しており、知能メディア工学科においても定員を充足することは十分可能であると考えている。(資料1)

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

未来ロボティクス学科、生命科学科、知能メディア工学科の設置計画に伴い、学生確保の見込みについて計量的なデータから検証することを目的として、関東エリアを中心とした全国の高等学校に在籍している高校生2年生を対象とした進学意向に関するアンケート調査を実施した結果、未来ロボティクス学科への進学意向については、入学定員120人の約3.2倍にあたる380人が進学意向を示しているとともに、約1.06倍にあたる127人が積極的な進学意向を示している。生命科学科への進学意向については、入学定員110人の約4.6倍にあたる509人が進学意向を示しているとともに、約1.1倍にあたる122人が積極的な進学意向を示している。知能メディア工学科への進学意向については、入学定員110人の約3.2倍にあたる355人が進学意向を示しているとともに、約1.55倍にあたる171人が積極的な進学意向を示しており、このような関東エリアを中心とした限られた調査の結果においても、ある程度の進学意向が認められる数値となっていることから、学生確保については十分に見込めるものと考えられる。(資料2)

ウ．学生納付金の設定の考え方

本学の学生納付金については、入学金、授業料からなり、本学学則第 50 条、第 51 条及び千葉工業大学学生納付金納入細則に定めている。

本学では、学生納付金はその収入の約 8 割を占めており、重要な財源となっている。このことから、学生納付金の設定については、理事長、常務理事、事務局長、財務部長によって協議し、理事会において決定している。

学生納付金の設定の考え方は、学部運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、設置圏周辺地域における類似学科を設置している私立大学（東京電機大学、東京理科大学、工学院大学等）の学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育研究経費比率及び経常経費依存率を見極めつつ、学部運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定としている。（資料 3）

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

まず受験生への広報として年間 3 回で約 1 万人を集めるオープンキャンパスへのさらなる集客や新学部説明コンテンツの充実を図るほか、対面訴求として効果的な学外進学相談会や高校での説明会参加を年間で 300 件以上行っていく。年々増加傾向にある個別の大学見学も積極的に受け入れる。

また、大学ホームページにて新学部特設サイトの開設や更新頻度の高い情報発信を行うほか、教育産業の進学情報誌や進学情報サイトへの露出を行っていく。一度接触のあった資料請求者には継続してニュースを盛り込んだダイレクトメールをタイムリーに発送し、関心を逸らせないような施策を行っていく。

高校教員に対しては新学部・新学科説明会を実施するほか、年間を通して約 400 校の高校訪問にて訴求をしていく。

一般の方に対する告知は上記のホームページのほかに新聞広告、電車内広告タウン誌などを利用するほか、学内外で行うイベントでも告知を進めていく。

（２）人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

先進工学部は、自ら学習を継続する能力・論理的思考力・課題解決力・コミュニケーション力・豊かな人間力・国際感覚と教養を備え、専門技術者として守るべき倫理や負うべき社会的責任を理解し、科学技術における先進的な分野において世界文化に貢献し得る人材を養成することを目的とする。

未来ロボティクス学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「ロボティクス学分野」として、「機械工学、電気工学、電子工学、情報工学、制御工

学に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ロボットに関する基本的な原理を理解させるとともに、人間の生活における利便性を向上させ、将来、ロボティクスの先進的な領域を開拓していく素養と実践的な能力を育成することにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、未来ロボティクス学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」のもとに、「機械設計、電気・電子回路設計、プログラミング、制御システム設計に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力を身に付けるとともに、将来的な発展性が期待されている制御技術や人工知能に関する製造技術者や開発技術者となり得る素養や資質を有する人材を養成する」こととしている。

生命科学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「生命科学分野」として、「生命科学に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における生命科学の意義や役割を理解させるとともに、生命現象や利用技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観を持って解決し、将来、生命科学の先進的な領域を開拓していく素養と実践的な能力を育成することにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、生命科学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」のもとに、「生命科学の基本的な概念や原理と法則の理解を深め、生命の複雑なシステムや生命現象及び個々の生命機能など、生命現象の共通性や多様性の理解とともに、これらを人類が直面している環境課題や食料問題などの解決に活用することができる柔軟な発想力と問題解決能力を有した人材を養成する」こととしている。

知能メディア工学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「メディア工学分野」として、「メディア情報の処理に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させるとともに、マルチメディア対応の人工知能分野の基礎と応用についての理解を通して、人間の生活における利便性を向上させ、将来、メディア工学の先進的な領域を開拓していく素養と実践的な能力を育成することにより、地域社会や地域産業への貢献を目指す」ことを教育研究上の目的としている。

また、知能メディア工学科では、「汎用的技能や客観的に物事を考えるための能力及び社会の一員として求められる態度や志向性、国際理解や人間、社会、自然に関する知識の理解」のもとに、「音響・音声・画像などのメディア処理技術及びマルチメディアを活用した情報表現とマルチメディアに関連した情報技術の基礎的な知識と技術を習得させるとともに、将来的な発展性が期待されているマルチメディア対応の人工知能分野のシステム開発やコンテンツ制作ができる技術者となり

得る素養や資質を有する人材を養成する」こととしている。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

未来ロボティクス学科の卒業後の進路としては、知能機械器具製造業、生活用機械器具製造業、産業用機械器具製造業、生産用機械器具製造業などをはじめとする機械製造関連分野を中心として、企画・開発、設計・管理などの職種に携わることにより、幅広く活躍することが期待される。

未来ロボティクス学科の基礎となる既設の工学部の未来ロボティクス学科では、開設以来、学科教育における人材養成の目的を達成するために、常に教育研究の改善に努めてきたことから、地域社会からの高い評価と信頼を得ており、これまでに寄せられた求人件数については、相当数の実績を有していることから、人材を受け入れる側の需要の高さを窺うことができる。(資料4)

今般の未来ロボティクス学科の設置計画においては、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、既設の未来ロボティクス学科における卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を十分に勘案したうえで、地域社会の多様な場において活躍する幅広い職業人の養成を目的として、教育内容を充実して設置することから、これまで以上の求人件数を見込むことができるものと考えている。

未来ロボティクス学科の設置計画を策定するうえで、卒業後の具体的な進路や地域社会の人材需要の見通しなどについて把握するために、民間企業などを対象として、未来ロボティクス学科において養成する人材や設置の必要性、未来ロボティクス学科の卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、民間企業などにおいては、先進工学部で養成する人材については、有効回答数 808 社の約 38%にあたる 309 社が必要性を認めており、先進工学部の設置については、有効回答数 808 社の約 64%にあたる 520 社がその必要性を認めており、また、未来ロボティクス学科を卒業した人材に対する採用意向については、有効回答数 808 社の約 28%にあたる 233 社が採用の意向を示しており、今般の限定された民間企業などに対する調査結果においても、未来ロボティクス学科を卒業した人材への需要は高いことが認められることから、卒業後の進路は十分に見込めるものと考えられる。(資料5)

生命科学科の卒業後の進路としては、食料品製造業や飲料製造業、化学工業製品製造業、医薬品製造業などをはじめ、理学・農学研究所や医学・薬学研究所などの学術・開発研究機関等において、研究・開発や企画・管理などの職種に携わることにより、幅広く活躍することが期待される。

生命科学科の基礎となる既設の工学部の生命環境科学科では、開設以来、学科教

育における人材養成の目的を達成するために、常に教育研究の改善に努めてきたことから、地域社会からの高い評価と信頼を得ており、これまでに寄せられた求人数については、相当数の実績を有していることから、人材を受け入れる側の需要の高さを窺うことができる。(資料4)

今般の生命科学科の設置計画においては、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、既設の生命環境科学科における卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を十分に勘案したうえで、地域社会の多様な場において活躍する幅広い職業人の養成を目的として、教育内容を充実して設置することから、これまで以上の求人数を見込むことができるものと考えている。

生命科学科の設置計画を策定するうえで、卒業後の具体的な進路や地域社会の人材需要の見通しなどについて把握するために、民間企業などを対象として、生命科学科において養成する人材や設置の必要性、生命科学科の卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、民間企業などにおいては、先進工学部で養成する人材については、有効回答数 808 社の約 38%にあたる 309 社が必要性を認めており、先進工学部の設置については、有効回答数 808 社の約 64%にあたる 520 社がその必要性を認めており、また、生命科学科を卒業した人材に対する採用意向については、有効回答数 808 社の約 11%にあたる 93 社が採用の意向を示しており、今般の限定された民間企業などに対する調査結果においても、生命科学科を卒業した人材への需要は高いことが認められることから、卒業後の進路は十分に見込めるものと考えられる。(資料5)

知能メディア工学科の卒業後の進路としては、ソフトウェア業や情報処理・提供サービス業、映像・音声・文字情報制作業及び映像・音声・文字情報制作に附随するサービス業、インターネット附随サービス業、映像・音響機械器具製造業などにおいて、企画・開発、設計・管理などの職種に携わることにより、幅広く活躍することが期待される。

知能メディア工学科の基礎となる既設の工学部の電気電子情報工学科及びデザイン科学科では、開設以来、学科教育における人材養成の目的を達成するために、常に教育研究の改善に努めてきたことから、地域社会からの高い評価と信頼を得ており、これまでに寄せられた求人数については、相当数の実績を有していることから、人材を受け入れる側の需要の高さを窺うことができる。(資料4)

今般の知能メディア工学科の設置計画においては、社会環境の変化や地域社会の要請を踏まえるとともに、既設の電気電子情報工学科における卒業生の進路や卒業生を受け入れる側の需要を十分に勘案したうえで、地域社会の多様な場において活躍する幅広い職業人の養成を目的として、教育内容を充実して設置することから、これまで以上の求人数を見込むことができるものと考えている。

知能メディア工学科の設置計画を策定するうえで、卒業後の具体的な進路や地域社会の人材需要の見通しなどについて把握するために、民間企業などを対象として、知能メディア工学科において養成する人材や設置の必要性、知能メディア工学科の卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、民間企業などにおいては、先進工学部で養成する人材については、有効回答数 808 社の約 38%にあたる 309 社が必要性を認めており、先進工学部の設置については、有効回答数 808 社の約 64%にあたる 520 社がその必要性を認めており、また、知能メディア工学科を卒業した人材に対する採用意向については、有効回答数 808 社の約 18%にあたる 153 社が採用の意向を示しており、今般の限定された民間企業などに対する調査結果においても、知能メディア工学科を卒業した人材への需要は高いことが認められることから、卒業後の進路は十分に見込めるものと考えられる。(資料5)

学生の確保の見通し等を記載した書類 資料目次

資料 1. 志願者数（全試験種） 5 ヶ年推移（2011～2015）

資料 2. 新学部・新学科に関するアンケート〈高校生対象〉

資料 3. 近隣競合大学の初年度納入金（平成 27 年度）

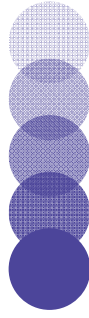
資料 4. 過去 5 年間の求職者（求職者数、求人件数、就職者数）実績

資料 5. 新学部・新学科に関するアンケート〈企業対象〉

志願者(全試験種)5カ年推移(2011～2015)

学科名	平成23年度 (2011年)			平成24年度 (2012年)			平成25年度 (2013年)			平成26年度 (2014年)			平成27年度 (2015年)		
	志願者	合格者	入学者	倍率	志願者	合格者	入学者	倍率	志願者	合格者	入学者	倍率	志願者	合格者	入学者
機械サイエンス学科	3,342	1,402	354	2.4	4,288	1,670	365	2.6	5,045	1,699	370	3.0	6,037	1,680	367
電気電子情報工学科	3,577	1,240	335	2.9	4,743	1,365	344	3.5	5,135	1,508	345	3.4	6,059	1,712	358
生命環境科学科	2,193	809	269	2.7	2,796	1,022	268	2.7	3,090	995	278	3.1	3,868	1,191	264
建築都市環境学科	2,206	1,393	355	1.6	3,174	1,328	347	2.4	3,543	1,182	345	3.0	4,393	1,324	343
デザイン科学科	1,793	999	218	1.8	2,427	1,108	203	2.2	2,712	992	211	2.7	3,385	1,136	213
未来ロボティクス学科	2,356	461	118	5.1	3,243	465	124	7.0	3,832	481	125	8.0	4,654	538	134
													5,438	842	208
													5,438	507	133
															10.7

千葉工業大学 御中



千葉工業大学 新学部・新学科に関するアンケート＜高校生対象＞

調査結果報告書

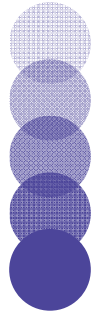
2015年2月

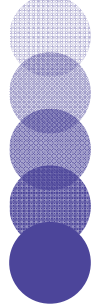
資料2

KOKOKUSHA
■ 廣 告 社 株 式 会 社

大学専門のマーケティング&リサーチ、コンサルティング会社
廣告タグループ

株式会社 大学ソリューション・パートナーズ





目次

▶ 調査概要	03
▶ 回答者プロフィール	04
【調査結果】	
▶ 新学科に対する評価	10
▶ 入学意向者の特徴	21
【資料】	
▶ 調査票	28
▶ 高校別有効回答数	32

▶ 調査目的

- 千葉工業大学で設置を計画している新学部・新学科について、高校2年生にその興味関心度や入学意向等を調査し、受容性を確認する。

▶ 調査対象

- 関東地方を中心とした全国の高校(主として理系コース)の高校2年生。

▶ 調査方法

1. 調査対象校に調査票を送付し、実査協力を依頼。各高校のホームルームなどの時間に教室にて配布し、回答・回収。
2. オープンキャンパス、大学見学、大学祭の個別進学相談で来校した生徒に調査票を配布し、回答・回収。
※高校における調査未実施を条件に実施。

▶ 回収数

- 合計:27,278サンプル(有効回答数)
- 回答高校数:328校 (※高校別有効回答数は32ページ参照。)

▶ 調査期間

- 2014年10月8日(水)配布開始 ～ 2015年2月12日(木)回収分まで

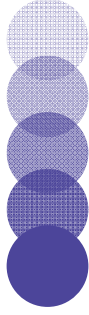
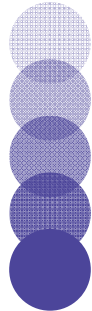
■ 高校所在地 (全体／単一回答)

調査数	北海道	青森県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	関東・計						香川県	不明	関東・計
全体	27278	0.0 (2)	0.4 (99)	1.4 (388)	11.4 (3099)	3.3 (893)	0.8 (205)	11.7 (3191)	45.2 (12323)	16.8 (4587)	3.7 (998)	0.8 (219)	1.6 (427)	1.3 (343)	1.2 (334)	0.0 (1)	0.0 (1)	0.6 (168)	92.7 (25296)

※下段 () 内の数字はn数

※表示のない府県の高校からの有効回答はゼロ。

20001



回答者プロフィール

性別

▲今回の回答者の男女比は、男子62%、女子38%。

- 大学進学意向者は、男子が63%、短期大学意向者は、約8割が女子。
- 「工学」「情報学」の進学希望者は、9割弱が男子。

■性別 (全体/単一回答)

		男	女	無回答
●凡例				
全体	(n=27278)	61.1%	38.4	0.5
希望進路別	進学希望・計	(n=24034)	59.9	39.7
大学	(n=19784)	63.4	36.1	0.5
短期大学	(n= 594)	16.8	82.8	0.3
専門学校	(n= 3656)	47.7	51.8	0.5
進学希望なし・計	(n= 3205)	70.4	29.2	0.3
進学希望分野別	工学	(n= 4536)	88.4	11.2
	理学	(n= 1849)	79.7	19.8
	情報学	(n= 1609)	88.9	10.4
	文学	(n= 622)	52.3	47.3
	外国語学	(n= 824)	35.8	63.6
	心理学	(n= 617)	45.7	54.3
	法学・政治学	(n= 411)	67.6	31.9
	経済学・経営学	(n= 1338)	72.5	27.0
	社会学	(n= 253)	61.7	37.9
	福祉学	(n= 206)	41.7	58.3
	農学	(n= 687)	64.2	35.1
	医学・歯学・獣医学	(n= 781)	48.4	50.8
	薬学	(n= 921)	50.9	48.8
	看護学	(n= 1544)	13.1	86.4
	その他の医療技術・保健学	(n= 1091)	45.4	54.1
	家政学・食物栄養学	(n= 896)	15.3	84.2
	教育学・保育学	(n= 1807)	39.1	60.6
	体育学・スポーツ学	(n= 939)	78.4	20.8
	芸術学	(n= 862)	34.3	65.1
	教養学・国際関係学	(n= 246)	31.7	67.9
	その他	(n= 1352)	53.2	46.1
高校所在地別	関東・計	(n=25296)	60.4	39.1
	千葉県	(n=12323)	57.4	42.4
	茨城県	(n= 3099)	58.3	41.0
	栃木県	(n= 893)	62.4	35.8
	群馬県	(n= 205)	52.7	45.9
	埼玉県	(n= 3191)	71.5	28.3
	東京都	(n= 4587)	62.4	36.9
	神奈川県	(n= 998)	59.6	38.2
	関東以外・計	(n= 1814)	68.9	30.1
				21001



回答者プロフィール：高校卒業後の希望進路

＜高校卒業後の希望進路＞

▶回答者の88%が、高校卒業後の進学を考え
ており、うち、75%が「大学進学」を希望。

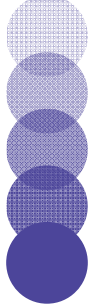
- 性別にみると、男性の方が女性より、「大学進学」を希望する割合が3ポイント高い。

■高校卒業後の希望進路（全体／単一回答）

F2. あなたは高校卒業後、どのような進路に進みたいと思いますか。最も進みたい進路をひとつお選びください。

	●凡例	進学希望・計				進学希望なし・計				進学希望 希望・計	大学進学 希望・計	進学希望 なし・計
		大学進学希望・計		専門学校 短期大学 (4年制・ 6年制)	就職	進学希望なし・計		無回答				
		大学	短期大学			その他						
全体	(n=27278)		72.5%	2.2	13.4	10.0	1.7	88.1	74.7	11.7		
性別												
男性	(n=16657)		75.3	0.6	10.5	11.8	0.1	86.4	75.9	13.5		
女性	(n=10473)		68.2	4.7	18.1	7.3	0.1	91.0	72.9	8.9		
進学希望 分野別												
工学	(n=4536)		90.2	—	0.5	9.3	—	100.0	90.7	—		
理学	(n=1849)		97.7	—	0.4	—	—	100.0	98.2	—		
情報学	(n=1609)		83.4	0.7	15.8	—	—	100.0	84.2	—		
文学	(n=622)		93.4	2.7	3.9	—	—	100.0	96.1	—		
外国語学	(n=824)		88.3	2.3	9.3	—	—	100.0	90.7	—		
心理学	(n=617)		87.8	3.2	8.9	—	—	100.0	91.1	—		
法学・政治学	(n=411)		95.9	0.2	3.9	—	—	100.0	96.1	—		
経済学・経営学	(n=1338)		94.4	1.5	4.1	—	—	100.0	95.9	—		
社会学	(n=253)		93.7	2.0	4.3	—	—	100.0	95.7	—		
福祉学	(n=206)		67.5	3.9	28.6	—	—	100.0	71.4	—		
農学	(n=687)		92.7	1.2	6.1	—	—	100.0	93.9	—		
医学・歯学・獣医学	(n=781)		79.8	2.4	17.8	—	—	100.0	82.2	—		
薬学	(n=921)		98.7	0.5	—	—	—	100.0	99.2	—		
看護学	(n=1544)		68.6	1.2	30.2	—	—	100.0	69.8	—		
その他の医療技術・保健*	(n=1091)		83.7	1.2	15.1	—	—	100.0	84.9	—		
家政学・食物栄養学	(n=896)		68.4	5.2	26.3	—	—	100.0	73.7	—		
教育学・保育学	(n=1807)		74.4	15.5	10.1	—	—	100.0	89.9	—		
体育学・スポーツ学	(n=939)		87.5	1.3	11.2	—	—	100.0	88.8	—		
芸術学	(n=862)		59.7	2.2	38.1	—	—	100.0	61.9	—		
教養学・国際関係学	(n=246)		90.2	1.6	8.1	—	—	100.0	91.9	—		
その他	(n=1352)		36.8	61.5	—	—	—	100.0	38.5	—		
高校所在地 別												
関東・計	(n=25296)		73.4	2.2	13.2	9.4	1.8	88.7	75.5	11.1		
千葉県	(n=12323)		66.7	2.8	15.6	12.8	1.9	85.1	69.5	14.7		
茨城県	(n=3099)		72.7	3.1	14.8	7.3	0.1	90.6	75.8	9.3		
栃木県	(n=893)		81.7	1.1	12.2	4.0	0.2	95.1	82.9	4.7		
群馬県	(n=205)		95.6	0.2	4.0	—	—	98.5	96.1	1.5		
埼玉県	(n=3191)		83.7	0.8	8.9	5.0	0.1	93.5	84.5	6.5		
東京都	(n=4587)		81.7	0.9	8.9	6.7	0.2	91.5	82.6	8.3		
神奈川県	(n=998)		75.2	1.7	14.4	6.7	0.1	91.3	76.9	8.6		
関東以外・計	(n=1814)		58.5	2.7	17.4	19.7	1.2	78.6	61.2	21.2		

21011



回答者プロフィール：進学先で学びたい興味のある分野／最も興味のある分野

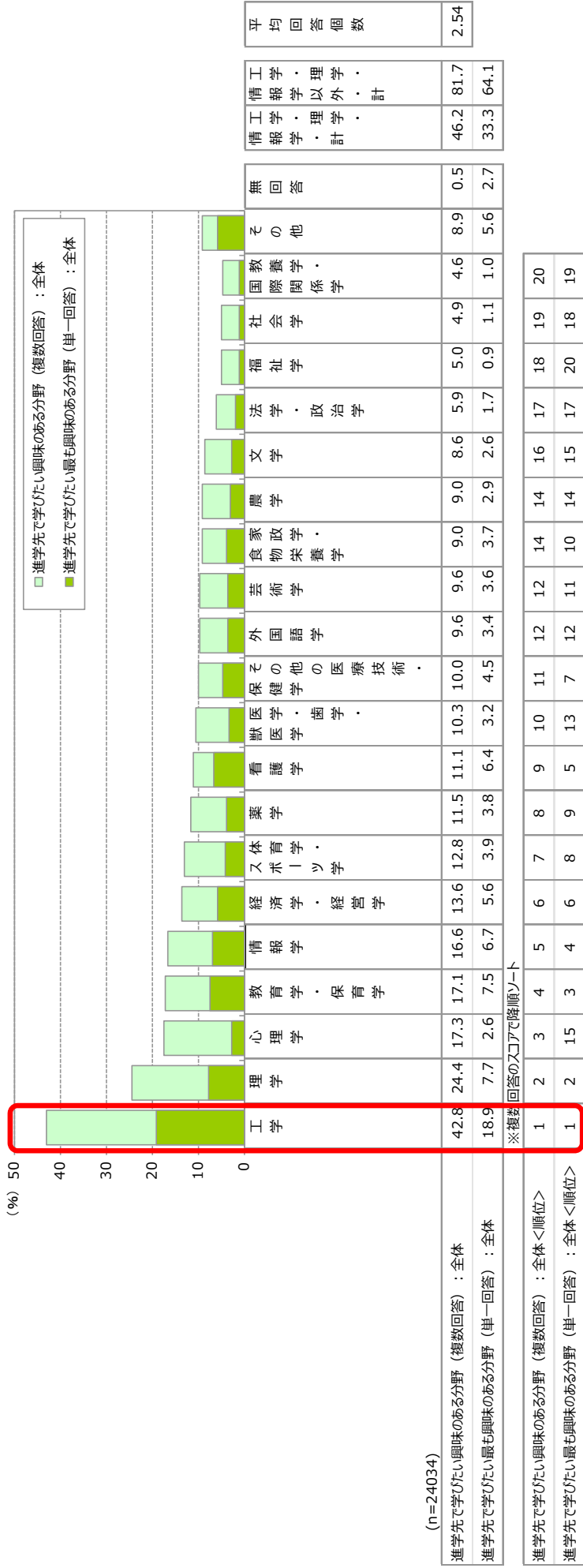
＜進学希望分野：興味のある分野／最も興味のある分野＞

- ▶興味のある分野(複数回答)では、「工学」が最も高い(43%)。
－「理学」が24%で続き、「心理学」「教育学・保育学」「情報学」が15%以上。
- ▶最も興味のある分野(単一回答)も、「工学」が最も高い(19%)。
－「理学」「教育学・保育学」「情報学」「経済学・経営学」が5%以上。

■進学先で学びたい興味のある分野 (進学希望者／複数回答)・進学先で学びたい最も興味のある分野 (進学希望者／単一回答)

F3. 進学先で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。あてはまるものをすべてお選びください。

F3SQ1. F3で選んだ番号のうち、最も興味がある分野の番号を右下の回答欄にお書きください。



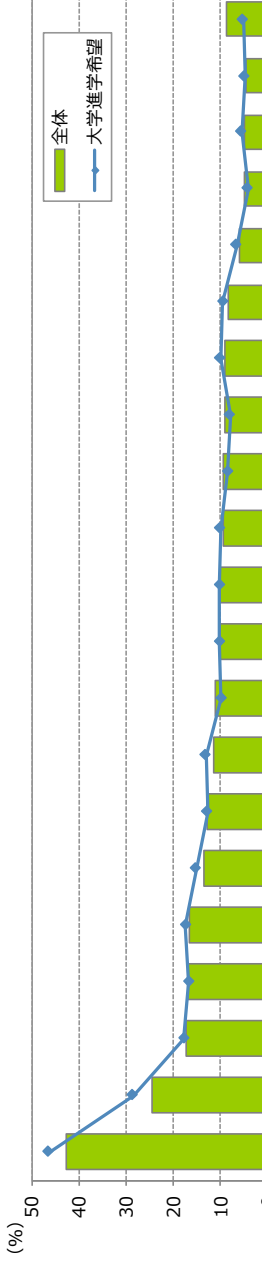
▲性別による異

- 男性は、「理学」(33%)、「情報学」(24%)が続いている。
- 男性の「工学」と女性の「看護学」は、それぞれ、全体。

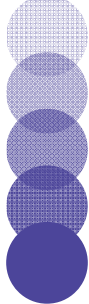
▲進路希望別

- 短期大学の進学意向者は、「教育学・保育学」が56%と最も高く、全体より39ポイント高い。「家政学・食物栄養学」が2番目に高く(19%)、全体より10ポイント高い。

F3. 進学先で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか。あてはまるものすべてをお選びください。

[illegible]

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ※全体で降順ソート



回答者プロフィール：進学先で学びたい最も興味のある分野(単一回答):属性別

▶性別による興味のある分野が異なる。男性は「工学」(28%)、女性は「看護学」(14%)。

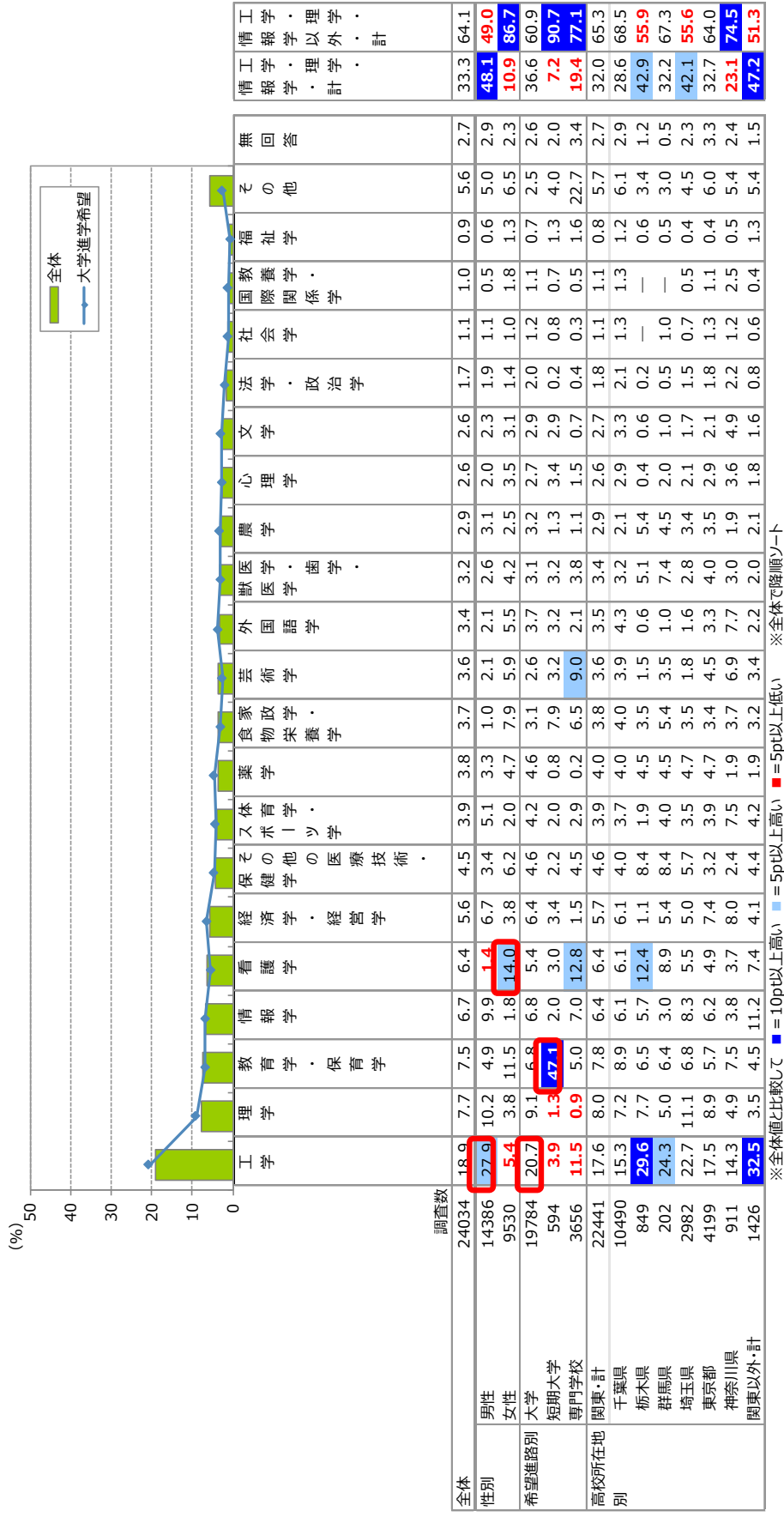
- 男性は「理学」(10%)、女性は「教育学・保育学」(12%)が続いている。

▶進路希望別にみると、大学への進学意向者では、「工学」が最も高い(21%)。

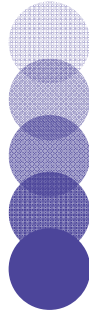
- 短期大学の進学意向者は、「教育学・保育学」が47%と最も高く、全体より39ポイント高い。

■進学先で学びたい最も興味のある分野：属性（進学希望者／単一回答）

F3SQ1. F3で選んだ番号のうち、最も興味がある分野の番号を右下の回答欄にお書きください。



※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ※全体で降順ソート



【調査結果】新学科に対する評価

▶「創造工学部・デザイン科学科」への興味・関心が最も高く(16%)、次いで、「工学部・機械工学科」(14%)。

- 性別にみると、男性は「工学部・機械工学科」(21%)への興味・関心が最も高く、女性も高く、女性も「創造工学部・デザイン科学科」(22%)が最も高い。

・特に男性では、工学部の「機械工学科」「機械電子創成工学科」「電気電子工学科」「情報通信システム工学科」で、女性より10ポイント以上高い。

- 希望進路別にみると、各層とも「創造工学部・デザイン科学科」への興味・関心が高い。

- 進学希望分野別にみると、分野ごとに興味・関心のある学部・学科がある。

・工学：「工学部・機械工学科」が最も高く(42%)、「創造工学部・建築学科」が3割台、「工学部・電気電子工学科」「工学部・機械電子創成工学科」が2割台。

・理学：「工学部・応用化学科」が最も高く(26%)、「先進工学部・生命科学科」も2割台。

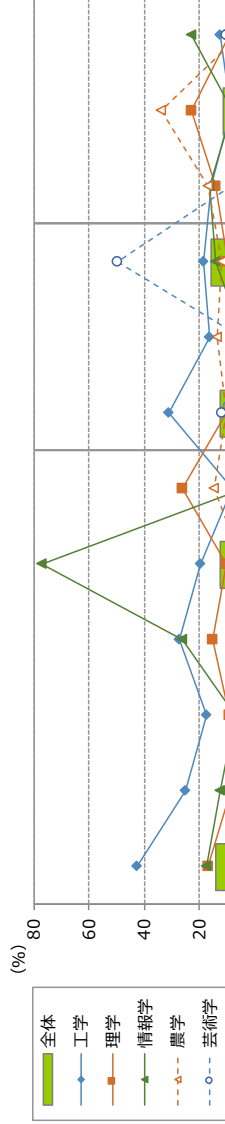
・情報学：「工学部・情報通信システム工学科」が77%と最も高く、「工学部・電気電子工学科」「先進工学部・知能メディア工学科」が2割台。

・農学：「先進工学部・生命科学科」が最も高い(34%)。

・芸術学：「創造工学部・デザイン科学科」が最も高い(50%)。

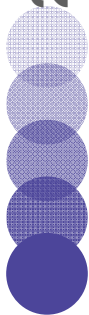
■新学部・学科への興味・関心 (全体/複数回答)

Q1. 千葉工業大学の新しいV12の学科について、あなたが興味や関心のある学科をすべてお選びください。※すべての学科に興味・関心がない方は、「X」すべての学科に興味・関心がないをお選びください、Q3へお進みください。



		興味や関心のある学科あり・計										興味や関心のない学科あり・計				平均回答数					
		工学部・計					創造工学部・計					先進工学部・計									
性別	調査数	機械工学	機械工学	先端材料	電気電子	情報通信	応用化学	建築学	都市環境	デザイン	未来ロボ	生命科学	工知学メ	工学部・計	創造工学部・計	先進工学部・計	興味や関心のあり・計				
		学	学	工	工	学	学	学	学	学	学	学	学								
全体	27278	14.1	8.5	6.8	10.1	12.7	6.6	12.4	7.4	15.5	10.3	11.3	8.1	40.3	7.0	32.9	25.5	23.1	52.6	2.35	
希望進路別	男性	16657	20.8	12.0	9.0	14.9	7.3	14.6	8.5	11.5	12.5	10.6	9.5	31.6	7.7	44.8	25.0	25.1	60.7	2.46	
	女性	10473	3.3	2.7	3.3	2.4	4.6	5.5	8.9	5.7	21.7	6.7	12.5	5.8	54.2	6.0	13.8	26.4	20.1	39.9	2.08
	進学希望・計	24034	14.7	8.8	7.0	10.6	13.6	7.2	13.0	7.8	16.1	10.8	12.0	8.5	41.1	3.3	34.6	26.7	24.5	55.6	2.34
	大学	19784	15.6	9.4	7.7	11.6	14.3	8.2	13.9	8.6	15.9	11.4	13.0	9.0	38.6	2.8	37.2	27.4	26.4	58.5	2.37
	短期大学 専門学校	594 3656	5.9 10.9	4.9 6.3	3.7 4.2	4.5 6.5	5.4 11.1	3.2 2.3	7.2 8.8	4.2 4.0	20.5 17.0	7.4 8.0	7.6 7.2	6.1 6.3	59.4 51.6	5.9 5.5	13.3 24.3	24.4 23.2	14.5 16.2	34.7 42.9	2.33 2.15
進学希望分野別	進学希望・計	3205	9.6	5.8	5.1	6.0	6.1	2.5	8.3	4.6	10.4	6.6	4.9	34.2	34.7	19.8	17.2	12.7	31.1	2.44	
	工学	4536	42.3	25.1	17.6	27.3	19.6	8.3	31.2	16.2	18.3	15.6	8.5	12.2	5.1	72.4	42.9	28.4	93.9	2.58	
	理学	1849	17.0	8.7	8.9	15.1	10.3	25.9	10.4	7.9	9.6	14.2	22.9	9.3	28.6	50.4	21.5	36.9	69.5	2.31	
	情報学	1609	17.3	12.7	6.9	26.0	77.1	3.8	5.2	4.3	14.0	16.2	8.2	22.9	9.5	83.3	19.1	35.9	89.7	2.39	
	農学 芸術学	687 862	8.2 4.9	3.6 3.9	3.9 3.6	4.2 3.1	4.2 6.5	14.7 2.1	10.5 11.9	13.7 4.9	11.9 49.9	17.0 8.7	33.8 7.9	5.5 10.2	34.6 36.9	1.9 3.2	27.2 15.1	27.7 53.0	48.8 20.4	63.5 59.9	2.07 1.97

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い



2. 新学部・学科への興味・関心の理由

▶興味や関心のある学科にその理由を尋ねたところ、全学科とも、「『学科』の内容が魅力的」が最も高い(40～56%)。

- 2番目以降の項目は学部によって異なる。

【工学部】

- ・ 全般的に、全学科とも、「学部として魅力的」が2番目に高い(23～27%)。
- ・ また、「機械工学科」「電気電子工学科」での「『卒業後の主な進路』が魅力的」「『学びのポイント』が魅力的」(21%)、「先端材料工学科」の「『学びのポイント』が魅力的」(23%)も、「学部として魅力的」と同水準。

【創造工学部】

- ・ 全学科とも、「学部として魅力的」が2番目に高く(26～33%)、「建築学科」では「『卒業後の主な進路』が魅力的」も高い(29%)。

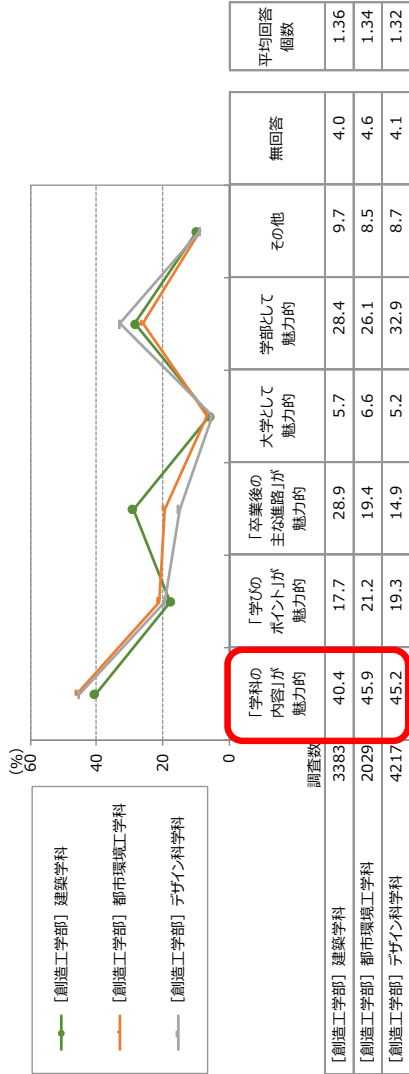
【先進工学部】

- ・ 全学科とも、「学部として魅力的」が2番目に高い(26～30%)。

■「創造工学部」新学科に興味や関心があると思う理由 (各学科に興味や関心があり／各複数回答)

Q2. Q1で「興味や関心がある」とお選びになった学科についてお聞きします。

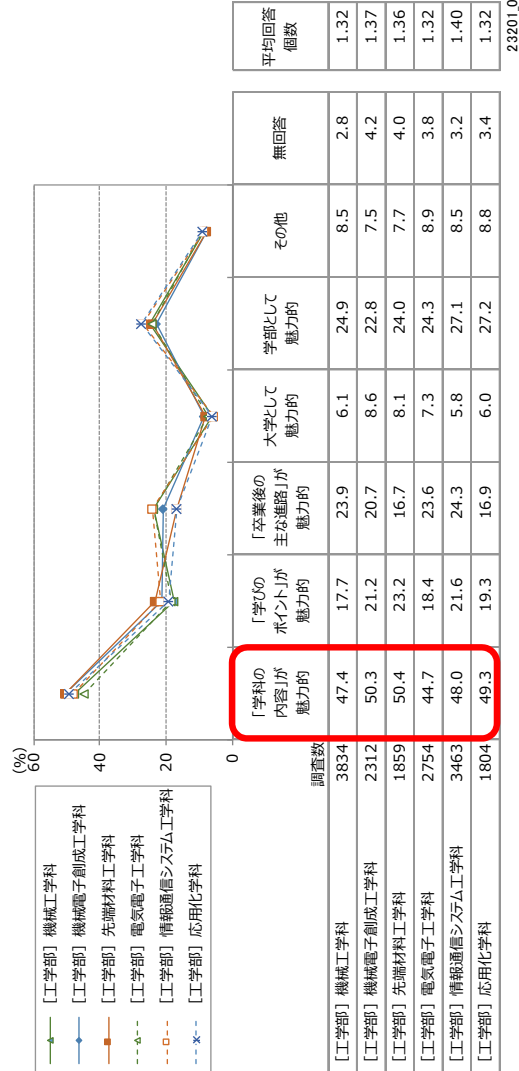
選んだ学科それぞれに対し、「興味や関心がある」と思う理由としてあてはまるものをすべて下記選択肢からお選びください。※あなたがQ1で選んだ学科についてののみお答えください。

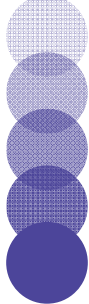


■「工学部」新学科に興味や関心があると思う理由 (各学科に興味や関心があり／各複数回答)

Q2. Q1で「興味や関心がある」とお選びになった学科についてお聞きします。

選んだ学科それぞれに対し、「興味や関心がある」と思う理由としてあてはまるものをすべて下記選択肢からお選びください。※あなたがQ1で選んだ学科についてののみお答えください。





3－1. 新学部学科の中で受験したいと思う学科(「第一希望の学科」と回答した割合)

- ▶最も希望の多かった学科は、「工学部・機械工学科」(5.5%)、次いで「工学部・情報通信システム工学科」(5.2%)

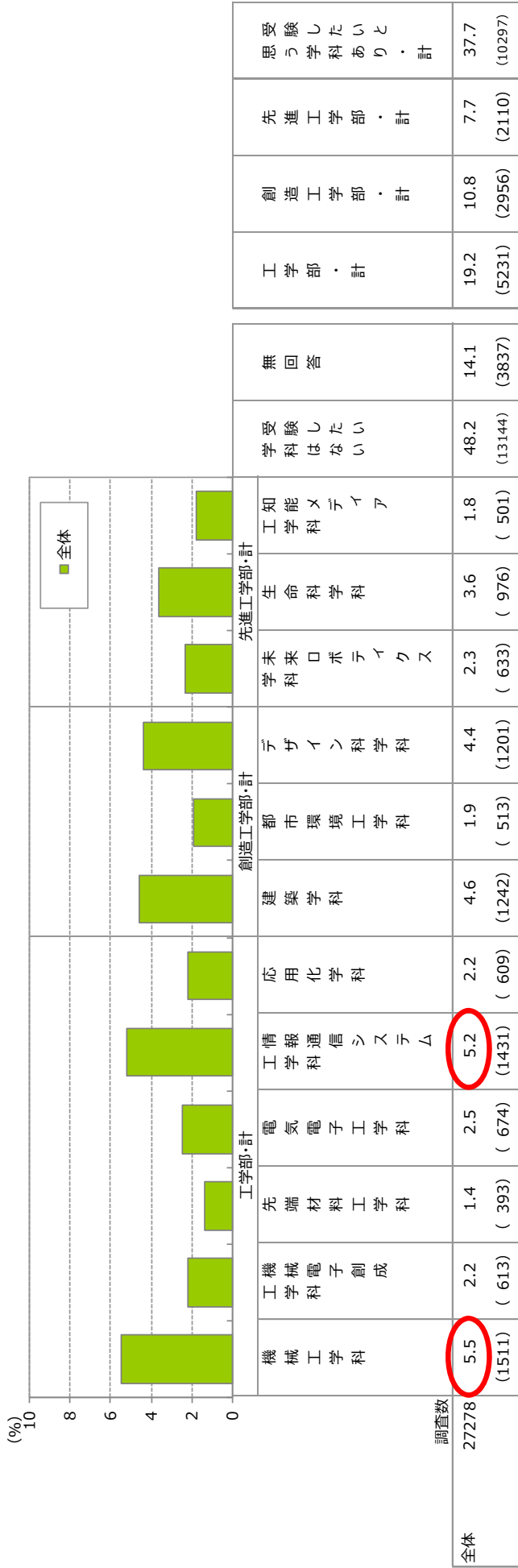
－「創造工学部・建築学科」と「創造工学部・デザイン科学科」が4%台。

- ▶学部別まとめると、「工学部・計」への希望が最も高い。

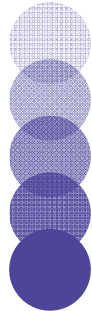
「工学部・計」 **19%**／「創造工学部・計」 **11%**／「先進工学部・計」 **8%**

■新学部の中で受験したいと思う学科：第一希望（全体／単一回答）

Q3. 千葉工業大学の新しい12の学科の中で、あなたが受験したい（AO入試・推薦含む）と思う学科を第一希望から第三希望まで、右下の回答欄にアルファベットを記入してください。※受験したい学科がない方は、「X. 受験したい学科はない」に○をつけてください



※下段（ ）内の数字は人数



3-2. 新学部学科の中で受験したいと思う学科(「第一希望の学科」と回答した割合): 属性別

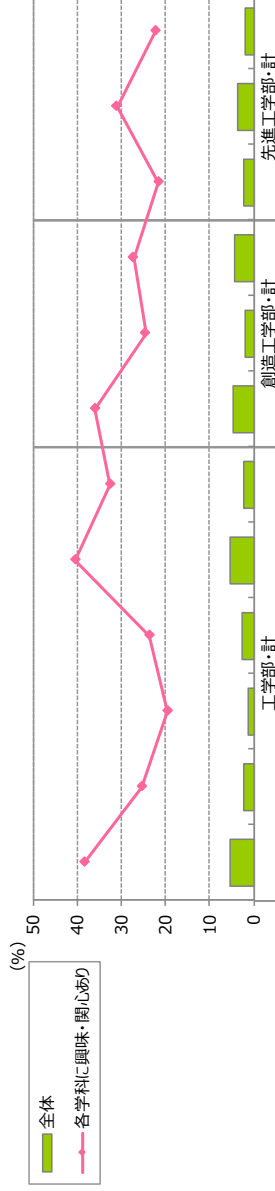
▲学科ごとの興味・関心層(「各学科に興味・関心あり」)の受験意向は、全学科とも20%以上。

中でも、「工学部・情報通信システム工学科」では4割、「工学部・機械工学科」「工学部・応用化学科」「創造工学科・建築学科」「先進工学部・生命科学科」では3割以上。

- 性別にみると、男性は「工学部・機械工学科」「工学部・情報通信システム工学科」で女性を5ポイント以上上回り、女性は「創造工学部・デザイン科学科」で男性を4ポイント上回っている。
- 大学進学意向者の学科別受験意向は、概ね、全体と同じ傾向。
- 進学希望分野別にみると、分野ごとに受験意向の高い学科が異なる。
 - ・ 工学：「工学部・機械工学科」(22%)／ 理学：「工学部・応用化学科」(13%)／ 情報学：「工学部・情報通信システム工学科」(51%)／ 農学：「先進工学部・生命科学科」(15%)／ 芸術学：「創造工学部・デザイン科学科」(26%)
- 高校所在地別にみると、「栃木県」「関東以外・計」で「機械電子創成工学科」への受験意向がやや高い。

■新学部の中で受験したいと思う学科：第1希望—第2希望（属性別）（全体／単一学部）（追回）

Q3. 千葉工業大学の新しい12の学科の中で、あなたが受験したい(AO入試・推薦含む)と思う学科を第一希望から第三希望まで、右下の回答欄にアルファベットを記入してください。※受験したい学科がない方は、「X. 受験したい学科はない」○をつけてください。



工学部・計										創造工学部・計					先進工学部・計					無回答																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
機械工学科					工学科電子創成					先端材料工学科					電気電子工学科					情報通信システム					応用化学科					建築学科					都市環境工学科					デザイン科学科					未来ロボティクス					生命科学科					工知能メディア					受験はしたい					無回答																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
調査数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ※「各学科に興味・関心あり」の下段（ ）内の数字はn数



4. 学科別の入学意向(各学科受験意向者の「入学したいと思う」の割合)

▶全学科とも受験意向者の1割以上が「入学したいと思う」と回答。
実人数でみると、全学科とも100人以上の入学意向者があり。

- 実人数の上位3学科は、
「工学部・機械工学科」 317人
「工学部・情報通信システム工学科」 293人
「創造工学部・建築学科」 289人

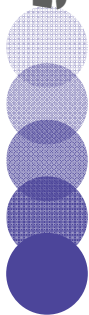
■ 入学意向（各学科の受験意向者／各単一回答）

Q4. Q 3 で選んだ「第一希望の学科」についてお答えください。あなたは合格したら入学したいと思いますか。お気持ちに最も近い番号を1つお選びください。

	意向・計			入学をあまり 検討しないと 思う	入学することは ないと思う	無回答	
	入学したいと 思う	入学を 検討したいと 思う					
● 凡例							
【工学部】	機械工学科	(n= 1511)	21.0%	43.6	21.4	10.3	3.7
	機械電子創成工学科	(n= 613)	25.4	45.0	17.1	9.3	3.1
	先端材料工学科	(n= 393)	32.1	34.6	18.8	11.7	2.8
	電気電子工学科	(n= 674)	23.0	45.3	19.6	10.1	2.1
	情報通信システム工学科	(n= 1431)	20.5	47.9	21.2	8.0	2.4
	応用化学科	(n= 609)	19.4	36.0	28.7	13.3	2.6
【創造 工学部】	建築学科	(n= 1242)	23.3	40.3	22.2	11.6	2.7
	都市環境工学科	(n= 513)	26.1	38.0	22.2	10.1	3.5
	デザイン科学科	(n= 1201)	11.6	33.2	31.6	21.2	2.3
	未来ロボティクス学科	(n= 645)	19.7	39.2	25.0	14.6	1.6
【先進 工学部】	生命科学科	(n= 976)	12.5	39.7	30.7	15.6	1.5
	知能メディア工学科	(n= 501)	34.1	36.7	19.0	8.4	1.8

意向・計	意向・計 (人数)		(参考) 受験意向者全体(*)ベース
	入学したいと思う (人数)	意向・計 (人数)	
64.6	317人	976人	3.1
70.5	156人	432人	1.5
66.7	126人	262人	1.2
68.2	155人	460人	1.5
68.3	293人	978人	2.8
55.3	118人	337人	1.1
63.5	289人	789人	2.8
64.1	134人	329人	1.3
44.8	139人	538人	1.3
58.9	127人	380人	1.2
52.2	122人	509人	1.2
70.9	171人	355人	1.7

※n= 10309 22401

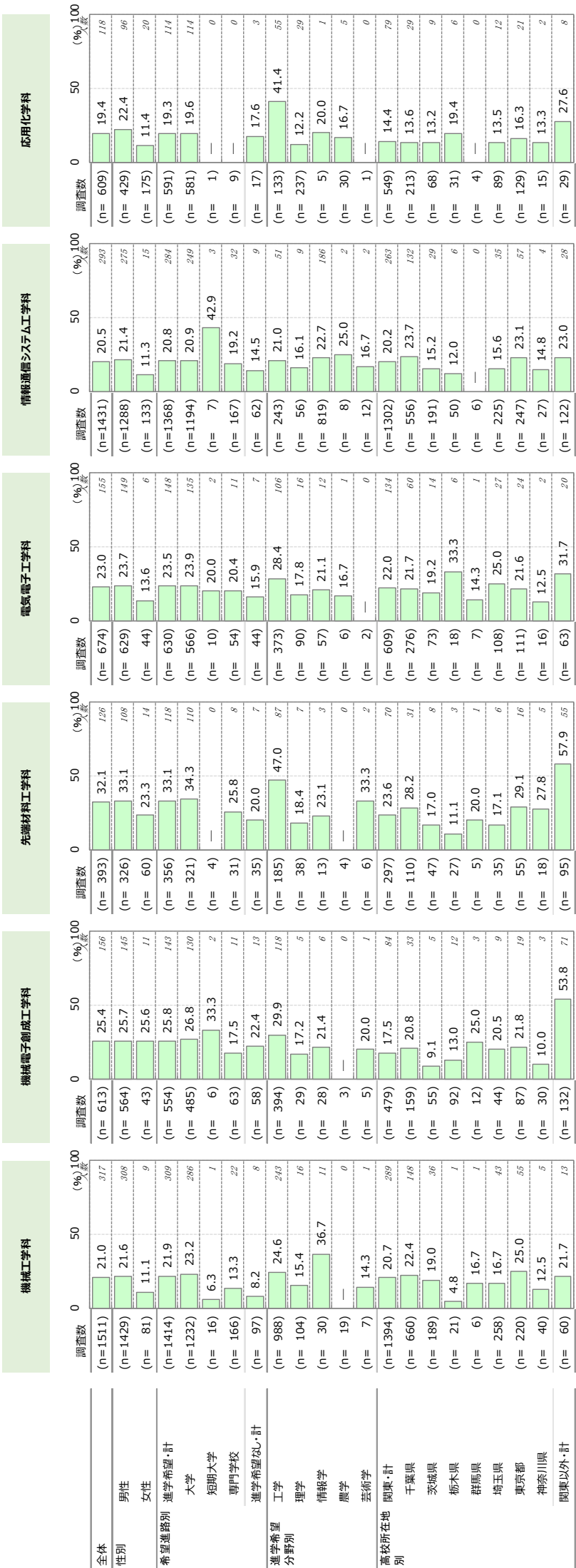


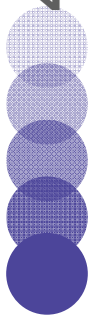
5－1．工学部 各学科の入学意向(各学科受験意向者の「入学したいと思う」の割合)：属性別

- ▶性別にみると、「機械電子創成工学科」のみ男女差がなく、その他の5学科では、男性が女性より10ポイント前後高い。
- ▶大学進学意向者の入学意向は、概ね、全体と同じ傾向。
- ▶進路希望分野による学科別入学意向の特徴。
 - － 工学進路希望者では、「応用化学科」への入学意向が全体より22ポイント高く、「先端材料工学科」への入学意向も全体より15ポイント高い。

■「工学部」学科別の入学意向：「入学したい」一覧（各学科の受験意向者／各単一回答）

Q4. Q 3 で選んだ「第一希望の学科」についてお答えください。あなたは合格したら入学したいと思いますか。お気持ちに「最も近い番号を1つお選びください」。





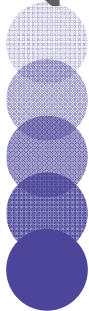
4-2. 創造工学部 各学科の入学意向(各学科受験意向者の「入学したいと思う」の割合):属性別

- ▶性別にみると、全学科とも、男性が女性より8～14ポイント高い。
- ▶大学進学意向者の入学意向は、概ね、全体と同じ傾向。
- ▶進路希望分野による学科別入学意向の特徴。
 - 工学進学希望者では、「都市環境工学科」への入学意向が全体より20ポイント高く、「デザイン科学科」への入学意向も全体より14ポイント高い。

■「創造工学部」学科別の入学意向：「入学したい」一覧（各学科の受験意向者／各単一回答）

Q4. Q 3 で選んだ「第一希望の学科」についてお答えください。あなたは合格したら入学したいと思いますか、お気持ちに最も近い番号を1つお選びください。

建築学科			都市環境工学科			デザイン科学科		
	調査数	0 50 (%)100 人数		調査数	0 50 (%)100 人数		調査数	0 50 (%)100 人数
全体	(n=1242)	23.3 289		(n= 513)	26.1 134		(n=1201)	11.6 139
性別								
男性	(n= 973)	26.2 255		(n= 386)	28.2 109		(n= 466)	18.2 85
女性	(n= 258)	12.0 31		(n= 125)	20.0 25		(n= 723)	7.5 54
希望進路別								
進学希望・計	(n=1175)	24.1 283		(n= 484)	26.4 128		(n=1097)	11.7 128
大学	(n=1060)	24.8 263		(n= 446)	27.4 122		(n= 841)	12.4 104
短期大学	(n= 8)	37.5 3		(n= 3)	— 0		(n= 36)	5.6 2
専門学校	(n= 107)	15.9 17		(n= 35)	17.1 6		(n= 220)	10.0 22
進学希望なし・計	(n= 65)	9.2 6		(n= 29)	20.7 6		(n= 101)	10.9 11
工学	(n= 714)	31.7 226		(n= 210)	45.7 96		(n= 183)	25.7 47
分野別								
理学	(n= 58)	20.7 12		(n= 41)	7.3 3		(n= 29)	17.2 5
情報学	(n= 9)	22.2 2		(n= 7)	42.9 3		(n= 47)	14.9 7
農学	(n= 20)	30.0 6		(n= 36)	11.1 4		(n= 23)	— 0
芸術学	(n= 17)	17.6 3		(n= 5)	20.0 1		(n= 226)	13.3 30
高校所在地								
関東・計	(n=1162)	22.7 264		(n= 418)	17.9 75		(n=1114)	10.9 121
千葉県	(n= 485)	23.7 115		(n= 191)	19.4 37		(n= 552)	11.6 64
茨城県	(n= 157)	15.3 24		(n= 58)	8.6 5		(n= 157)	5.7 9
栃木県	(n= 56)	16.1 9		(n= 13)	46.2 6		(n= 29)	10.3 3
群馬県	(n= 12)	33.3 4		(n= 5)	20.0 1		(n= 15)	6.7 1
埼玉県	(n= 176)	27.3 48		(n= 66)	15.2 10		(n= 108)	16.7 18
東京都	(n= 246)	24.0 59		(n= 71)	21.1 15		(n= 211)	11.4 24
神奈川県	(n= 30)	16.7 5		(n= 14)	7.1 1		(n= 42)	4.8 2
関東以外・計	(n= 78)	30.8 24		(n= 88)	64.8 57		(n= 86)	20.9 18

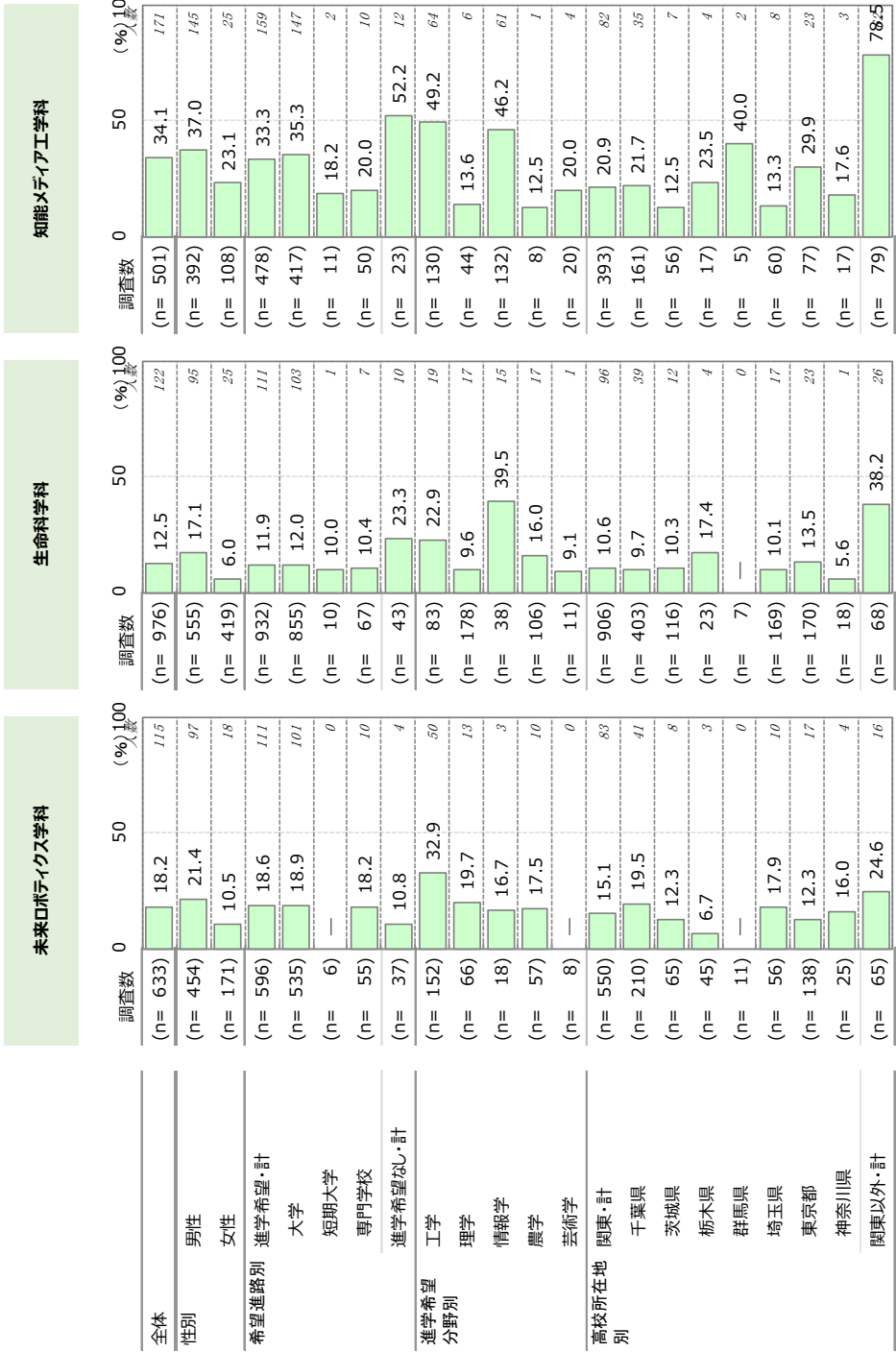


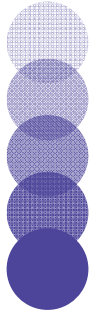
4－3．先進工学部 各学科の入学意向(各学科受験意向者の「入学したいと思う」の割合)：属性別

- ▶性別にみると、「未来ロボティクス学科」と「生命科学科」では、男性が女性より10ポイント程度高い。
- ▶大学進学意向者の入学意向は、概ね、全体と同じ傾向。
- ▶進路希望分野による学科別入学意向の特徴。
 - －工学進学希望者では、各学科への入学意向が全体より10ポイント以上高い。
 - －情報学進学希望者では、「生命科学科」への入学意向が全体より27ポイント高く、「知能メディア工学科」への入学意向も全体より12ポイント高い。

■「先進工学部」学科別の入学意向：「入学したい」一覧（各学科の受験意向者／各単一回答）

Q4. Q 3 で選んだ「第一希望の学科」についてお答えください。あなたは合格したら入学したいと思えますか。お気持ちに最も近い番号を1つお選びください。





【調査結果】入学意向者の特徴

入学意向者プロフィール：性別／高校所在地

性別

▲入学意向者の全体の男女比は、男子87%、女子12%。

- 「工学部・機械工学科」「工学部・電気電子工学科」の入学意向者は、男子が95%以上、「創造工学部・デザイン科学科」の入学意向者は、4割弱が女子、「先進工学部・生命科学科学科」の入学意向者でも、2割が女子。

△高校所在地▽

▶入学意向者全体では、関東が81%、うち、千葉県の高校が8%。

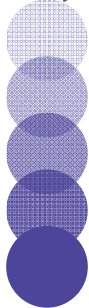
- 「工学部・機械工学科」の入学意向者は、千葉県が約5割、
- 「工学部・情報通信システム工学科」「創造高学部・デザイン科学科」
- 「先進工学部・未来ロボティクス学科」の入学意向者は、千葉県が4割台。

■性別 (全体/単一回答)

		男	女	無回答
●凡例				
全体	(n=27278)	61.1%	38.4	0.5
入学意向者全体	(n= 2135)	87.4	11.9	0.7
工学部の 学科別入学意向： 「入学したい」	(n= 317)	97.2	2.8	—
機械電子創成工学科	(n= 156)	92.9	7.1	—
先端材料工学科	(n= 126)	85.7	11.1	3.2
電気電子工学科	(n= 155)	96.1	3.9	—
情報通信システム工学科	(n= 293)	93.9	5.1	1.0
応用化学科	(n= 118)	81.4	16.9	1.7
創造工学部の 学科別入学意向： 「入学したい」	(n= 289)	88.2	10.7	1.0
都市環境工学科	(n= 134)	81.3	18.7	—
デザイン工学科	(n= 139)	61.2	38.8	—
先進工学部の 学科別入学意向： 「入学したい」	(n= 115)	84.3	15.7	—
未来ロボティクス学科	(n= 122)	77.9	20.5	1.6
生命科学科	(n= 171)	84.8	14.6	0.6
知能メディア工学科				2400.1

■ 高校所在地 (全体/単一回答)

	関東・計							関東以外・ 計
	千葉県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	東京都	神奈川県	
●凡例								
全体 (n=27110)								
入学意向者全体 (n= 2038)								
工学部の 機械工学科								
学科別入学意向： 「入学したい」								
機械電子創成工学科 (n= 155)								
先端材料工学科 (n= 125)								
電気電子工学科 (n= 154)								
情報通信システム工学科 (n= 291)								
応用化学科 (n= 87)								
創造工学部の 建築学科								
学科別入学意向： 「入学したい」								
都市環境工学科 (n= 132)								
デザイン科学科 (n= 139)								
先進工学部の 未来ロボティクス学科								
学科別入学意向： 「入学したい」								
生命科学科 (n= 122)								
知能メディア工学科 (n= 144)								



入学意向者プロフィール：高校卒業後の希望進路

＜高校卒業後の進路＞

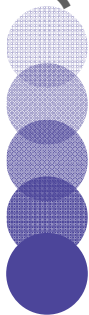
▶ 入学意向者全体では、進学希望者が95%に達し、うち、88%が「大学進学」を希望。

■ 高校卒業後の希望進路（全体／単一回答）

F2. あなたは高校卒業後、どのような進路に進みたいと思っていますか。最も進みたい進路をひとつお選びください。

	● 凡例	進学希望・計			進学希望なし・計			進学希望・計	進学希望なし・計
		大学進学希望・計		専門学校 (4年制・ 6年制)	就職	その他	無回答		
		大学	短期大学						
全体	(n= 27278)	72.5%	2.2	13.4	10.0	17.1	88.1	74.7	11.7
入学意向者全体	(n= 2135)	87.3	0.7	7.3	4.0	5.1	95.4	88.1	4.5
工学部の 学科別入学意向： 「入学したい」	(n= 317)	90.2	0.6	9.2	3.3	—	97.5	90.5	2.5
機械工学科	(n= 156)	83.3	1.3	7.1	1.3	—	91.7	84.6	8.3
機械電子創成工学科	(n= 126)	87.3	—	6.3	4.8	0.8	93.7	87.3	5.6
先端材料工学科	(n= 155)	87.1	1.3	7.1	2.3	—	95.5	88.4	4.5
電気電子工学科	(n= 293)	85.0	1.0	10.9	2.0	2.7	95.5	88.4	4.5
情報通信システム工学科	(n= 118)	96.6	—	1.0	—	—	96.9	86.0	3.1
応用化学科	(n= 289)	91.0	—	—	—	—	97.9	92.0	2.1
創造工学部の 学科別入学意向： 「入学したい」	(n= 134)	91.0	—	—	—	—	95.5	91.0	4.5
建築学科	(n= 139)	74.8	1.4	15.8	7.9	—	92.1	76.3	7.9
都市環境工学科	(n= 115)	87.8	—	—	—	—	96.5	87.8	3.5
デザイン科学科	(n= 122)	84.4	0.8	—	—	—	91.0	85.2	8.2
未来ロボティクス学科	(n= 171)	86.0	—	—	—	—	93.0	87.1	7.0
生命科学科	(n= 122)	84.4	0.8	—	—	—	91.0	85.2	8.2
知能メディア工学科	(n= 171)	86.0	—	—	—	—	93.0	87.1	7.0

24011



入学意向者プロフィール：進学先で学びたい最も興味のある分野

＜進学先で学びたい最も興味のある分野＞

▶ 入学意向者全体では、「工学」が最も高く(57%)、「情報学」(15%)、「理学」(7%)が続く。

【学科別の入学意向者の特徴】

- －「機械工学科」「機械電子創成工学科」「先端材料工学科」「電気電子工学科」(以上、工学部)、「建築学科」「都市環境工学科」(以上、創造工学部)では、「工学」が7割以上。
- －「工学部・情報通信システム工学科」では「情報学」(66%)が最も高い。
- －「工学部・応用化学科」では、「工学」(48%)が最も高く、「理学」(25%)も高い。
- －「創造工学部・デザイン科学科」では、「工学」(37%)が最も高く、「芸術学」(23%)も高い。
- －「先進工学部・未来ロボティクス学科」では、「工学」(45%)が最も高い。
- －「先進工学部・生命科学科」では、「工学」「理学」「農学」「情報学」が14～17%と高い。
- －「先進工学部・知能メディア工学科」では、「工学」「情報学」が4割前後と高い。

■ 進学先で学ぶ最も興味がある分野（進学希望者／単一回答）

F3SQ1. F3で選んだ番号のうち、最も興味がある分野の番号を右下の回答欄にお書きください。

(%)

		調査数																									情報学・理学・計	工学・情報学・理学・計
		24034	18.9	7.7	7.5	6.7	6.4	5.6	4.5	3.9	3.8	3.7	3.6	3.4	3.2	2.9	2.6	2.6	1.7	1.1	1.0	0.9	5.6	2.7	2.7			
全体		24034	57.1	6.8	1.3	15.2	0.6	1.6	1.2	1.4	1.3	0.8	2.2	0.9	0.9	2.3	0.9	1.0	0.3	0.2	0.2	0.1	1.9	1.9	79.1	33.3	64.1	
入学意向者全体		2036	78.6	5.2	1.0	3.6	—	1.3	—	1.0	0.6	0.3	0.3	1.0	1.3	—	0.3	2.3	0.6	—	0.3	—	1.0	1.3	87.4	79.1	19.0	
工学部の 学科別入学意向： 「入学したい」	機械工学科	309	82.5	3.5	0.7	4.2	—	1.4	2.8	—	0.7	—	0.7	—	0.7	—	—	—	—	—	—	—	0.7	2.1	90.2	87.4	11.3	
	機械電子創成工学科	143	73.7	5.9	—	2.5	0.8	0.8	0.8	0.8	—	0.8	1.7	2.5	—	—	—	6.8	—	—	—	1.7	—	0.8	82.2	90.2	7.7	
	先端材料工学科	118	71.6	10.8	0.7	8.1	0.7	—	0.7	2.7	—	—	—	—	—	0.7	0.7	—	—	—	—	—	1.4	1.4	90.5	82.2	16.9	
	電気電子工学科	148	18.0	3.2	1.1	65.5	—	3.2	0.7	0.7	0.4	0.7	0.7	0.7	—	0.7	—	—	—	0.4	0.4	—	0.4	3.5	86.6	90.5	8.1	
創造工学部の 学科別入学意向： 「入学したい」	情報通信システム工学科	284	48.2	25.4	2.6	0.9	—	—	—	1.8	5.3	3.5	—	—	0.9	4.4	0.9	0.9	0.9	—	0.9	—	—	3.5	74.6	86.6	9.9	
	応用化学科	114	79.9	4.2	0.7	0.7	2.1	2.1	0.7	0.7	1.1	—	1.1	0.7	—	2.1	0.7	0.7	—	—	—	—	2.1	1.8	84.8	74.6	21.9	
	建築学科	283	75.0	2.3	1.6	2.3	0.8	2.3	1.6	0.8	0.8	—	0.8	—	—	—	3.1	0.8	—	2.3	0.8	—	3.1	0.8	79.7	84.8	13.4	
	学科別入学意向： 「入学したい」	128	36.7	3.9	3.9	5.5	2.3	—	0.8	4.7	—	3.1	23.4	1.6	0.8	—	3.1	0.8	—	—	—	—	8.6	1.6	46.1	79.7	19.5	
先進工学部の 学科別入学意向： 「入学したい」	デザイン科学科	128	45.0	11.7	0.9	2.7	2.7	3.6	5.4	2.7	1.8	—	—	0.9	4.5	9.0	1.8	—	0.9	0.9	—	—	3.6	1.8	59.5	46.1	52.3	
	未来ロボティクス学科	111	17.1	15.3	0.9	13.5	1.8	0.9	3.6	1.8	6.3	1.8	0.9	1.8	6.3	15.3	3.6	—	0.9	0.9	—	—	3.6	1.8	45.9	59.5	38.7	
	生命科学科	111	40.3	3.8	2.5	38.4	—	1.3	0.6	3.1	—	1.3	2.5	1.9	—	0.6	1.3	0.6	0.6	—	—	—	3.6	4.5	45.9	45.9	49.5	
	知能メディア工学科	159	40.3	3.8	2.5	38.4	—	1.3	0.6	3.1	—	1.3	2.5	1.9	—	0.6	1.3	0.6	0.6	—	—	—	3.6	4.5	82.4	45.9	49.5	

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ※全体で降順ソート

＜新学部・学科への興味・関心＞

▶入学意向者全体では、「工学部・機械工学科」が最も高く(33%)、「創造工学部・建築学科」「工学部・電気電子工学科」「工学部・機械電子創成工学科」が2割台。

- 学科別の入学意向者をみると、全般的に、同じ学科や学部への興味・関心が高い傾向。

- ・また、先進工学部の入学意向者は、工学部への興味・関心も高い傾向。
未来ロボティクス学科・入学意向者：「機械工学科」への興味・関心が3割、「電気電子工学科」「機械電子創成工学科」への興味・関心が2割台。
生命科学科・入学意向者：「情報通信システム工学科」「応用化学科」への興味・関心が2割前後。
知能メディア工学科・入学意向者：「情報通信システム工学科」「機械電子創成工学科」「先端材料工学科」への興味・関心が2割台。

■新学部で興味や関心のある学科（全体／複数回答）

Q1. 千葉工業大学の新しい12の学科について、あなたが興味や関心のある学科をすべてお選びください。※すべての学科に興味・関心のない方は「X」すべての学科に興味・関心がないをお選びいただき、Q3へお進みください。

(%)

[illegible]

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い



入学意向者プロフィール：新学部・学科への興味・関心の理由

<【工学部】新学科への興味・関心の理由：入学意向者における特徴>

- 機械工学科・入学意向者：『卒業後の主な進路』が魅力的」が19ポイント高くなる。
- 機械電子創成工学科・入学意向者：『大学として魅力的』が23ポイント高くなる。
- 先端材料工学科・入学意向者：『学科の内容』が魅力的」が、さらに22ポイント高くなる。
- 電気電子工学科・入学意向者：『卒業後の主な進路』が魅力的」が20ポイント高くなる。
- 情報通信システム工学科・入学意向者：『卒業後の主な進路』が魅力的」が16ポイント高くなる。
- 応用化学科・入学意向者：『学部として魅力的』が16ポイント高くなる。

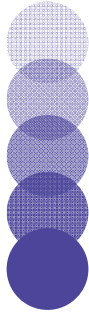
■「工学部」新学科の 学部に興味や関心があると思う理由 （各学科に興味や関心があり／各複数回答）

Q2. Q1で「興味や関心がある」とお選びになった学科についてお聞かせします。

選んだ学科それぞれに対し、「興味や関心があると思う理由」としてあてはまるものをすべて下記選択肢からお選びください。※あなたがQ1で選んだ学科についてのみお答えください。

（%）						
	「学科の内容」が魅力的	「学びのポイント」が魅力的	「卒業後の主な進路」が魅力的	大学として魅力的	学部として魅力的	その他
【工学部】機械工学科						
全体 (n=3834)	47.4	17.7	23.9	6.1	24.9	8.5
入学したい (n=313)	50.2	22.0	42.5	8.3	26.2	4.8
入学したいー全体	2.8	4.3	18.6	2.2	1.3	- 3.7
【工学部】機械電子創成工学科						
全体 (n=2312)	50.3	21.2	20.7	8.6	22.8	7.5
入学したい (n=154)	66.9	14.3	31.2	31.8	18.2	1.9
入学したいー全体	16.6	- 6.9	10.5	23.2	- 4.6	- 5.6
【工学部】先端材料工学科						
全体 (n=1859)	50.4	23.2	16.7	8.1	24.0	7.7
入学したい (n=123)	72.4	23.6	17.9	17.1	17.9	4.1
入学したいー全体	22.0	0.4	1.2	9.0	- 6.1	- 3.6
【工学部】電気電子工学科						
全体 (n=2754)	44.7	18.4	23.6	7.3	24.3	8.9
入学したい (n=151)	58.9	21.2	43.7	13.9	22.5	5.3
入学したいー全体	14.2	2.8	20.1	6.6	- 1.8	- 3.6
【工学部】情報通信システム工学科						
全体 (n=3463)	48.0	21.6	24.3	5.8	27.1	8.5
入学したい (n=291)	55.7	29.6	40.5	10.3	36.8	7.2
入学したいー全体	7.7	8.0	16.2	4.5	9.7	- 1.3
【工学部】応用化学科						
全体 (n=1804)	49.3	19.3	16.9	6.0	27.2	8.8
入学したい (n=115)	57.4	32.2	22.6	11.3	43.5	3.5
入学したいー全体	8.1	12.9	5.7	5.3	16.3	- 5.3

※各学科ごと全体に比べ傾向・計のスコアが ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い



資料：調査票

【参考】千葉工業大学の新学部/学科と関連する他大学の既存学科（続き）

学科名	学部名	大学名	エリア
<工学部 電気電子工学科 関連学科>			
電気電子工学科	工学部	東京電機大学	東京都
		東京都市大学	東京都
		日本工業大学	埼玉県
	生産工学部	千葉県	
	理工学部	日本大学	東京都
<工学部 情報通信システム工学科 関連学科>			
情報通信工学科	工学部	工学院大学	東京都
		東京電機大学	東京都
	知識工学部	東京都市大学	東京都
	工学部	芝浦工業大学	東京都
通信工学科			
<工学部 応用化学学科 関連学科>			
応用化学学科	工学部	工学院大学	東京都
		芝浦工業大学	東京都
	理工学部	東洋大学	埼玉県
	生産工学部	日本大学	千葉県
工業化学科	理工学部	東京理科大学	千葉県
<創造工学部 建築学科 関連学科>			
建築学科	工学部	工学院大学	東京都
		芝浦工業大学	東京都
		東京理科大学	東京都
		東京都市大学	東京都
		日本工業大学	埼玉県
		日本大学	東京都
建築工学科	理工学部	日本大学	千葉県
<創造工学部 都市環境工学科 関連学科>			
都市環境学科	理工学部	中央大学	東京都
		東洋大学	埼玉県
都市環境デザイン学科	理工学部	法政大学	東京都
都市工学科	工学部	東京都市大学	東京都
	理工学部	日本大学	東京都
まちづくり工学科	工学部	芝浦工業大学	東京都
<創造工学部 デザイン科学科 関連学科>			
デザイン学科	工学部	拓殖大学	東京都
	デザイン工学部	芝浦工業大学	東京都
創生デザイン学科	生産工学部	日本大学	千葉県
<先進工学部 未来ロボティクス学科 関連学科>			
ロボット・メカトロニクス学科	未来科学部	東京電機大学	東京都
	創造工学部	神奈川工科大学	神奈川県
機械制御システム学科	理工学部	芝浦工業大学	東京都
<先進工学部 生命科学科 関連学科>			
生命科学科	理工学部	中央大学	東京都
	システム理工学部	芝浦工業大学	埼玉県
	理学部	学習院大学	東京都
	農学部	明治大学	神奈川県
応用生物工学科	理工学部	東京理科大学	千葉県
<先進工学部 知能メディア工学科 関連学科>			
システムデザイン工学科	理工学部	慶應義塾大学	神奈川県
	デザイン工学部	法政大学	東京都
システムデザイン学科	デザイン工学部	早稲田大学	東京都
表現工学科	基礎理工学部		
光・画像工学科	工学部	東海大学	神奈川県

千葉工業大学の新学部/学科に関する進学意向調査

調査ご協力をお願い

平成 15 年度に実施した工学部改組以来、科学技術の進歩はめざましく、外部環境は大きく変化しており、同時に大学に求められるものも多様化しています。これらの時代のニーズに合わせてこれまでも学内で様々な改革を進めてきました。創立百周年に向けてさらなる充実を図ることを目的に工学部の改組を検討することとしました。

そこで、このたびの検討をより充実させるために、大学進学を考えている皆さんにご協力をお願いしてアンケート調査を実施し、新しい構想を練り上げる基礎資料とすることに致しました。

ご回答内容については回答結果のみをコンピュータ処理し、個人情報情報が使用されることはございません。

本調査の主旨をご理解いただき、ご協力よろしくお願いいたします。

平成 26 年 10 月
千葉工業大学

★こちらは、質問が書かれた用紙です。回答はすべて、別紙の「マークシート」にご記入ください★
(マークシート内の、あてはまる番号・記号の欄を塗りつぶしてください)

まず、あなたご自身のことについてお聞きます

F1. 性別(単一回答)

1. 男性 2. 女性

F2. あなたは高校を卒業後、どのような進路に進みたいと思っていますか、最も進みたい進路をひとつお選びください。

(単一回答)

1. 大学(4 年制・6 年制) 2. 短期大学 3. 専門学校
4. 就職 5. その他

※以下の質問は、F2 で選択肢 1 (大学)・2 (短大)・3 (専門学校)のいずれかを選択した方にお聞きします。

F3. 進学先で学ぶ分野として、どの分野に興味を持っていますか、あてはまるものをすべてお選びください。(複数回答)

1. 文学 2. 外国語学 3. 心理学 4. 法学・政治学 5. 経済学・経営学 6. 社会学 7. 福祉学 8. 理学 9. 工学 10. 情報学 11. 農学 12. 医学・歯学・獣医学 13. 薬学 14. 看護学 15. その他の医療技術・保健学 16. 家政学・食物栄養学 17. 教育学・保育学 18. 体育学・スポーツ学 19. 芸術学 20. 教養学・国際関係学 21. その他

SQ. F3 で選んだ番号のうち、最も興味がある分野の番号をひとつだけお選びください。

ここからの質問は、平成 28 年 4 月に開設を検討している千葉工業大学の新しい学科に関するご意見をお聞きます

！別添の「新しい学部学科紹介」をよく読んでいただき、お答えください。

Q1. 千葉工業大学の新しい 12 学科について、あなたが興味や関心のある学科をすべてお選びください。(複数回答)
※すべての学科に興味・関心がない方は、「X. すべての学科に興味・関心がない」をお選びいただき、Q3 へお進みください。

- 【工学部】

A. 機械工学科
B. 機械電子創成工学科
C. 先端材料工学科
D. 電気電子工学科
E. 情報通信システム工学科
F. 応用化学科
- 【創造工学部】

G. 建築学科
H. 都市環境工学科
I. デザイン科学科
J. 未来ロボティクス学科
K. 生命科学科
L. 知能メディア工学科
- 【その他】

X. すべての学科に興味・関心がない
→Q3 へお進みください

※Q2は、Q1で選択肢 A～L のいずれかを選択した方にお聞きます。
Q2. Q1で「興味や関心がある」とお選びになった学科についてお聞きます。
選んだ学科それぞれに対し、「興味や関心がある」と思う理由としてあてはまるものをすべて下記選択肢からお選びください。
(複数回答)
※マークシートの回答欄は 12 学科分ありますが、あなたがQ1 で選んだ学科についてお答えください。

1. 「学科の内容」が魅力的
2. 「学びのポイント」が魅力的
3. 「卒業後の主な進路」が魅力的
4. 大学として魅力的
5. 学部として魅力的
6. その他

Q3. 千葉工業大学の新しい 12 学科について、あなたが受験したい(AO・推薦含む)と願う学科を第一希望から第三希望までお選びください。(1～3つまで回答)
※受験したい学科がない方は、「X. 受験したい学科はない」をお選びください。

- 【工学部】

A. 機械工学科
B. 機械電子創成工学科
C. 先端材料工学科
D. 電気電子工学科
E. 情報通信システム工学科
F. 応用化学科
- 【創造工学部】

G. 建築学科
H. 都市環境工学科
I. デザイン科学科
J. 未来ロボティクス学科
K. 生命科学科
L. 知能メディア工学科
- 【その他】

X. 受験したい学科はない

第一希望	第二希望	第三希望

※Q4は、Q3で選択肢 A～L のいずれかを選択した方にお聞きます。
Q4. Q3で選んだ「第一希望の学科」についてお答えください。
あなたは合格したら入学したいと思えますか。お気持ちに最も近い番号を1つお選びください。(単一回答)

1. 入学したいと思う
2. 入学を検討したいと思う
3. 入学をあまり検討しないと思う
4. 入学することはないと思う

質問はこれで終了です。ご協力いただきありがとうございます。

【参考】千葉工業大学の新学部 / 学科と関連する他大学の既存学科

学科名	学部名	大学名	エリア
<工学部 機械工学科 関連学科>			
機械工学科	工学部	工学院大学	東京都
		芝浦工業大学	東京都
		東京電機大学	東京都
		東京理科大学	東京都
		東京都市大学	東京都
		埼玉工業大学	埼玉県
		日本工業大学	埼玉県
		東洋大学	埼玉県
<工学部 機械電子創成工学科 関連学科>			
機械システム工学科	工学部	工学院大学	東京都
		拓殖大学	東京都
		東京都市大学	東京都
機械情報システム学科	工学部	玉川大学	東京都
		芝浦工業大学	東京都
<工学部 先端材料工学科 関連学科>			
機械機能工学科	工学部		
材料工学科	工学部	芝浦工業大学	東京都
物質応用化学科	理工学部	日本大学	東京都
材料科学科	工学部	東海大学	神奈川県

新学部/学科に関する進学意向調査 回答紙

記入上の注意

1. 記入は必ずH18の黒鉛筆で正確に塗りつぶしてください。
2. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消してください。
3. 回答用紙を汚したり、折り曲げたりしないでください。
4. 正しく記入（塗りつぶし）されていない場合は読みとれません。

記入例

良い例
悪い例

F1. 性別 (単一)

① 男性

② 女性

F2. 希望進路 (単一)

① 大学(4年制・6年制)

② 短期大学

③ 専門学校

④ 就職

⑤ その他

F3. 興味ある分野 (複数)

SQ. 最も興味ある分野 (単一)

文学	外国語学	心理学	法学・政治学	経済学・経営学	社会学	福祉学	理学	工学	情報学	農学	医学	歯学・獣医学	薬学	体育学・スポーツ学	芸術学	教育学・国際関係学	その他
① ②	③ ④	⑤ ⑥	⑦ ⑧	⑨ ⑩	⑪ ⑫	⑬ ⑭	⑮ ⑯	⑰ ⑱	⑲ ⑳	㉑ ㉒	㉓ ㉔	㉕ ㉖	㉗ ㉘	㉙ ㉚	㉛ ㉜	㉝ ㉞	㉟
① ②	③ ④	⑤ ⑥	⑦ ⑧	⑨ ⑩	⑪ ⑫	⑬ ⑭	⑮ ⑯	⑰ ⑱	⑲ ⑳	㉑ ㉒	㉓ ㉔	㉕ ㉖	㉗ ㉘	㉙ ㉚	㉛ ㉜	㉝ ㉞	㉟

Q1. 興味・関心のある学科 (複数)

Q2. その理由 (複数)

Q3. 受験希望学科

工学部	A. 機械工学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
	B. 機械電子創成工学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
	C. 先端材料工学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
	D. 電気電子工学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
	E. 情報通信システム工学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
創造工学部	F. 応用化学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
	G. 建築学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
	H. 都市環境工学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
先進工学部	I. デザイン科学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
	J. 未来ロボティクス学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
先進工学部	K. 生命科学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
	L. 知能メディア工学科	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
X. すべての学科に興味・関心がない		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟

Q4. 第一希望学科への入学について (単一)

① 入学したいと思う

② 入学を検討したいと思う

③ 入学をあまり検討しないと思う

④ 入学することはないと思う

⑤ 受験したい学科はない

近隣競合大学の初年度納入金(平成27年度)

出典: 廣告社『逆引き大学辞典』

学科名	学部名	大学名	エリア	初年度納付金
<工学部 機械工学科 関連学科>				
機械工学科	工学部	工学院大学	東京都	1,619,160
		芝浦工業大学	東京都	1,696,230
		東京電機大学	東京都	1,590,800
		東京理科大学	東京都	1,602,280
		東京都市大学	東京都	1,670,000
		埼玉工業大学	埼玉県	1,654,000
		日本工業大学	埼玉県	1,617,700
	理工学部	東洋大学	埼玉県	1,565,000
平均				1,626,896
<工学部 機械電子創成工学科 関連学科>				
機械システム工学科	工学部	工学院大学	東京都	1,619,160
		拓殖大学	東京都	1,540,900
		東京都市大学	東京都	1,670,000
機械情報システム学科	工学部	玉川大学	東京都	1,923,200
機械機能工学科	工学部	芝浦工業大学	東京都	1,696,230
平均				1,689,898
<工学部 先端材料工学科 関連学科>				
材料工学科	工学部	芝浦工業大学	東京都	1,696,230
物質応用化学科	理工学部	日本大学	東京都	1,680,000
材料科学科	工学部	東海大学	神奈川県	1,659,200
平均				1,678,477
<工学部 電気電子工学科 関連学科>				
電気電子工学科	工学部	東京電機大学	東京都	1,590,800
		東京都市大学	東京都	1,670,000
		日本工業大学	埼玉県	1,617,700
		千葉大学	千葉県	1,560,000
	理工学部	法政大学	東京都	1,690,000
平均				1,625,700
<工学部 情報通信システム工学科 関連学科>				
情報通信工学科	工学部	工学院大学	東京都	1,619,160
		東京電機大学	東京都	1,590,800
	知識工学部	東京都市大学	東京都	1,670,000
通信工学科	工学部	芝浦工業大学	東京都	1,696,230
平均				1,644,048
<工学部 応用化学科 関連学科>				
応用化学科	工学部	工学院大学	東京都	1,619,160
		芝浦工業大学	東京都	1,696,230
	理工学部	東洋大学	埼玉県	1,565,000
応用分子化学科	生産工学部	日本大学	千葉県	1,560,000
工業化学科	理工学部	東京理科大学	千葉県	1,614,280
平均				1,610,934
<創造工学部 建築学科 関連学科>				
建築学科	工学部	芝浦工業大学	東京都	1,696,230
		東京理科大学	東京都	1,587,280
		東京都市大学	東京都	1,670,000
		日本工業大学	埼玉県	1,617,700
	理工学部	日本大学	東京都	1,680,000
建築工学科	生産工学部	日本大学	千葉県	1,560,000
建築学科	建築学部	工学院大学	東京都	1,619,160
平均				1,632,910
<創造工学部 都市環境工学科 関連学科>				
都市環境学科	理工学部	中央大学	東京都	1,718,800
都市環境デザイン学科	理工学部	東洋大学	埼玉県	1,565,000
都市環境デザイン工学科	デザイン工学部	法政大学	東京都	1,690,000
都市工学科	工学部	東京都市大学	東京都	1,670,000
まちづくり工学科	理工学部	日本大学	東京都	1,680,000
土木工学科	工学部	芝浦工業大学	東京都	1,696,230
平均				1,670,005
<創造工学部 デザイン科学科 関連学科>				
デザイン学科	工学部	拓殖大学	東京都	1,540,900
デザイン工学科	デザイン工学部	芝浦工業大学	東京都	1,694,580
創生デザイン学科	生産工学部	日本大学	千葉県	1,560,000
平均				1,598,493
<先進工学部 未来ロボティクス学科 関連学科>				
ロボット・メカトロニクス学科	未来科学部	東京電機大学	東京都	1,590,800
	創造工学部	神奈川工科大学	神奈川県	1,568,000
機械制御システム学科	システム理工学部	芝浦工業大学	東京都	1,698,580
平均				1,619,127
<先進工学部 生命科学科 関連学科>				
生命科学科	理工学部	中央大学	東京都	1,718,800
	システム理工学部	芝浦工業大学	埼玉県	1,698,580
	理学部	学習院大学	東京都	1,725,800
	農学部	明治大学	神奈川県	1,735,500
応用生物工学科	理工学部	東京理科大学	千葉県	1,619,280
平均				1,699,592
<先進工学部 知能メディア工学科 関連学科>				
システムデザイン工学科	理工学部	慶應義塾大学	神奈川県	1,773,350
システムデザイン学科	デザイン工学部	法政大学	東京都	1,690,000
表現工学科	基幹理工学部	早稲田大学	東京都	1,737,000
光・画像工学科	工学部	東海大学	神奈川県	1,659,200
平均				1,714,888

参考: 工学部実績

1,584,500

過去5カ年の求職者(求職者数、求人件数、就職者数)実績

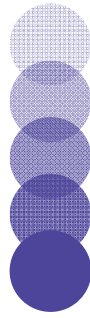
<学部>

学科名	平成21年度(2010年卒)			平成22年度(2011年卒)			平成23年度(2012年卒)			平成24年度(2013年卒)			平成25年度(2014年卒)		
	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数
機械サイエンス学科	6,328	262	214	5,730	175	152	6,698	217	195	7,099	249	226	8,092	219	201
電気電子情報工学科	6,437	195	150	5,998	154	139	6,785	194	171	7,254	188	170	8,227	209	196
生命環境科学科	5,727	139	115	5,251	116	101	6,144	155	125	6,471	149	122	7,446	156	138
建築都市環境学科	6,050	217	182	5,518	187	166	6,490	197	182	6,930	213	195	8,041	226	223
デザイン科学科	5,718	112	81	5,256	92	73	6,164	113	85	6,478	105	93	7,476	118	110
未来ロボティクス学科	5,783	43	33	5,311	56	53	6,228	68	67	6,598	67	64	7,594	79	77

<大学院>

専攻名	平成21年度(2010年卒)			平成22年度(2011年卒)			平成23年度(2012年卒)			平成24年度(2013年卒)			平成25年度(2014年卒)		
	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数	求人件数	求職者数	就職者数
機械サイエンス専攻	4,212	56	53	3,303	47	43	4,147	35	31	4,745	42	41	5,545	26	23
電気電子情報工学専攻	4,267	38	36	3,381	33	31	4,223	53	52	4,849	44	42	5,662	28	26
生命環境科学専攻	3,859	38	34	3,077	33	33	3,818	37	32	4,383	39	34	5,196	24	22
建築都市環境学専攻	4,043	32	25	3,221	33	26	4,042	28	26	4,627	20	16	5,553	20	18
デザイン科学専攻	3,852	19	16	3,073	22	21	3,830	34	31	4,380	28	26	5,206	20	19
未来ロボティクス専攻				3,126	5	5	3,873	35	35	4,477	24	23	5,301	18	18

千葉工業大学 御中



千葉工業大学 新学部・新学科に関するアンケート＜企業対象＞

調査結果報告書

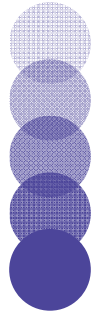
2015年1月

KOKOKUSHA
■ 廣 告 社 株 式 会 社

資料5

大学専門のマーケティング&リサーチ、コンサルティング会社
廣告タグループ

株式会 社 大 学 ソ リ ュ ー シ ョ ン パ ー ト ナ ー ス



目次

▶ 調査概要	03
▶ 回答企業プロフィール	04
【調査結果】	
▶ サマリ	10
▶ 設置計画案① : 工学部	16
▶ 設置計画案② : 創造工学部	30
▶ 設置計画案③ : 先進工学部	40
▶ 参考 : 千葉工業大学全体に対するご意見・ご要望	51
▶ 資料 : 調査票	53
▶ 資料 : 自由回答集(別紙)	57

▶ 調査目的

- 千葉工業大学で設置を計画している新学部を卒業した学生について、企業に採用意向等を調査し、受容性を確認する。

▶ 調査対象

- 全国の千葉工業大学への求人実績のある企業・団体

▶ 調査方法

- 郵送配布・回収によるアンケート調査

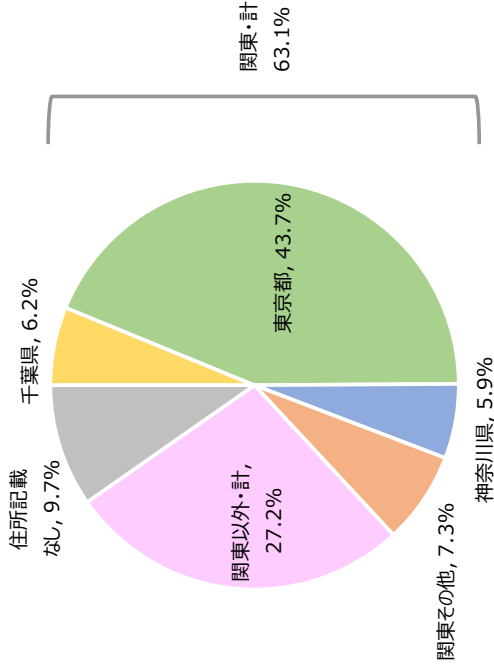
▶ 回収数

- 808サンプル（有効回答数）

▶ 調査期間

- 2014年10月22日（水）配布開始 ～ 2014年11月26日（水）回収分まで

■ 企業所在地（全体／単一回答）



調査数	関東・計	千葉県	東京都	神奈川県	関東その他	関東以外・計	甲信越	北陸・東海	関東以外その他	住所記載なし
全体	808	63.1%	43.7%	5.9%	7.3%	27.2%	4.5%	14.1%	8.7%	9.7%
	(510)	(50)	(353)	(48)	(59)	(220)	(36)	(114)	(70)	(78)

※下段（ ）内の数字はn数

※地域名に含まれる都道府県

関東その他

甲信越

北陸・東海

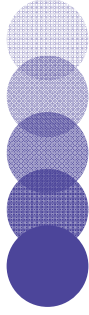
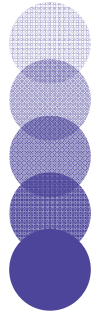
関東以外その他

：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県

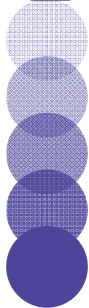
：山梨県、長野県、新潟県

：富山県、石川県、福井県、静岡県、愛知県、岐阜県、三重県

：北海道・東北・近畿・中国・四国・九州・沖縄



回答企業プロフィール



回答企業プロフィール：主業種／正社員数

<主業種>

▶全体では、「製造業」が33%で最も多く、「建設業」「情報処理関連業」も20%台(主要3業種で全体の8割強を占める)。

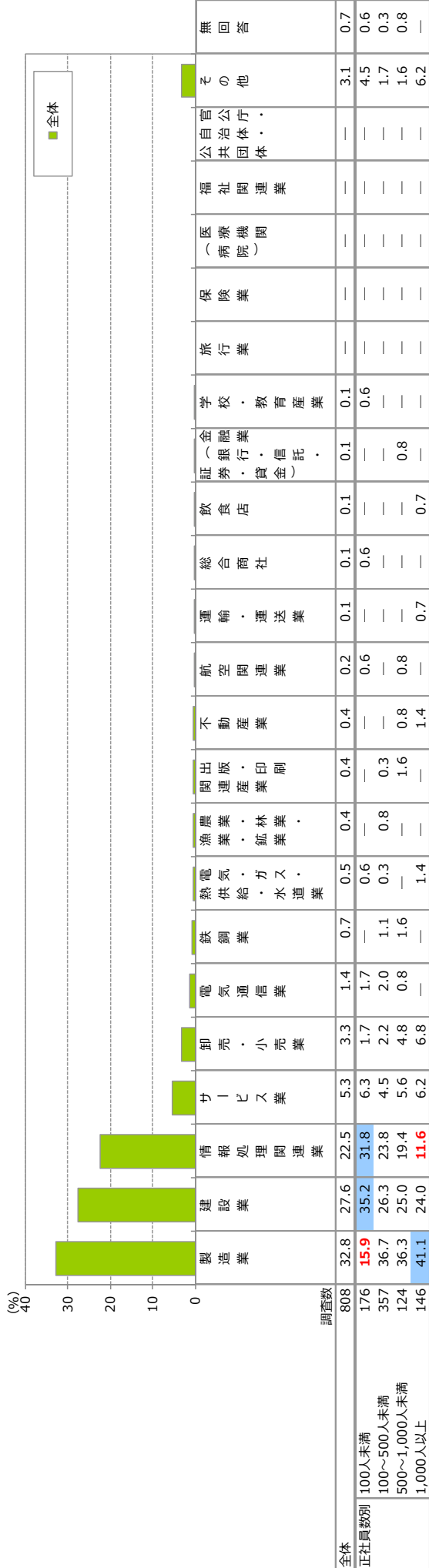
－ 主要3業種以外(以後、主業種別では「その他の業種」と表記)では、「サービス業」「卸売・小売業」が多い。

<正社員数>

▶全体では、「100～500人未満」が44%で最も多く、次に多い「100人未満」(22%)を含めると、「500人未満」の企業が約2/3。

■主業種 (全体／単一回答)

F1. 貴社の主業種をお選びください。



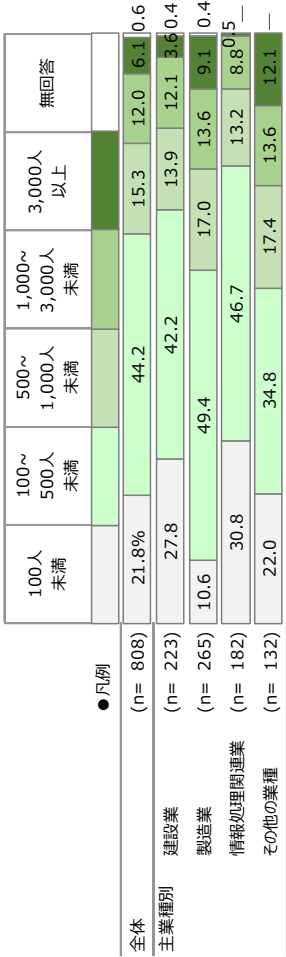
※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ■ = 10pt以上低い

※全体値の降順にソート

11001

■正社員数 (全体／単一回答)

F2. 貴社の正社員数をお選びください。



11002

＜新卒採用者の最終学歴（3年以内）＞
▲全体では、「大学卒」が97%で最も多く、次いで「大学院卒」（70%）。

- 主要3業種と比較すると、製造業と情報処理関連の大学院卒採用実績は8割弱と高い。
- また、建設業と製造業は高校卒、情報処理関連は専門学校卒の採用が多い。

＜大学・大学院新卒者の採用人数(2014年4月入社)＞

▶ 過去3年以内に新卒採用のあった企業でみると、96%が2014年4月も新卒採用ありと回答。採用人数は「1～9人」が53%と最も多く、「10～49人」が35%と続く。

＜千葉工業大卒業生の採用実績(2014年4月入社)＞

▲2014年4月に新卒採用のあった企業のうち、27%が「採用した」と回答。

■大学・大学院新卒者の採用人数（2014年4月入社）（過去3年以内に新卒採用あり・計／単一／単一回答）

F4. 貴社の2014年4月入社の新卒採用状況についてお聞きます。大学・大学院卒の方の採用数としてあてはまるものをお選びください。

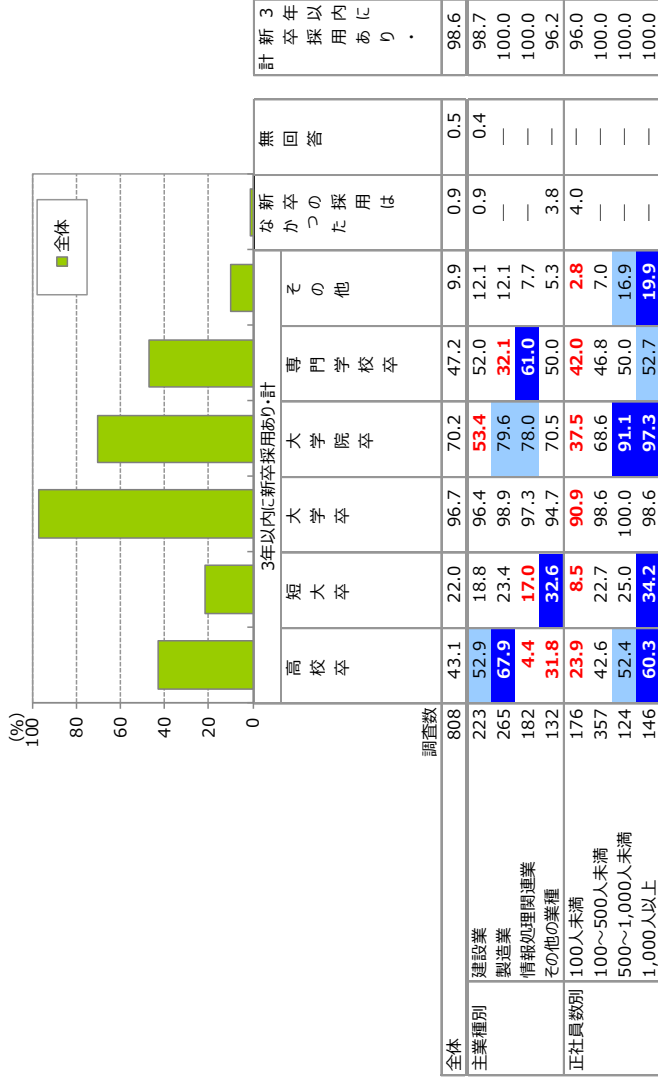
主業種別	2014年4月新卒採用あり・計				新卒は採用しなかった (0人)	無回答
	1~9人	10~49人	50~99人	100~499人		
●凡例						
全体	(n= 797)	52.7%		35.3	53.3	33.4
建設業	(n= 220)	51.4		35.0	59.2	44.5
製造業	(n= 265)	59.2		30.6	42.2	33.1
情報処理関連業	(n= 182)	54.4		40.1	35.1	33.1
その他の業種	(n= 127)	39.4		38.6	8.7	3.9
正社員数別	(n= 169)	87.0			24.4	10.1
100人未満	(n= 357)	65.8			30.8	1.1
100~500人未満	(n= 124)	23.4	71.0			32.6
500~1,000人未満	(n= 146)	62	53.4	23.3	14.4	0.7
1,000人以上						

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

11012

■新卒採用者の最終学歴（3年以内）（全体／複数回答）

F3. 貴社で過去3年以内に採用した新卒者の「最終学歴」をお選びください。



※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

11011

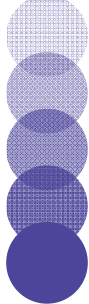
■千葉工業大卒業生の採用実績（2014年4月入社）

(2014年4月新卒採用あり／単一回答)

F4SF1. 2014年4月入社における本学卒業生の採用実績としてあてはまるものをお選び下さい。

		●凡例				未詳 (わから ない)		無回答	
		採用した	採用は なかった						
全体				27.1%	0.5	83.3%	64.1	—	
主業種別	建設業			28.7	—	9.6	61.7	—	
	製造業			22.0		10.2	66.7	1.2	
	情報処理関連業			28.9		—	64.4	—	6.7
	その他の業種			32.2		—	62.8	—	5.1
正社員数別	100人未満			17.8			65.1	1.3	15.8
	100～500人未満			23.5			65.9	0.6	10.0
	500～1,000人未満			29.3			69.1	—	1.6
	1,000人以上			44.1			53.8	—	2.1

11013



回答企業プロフィール：今後の採用意向

<新卒採用数の増減(2015年4月入社)>

▶全体では、38%が「2014年4月よりも増えると思う」、49%が「同程度」、11%が「減る」と回答。

- 主要3業種で比較すると、情報処理関連業の増加志向がやや強く(42%)、製造業の増加志向がやや弱い(32%)。

<今後の新卒採用対象となる最終学歴>

▶全体では、「大学卒」が99%で最も多く、次いで「大学院卒」(78%)。

- 主要3業種で比較すると、製造業と情報処理関連業では、「大学院卒」を新卒採用対象と考えている割合が84～86%と高い。

■新卒採用数の増減(2015年4月入社)(全体/単一回答)

F5. 2015年4月入社の新卒採用数について、現時点でどのようにお考えですか。貴社の方針に近いものをお選び下さい。

	2015年4月新卒採用予定あり・計			新卒の採用は行わない予定	未定 (わからない)	無回答	2015年4月 新卒採用 予定あり・ 計
	2014年 よりも 増えると思う	2014年と 同程度だと 思う	2014年 よりも 減ると思う				
●凡例							
全体	(n= 808)	37.5%		48.8		10.5	96.8
主業種別	建設業	(n= 223)	35.9		50.7	8.5	95.1
	製造業	(n= 265)	32.1		54.7	11.3	98.1
	情報処理関連業	(n= 182)	42.3		48.4	8.8	99.5
	その他の業種	(n= 132)	44.7		35.6	15.2	95.5
	正社員数別	100人未満	(n= 176)	36.9		45.5	11.4
	100～500人未満	(n= 357)	35.9		50.4	12.0	98.3
	500～1,000人未満	(n= 124)	38.7		51.6	9.7	100.0
	1,000人以上	(n= 146)	42.5		47.3	6.8	96.6

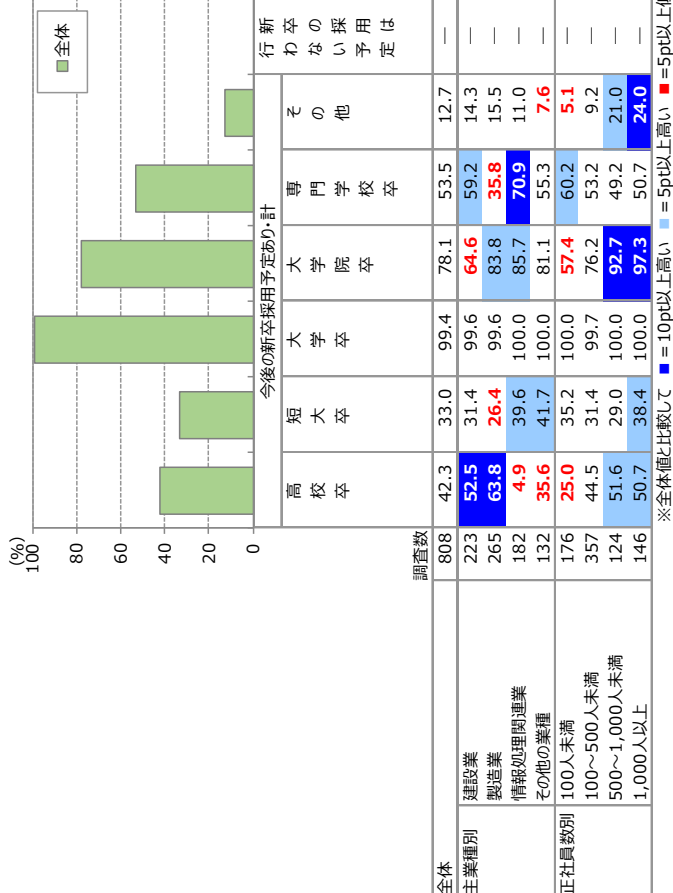
※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

1102.0

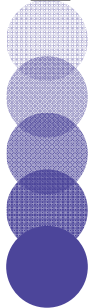
※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

■今後の新卒者採用対象となる最終学歴(全体/複数回答)

F6. 今後の新卒者の採用にあたり、どのような「最終学歴」の方の採用をお考えですか。貴社にとって採用対象となると思われるものをすべてお選びください。



※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

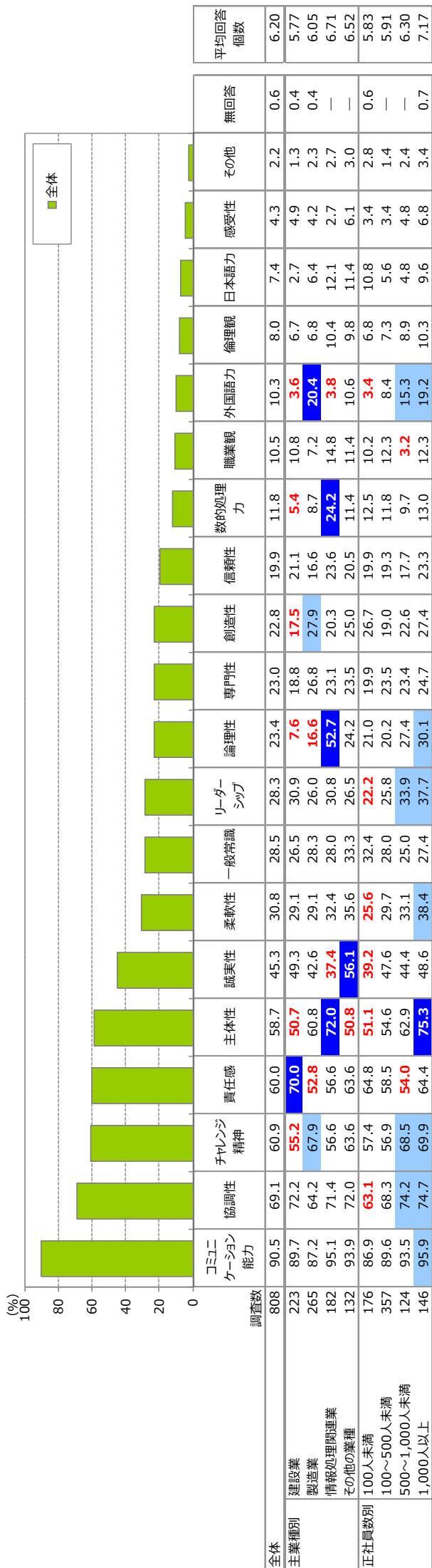


回答企業プロフィール：大学卒採用で期待する能力・素養

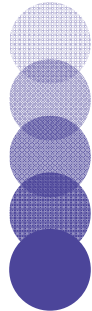
- ▶ 全体では、「コミュニケーション能力」が**91%**と最も高く、「協調性」「チャレンジ精神」「責任感」「主体性」が**50%以上**。
- 主要3業種で見ると、各業種とも「コミュニケーション能力」を最も期待している（87～95%）。建設業では、「協調性」「責任感」が70%台と高く、特に「責任感」は全体より10ポイント高い。製造業では、「外国語力」（20%）が全体よりも10ポイント高く、「チャレンジ精神」「創造性」も5～7ポイント高い。情報処理関連業では、「協調性」「主体性」が70%台と高く、全体と比べると、「論理性」が29ポイント、「主体性」が13ポイント、「数的処理力」が12ポイント高い。
 - 正社員数で見ると、全般的に人数が多いほど、期待する能力・素養の数が増えている（平均回答個数は、「100人未満」が5.8個、「1,000人以上」が7.2個）。
 - ・特に、「主体性」は、正社員数の規模によるスコア差が大きく、「1,000人以上」の企業が75%と、全体より17ポイントも高い。

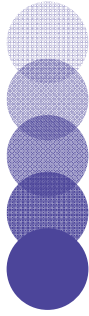
■ 大学卒採用で期待する能力・素養（全体／複数回答）

F7. 今後の新卒者を含めた採用活動に際し、貴社ではどのような能力を重視するお考えですか。あてはまる能力を以下からすべてお選びください。

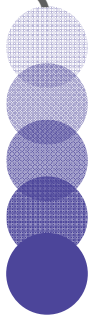


※ 全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い ※ 全体値の降順にソート





【調査結果】 サマリ



1. 各学部の“設置の理念”の社会にとっての必要性(「必要になる」と回答した割合)

▶「工学部」 **81%**／「創造工学部」 **61%**／「先進工学部」 **64%**

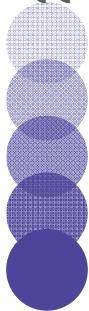
－「ある程度必要になる」を含めた「必要になる・計」では、「工学部」が最も高く(97%)、「創造工学部」「先進工学部」は9割前後。

■各学部の“設置の理念”の必要性（社会にとって）（全体／各単一回答）

Q1/Q5/Q9. 「工学部」/「創造工学部」/「先進工学部」の“設置の理念”について、社会にとっての程度が必要であると考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。

	必要になる・計				必要になる・計	必要になる・計		必要になる・計	コメント
	必要になる	ある程度必要になる	どちらともいえない	あまり必要に ならない	必要に ならない	無回答	必要になる (社数)	必要になる・計 (社数)	
●凡例									
工学部 (n= 808)			81.2%				656社	787社	現在の工業界の基幹となっている工学分野、すなわち機械、電気・電子、情報通信、材料、化学の分野、及び機械と電気の融合分野における専門技術者を育成することで社会のニーズに応えます。
創造工学部 (n= 808)		61.0		28.8			493社	726社	従来の工学部の建築都市環境工学とデザイン科学の教育・研究領域を再構築し、新たな社会ニーズに対応させ、建築学・建設工学・都市工学・デザイン科学等の基礎的な知識・技術を確認に学べる学部を創設します。
先進工学部 (n= 808)		64.4		27.4			520社	741社	従来の工学分野を基礎として、時代の変化に対応した先進的な科学技術と学際的な新領域への応用を目指し、基礎から実践までを確実に修得できる教育と最先端の研究を行います。

12011



2. 各学部の“養成する人材像”の企業にとっての必要性(「必要になる」と回答した割合)

▶「工学部」 **72%**／「創造工学部」 **40%**／「先進工学部」 **38%**

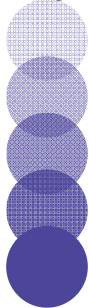
－「ある程度必要になる」を含めた「必要になる・計」では、「工学部」が最も高く(92%)、次いで「先進工学部」(75%)。

■各学部の“養成する人材像”の必要性（貴社にとって）（全体／各単一回答）

Q2/Q6/Q10. 「工学部」/「創造工学部」/「先進工学部」の“養成する人材像”について、貴社にとってどの程度必要があると考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。

	必要になる・計		どちらとも いえない	あまり必要に ならない	必要に ならない	無回答	必要になる・計	
	必要になる	ある程度 必要になる					必要になる (社数)	必要になる・計 (社数)
●凡例								
工学部 (n= 808)			71.5%		20.0	1.9 4.3 1.4	578社	740社
創造工学部 (n= 808)		39.9		26.7	20.9	9.4 2.7	322社	538社
先進工学部 (n= 808)		38.2		36.4	16.8	5.1 2.6	309社	603社

コメント文
現代社会を支える工学の知識と技術を修得し、ものづくりやシステムづくりに活用できる専門技術者を養成します。学科に応じた産業分野における研究開発、設計製造、品質管理、保守点検などを担います。
創造工学と各学科での専門知識を身につけることで、建築・建設・住宅・インテリア・製品等に関わる生産や、それらに関わる調査・企画・計画・設計、維持管理・マネジメント等の業種で活躍できる人材を養成します。
工学における先進的な産業分野において広範に活躍できる人材を養成します。工業機械や家電メーカーから、情報、環境、福祉、サービス系企業まで、幅広い進路への就職に加え、大学院進学も積極的に推奨します。



3. 学科別の新卒採用意向(「採用意向・計」の割合)

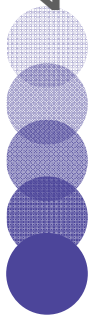
- ▶ **全学科とも三分の一以上の企業から採用意向あり**(「とても採用したい」「または「採用を検討したい」と回答)。
- ▶ 四分の三以上の企業から採用意向あったのは2学科。
「工学部・電気電子工学科」 77%／「工学部・機械工学科」 76%
- ▶ 工学部では、「機械電子創成工学科」「情報通信システム工学科」への採用意向も6割台と高い。
 - その他、「工学部・先端材料工学科」「創造工学部・建築学科」「創造工学部・都市環境工学科」「先進工学部・未来ロボティクス学科」への採用意向が5割台。

■ 学科別の新卒採用意向 (全体／各単一回答)

Q3/Q7/Q11. 「工学部」「創造工学部」「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社の考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

採用意向・計		採用を 検討したい	採用したい	どちらでもない	あまり 採用したくない	採用したくない	無回答	採用意向・ 計	採用したい (社数)	採用意向・ 計 (社数)
採用したい	採用を検討したい									
● 凡例										
(n=808)										
工学部	機械工学科	49.0%	26.9	15.8	1.7	3.3		75.9	396社	613社
	機械電子創成工学科	37.6	30.9	21.2	2.2	3.4		68.6	304社	554社
	先端材料工学科	23.3	32.5	31.7		3.6	5.3	55.8	188社	451社
	電気電子工学科	48.0	28.8	15.1	2.0	3.0		76.9	388社	621社
	情報通信システム工学科	38.4	27.1	21.8	4.1	4.0	4.7	65.5	310社	529社
応用化学科	16.8	30.7	35.0	6.9	5.2	5.3	47.5	136社	384社	
創造工学部	建築学科	30.9	21.0	33.9	5.3	6.2	2.6	52.0	250社	420社
	都市環境工学科	30.9	21.0	33.9	5.7	5.8	2.6	52.0	250社	420社
	デザイン科学科	20.8	28.3	35.1	6.8	5.9	3.0	49.1	168社	397社
	未来ロボティクス学科	28.8	29.3	29.8	3.5	5.4	3.1	58.2	233社	470社
生命科学科	11.5	25.2	44.2	8.5	7.2	3.3	36.8	93社	297社	
知能メディア工学科	18.9	28.5	36.6	6.1	6.8	3.1	47.4	153社	383社	

12001



4. 各学部各学科の新卒採用意向理由(1/2)

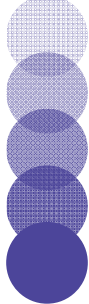
【工学部】

▶「機械工学科」「機械電子創成工学科」「先端材料工学科」「電気電子工学科」「応用化学学科」;
「(各学科の)専門技術者として採用したい」「業務に必要な知識だから」

▶「情報通信システム工学科」;
「情報処理知識や技術は有用で、SEとしての知識・経験に期待」「システムに精通した人・体系的に学んだ人を採用したい」

学部	学科	新卒採用意向理由
工学部	機械工学科	■ 機械系として採用したい／技術職採用／製造工場を保有し必要な人材。 “ゼネコン業務の中で、建設設備業務従事者を確保する為”(建設業／500～1,000人未満) “機械系の50代が定年をこれから迎える為、人材を補充していきたい”(製造業／500～1,000人未満)
	機械電子創成工学科	■ 人材不足を補充するため。 “弊社にとって人材不足であり、年齢構成から若手をどんどん採用したい”(建設業／100～500人未満)
	先端材料工学科	■ 材料に知識がある人材を採用したい。 “素材メーカーの為、材料(特に鉄)の知識を有している人は採用したい。他は人物を見て評価となる”(鉄鋼業／500～1,000人未満)
	電気電子工学科	■ 電気系技術者を採用したい／電気設備事業者として必要な人材。 “マンション建設等において電気設備設計職が不足しています。電気の知識を元に設計職を志す学生を採用したいと考えます”(建設業／100～500人未満) “当社で扱う「看板」の業界においては、環境問題・省エネルギー化が進んでおり、その観点から特に電気電子工学科の学生さんへの採用意向を強く持っています”(製造業／100人未満)
	情報通信システム工学科	■ 情報処理知識や技術は有用／SEとしての基礎知識やプログラミング経験に期待。 “ITの知識がある程度あれば、入社後の研修にも入りやすく即戦力になるまでの期間も短いと考えられる為”(情報処理関連業／100人未満)
	応用化学学科	■ システムに精通した人・体系的に学んだ人を採用したい。 “システムソリューションを事業としており、基礎技術としてシステム工学の知識が必要となる。しかし、最終的にはシステムの取りまとめ等を行なう為、システム工学に限らず社会をIGTで支える人材を求めている為”(情報処理関連業／1,000～3,000人未満)
工学部	化学系の専門知識が必須の為。	■ 化学系の専門知識が必須の為。 “・技術職＝合成樹脂塗床材分野、無機系セメント系塗床材分野→研究開発、改良に理系の考え方が必要。・営業職＝文系社員より理系営業は知識や考え方として強い”(卸売・小売業／100～500人未満)

※工学部6学科のうち、当該1学科のみ「採用したい」と回答した企業から抜粋。
※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数



4. 各学部各学科の新卒採用意向理由(2/2)

【創造工学部】

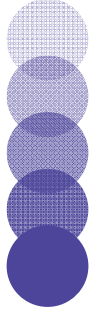
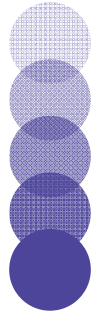
- ▶「建築学科」「都市環境工学科」：「学科の内容が事業に近いから」「(各学科の)学生は事業に必要／専門技術者として採用したい」
- ▶「デザイン科学科」：「パッケージや機械設計において、デザイナーは重要」「デザイナーを採用したい」

【先進工学部】

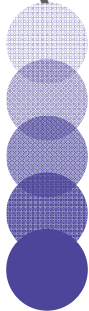
- ▶「未来ロボティクス学科」：「ロボットは今後必要とされる、研究開発領域」
- ▶「生命科学科」：「学科の内容が事業に近いから」
- ▶「知能メディア工学科」：「学科の内容に興味がある／今後事業拡大したい領域」

学部	学科	新卒採用意向理由
創造工学部	建築学科	■ 建築系の学生は貴重・事業に必要／現場監理できる人材・施工管理者を採用したい。 － “現場監理のできる人材を採用したいと考えています。また設計の分野で空間デザイン、プレゼンテーション能力等のある人材を求めています” (建設業／100人未満)
	都市環境工学科	■ 学科の内容が事業に近いから／インフラの全てに関係する。 － “都市環境工学科は当社の環境(エネルギー)見える化ソリューションと関連性がある為”(情報処理関連業／100～500人未満)
	デザイン科学科	■ パッケージや機械設計において、デザイナー力は重要。 － “人間工学的な点から、機械を設計する事は重要な分野であり、その為のデザイナーは無視する事ができないと考えます”(製造業／100～500人未満)
		■ グラフィックデザイナー、Webデザイナーを採用したい。 － “グラフィックデザイナー、Webデザイナーを採用したい”(出版・印刷関連産業／500～1,000人未満)
	未来ロボティクス学科	■ ロボットは今後必要とされる、研究開発領域。 － “今後、新たなニーズが見込まれる(未来ロボティクス)”(製造業／1,000～3,000人未満)
先進工学部	生命科学科	■ 学科の内容が事業に近いから。 － “生命科学科に期待しております(弊社は造園・緑化等にも力を入れており、社員には農学部、林学等の卒業生も多数在籍しております)” (建設業／100人未満)
	知能メディア工学科	■ 学科の内容に興味がある／今後事業拡大したい領域。 － “「ユーザエクスペリエンス」というキーワードに興味を持った。ビッグデータ解析は事業として取り組んでいきたいと考えている分野であり、興味を持った為”(情報処理関連業／100～500人未満)

※各学部3学科のうち、当該1学科のみ「採用したい」と回答した企業から抜粋。
※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数



【調査結果】 設置計画案③ : 先進工学部



1. 「先進工学部」の“設置の理念”の社会にとっての必要性

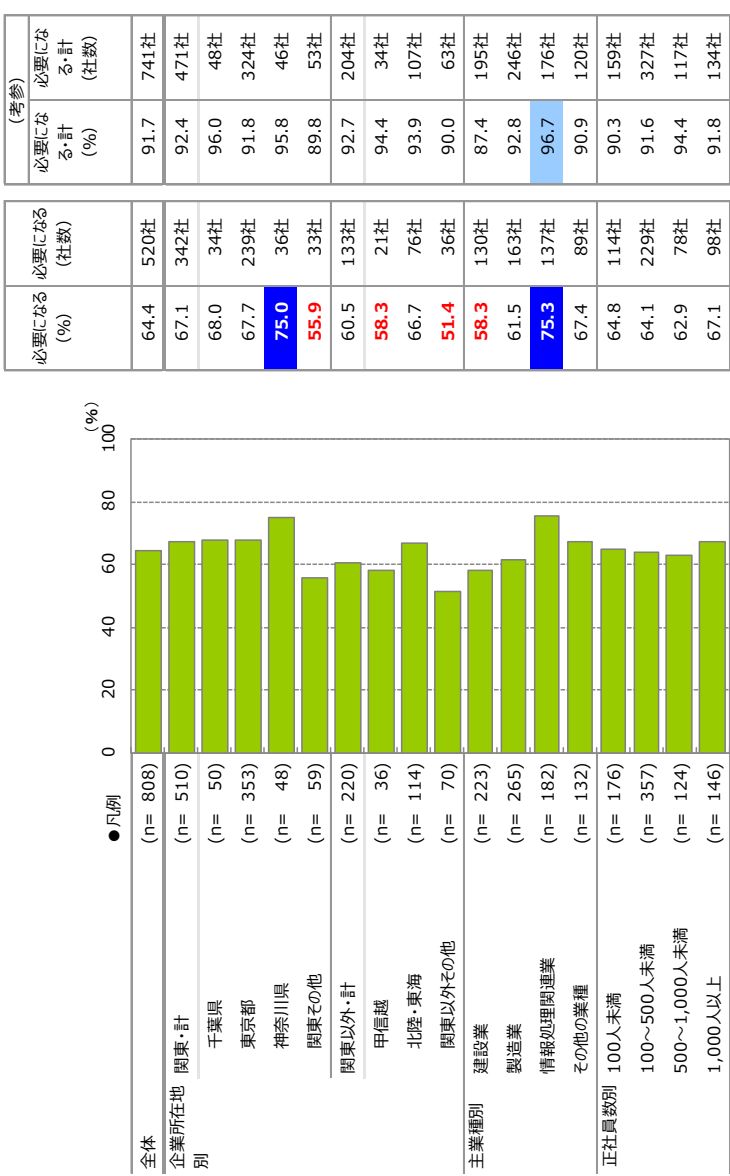
▶「先進工学部」の設置の理念が社会にとってどの程度必要になるか尋ねたところ、企業の64%が「必要になる」と回答。

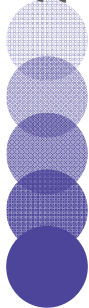
- 主要3業種で見ると、「情報処理関連業」では75%が「必要になる」と回答。

- 企業所在地別に見ると、「神奈川県」では「必要になる」と回答した割合が高い（75%）。

■「先進工学部」の“設置の理念”の必要性（社会にとって）：「必要になる」一覧（全体／単一回答）

Q9. 「先進工学部」の“設置の理念”について、社会にとってどの程度必要があると考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。





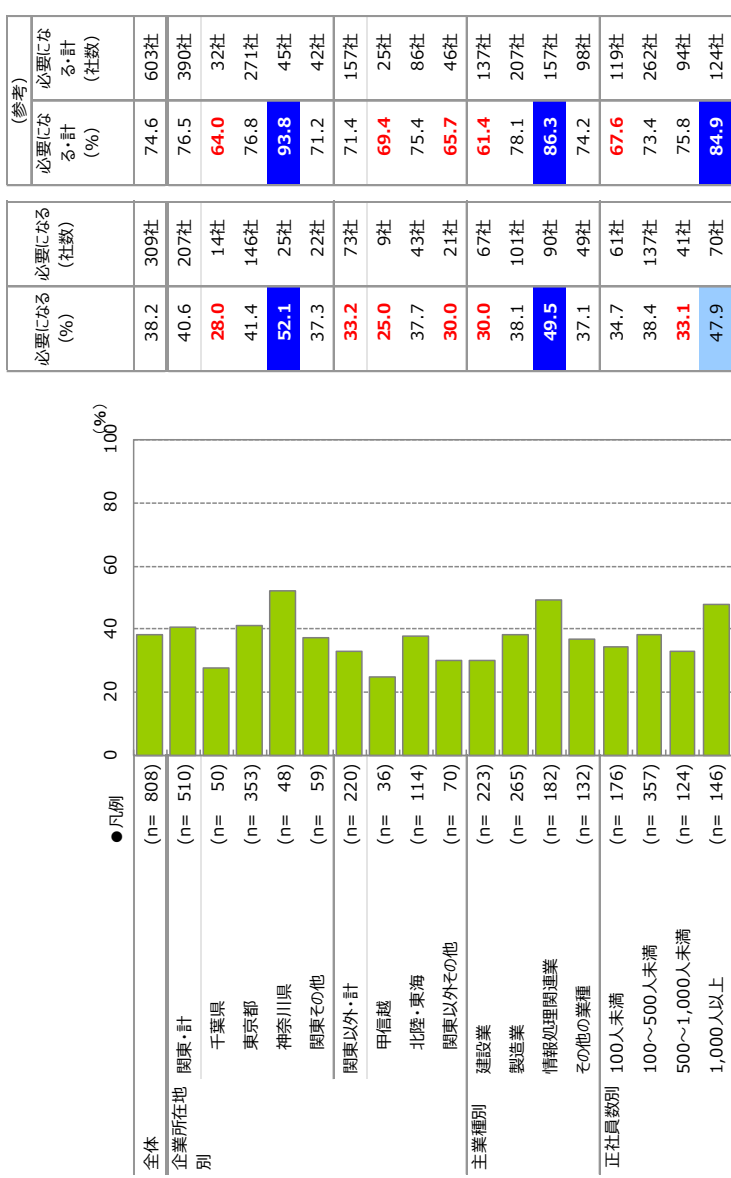
2. 「先進工学部」の“養成する人材像”の企業にとっての必要性

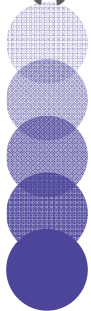
▶「先進工学部」の養成する人材像が企業にとってどの程度必要になるか尋ねたところ、企業の38%が「必要になる」と回答。

- 主要3業種で見ると、「情報処理関連業」の50%が「必要になる」と回答。
- 正社員数で見ると、「1,000人以上」では「必要になる」と回答した割合がやや高い(48%)。
- 企業所在地別に見ると、「神奈川県」では「必要になる」と回答した割合が高い(52%)。

■「先進工学部」の“養成する人材像”の必要性（貴社にとって）：「必要になる」一覧（全体／単一回答）

Q10. 「先進工学部」の“養成する人材像”について、貴社にとってどの程度必要があると考えますか。貴社のお考えに最も近いものをお選びください。





3. 先進工学部 各学科の新卒採用意向

- ▶ 主要3業種の学科別採用意向の特徴(全体と比べて、「採用意向・計」の割合が高い業種)。
 - － 「製造業」： 「未来ロボティクス学科」への採用意向が、全体より10ポイント以上高い。
 - － 「情報処理関連業」： 全学科とも採用意向が高く、なかでも、「知能メディア工学科」への採用意向は全体より30ポイント以上も高い。
- ▶ 正社員数規模による学科別採用意向の特徴(全体と比べて、「採用意向・計」の割合が高い企業規模)。
 - － 全学科とも、人数が多いほど採用意向が高く、「1,000人以上」の企業では、各学科とも全体より10ポイント前後高い。

■「先進工学部」各学科の新卒採用意向：「採用意向・計」一覧 (全体／各単一回答)

Q11. 「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。



12301.00

4-1. 未来ロボティクス学科 新卒採用意向

▶ 全体の採用意向：58%（先進工学部3学科の中で最も高い）

- 主要3業種でみると、「情報処理関連業」（76%）、「製造業」（69%）での採用意向が高い。
- 正社員数でみると、人数が多い企業ほど高くなり、「1,000人以上」での採用意向が7割台。
- 企業所在地別にみると、「神奈川県」での採用意向が高い（75%）。

■「先進工学部－未来ロボティクス学科」の新卒採用意向（全体／単一回答）

Q1.1. 「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

	採用意向・計				あまり採用したくない	採用したくない	採用意向・計	採用意向・計	
	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない	採用したい				採用したい（社数）	採用意向・計（社数）
● 凡例									
全体	(n = 808)	28.8%		29.3	29.8		58.2	233社	470社
企業所在地	(n = 510)	32.5		26.7	29.0		59.2	166社	302社
別	(n = 50)	26.0		28.0	40.0		54.0	13社	27社
千葉県	(n = 353)	34.6		28.0	26.3		62.6	122社	221社
東京都	(n = 48)	43.8		31.3	18.8		75.0	21社	36社
神奈川県	(n = 59)	16.9	13.6	44.1	6.8	11.9	30.5	10社	18社
関東その他	(n = 220)	20.5		32.3	34.5	2.7	52.7	45社	116社
関東以外・計	(n = 36)	16.7		44.4	25.0	—	61.1	6社	22社
甲信越	(n = 114)	22.8		32.5	31.6	2.6	55.3	26社	63社
北陸・東海	(n = 70)	18.6	25.7	44.3	43.4	3.2	44.3	13社	31社
関東以外その他	(n = 223)	9.9	22.9	45.3	6.7	11.7	32.7	22社	73社
主業種別	(n = 265)	36.6		32.8	21.9	2.6	69.4	97社	184社
建設業	(n = 182)	39.6		36.8	19.8	1.1	76.4	72社	139社
製造業	(n = 132)	31.1		24.2	34.1	3.8	55.3	41社	73社
情報処理関連業	(n = 176)	16.5	26.7	35.8	6.3	9.7	43.2	29社	76社
その他の業種	(n = 357)	27.7		29.1	31.4	3.4	56.9	99社	203社
正社員数別	(n = 124)	35.5		29.0	32.3	1.6	64.5	44社	80社
100人未満	(n = 146)	41.8		33.6	17.8	2.1	75.3	61社	110社
100～500人未満									
500～1,000人未満									
1,000人以上									

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

12301_01

▲全体の採用意向: 37%

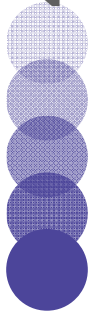
- 主要3業種で見ると、「情報処理関連業」での採用意向が5割台と高い。
- 正社員数で見ると、人数が多い企業ほど高くなり、「500～1,000人未満」「1,000人以上」での採用意向が4割台。
- 企業所在地別にみると、「東京都」での採用意向がやや高い。

■「先進工学部—生命科学科」の新卒採用意向（全体／単一回答）

Q11. 「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

	●凡例	採用意向・計			どちらでもない	あまり採用したくない	採用したくない	無回答
		採用したい	採用を検討したい					
全体	(n= 808)	11.5%	25.2	44.2	8.5	72.3		
企業所在地								
別								
関東・計	(n= 510)	13.7	25.1	43.7	8.2	59.3		
千葉県	(n= 50)	6.0	28.0	52.0	10.0	40.0		
東京都	(n= 353)	16.7	26.6	41.9	7.1	48.2		
神奈川県	(n= 48)	10.4	25.0	41.7	8.3	63.0		
関東その他	(n= 59)	5.1	13.6	49.2	13.6	11.9	6.8	
関東以外・計	(n= 220)	5.9	25.0	46.4	10.0	10.5	24.0	
甲信越	(n= 36)	2.8	19.4	44.4	11.1	22.2	-	
北陸・東海	(n= 114)	7.0	23.7	45.6	11.4	9.6	25.6	
関東以外その他	(n= 70)	5.7	30.0	48.6	7.1	5.7	23.6	
主業種別								
建設業	(n= 223)	6.3	19.7	47.1	10.8	12.6	3.6	
製造業	(n= 265)	7.5	23.8	46.4	11.7	8.7	1.1	
情報処理関連業	(n= 182)	20.9	34.6	37.4	4.4	0.5	4.4	
その他の業種	(n= 132)	15.9	25.8	44.7	4.5	4.5	4.4	
正社員数別								
100人未満	(n= 176)	9.1	22.7	43.8	8.5	10.8	5.1	
100～500人未満	(n= 357)	9.8	22.7	47.6	9.8	7.6	2.4	
500～1,000人未満	(n= 124)	15.3	29.8	43.5	7.3	2.4	7.3	
1,000人以上	(n= 146)	15.8	30.8	38.4	6.8	6.2	2.4	

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い



4－3. 知能メディア工学科 新卒採用意向

▶ 全体の採用意向： 47%

- － 主要3業種でみると、「情報処理関連業」での採用意向が8割弱ととても高い。
- － 正社員数でみると、人数が多い企業ほど高くなり、「1,000人以上」での採用意向が6割台。
- － 企業所在地別にみると、「神奈川県」「東京都」での採用意向が5割台。

■「先進工学部－知能メディア工学科」の新卒採用意向（全体／単一回答）

Q11. 「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますか。貴社の考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。

	採用意向・計				採用したくない	採用したくない	無回答	採用意向・計	採用意向・計	
	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない	あまり採用したくない					採用したい (社数)	採用意向・計 (社数)
● 凡例										
全体	(n= 808)	18.9%	28.5	36.6	6.1	6.8	3.1	47.4	153社	383社
企業所在地別	関東・計	(n= 510)	21.8	28.2	34.7	6.3	6.1	50.0	111社	255社
	千葉県	(n= 50)	10.0	28.0	52.0		6.0	38.0	5社	19社
	東京都	(n= 353)	24.1	30.3	31.4	5.9	5.4	54.4	85社	192社
	神奈川県	(n= 48)	29.2	29.2	31.3	2.1	6.3	58.3	14社	28社
	関東その他	(n= 59)	11.9	15.3	42.4	11.9	6.8	27.1	7社	16社
	関東以外・計	(n= 220)	11.8	27.3	44.1	5.5	9.1	39.1	26社	86社
	甲信越	(n= 36)	8.3	22.2	47.2	2.8	19.4	30.6	3社	11社
	北陸・東海	(n= 114)	11.4	30.7	41.2	5.3	8.8	42.1	13社	48社
	関東以外その他	(n= 70)	14.3	24.3	47.1	7.1	4.3	38.6	10社	27社
主業種別	建設業	(n= 223)	7.6	19.7	46.2	10.3	12.6	27.4	17社	61社
	製造業	(n= 265)	10.6	30.6	41.9	8.3	7.2	41.1	28社	109社
	情報処理関連業	(n= 182)	44.0	35.7	35.7	17.6	0.5	79.7	80社	145社
	その他の業種	(n= 132)	21.2	29.5	37.1	2.3	5.3	50.8	28社	67社
	正社員数別	100人未満	(n= 176)	18.8	23.3	35.8	6.8	10.2	42.0	33社
	100～500人未満	(n= 357)	18.5	24.6	41.7	5.3	7.6	43.1	66社	154社
	500～1,000人未満	(n= 124)	18.5	34.7	37.1		5.6	53.2	23社	66社
	1,000人以上	(n= 146)	21.2	39.0	26.0	7.5	4.8	60.3	31社	88社

※全体値と比較して ■ = 10pt以上高い ■ = 5pt以上高い ■ = 5pt以上低い

12301.03

5. 先進工学部全般に対しての新卒採用意向理由

▶ 先進工学部全学科について「採用したい」企業からは、自社がものづくりの会社であり、学科の内容が採用基準に合致していたり、学科で身に付けた専門知識を仕事で活かしてほしい、あるいは新しい技術／分野に調整したい学生を歓迎するという声が寄せられた。

－ また、優れたOBを輩出している点も挙げられた。

【「先進工学部 全3学科」の新規卒業生について「採用したい」と回答した企業の新卒採用意向理由（自由回答）の抜粋】

■ ものづくりの会社、学科の内容が採用基準に合致している。

- － “弊社が進めているビジネス（ビジネスソリューション、産業機器事業等）に必要となる人材に合致すると考えている為”（その他／3,000人以上）
- － “弊社の事業内容に通ずる部分がある為、良い学生さんであればぜひ採用したい”（情報処理関連業／100～500人未満）
- 学科で身に付けた専門知識を仕事に活かしてほしい／業務に役立ちそう。
 - － “システムサービスを提供する為には専門的な知識が要求される”（その他／100人未満）
 - － “ロボット制御工学等の分野を専攻された方は、当社のエンジニアとして活躍が期待できる為”（建設業／1,000～3,000人未満）
 - － “工学分野の基礎に最先端研究に関わっている学部と捉えておりますので、充分に弊社で活躍頂けると考えます”（製造業／1,000～3,000人未満）
 - － “先進工学関連は情報通信業にとって大切になると予想される”（情報処理関連業／100人未満）
 - － “組込プログラム、人工知能の分野、医療分野でソフトウェア開発は重要と考えています”（情報処理関連業／100人未満）

■ 新しい技術／分野に挑戦したい意欲のある学生、柔軟な発想力のある学生を歓迎。

- － “既存の枠にとらわれない柔軟な発想で新しい挑戦に取り組む事ができる方を求めている為”（サービス業／3,000人以上）
- － “時代の変化に柔軟に対応している力や考え方が、今後のビジネスに必要不可欠だと考える為”（情報処理関連業／1,000～3,000人未満）
- － “柔軟な発想ができる事は大変重要である事や、新しい先端技術を知る学生さんには会社社に新しい知識を入れてくれる事を期待する”（建設業／100～500人未満）
- － “当社でも工業的な基礎を大切にしながら旧来の枠にとらわれない柔軟な発想を追い求めている為、当学部の方針に共感しております”（製造業／100人未満）
- － “未来思考で柔軟な発想を持った人材を採用できそうだから”（建設業／100～500人未満）

■ 論理的思考力、ITへの強さ、自己管理能力、創造性など学生の能力・学力に期待。

- － “ITに強い知識を身に付けていると思いますので”（建設業／100人未満）
- － “ハードウェアとソフトウェア両方の知識がある人材を採用したいと考えている為”（情報処理関連業／1,000～3,000人未満）
- － “問題解決能力や実験・研究を行なう事で論理的思考等も身に付いており、IT業界で活躍できる人材と考えております”（情報処理関連業／500～1,000人未満）

■ OBが優れており積極採用したい。

- － “千葉工業大学様のロボティクス研究は有名であり、優秀な学生さんが多いと感じた為”（卸売・小売業／500～1,000人未満）

■ 人物・ポテンシャル重視で様々な学科から採用したい。

- － “学部・学科問わず採用活動を行なっています。私どもの事業では医療に関わるシステムや制御や組み込みといった仕事等もしております。そういった中で、先進工学部で学んできた学生さんが学んだ事を活かせる機会がたくさんあると考えています”（情報処理関連業／100～500人未満）
- － “全学科応募可。人間性重視した採用を行なっています”（情報処理関連業／100人未満）

※自由回答末尾（）凡例 並びは、業種／正社員数

6. 先進工学部 各学科の新卒採用意向理由

- ▶「未来ロボティクス学科」の採用意向理由として、「学科の内容が事業に近いか」「ロボットに関する知識・設計力等に期待／事業に活かせる」「ロボットは今後必要とされる、研究開発領域」を挙げている企業が多い。
- ▶「生命科学学科」の採用意向理由として、「学科の内容が事業に近いか」「事業に必要な知識がありそう」が挙げられている。
- ▶「知能メディア工学科」の採用意向理由として、「学科の内容が事業に近いか」「SE、NEに関わる学科に思える」「学科の内容に興味がある／今後事業拡大したい領域」「ICT分野のエンジニアが必要／プログラミングできる学生を採用したい」が挙げられている。

【「未来ロボティクス学科」の新規卒業生についてのみ、「採用したい」と回答した企業の「採用したい」と回答した企業の（自由回答）の抜粋】

- 学科の内容が事業に近いかから。
 - “ロボティクス学科は弊社生産設備で関連するが、他の学科は思い浮かばない”（製造業／100～500人未満）
 - “当社の事業内容から未来ロボティクス学科は求める人材にマッチしており、ぜひ採用したい”（情報処理関連業／100～500人未満）
 - “生命科学と工学部の応用化学との差をはっきりと感じられない。未来ロボは設計者不足の当社にとって魅力ある学科”（製造業／100～500人未満）

■ ロボットに関する知識・設計力等に期待／事業に活かせる。

- “機械・電気・設計等、仕事に活かせる事が多い為”（建設業／1,000～3,000人未満）
- “生産技術分野において必要な設計力と実践力の養成に期待できるから”（製造業／1,000～3,000人未満）
- “当社は計測器（レコーダ等）、情報機器（プロッタ、スキナー、ガッター）のメーカーの為、エレキ・メカ・ファームの技術がないと物作りができない”（製造業／100～500人未満）

■ ロボットは今後必要とされる、研究開発領域。

- “今後、新たなニーズが見込まれる（未来ロボティクス）”（製造業／1,000～3,000人未満）
- “弊社においても市場での製品用途拡大が見込まれている為”（製造業／500～1,000人未満）
- “弊社開発業務において必要とする学科の為（未来ロボティクス学科）”（情報処理関連業／100～500人未満）

【「生命科学学科」の新規卒業生についてのみ、「採用したい」と回答した企業の「採用したい」と回答した企業の（自由回答）の抜粋】

■ 学科の内容が事業に近いかから。

- “生命科学学科に期待しております（弊社は造園・緑化等にも力を入れており、社員には農学部、林学等の卒業生も多数在籍しております）”（建設業／100人未満）
- “当社はバイオエネルギーを活用した工場を増設しており、今年度で全国で累計15工場が設置予定である。その工場の機械を稼働させる機械職や、材料の品質を管理する試験職は生命科学学科に対応している”（建設業／1,000～3,000人未満）

■ 事業に必要な知識がありそう。

- “生命科学の課程が高度管理医療機器の管理者として必要な知識である為（コンタクトレンズ）”（製造業／100～500人未満）
- “当社の業務とさほど関連がないと思われる。生命科学学科に関しては、当初では農作物に関する知見も重要な為、興味深い”（製造業／500～1,000人未満）

【「知能メディア工学科」の新規卒業生についてのみ、「採用したい」と回答した企業の「採用したい」と回答した企業の（自由回答）の抜粋】

■ 学科の内容が事業に近いかから／SE、NEに関わる学科に思える。

- “SE、NEに関わる学科に思える為”（情報処理関連業／100～500人未満）
- “当社では音楽ホール等の音響システムや映像システムの施工など業務として行なっていますので、ご希望者は採用を検討します”（卸売・小売業／100～500人未満）

■ 学科の内容に興味がある／今後事業拡大したい領域。

- “「ユーザエクスペリエンス」というキーワードに興味を持った。ビッグデータ解析は事業として取り組んでいきたいと考えている分野であり、興味を持った為”（情報処理関連業／100～500人未満）
- “世にあふれる情報をいかに活用するかが今後のテーマとなってくる。ビッグデータを解析駆使し、ユーザーが求めるものを提供していく事で、社会貢献する事ができる”（情報処理関連業／100人未満）

■ ICT分野のエンジニアが必要／プログラミングできる学生を採用したい。

- “ICT分野のエンジニアが必要”（建設業／1,000～3,000人未満）
- “プログラムができる学生を求めています（技術面では）”（情報処理関連業／100～500人未満）

※自由回答末尾 ○ 凡例 並びは、業種／正社員数

千葉工業大学 新学部・新学科に関するアンケート調査＜企業＞

7. 「先進工学部」に対するご意見・ご要望

- ▶ クリエイティブな発想ができて、チャレンジ精神旺盛な人材、技術動向に敏感な人材の育成への期待が寄せられている。
- ▶ また、先進工学部の内容が、今後の社会に必要な分野と認識されており、大学の研究活動や技術開発力も期待されている。

【「先進工学部」に対するご意見・ご要望(自由回答)の抜粋】

■ クリエイティブな発想ができる人材、チャレンジ精神旺盛な人材の育成に期待。

- “技術面のみならず、人間的にも枠にとらわれないクリエイティブな発想を持つ学生が増えると嬉しく思います”(製造業／100人未満／〇〇〇)
- “世界のレベルに対抗できる技術開発へ意欲と夢をお持ちの人材育成に期待します”(製造業／100～500人未満／〇〇〇)
- “何事にもチャレンジする学生が欲しいです”(製造業／100～500人未満／〇ー＊)

■ 学外の専門家を招聘した授業を含め、技術動向に敏感な人材を育成して欲しい。

- “世間の進歩、動向に敏感であり、産業界から先生を連れてくるような施策を検討してほしい”(製造業／100～500人未満／〇＊△)
- “新しい技術は日々進化していくので、その感覚を必要とする学生を育てて下さい”(建設業／100～500人未満／△△△)
- “日本の技術力を支える力になるような人材を育てて下さい”(建設業／100人未満／△△△)

■ 今後の社会に必要な分野。

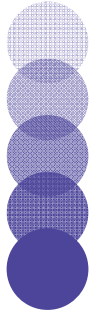
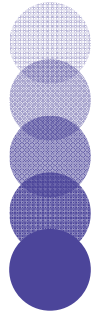
- “今後の日本を担う重要な3分野だと思います”(情報処理関連業／500～1,000人未満／△△〇)
- “今後の社会に必要な分野であり、事業拡大等で当社にとっても必要な知識となる可能性もある為注目していきたい”(製造業／100～500人未満／〇＊＊)
- “産業構造が変革し、縦割り職務では対応しにくくなったことや、単なるモノ作りがアジアにシフトする中で科学をベースに、かつ学科融合の考え方は、将来のモノ・コト創り日本に寄与する取組と考えます”(製造業／3,000人以上／〇△×)
- “将来的にロボットの開発はこれからの日本には重要になってくるので重要である”(情報処理関連業／100～500人未満／＊×＊)

■ データ収集・解析プログラムなどの大学の研究活動や技術開発力に期待したい。

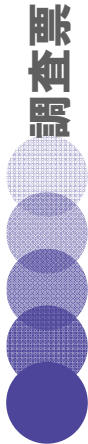
- “スマートデバイスを利用した研究もぜひ推進してほしいと感じています”(情報処理関連業／100人未満／〇〇〇)
- “生命科学科のカリキュラムに“データ収集・解析プログラミング”を含めて頂けると、弊社との連携も図りやすいと考えます(MATLAB等)”(情報処理関連業／100人未満／〇＊〇)
- “今後の技術開発の方向性を強く打ち出してほしい。早期に”(情報処理関連業／100～500人未満／〇＊△)

※自由回答末尾 () 凡例 並びは、業種／正社員数／各学科 (未来ロボティクス、生命科学、知能メディア) の採用意向
採用意向：○採用したい／△採用を検討したい／＊どちらでもない／×あまり採用したくない・採用したくない／ー無回答





資料：調査票



調査票

はじめに、貴社についてお聞きます。

F1. 貴社の主業種をお選びください。(ひとつに○)

1. 農業・林業・漁業・鉱業	2. 建設業	3. 製造業
4. 鉄鋼業	5. 出版・印刷関連産業	6. 電気・ガス・熱供給・水道業
7. 運輸・運送業	8. 航空関連業	9. 旅行業
10. 電気通信業	11. 情報処理関連業	12. 卸売・小売業
13. 総合商社	14. 飲食店	15. 金融業(銀行・信託・証券・貸金)
16. 保険業	17. 不動産業	18. サービス業
19. 医療機関(病院)	20. 福祉関連業	21. 学校・教育産業
22. 官公庁・自治体・公共団体	23. その他 ()	

F2. 貴社の正社員数をお選びください。(ひとつに○)

1. 100 人未満	2. 100～500 人未満	3. 500～1,000 人未満
4. 1,000～3,000 人未満	5. 3,000 人以上	

F3. 貴社で過去 3 年以内に採用した新卒者の「最終学歴」をお選びください。(いくつでも○)

1. 高校卒	2. 短大卒	3. 大学卒	4. 大学院卒
5. 専門学校卒	6. その他 ()		
7. 新卒の採用はなかった → F5 へお進みください			

F4. 貴社の 2014 年 4 月入社の新卒採用状況についてお聞きます。 大学・大学院卒の方の採用数としてあてはまるものをお選びください。(ひとつに○)

1. 1～9 人	2. 10～49 人	3. 50～99 人	4. 100～499 人
5. 500 人以上	6. 新卒は採用しなかった(0 人) → F5 へお進みください		

SF1. 2014 年 4 月入社における本学卒業生の採用実績としてあてはまるものをお選び下さい。

1. 採用した	2. 採用はなかった	3. 未詳(わからない)

F5. 2015 年 4 月入社の新卒採用数について、現時点でどのようなようにお考えですか。 貴社の方針に近いものをお選び下さい。(ひとつに○)

1. 2014 年よりも増えると思う	2. 2014 年と同程度だと思う	3. 2014 年よりも減ると思う
4. 新卒の採用は行わない予定	5. 未定(わからない)	

F6. 今後の新卒者の採用にあたり、どのような「最終学歴」の方の採用をお考えですか。 貴社にとって採用対象となると思われるものをすべてお選びください。(いくつでも○)

1. 高校卒	2. 短大卒	3. 大学卒	4. 大学院卒
5. 専門学校卒	6. その他 ()		
7. 新卒の採用は行わない予定			

※調査票1ページ目のあいさつ文(アンケート協力のお願い)は割愛。

F7. 今後の新卒者を含めた採用活動に際し、貴社ではどのような能力を重視するお考えですか。 あてはまる能力を以下からすべてお選びください。(いくつでも○)

1. コミュニケーション能力	2. 主体性	3. 協調性
4. チャレンジ精神	5. 誠実性	6. 責任感
7. 論理性	8. 専門性	9. 職業観
10. 創造性	11. 柔軟性	12. 信頼性
13. リーダーシップ	14. 一般常識	15. 外国語力
16. 日本語力	17. 数的処理力	18. 倫理観
19. 感受性	20. その他 ()	

ここからは、千葉工業大学の新しい学部/学科に関する設問です

！別添の「新しい学部学科紹介」をよく読んでいただき、お答えください。

※新しい3つの学部(工学部、創造工学部、先進工学部)それぞれについて伺います。

設置計画案①:工学部

Q1. 「工学部」の「設置の理念」について、社会にとつてどの程度必要があると考えますか。

あなたのお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「工学部」 設置の理念	現在の工業界の基幹となっている工学分野、すなわち機械、電気電子、情報通信、材料、化学の分野、及び機械と電気の融合分野における専門技術者を育成することで社会のニーズに応えます。

1. 必要になる	2. ある程度必要になる	3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない	5. 必要にならない	

Q2. 「工学部」の「養成する人物像」について、貴社にとつて今後どの程度必要になると考えますか。

貴社のお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「工学部」 養成する人物像	現代社会を支える工学の知識と技術を修得し、ものづくりやシステムづくりに活用できる専門技術者を養成します。学科に応じた産業分野における研究開発、設計製造、品質管理、保守点検などを担います。

1. 必要になる	2. ある程度必要になる	3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない	5. 必要にならない	

※Q3は、新卒採用をお考えの方にお聞きます。(F6で『7. 新卒の採用は行わない予定』を選択した方はQ4へお進みください)

Q3.「工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお持ちになりますが。

貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。(それぞれひとつに○)

大学名	学部名	学科名	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない	採用したくない	採用したくない
千葉工業大学	工学部	機械工学科	1	2	3	4	5
		機械電子創成工学科	1	2	3	4	5
		先端材料工学科	1	2	3	4	5
		電気電子工学科	1	2	3	4	5
		情報通信システム工学科	1	2	3	4	5
		応用化学科	1	2	3	4	5

SQ1. 上記ご回答についての理由をお書き添え下さい。

Q4.「工学部」に対するご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

設置計画案②：創造工学部

Q5.「創造工学部」の「設置の理念」について、社会にとってどの程度必要があると考えますが。

あなたのお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「創造工学部」
設置の理念

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

Q6.「創造工学部」の“養成する人物像”について、貴社にとって今後どの程度必要になると考えますか。

貴社のお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「創造工学部」	創造工学と各学科での専門知識を身につけることで、建築・建設・住宅・インテリア・製品等に関わる生産や、それらに関する調査・企画・計画・設計、維持管理、マネジメント等の業種で活躍できる人材を養成します。

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

※Q7は、新卒採用をお考えの方にお聞きます。(F6で『7. 新卒の採用は行わない予定』を選択した方はQ8へお進みください)

Q7.「創造工学部」の新規卒業生について、貴社としてどの程度採用意向をお持ちになりますか。

貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。(それぞれひとつに○)

大学名	学部名	学科名	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない	採用したくない	採用したくない
千葉工業大学	創造工学部	建築学科	1	2	3	4	5
		都市環境工学科	1	2	3	4	5
		デザイン科学科	1	2	3	4	5

SQL2. 上記ご回答についての理由をお書き沿え下さい。

Q8.「創造工学部」に対するご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

設置計画案③：先進工学部

Q9.「工学部」の“設置の理念”について、社会にとってどの程度必要があると考えますか。
あなたのお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「先進工学部」 設置の理念	従来の工学分野を基礎として、時代の変化に対応した先進的な科学技術と学際的な新領域への応用を目指し、基礎から実践までを確実に修得できる教育と最先端の研究を行います。		

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

Q10.「先進工学部」の“養成する人物像”について、貴社にとって今後どの程度必要になると考えますか。
貴社のお考えに最も近いものをお選びください。(ひとつに○)

「先進工学部」 養成する人物像	工学における先進的な産業分野において広範に活躍できる人材を養成します。工業機械や家電メーカーから、情報、環境、福祉、サービス系企業まで、幅広い進路への就職に加え、大学院進学も積極的に推奨します。		

1. 必要になる
2. ある程度必要になる
3. どちらともいえない
4. あまり必要にならない
5. 必要にならない

※Q11は、新卒採用をお考えの方にお聞きします。(F6で「7. 新卒の採用は行わない予定」を選択した方はQ12へお進みください)

Q11.「先進工学部」の新規卒業生について、貴社としての程度採用意向をお待ちになりますか。
貴社のお考えに最も近いものを学科ごとにお選びください。(それぞれひとつに○)

大学名	学部名	学科名	採用したい	採用を検討したい	どちらでもない	採用したくない	採用したくない
千葉工業大学	先進工学部	未来ロボティクス学科	1	2	3	4	5
		生命科学科	1	2	3	4	5
		知能メディア工学科	1	2	3	4	5

SQ3. 上記ご回答についての理由をお書き添え下さい。

Q12.「先進工学部」に対するご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

最後に、千葉工業大学全体に関する設問です

Q13.「千葉工業大学」全体に対するご意見・ご要望がございましたら、どのようなことでも構いませんのでご記入ください。

質問はこれで終了です。

長時間ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	コミヤ カズヒト 小宮 一仁 ＜平成24年6月＞		博士 (工学)		千葉工業大学 学長 (平成24年6月)

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等												
(先進工学部 未来ロボティクス学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する 週当たり平均日数
1	専	教授	オウ シトウ 王 志東 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		未来ロボティクス総合セミナー※ ロボット設計製作論実習1 ロボットプログラミング センサ工学 ロボットビジョン ロボット設計製作論実習4 ロボット設計製作論実習5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	1前 1後 1後 2後 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通	0.2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成18年4月)	5日
2	専	教授	オオカワ シンギ 大川 茂樹 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		未来ロボティクス総合セミナー※ 信号処理論 数値解析学1 数値解析学2 認識工学 ロボット設計製作論実習4 ロボット設計製作論実習5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	1前 2後 2後 3前 3前 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通	0.1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成10年4月)	5日
3	専	教授	オオクボ ヒロキ 大久保 安樹 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		未来ロボティクス総合セミナー※ メカニクス1 メカニクス2 認知科学 ロボット設計製作論実習4 ロボット設計製作論実習5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	1前 2前 3前 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通	0.1 4 2 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成18年10月)	5日
4	専	教授	オオタ ユウスケ 太田 祐介 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		キャリアデザイン1 キャリアデザイン2 キャリアデザイン3 国内インターン 未来ロボティクス総合セミナー※ ロボット設計製作論実習2 制御工学 ロボットマニピュレータ CAD/CAM/CAE ロボット設計製作論実習4 ロボット設計製作論実習5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	1前 1後 3前 1 1前 2前 2後 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通	1 1 1 1 0.2 2 4 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成20年4月)	5日
5	専	教授	キクチ コウキ 菊池 耕生 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		未来ロボティクス総合セミナー※ ロボット設計製作論実習3 流体力学 ロボット設計製作論実習4 ロボット設計製作論実習5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	1前 2後 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通	0.2 2 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成13年4月)	5日
6	専	教授	ハヤシバラ ヤスオ 林原 靖男 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		初年次教育 未来ロボティクス総合セミナー※ ロボット電子回路 ロボット設計製作論実習1 ロボティクスチャレンジ 組込み用コンピュータ実装論 ロボット設計製作論実習4 ロボット設計製作論実習5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	1前 1前 1後 1後 1休 3前 3前 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通	0.1 4 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成18年4月)	5日
7	専	教授	ヨネダ カン 米田 完 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		未来ロボティクス総合セミナー※ ロボット機構学 ロボット設計製作論実習3 ロボット設計製作論実習4 ロボット設計製作論実習5 ロボット制御学 ロボット構造力学 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	1前 1前 2後 3前 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通	0.2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成18年4月)	5日
8	専	准教授	アオキ タケン 青木 岳史 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		未来ロボティクス総合セミナー※ ロボット体験実習 ロボティクスチャレンジ アクチュエータ工学 CAD/CAM/CAE ロボット設計製作論実習4 ロボット設計製作論実習5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	1前 1前 1休 3後 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通	0.2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成22年4月)	5日

9	専	准教授	フジエ シンヤ 藤江 真也 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	未来ロボティクス総合セミナー※ ロボット体験実習 プログラミング基礎 情報処理 ロボティクスチャレンジ ロボット設計製作論実習 4 ロボット設計製作論実習 5 ロボットシステム学 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	1前 1前 1前 1前 1休 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 4通	0.1 2 2 2 1 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成26年4月)	5日
10	専	准教授	ミナカタ ヒデアキ 南方 英明 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	未来ロボティクス総合セミナー※ 電気電子回路論 ロボット設計製作論実習 2 ロボット設計製作論実習 4 ロボット設計製作論実習 5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	1前 2前 2前 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通	0.1 4 2 2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成9年4月)	5日
11	兼任	教授	アイカワ フミヒロ 相川 文弘 ＜平成28年4月＞	理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和62年4月)	
12	兼任	教授	アカザワ モトム 赤澤 元務 ＜平成28年4月＞	修士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2 国際社会論	1前・後, 2前 1前・後, 2前 3前・後, 4前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和55年4月)	
13	兼任	教授	イコタ オサム 伊古田 理 ＜平成28年4月＞	文学 修士	倫理学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 4 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平12年4月)	
14	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成28年4月＞	修士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成30年4月＞	修士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
15	兼任	教授	オチ トシユキ 越智 敏之 ＜平成28年4月＞	文学 修士	センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 英語コンプリヘンション C 1 英語コンプリヘンション C 2 アドバンスト・コミュニケーション B 1 アドバンスト・コミュニケーション B 2 アドバンスト・コンプリヘンション C 1 アドバンスト・コンプリヘンション C 2 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
16	兼任	教授	カサシマ ヨシオ 笠嶋 義夫 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	環境科学概論	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成15年4月)	
17	兼任	教授	カタモト ヒロ 鎌田 元弘 ＜平成28年4月＞	学術 博士	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成2年4月)	
18	兼任	教授	カワタ アキヒサ 河田 明久 ＜平成28年4月＞	修士 (文学) ※	歴史と人間 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 1前 2後 2後	8 4 4 4	4 4 2 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平21年4月)	
19	兼任	教授	クサノ シゲユキ 草野 滋之 ＜平成28年4月＞	文学 修士 ※	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 2後 2後	2 6 2	1 3 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成10年4月)	
20	兼任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一 ＜平成28年4月＞	修士 (法学) ※	憲法と社会 政治と社会 グローバル時代の法 課題探究セミナー 総合学際科目 総合科学特論 日本語表現法	1前・後, 2前 3前・後, 4前 3前・後, 4前 2後 2後 4前・後 1前	4 4 4 4 2 2 2 1	2 2 2 2 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
21	兼任	教授	シバヤ カズロウ 渋谷 和郎 ＜平成28年4月＞	Ph. D (英国)	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 アドバンスト・コミュニケーション A 1 アドバンスト・コミュニケーション A 2	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成24年4月)	
22	兼任	教授	ジョ ハルキ 徐 春暉 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	国際インターン	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 社会システム科学 部 教授 (平成14年9月)	
23	兼任	教授	スガワラ マサヒコ 菅原 昌彦 ＜平成28年4月＞	理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和56年4月)	
24	兼任	教授	スズキ ススム 鈴木 進 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	物理の世界と先端技術 ポランディア	3前・後, 4前 1・2・3・4	4 1	2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成 6 年4月)	
25	兼任	教授	タケウチ エミコ 竹内 栄美子 ＜平成28年4月＞	博士 (人文科学)	文学と芸術 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目 総合科学特論	1前・後, 2前 1前 2後 2後 4前・後	8 4 4 2 2	4 4 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平7年4月)	
26	兼任	教授	ツクシ イタル 筑紫 格 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
27	兼任	教授	トウジョウ コウジ 東條 晃次 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)	数学基礎 微分積分学	1前 1後	2 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
28	兼任	教授	トナミ ユウイチ 利波 雄一 ＜平成28年4月＞	修士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
29	兼任	教授	ハシモト シュウイチ 橋本 修一 ＜平成28年4月＞	文学 修士 ※	英語コミュニケーション A 1 英語コミュニケーション A 2 ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 英語コンプリヘンション A 1 英語コンプリヘンション A 2	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
30	兼任	教授	ハンザワ ヨウコ 半沢 洋子 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)	環境科学概論	1前・後, 2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	

31	兼任	教授	ムトウ タクミ 武藤 巧 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
32	兼任	教授	モリタ ヒラク 森田 啓 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前・後	14 2 4 2 6	7 1 2 1 3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成13年4月)	
33	兼任	教授	ヨダ トクコ 依田 十久子 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※	現代社会論	1前・後, 2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成元年4月)	
34	兼任	准教授	アイハラ ナオミ 相原 直美 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 英語コミュニケーション C 1 英語コミュニケーション C 2 アドバンスト・コンプリヘンション B 1 アドバンスト・コンプリヘンション B 2	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成13年4月)	
35	兼任	准教授	アライ ナホコ 有井 奈保子 ＜平成28年4月＞		文学 修士	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 英語コミュニケーション B 1 英語コミュニケーション B 2 アドバンスト・コンプリヘンション B 1 アドバンスト・コンプリヘンション B 2	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和59年4月)	
36	兼任	准教授	イシカワ コウイチロウ 石川 浩一郎 ＜平成28年4月＞		博士 (知識科 学)	情報処理	1前・後	16	8	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
37	兼任	准教授	イトウ ツヨシ 伊藤 剛司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	数学基礎 微分積分学	1前 1後	2 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
38	兼任	准教授	キヤマ タカシ 木山 隆 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
39	兼任	准教授	コガ ユウシ 古賀 毅 ＜平成28年4月＞		博士 (教育 学)	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成25年4月)	
40	兼任	准教授	コバヤシ マナブ 小林 学 ＜平成28年4月＞		博士 (学術)	科学技術史 課題探究セミナー 総合学際科目 総合科学特論 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 4前・後 1前	12 6 2 2 1	6 3 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
41	兼任	准教授	スドウ イサオ 須藤 勲 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解 国際社会論 課題探究セミナー	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前 3前・後, 4前 2後	10 10 2 2 2	5 5 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
42	兼任	准教授	タニアイ テツユキ 谷合 哲行 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物質科学	3前・後, 4前	8	4	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	
43	兼任	准教授	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成28年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
	兼任	講師	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成29年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
44	兼任	准教授	ハタ セイノスケ 畑 誠之助 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※	スポーツ科学 スポーツアクティブラーニング	1前・後 3前・後, 4前・後	26 2	13 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和62年4月)	
45	兼任	准教授	ハマノ シホ 浜野 志保 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 英語コンプリヘンション A 1 英語コンプリヘンション A 2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
46	兼任	准教授	ヒガシヤマ コウジ 東山 幸司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
47	兼任	准教授	ヒキハラ ユウキ 引原 有輝 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング 総合科学特論	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前・後 4前・後	12 2 4 2 8 2	6 1 2 1 4 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
48	兼任	助教	フクシマ ショウコ 福岡 尚子 ＜平成28年4月＞		修士 (教育 学) ※	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成27年4月)	
49	兼任	准教授	ミナミサワ マユミ 南澤 鷹優寛 (南澤 真弓) ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物質科学 環境科学概論	3前・後, 4前 1前・後, 2前	4 6	2 3	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
50	兼任	准教授	ミムラ タカオ 三村 尚央 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 英語コンプリヘンション C 1 英語コンプリヘンション C 2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
51	兼任	准教授	ヤマウチ マサキ 山内 政樹 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 アドバンスト・コンプリヘンション B 1 アドバンスト・コンプリヘンション B 2 アドバンスト・コミュニケーション A 1 アドバンスト・コミュニケーション A 2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 2前 2後 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
52	兼任	准教授	ヨシダ アキラ 吉田 聡 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	哲学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 4 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成22年4月)	
53	兼任	准教授	リョウ イショウ 廖 伊庄 ＜平成28年4月＞		学士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成2年4月)	
54	兼任	准教授	ワカバヤシ ヒトシ 若林 斉 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング 総合科学特論	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前・後 4前・後	14 2 4 2 6 2	7 1 2 1 3 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	

55	兼任	准教授	ワタナベ ツトム 渡邊 努 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物理学基礎	1後	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
56	兼任	助教	イチカワ ヨウコ 市川 洋子 ＜平成28年4月＞		修士 (心理学) ※	心理学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 2後 2後	4 4 2	2 2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成17年4月)	
57	兼任	助教	ウィリアム・フィッシャー William Fisher ＜平成28年4月＞		M. S. Ed.	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コミュニケーションC 1 アドバンスト・コミュニケーションC 2 イングリッシュアクティブラーニング 1 イングリッシュアクティブラーニング 2 イングリッシュアクティブラーニング 3	1前 1後 2前 2後 3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成7年4月)	
58	兼任	助教	カー・リチャード・ジョンソン Kirk Richard Jonson ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コミュニケーションC 1 アドバンスト・コミュニケーションC 2 イングリッシュアクティブラーニング 1 イングリッシュアクティブラーニング 2 イングリッシュアクティブラーニング 3	1前 1後 2前 2後 3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成23年4月)	
59	兼任	助教	カクバリ ケンイチ 角張 健一 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※	情報処理	1前・後	16	8	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成8年4月)	
60	兼任	助教	カナダ コウイチ 金田 晃一 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前・後	14 2 4 2 8	7 1 2 1 4	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	
61	兼任	助教	グンジ ケイイチ 軍司 圭一 ＜平成28年4月＞		博士 (数理科学)	線形代数学	1後	2	1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成21年4月)	
62	兼任	助教	ヤスタケ ノブシ 安武 伸俊 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
63	兼任	助教	ヤマシタ モトイ 山下 基 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理学基礎	1後	2	1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
64	兼任	講師	アイハラ ヨシユキ 相原 佳之 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	歴史と人間	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
65	兼任	講師	アサノ ヨウスケ 浅野 洋介 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	電気電子回路論	2前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
66	兼任	講師	イズミ ミツヨ 泉 光世 ＜平成28年4月＞		Ph. D (米国)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
67	兼任	講師	イチカワ イサオ 市川 功 ＜昭和61年4月＞		文学 修士	哲学 倫理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和61年4月)	
68	兼任	講師	イマイ タク 今井 拓 ＜平成28年4月＞		博士 (保健福祉学)	経済学 現代社会論	3前・後, 4前 1前・後, 2前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
69	兼任	講師	イマゼキ アン 今関 アン ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
70	兼任	講師	ウエダ ヒロヨシ 植田 浩義 ＜平成28年4月＞		理学博士	科学技術開発マネジメント	3前	2	1	横浜工科大学 代表取締役 (平成7年10月)	
71	兼任	講師	ウヰムラ ヨシロウ 上村 芳郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	哲学 倫理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
72	兼任	講師	ウザワ ユカ 鵜澤 由香 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
73	兼任	講師	オオガ タカシ 大郷 崇 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)	経済学	3前・後, 4前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
74	兼任	講師	オオガキ クミコ 大柿 久美子 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物質科学	3前・後, 4前	4	2	東京工業大学大学院 総合理工学研究科 教務職員 (昭和59年4月)	
75	兼任	講師	オオサガ ヒサコ 大須 賀寿子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
76	兼任	講師	オオサミ ユリコ 大住 有里子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コミュニケーションA 1 アドバンスト・コミュニケーションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
77	兼任	講師	オオタ コウイチ 太田 浩一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年9月)	
78	兼任	講師	オダイ カツヒコ 小田井 勝彦 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成19年4月)	
79	兼任	講師	オノ シュンタロウ 小野 俊太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
80	兼任	講師	オノダ マコト 小野田 眞 ＜平成28年4月＞		薬学 博士	生命科学	3前・後, 4前	8	4	(独)放射線医学総合研究所 専門業務員 (平成24年4月)	
81	兼任	講師	オバタ ヒロコ 小幡 裕子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
82	兼任	講師	カネコ ヤスヒロ 兼子 宏弘 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
83	兼任	講師	カメオカ コウイチ 亀岡 浩一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
84	兼任	講師	カンザキ モモヨ 神崎 百世 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
85	兼任	講師	ゴ アケミ 呉 明美 ＜平成28年4月＞		芸術学 修士	文学と芸術	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (昭和62年4月)	
86	兼任	講師	サカイ リュウタロウ 坂井 竜太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	

87	兼任	講師	ササノ エウスケ 笹野 祐輔 ＜平成31年4月＞		博士 (理学)	基礎統計学	4前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
88	兼任	講師	シモダ アツコ 霜田 敦子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
89	兼任	講師	スガワラ アキラ 菅原 昭 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)	経済学 国際社会論	3前・後, 4前 3前・後, 4前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
90	兼任	講師	スガワラ タカコ 菅原 多嘉子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年9月)	
91	兼任	講師	スズキ ユミ 鈴木 由美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
92	兼任	講師	センダ リョウコ 仙田 量子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	8	4	海洋研究開発機構 技術研究副主任 (平成17年12月)	
93	兼任	講師	タケタ ケンスケ 滝田 謙介 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	ロボットインターフェイス設計論	3後	2	1	日本工業大学 創造シフト工学科 准教授 (平成23年4月)	
94	兼任	講師	タザワ キョウコ 田沢 恭子 ＜平成28年4月＞		修士 (人文学)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成9年4月)	
95	兼任	講師	タテヤ コウイチ 堅谷 宏一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
96	兼任	講師	ツカダ ヒデヒロ 塚田 英博 ＜平成28年4月＞		文学 修士 (英文学) ※	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
97	兼任	講師	ツチヤ タカキ 土屋 拓也 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	線形代数学	1後	2	1	早稲田大学 理工学術院 数学科 助教 (平成25年4月)	
98	兼任	講師	トウダ コウキ 徳田 皇毅 ＜平成28年4月＞		文学士	コミュニケーション論	3後	2	1	公益財団法人 日本工業英語協会 (平成18年5月)	
99	兼任	講師	ナカザワ サトシ 中澤 聡 ＜平成28年4月＞		修士 (学術) ※	科学技術史	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
100	兼任	講師	ナガタ ヨシフミ 永田 喜文 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
101	兼任	講師	ナカムラ ミツル 中村 充 ＜平成28年4月＞		医学 博士	スポーツ科学	1前・後	12	6	順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成18年1月)	
102	兼任	講師	ナガモト ヨシヒロ 永本 義弘 ＜平成28年4月＞		国際学 修士	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成21年4月)	
103	兼任	講師	ニシカワ アツシ 西川 篤志 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※	電磁気学	3後	2	1	千葉経済大学 短期大学 教授 (昭和63年4月)	
104	兼任	講師	ニシモト ヤスマサ 西元 康雅 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	文学と芸術 日本語表現法	1前・後, 2前 1前	4 6	2 6	千葉工業大学 兼任助講師 (平成23年4月)	
105	兼任	講師	ノマ カヨコ 野間 香寿子 ＜平成28年4月＞		社会学 修士	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
106	兼任	講師	ハンバハ ナオヒコ 樺場 直彦 ＜平成28年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	12	6	東京聖栄大学 健康栄養学部 准教授 (平成17年4月)	
107	兼任	講師	ハマダ ナオミチ 浜田 直道 ＜平成28年4月＞		工学士	情報処理	1前・後	12	6	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
108	兼任	講師	ヒラノ シンスケ 平野 信輔 ＜平成28年4月＞		文学士	科学技術基礎英語	3前	2	1	公益財団法人 日本工業英語協会 (平成14年4月)	
109	兼任	講師	ヒロセ ノブヨシ 廣瀬 伸良 ＜平成28年4月＞		医学 博士	スポーツ科学 身体と健康の科学	1前・後 1前・後, 2前	4 8	2 4	順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成13年12月)	
110	兼任	講師	ヒロベ トモヒサ 廣部 知久 ＜平成28年4月＞		理学 博士	生命科学	3前・後, 4前	8	4	(独)放射線医学総合研究所シニアリサーチャー (平成23年4月)	
111	兼任	講師	フジカワ タロウ 藤川 太郎 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	ロボット体験実習	1前	2	1	東京電気大学 未来ロボット・ロボティクス学科 助教 (平成24年10月)	
112	兼任	講師	マキノ ユウコ 牧野 裕子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文学)	センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
113	兼任	講師	マチダ ジュンコ 町田 純子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
114	兼任	講師	マツムラ ヒナコ 松村 比奈子 ＜平成28年4月＞		博士 (法学)	憲法と社会 政治と社会 グローバル時代の法	1前・後, 2前 3前・後, 4前 3前・後, 4前	4 8 4	2 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
115	兼任	講師	ミヤギシ アキノブ 宮越 昭暢 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	8	4	産業技術総合研究所 主任研究員 (平成16年4月)	
116	兼任	講師	ムラカミ (イハ) ヨウコ 村上 (伊波) 陽子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	文学と芸術 日本語表現法	1前・後, 2前 1前	4 2	2 2	千葉工業大学 兼任助講師 (平成27年4月)	
117	兼任	講師	モリタ ユミコ 森田 由美子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションC 1 アドバンスト・コミュニケーションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成13年4月)	
118	兼任	講師	ヤギ モナコ 八木 茂那子 ＜平成28年4月＞		文学 修士	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)	
119	兼任	講師	ヤスダ ナオミ 安田 直己 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10	5 5	千葉工業大学 兼任講師 (昭和54年4月)	

120	兼任	講師	ヤマダ シンヤ 山田 慎也 ＜平成28年4月＞		博士 (社会学)		異文化理解	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成15年4月)	
121	兼任	講師	ヤマト ユミ 大和 恵美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※		ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
122	兼任	講師	ヨコサカ ケンジ 横坂 健治 ＜平成28年4月＞		法学 修士 ※		憲法と社会 グローバル時代の法	1前・後, 2前 3前・後, 4前	8 12	4 6	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年9月)	
123	兼任	講師	ワタナベ カズナガ 渡邊 一永 ＜平成28年4月＞		修士 (工学)		機械製図	1前	1	1	大亜真空株式会社 技術部 (平成19年4月)	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

教 員 の 氏 名 等													
(先進工学部 未来ロボティクス学科)													
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職 務 に 従 事 する 週 当 たり 平 均 日 数
1	専	教授	オウ シトウ 王 志東 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		ロボットビジョン ロボット設計製作論実習 4 ロボット設計製作論実習 5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通		2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成18年4月)	5日
2	専	教授	オオカワ シゲキ 大川 茂樹 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		数値解析学 2 認知工学 ロボット設計製作論実習 4 ロボット設計製作論実習 5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	3前 3前 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通		2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成10年4月)	5日
3	専	教授	オオクボ ヒロキ 大久保 宏樹 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		メカニクス 2 認知科学 ロボット設計製作論実習 4 ロボット設計製作論実習 5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	3前 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通		2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成18年10月)	5日
4	専	教授	オオタ ユウスケ 太田 祐介 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		キャリアデザイン 3 国内インターン CAD/CAM/CAE ロボット設計製作論実習 4 ロボット設計製作論実習 5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	3前 1・2・3・4 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通	1 1	1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成20年4月)	5日	
5	専	教授	キクチ コウキ 菊池 耕生 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		流体力学 ロボット設計製作論実習 4 ロボット設計製作論実習 5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通		2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成13年4月)	5日
6	専	教授	ハヤシバラ ヤスオ 林原 靖男 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		組込み用コンピュータ実装論 ロボット設計製作論実習 4 ロボット設計製作論実習 5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	3前 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通		2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成18年4月)	5日
7	専	教授	ヨネダ カン 米田 完 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		ロボット設計製作論実習 4 ロボット設計製作論実習 5 ロボット制御学 ロボット構造力学 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	3前 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通		2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成18年4月)	5日
8	専	准教授	アオキ タケシ 青木 岳史 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		アクチュエータ工学 CAD/CAM/CAE ロボット設計製作論実習 4 ロボット設計製作論実習 5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	3後 3後 3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通		2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成22年4月)	5日

9	専	准教授	フジエ シンヤ 藤江 真也 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	ロボット設計製作論実習 4 ロボット設計製作論実習 5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成26年4月)	5日
10	専	准教授	ミナカタ ヒデアキ 南方 英明 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	ロボット設計製作論実習 4 ロボット設計製作論実習 5 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 ゼミナール4 卒業研究	3前 3後 3前 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成9年4月)	5日
11	兼任	教授	アイカワ フミヒロ 相川 文弘 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和62年4月)	
12	兼任	教授	アカザワ モトム 赤澤 元務 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	国際社会論	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和55年4月)	
13	兼任	教授	イコタ オサム 伊古田 理 ＜平成28年4月＞		文学 修士					千葉工業大学 教育センター 教授 (平12年4月)	
14	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成30年4月＞		修士 (文学)					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
15	兼任	教授	オチ トシユキ 越智 敏之 ＜平成28年4月＞		文学 修士					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
16	兼任	教授	カサシマ ヨシオ 笠嶋 義夫 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成15年4月)	
17	兼任	教授	カマタ モトヒロ 鎌田 元弘 ＜平成28年4月＞		学術 博士	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成2年4月)	
18	兼任	教授	カワタ アキヒサ 河田 明久 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※					千葉工業大学 教育センター 教授 (平21年4月)	
19	兼任	教授	クサノ シゲユキ 草野 滋之 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成10年4月)	
20	兼任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一 ＜平成28年4月＞		修士 (法学) ※	政治と社会 グローバル時代の法	3前・後, 4前 3前・後, 4前	4 4	2 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
						総合科学特論	4前・後	2	1		
21	兼任	教授	シバヤ カズロウ 渋谷 和郎 ＜平成28年4月＞		Ph. D (英国)					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成24年4月)	
22	兼任	教授	ジョー ハルキ 徐 春曜 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	国際インターン	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 社会システム科学 部 教授 (平成14年9月)	
23	兼任	教授	スガワラ マサヒコ 菅原 昌彦 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和56年4月)	
24	兼任	教授	スズキ ススム 鈴木 進 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物理の世界と先端技術 ボランティア	3前・後, 4前 1・2・3・4	4 1	2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成6年4月)	
25	兼任	教授	タケウチ エミコ 竹内 栄美子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文科学)					千葉工業大学 教育センター 教授 (平7年4月)	
26	兼任	教授	ツクシ イタル 筑紫 格 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
27	兼任	教授	トウジョウ コウジ 東條 晃次 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
28	兼任	教授	トナミ ユウイチ 利波 雄一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
29	兼任	教授	ハシモト シュウイチ 橋本 修一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
30	兼任	教授	ハンザワ ヨウコ 半沢 洋子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
31	兼任	教授	ムトウ タクミ 武藤 巧 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
32	兼任	教授	モリタ ヒラク 森田 啓 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成13年4月)	
33	兼任	教授	ヨダ トクコ 依田 十久子 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※	スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成元年4月)	

34	兼任	准教授	アイハラ ナオミ 相原 直美 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成13年4月)	
35	兼任	准教授	アリイ ナホコ 有井 奈保子 ＜平成28年4月＞		文学 修士								千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和59年4月)	
36	兼任	准教授	イシカワ コウイチロウ 石川 浩一郎 ＜平成28年4月＞		博士 (知識科 学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
37	兼任	准教授	イトウ ツヨシ 伊藤 剛司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
38	兼任	准教授	キヤマ タカシ 木山 隆 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1				千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
39	兼任	准教授	コガ ツヨシ 古賀 毅 ＜平成28年4月＞		博士 (教育 学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成25年4月)	
40	兼任	准教授	コバヤシ マナブ 小林 学 ＜平成28年4月＞		博士 (学術)	総合科学特論	4前・後	2	1				千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
41	兼任	准教授	スドウ イサオ 須藤 勲 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	国際社会論	3前・後, 4前	2	1				千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
42	兼任	准教授	タニアイ テツユキ 谷合 哲行 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物質科学	3前・後, 4前	8	4				千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	
43	兼任	准教授	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成28年4月＞		体育学 修士								千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
	兼任	講師	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成29年4月＞		体育学 修士								千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
44	兼任	准教授	ハタ セイノスケ 畑 誠之助 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※	スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後	2	1				千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和62年4月)	
45	兼任	准教授	ハマノ シホ 浜野 志保 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
46	兼任	准教授	ヒガシヤマ コウジ 東山 幸司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1				千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
47	兼任	准教授	ヒキハラ ユウキ 引原 有輝 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)	スポーツアクティブラーニング 総合科学特論	3前・後, 4前・後 4前・後	8 2	4 1				千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
48	兼任	助教	フクシマ ショウコ 福島 尚子 ＜平成28年4月＞		修士 (教育 学) ※								千葉工業大学 教育センター 助教 (平成27年4月)	
49	兼任	准教授	ミナミサワ マユミ 南澤 鷹優寛 (南澤 真弓) ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物質科学	3前・後, 4前	4	2				千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
50	兼任	准教授	ミムラ タカオ 三村 尚央 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
51	兼任	准教授	ヤマウチ マサキ 山内 政樹 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
52	兼任	准教授	ヨシダ アキラ 吉田 聡 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成22年4月)	
53	兼任	准教授	リョウ イショウ 廖 伊庄 ＜平成28年4月＞		学士 (文学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成2年4月)	
54	兼任	准教授	ワカバヤシ ヒトシ 若林 斉 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)	スポーツアクティブラーニング 総合科学特論	3前・後, 4前・後 4前・後	6 2	3 1				千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
55	兼任	准教授	ワタナベ ツトム 渡邊 努 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
56	兼任	助教	イチカワ ヨウコ 市川 洋子 ＜平成28年4月＞		修士 (心理 学) ※								千葉工業大学 教育センター 助教 (平成17年4月)	
57	兼任	助教	ウィリアム・フィッシャー William Fisher ＜平成28年4月＞		M. S. Ed.	イングリッシュアクティブラーニング 1 イングリッシュアクティブラーニング 2 イングリッシュアクティブラーニング 3	3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1	1 1 1				千葉工業大学 教育センター 助教 (平成7年4月)	
58	兼任	助教	カー・リチャード・ジョンソン Kirk Richard Jonson ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	イングリッシュアクティブラーニング 1 イングリッシュアクティブラーニング 2 イングリッシュアクティブラーニング 3	3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1	1 1 1				千葉工業大学 教育センター 助教 (平成23年4月)	
59	兼任	助教	カクバリ ケンイチ 角張 健一 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※								千葉工業大学 教育センター 助教 (平成8年4月)	
60	兼任	助教	カネダ コウイチ 金田 晃一 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)	スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後	8	4				千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	

61	兼任	助教	グンジ ケイイチ 軍司 圭一 ＜平成28年4月＞		博士 (数理学)						千葉工業大学 教育センター 助教 (平成21年4月)	
62	兼任	助教	ヤスタケ ノブトシ 安武 伸俊 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1		千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
63	兼任	助教	ヤマシタ モトイ 山下 基 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
64	兼任	講師	アイハラ ヨシユキ 相原 佳之 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
65	兼任	講師	アサノ ヨウスケ 浅野 洋介 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
66	兼任	講師	イズミ ミツヨ 泉 光世 ＜平成28年4月＞		Ph. D (米国)						千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
67	兼任	講師	イチカワ イサオ 市川 功 ＜昭和28年4月＞		文学 修士						千葉工業大学 兼任講師 (昭和61年4月)	
68	兼任	講師	イマイ タク 今井 拓 ＜平成28年4月＞		博士 (保健福祉学)	経済学	3前・後, 4前	8	4		千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
69	兼任	講師	イマゼキ アン 今関 アン ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成2年4月)	
70	兼任	講師	ウエダ ヒロヨシ 植田 浩義 ＜平成28年4月＞		理学博 士	科学技術開発マネジメント	3前	2	1		㈱ヒューマンリソース 代表取締役 (平成7年10月)	
71	兼任	講師	ウヰムラ ヨシロウ 上村 芳郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
72	兼任	講師	ウサワ ユカ 鶴澤 由香 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	4	2		千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
73	兼任	講師	オオガ タカン 大鷲 崇 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)	経済学	3前・後, 4前	8	4		千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
74	兼任	講師	オオガキ クミコ 大柿 久美子 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物質科学	3前・後, 4前	4	2		東京工業大学大学院 総合理工学研 究科 教務職員 (昭和59年4月)	
75	兼任	講師	オオサガ ヒサコ 大須 賀寿子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
76	兼任	講師	オオスミ ユリコ 大住 有里子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
77	兼任	講師	オオタ コウイチ 太田 浩一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成7年9月)	
78	兼任	講師	オダイ カツヒロコ 小田井 勝彦 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成19年4月)	
79	兼任	講師	オノ シュンタロウ 小野 俊太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
80	兼任	講師	オノダ マコト 小野田 眞 ＜平成28年4月＞		薬学 博士	生命科学	3前・後, 4前	8	4		(独)放射線医学総合 研究所 専門業務員 (平成24年4月)	
81	兼任	講師	オバタ ヒロコ 小幡 裕子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
82	兼任	講師	カネコ ヤスヒロ 兼子 安弘 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
83	兼任	講師	カメオカ コウイチ 亀岡 浩一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
84	兼任	講師	カンザキ モモヨ 神崎 百世 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)						千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
85	兼任	講師	ゴ アケミ 呉 明美 ＜平成28年4月＞		芸術学 修士						千葉工業大学 兼任講師 (昭和62年4月)	
86	兼任	講師	サカイ リュウタロウ 坂井 竜太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	
87	兼任	講師	ササノ ユウスケ 笹野 祐輔 ＜平成31年4月＞		博士 (理学)	基礎統計学	4前	2	1		千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
88	兼任	講師	シモダ アツコ 霜田 敦子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
89	兼任	講師	スガワラ アキラ 菅原 昭 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)	経済学 国際社会論	3前・後, 4前 3前・後, 4前	8 8	4 4		千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
90	兼任	講師	スガワラ タカコ 菅原 多嘉子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)						千葉工業大学 兼任講師 (平成25年9月)	
91	兼任	講師	スズキ ユミ 鈴木 由美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
92	兼任	講師	センダ リョウコ 仙田 量子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	8	4		海洋研究開発機構 技術研究副主任 (平成17年12月)	
93	兼任	講師	タキタ ケンスケ 滝田 謙介 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	ロボットインターフェイス設計論	3後	2	1		日本工業大学 創造/IFM工学科 准教授 (平成23年4月)	
94	兼任	講師	タザワ キョウコ 田沢 恭子 ＜平成28年4月＞		修士 (人文科学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成9年4月)	
95	兼任	講師	タテヤ コウイチ 堅谷 宏一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
96	兼任	講師	ツカダ ヒデヒロ 塚田 英博 ＜平成28年4月＞		文学 修士 (英文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
97	兼任	講師	ツチヤ タカヤ 土屋 拓也 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						早稲田大学 理工学術院 数学科 助教 (平成25年4月)	

98	兼任	講師	トクダ コウキ 徳田 皇毅 ＜平成28年4月＞		文学士	コミュニケーション論	3後	2	1	公益財団法人 日本工業英語協会 (平成18年5月)	
99	兼任	講師	ナカザワ サトシ 中澤 聡 ＜平成28年4月＞		修士 (学術) ※					千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
100	兼任	講師	ナガタ ヨシフミ 永田 喜文 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※					千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
101	兼任	講師	ナカムラ ミツル 中村 充 ＜平成28年4月＞		医学 博士					順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成18年1月)	
102	兼任	講師	ナガモト ヨシヒロ 永本 義弘 ＜平成28年4月＞		国際学 修士					千葉工業大学 兼任講師 (平成21年4月)	
103	兼任	講師	ニシカワ アツシ 西川 篤志 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※	電磁気学	3後	2	1	千葉経済大学 短期大学部 教授 (昭和63年4月)	
104	兼任	講師	ニシモト ヤスマサ 西元 康雅 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)					千葉工業大学 兼任助講師 (平成23年4月)	
105	兼任	講師	ノマ カヨコ 野間 香与子 ＜平成28年4月＞		社会学 修士					千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
106	兼任	講師	ハンバ ナオヒコ 橋場 直彦 ＜平成28年4月＞		体育学 修士					東京聖栄大学 健康栄養学部 准教授 (平成17年4月)	
107	兼任	講師	ハマダ ナオミチ 浜田 直道 ＜平成28年4月＞		工学士					千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
108	兼任	講師	ヒラノ シンスケ 平野 信輔 ＜平成28年4月＞		文学士	科学技術基礎英語	3前	2	1	公益財団法人 日本工業英語協会 (平成14年4月)	
109	兼任	講師	ヒロセ ノブヨシ 廣瀬 伸良 ＜平成28年4月＞		医学 博士					順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成13年12月)	
110	兼任	講師	ヒロベ トモヒサ 廣部 知久 ＜平成28年4月＞		理学 博士	生命科学	3前・後, 4前	8	4	(独)放射線医学総合 研究所シニア リサーチヤー (平成23年4月)	
111	兼任	講師	フジカワ タロウ 藤川 太郎 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)					東京電気大学 未来ロボット・ロボ クス学科 助教 (平成24年10月)	
112	兼任	講師	マキノ ユウコ 牧野 裕子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文 学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
113	兼任	講師	マチダ ジュンコ 町田 純子 ＜平成28年4月＞		M.A. (米国)					千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
114	兼任	講師	マツムラ ヒナコ 松村 比奈子 ＜平成28年4月＞		博士 (法学)	政治と社会 グローバル時代の法	3前・後, 4前 3前・後, 4前	8 4	4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
115	兼任	講師	ミヤゴシ アキノブ 宮越 昭暢 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	8	4	産業技術総合研究 所 主任研究員 (平成16年4月)	
116	兼任	講師	ムラカミ (イハ) ヨウコ 村上 (伊波) 陽子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)					千葉工業大学 兼任助講師 (平成27年4月)	
117	兼任	講師	モリタ ユミコ 森田 由美子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※					千葉工業大学 兼任講師 (平成13年4月)	
118	兼任	講師	ヤギ モナコ 八木 茂那子 ＜平成28年4月＞		文学 修士					千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)	
119	兼任	講師	ヤスダ ナオミ 安田 直己 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)					千葉工業大学 兼任講師 (昭和54年4月)	
120	兼任	講師	ヤマダ シンヤ 山田 慎也 ＜平成28年4月＞		博士 (社会 学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成15年4月)	
121	兼任	講師	ヤマト ユミ 大和 恵美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※					千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
122	兼任	講師	ヨコサカ ケンジ 横坂 健治 ＜平成28年4月＞		法学 修士 ※	グローバル時代の法	3前・後, 4前	12	6	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年9月)	
123	兼任	講師	ワタナベ カズナガ 渡邊 一永 ＜平成28年4月＞		修士 (工学)					大亜真空株式会社 技術部 (平成19年4月)	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

教 員 の 氏 名 等													新習志野キャンパス
(先進工学部 未来ロボティクス学科)													
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する 週当たり平均日数
1	専	教授	オウ シトウ 王 志東 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		未来ロボティクス総合セミナー※ ロボット設計製作論実習 1 ロボットプログラミング センサ工学	1前 1後 1後 2後		0.2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成18年4月)	5日
2	専	教授	オオカワ シングキ 大川 茂樹 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		未来ロボティクス総合セミナー※ 信号処理論 数値解析学 1	1前 2後 2後		0.1 2 2	1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成10年4月)	5日
3	専	教授	オオクボ ヒロキ 大久保 宏樹 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		未来ロボティクス総合セミナー※ メカニクス 1	1前 2前		0.1 4	1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成18年10月)	5日
4	専	教授	オオタ ヌウスケ 太田 祐介 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		キャリアデザイン 1 キャリアデザイン 2 国内インターン 未来ロボティクス総合セミナー※ ロボット設計製作論実習 2 制御工学 ロボットマニピュレータ	1前 1後 1・2・3・4 1前 2前 2前 2後		1 1 1 0.2 2 4 2	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成20年4月)	5日
5	専	教授	キクチ コウキ 菊池 耕生 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		未来ロボティクス総合セミナー※ ロボット設計製作論実習 3	1前 2後		0.2 2	1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成13年4月)	5日
6	専	教授	ハヤシバラ ヤスオ 林原 靖男 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		初年次教育 未来ロボティクス総合セミナー※ ロボット電子回路 ロボット設計製作論実習 1 ロボティクスチャレンジ	1前 1前 1後 1後 1休		1 0.1 4 2 1	1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成18年4月)	5日
7	専	教授	ヨネダ カン 米田 完 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		未来ロボティクス総合セミナー※ ロボット機構学 ロボット設計製作論実習3	1前 1前 2後		0.2 2 2	1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成18年4月)	5日
8	専	准教授	アオキ タケシ 青木 岳史 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		未来ロボティクス総合セミナー※ ロボット体験実習 ロボティクスチャレンジ	1前 1前 1休		0.2 2 1	1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成22年4月)	5日

9	専	准教授	フジエ シンヤ 藤江 真也 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)		未来ロボティクス総合セミナー※ ロボット体験実習 プログラミング基礎 情報処理 ロボティクスチャレンジ	1前 1前 1前 1前 1休	0.1 2 2 2 1	1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成26年4月)	5日
10	専	准教授	ミナカタ ヒデアキ 南方 英明 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)		未来ロボティクス総合セミナー※ 電気電子回路論 ロボット設計製作論実習 2	1前 2前 2前	0.1 4 2	1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成9年4月)	5日
11	兼任	教授	アイカワ フミヒロ 相川 文弘 ＜平成28年4月＞	理学 博士						千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和62年4月)	
12	兼任	教授	アカザワ モトム 赤澤 元務 ＜平成28年4月＞	修士 (文学)		言語と文化1 言語と文化2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和55年4月)	
13	兼任	教授	イコタ オサム 伊古田 理 ＜平成28年4月＞	文学 修士		倫理学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 4 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平12年4月)	
14	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成28年4月＞	修士 (文学)		言語と文化1 言語と文化2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成30年4月＞	修士 (文学)		言語と文化1 言語と文化2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
15	兼任	教授	オチ トシユキ 越智 敏之 ＜平成28年4月＞	文学 修士		センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションC1 英語コンプリヘンションC2 アドバンスト・コミュニケーションB1 アドバンスト・コミュニケーションB2 アドバンスト・コンプリヘンションC1 アドバンスト・コンプリヘンションC2 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2前 2後 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
16	兼任	教授	カサシマ ヨシオ 笠嶋 義夫 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)		環境科学概論	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成15年4月)	
17	兼任	教授	カタモト 元弘 鎌田 元弘 ＜平成28年4月＞	学術 博士		ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成2年4月)	
18	兼任	教授	カワタ アキヒサ 河田 明久 ＜平成28年4月＞	修士 (文学) ※		歴史と人間 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 1前 2後 2後	8 4 4 4	4 4 2 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平21年4月)	
19	兼任	教授	クサノ シゲユキ 草野 滋之 ＜平成28年4月＞	文学 修士 ※		現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 2後 2後	2 6 2	1 3 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成10年4月)	
20	兼任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一 ＜平成28年4月＞	修士 (法学) ※		憲法と社会 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	4 4 2 1	2 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
21	兼任	教授	シバヤ カズロウ 渋谷 和郎 ＜平成28年4月＞	Ph. D (英国)		ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 アドバンスト・コミュニケーションA1 アドバンスト・コミュニケーションA2	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成24年4月)	
22	兼任	教授	ジョ ハルキ 徐 春暉 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)		国際インターン	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 社会システム科学 部 教授 (平成14年9月)	
23	兼任	教授	スガワラ マサヒコ 菅原 昌彦 ＜平成28年4月＞	理学 博士						千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和56年4月)	
24	兼任	教授	スズキ ススム 鈴木 進 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)		ボランティア	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成6年4月)	
25	兼任	教授	タケウチ エミコ 竹内 栄美子 ＜平成28年4月＞	博士 (人文科学)		文学と芸術 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 1前 2後 2後	8 4 4 2	4 4 2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平7年4月)	
26	兼任	教授	ツクシ イタル 筑紫 格 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
27	兼任	教授	トウジョウ コウジ 東條 晃次 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)		数学基礎 微分積分学	1前 1後	2 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
28	兼任	教授	トナミ ユウイチ 利波 雄一 ＜平成28年4月＞	修士 (文学)		言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
29	兼任	教授	ハシモト シュウイチ 橋本 修一 ＜平成28年4月＞	文学 修士 ※		英語コミュニケーションA1 英語コミュニケーションA2 ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションA1 英語コンプリヘンションA2	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
30	兼任	教授	ハンザワ ヨウコ 半沢 洋子 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)		環境科学概論	1前・後, 2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	

31	兼任	教授	ムトウ タクミ 武藤 巧 ＜平成28年4月＞		理学 博士						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
32	兼任	教授	モリタ ヒラク 森田 啓 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後、2前 2後 2後	14 2 4 2	7 1 2 1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成13年4月)	
33	兼任	教授	ヨダ トクコ 依田 十久子 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※	現代社会論	1前・後、2前	6	3		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成元年4月)	
34	兼任	准教授	アイハラ ナオミ 相原 直美 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 英語コミュニケーション C 1 英語コミュニケーション C 2 アドバンスト・コンプリヘンション B 1 アドバンスト・コンプリヘンション B 2	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成13年4月)	
35	兼任	准教授	アライ ナホコ 有井 奈保子 ＜平成28年4月＞		文学 修士	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 英語コミュニケーション B 1 英語コミュニケーション B 2 アドバンスト・コンプリヘンション B 1 アドバンスト・コンプリヘンション B 2	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和59年4月)	
36	兼任	准教授	イシカワ コウイチロウ 石川 浩一郎 ＜平成28年4月＞		博士 (知識科 学)	情報処理	1前・後	16	8		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
37	兼任	准教授	イトウ ツヨシ 伊藤 剛司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	数学基礎 微分積分学	1前 1後	2 2	1 1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
38	兼任	准教授	キヤマ タカシ 木山 隆 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
39	兼任	准教授	コガ ヨシシ 古賀 毅 ＜平成28年4月＞		博士 (教育 学)	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後、2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成25年4月)	
40	兼任	准教授	コバヤシ マナブ 小林 学 ＜平成28年4月＞		博士 (学術)	科学技術史 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後、2前 2後 2後 1前	12 6 2 1	6 3 1 1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
41	兼任	准教授	スドウ イサオ 須藤 勲 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解 課題探究セミナー	1前・後、2前 1前・後、2前 1前・後、2前 2後	10 10 2 2	5 5 1 1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
42	兼任	准教授	タニアイ テツユキ 谷合 哲行 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)						千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	
43	兼任	准教授	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成28年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10		千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
	兼任	講師	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成29年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10		千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
44	兼任	准教授	ハタ セイノスケ 畑 誠之助 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※	スポーツ科学	1前・後	26	13		千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和62年4月)	
45	兼任	准教授	ハマノ シホ 浜野 志保 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 英語コンプリヘンション A 1 英語コンプリヘンション A 2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
46	兼任	准教授	ヒガシヤマ コウジ 東山 幸司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
47	兼任	准教授	ヒキハラ ユウキ 引原 有輝 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後、2前 2後 2後	12 2 4 2	6 1 2 1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
48	兼任	助教	フクシマ ショウコ 福岡 尚子 ＜平成28年4月＞		修士 (教育 学) ※	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後、2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1		千葉工業大学 教育センター 助教 (平成27年4月)	
49	兼任	准教授	ミナミサワ マユミ 南澤 鷹優寛 (南澤 真弓) ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	環境科学概論	1前・後、2前	6	3		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
50	兼任	准教授	ミムラ タカオ 三村 尚央 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 英語コンプリヘンション C 1 英語コンプリヘンション C 2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
51	兼任	准教授	ヤマウチ マサキ 山内 政樹 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 アドバンスト・コンプリヘンション B 1 アドバンスト・コンプリヘンション B 2 アドバンスト・コミュニケーション A 1 アドバンスト・コミュニケーション A 2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 2前 2後 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
52	兼任	准教授	ヨシダ アキラ 吉田 聡 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	哲学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後、2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 4 1 1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成22年4月)	
53	兼任	准教授	リョウ イショウ 廖 伊庄 ＜平成28年4月＞		学士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解	1前・後、2前 1前・後、2前 1前・後、2前	10 10 4	5 5 2		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成2年4月)	
54	兼任	准教授	ワカバヤシ ヒトシ 若林 斉 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後、2前 2後 2後	14 2 4 2	7 1 2 1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	

55	兼任	准教授	ワタナベ ツトム 渡邊 努 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物理学基礎	1後	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
56	兼任	助教	イチカワ ヨウコ 市川 洋子 ＜平成28年4月＞		修士 (心理学) ※	心理学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 2後 2後	4 4 2	2 2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成17年4月)	
57	兼任	助教	ウィリアム・フィッシャー William Fisher ＜平成28年4月＞		M. S. Ed.	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コミュニケーションC 1 アドバンスト・コミュニケーションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成7年4月)	
58	兼任	助教	カー・リチャード・ジョンソン Kirk Richard Jonson ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コミュニケーションC 1 アドバンスト・コミュニケーションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成23年4月)	
59	兼任	助教	カクバリ ケンイチ 角張 健一 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※	情報処理	1前・後	16	8	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成8年4月)	
60	兼任	助教	カナダ コウイチ 金田 晃一 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後	14 2 4 2	7 1 2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	
61	兼任	助教	グンジ ケイイチ 軍司 圭一 ＜平成28年4月＞		博士 (数理科学)	線形代数学	1後	2	1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成21年4月)	
62	兼任	助教	ヤスタケ ノブシ 安武 伸俊 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
63	兼任	助教	ヤマシタ モトイ 山下 基 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理学基礎	1後	2	1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
64	兼任	講師	アイハラ ヨシユキ 相原 佳之 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	歴史と人間	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
65	兼任	講師	アサノ ヨウスケ 浅野 洋介 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	電気電子回路論	2前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
66	兼任	講師	イズミ ミツヨ 泉 光世 ＜平成28年4月＞		Ph. D (米国)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
67	兼任	講師	イチカワ イサオ 市川 功 ＜昭和61年4月＞		文学 修士	哲学 倫理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和61年4月)	
68	兼任	講師	イマイ タク 今井 拓 ＜平成28年4月＞		博士 (保健福祉学)	現代社会論	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
69	兼任	講師	イマゼキ アン 今関 アン ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)	
70	兼任	講師	ウエダ ヒロシ 植田 浩義 ＜平成28年4月＞		理学博士					鞠川・ラフ・フジノ 代表取締役 (平成7年10月)	
71	兼任	講師	ウヰムラ ヨシロウ 上村 芳郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	哲学 倫理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
72	兼任	講師	ウザワ ユカ 鵜澤 由香 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
73	兼任	講師	オオガ タカシ 大郷 崇 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
74	兼任	講師	オオガキ クミコ 大柿 久美子 ＜平成28年4月＞		理学 博士					東京工業大学大学院 総合理工学研究科 教務職員 (昭和59年4月)	
75	兼任	講師	オオサガ ヒサコ 大須 賀寿子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
76	兼任	講師	オオスミ ユリコ 大住 有里子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コミュニケーションA 1 アドバンスト・コミュニケーションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
77	兼任	講師	オオタ コウイチ 太田 浩一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年9月)	
78	兼任	講師	オダイ カツヒコ 小田井 勝彦 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成19年4月)	
79	兼任	講師	オノ シュンタロウ 小野 俊太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
80	兼任	講師	オノダ マコト 小野田 真 ＜平成28年4月＞		薬学 博士					(独)放射線医学総合研究所 専門業務員 (平成24年4月)	
81	兼任	講師	オバタ ヒロコ 小幡 裕子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
82	兼任	講師	カネコ ヤスヒロ 兼子 安弘 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
83	兼任	講師	カメオカ コウイチ 亀岡 浩一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
84	兼任	講師	カンザキ モモヨ 神崎 百世 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
85	兼任	講師	ゴ アケミ 呉 明美 ＜平成28年4月＞		芸術学 修士	文学と芸術	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (昭和62年4月)	
86	兼任	講師	サカイ リュウタロウ 坂井 竜太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	

87	兼任	講師	ササノ エウスケ 笹野 祐輔 ＜平成31年4月＞		博士 (理学)							千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
88	兼任	講師	シモダ アツコ 霜田 敦子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1			千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
89	兼任	講師	スガワラ アキラ 菅原 昭 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)							千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
90	兼任	講師	スガワラ タカコ 菅原 多嘉子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1			千葉工業大学 兼任講師 (平成25年9月)	
91	兼任	講師	スズキ ユミ 鈴木 由美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1			千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
92	兼任	講師	センダ リョウコ 仙田 量子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)							海洋研究開発機構 技術研究副主任 (平成17年12月)	
93	兼任	講師	タケタ ケンスケ 滝田 謙介 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)							日本工業大学 創造システム工学科 准教授 (平成23年4月)	
94	兼任	講師	タザワ キョウコ 田沢 恭子 ＜平成28年4月＞		修士 (人文学)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1			千葉工業大学 兼任講師 (平成9年4月)	
95	兼任	講師	タテヤ コウイチ 堅谷 宏一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1			千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
96	兼任	講師	ツカダ ヒデヒロ 塚田 英博 ＜平成28年4月＞		文学 修士 (英文学) ※	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1			千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
97	兼任	講師	ツチヤ タカキ 土屋 拓也 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	線形代数学	1後		2	1		早稲田大学 理工学術院 数学科 助教 (平成25年4月)	
98	兼任	講師	トウダ コウキ 徳田 皇毅 ＜平成28年4月＞		文学士							公益財団法人 日本工業英語協会 (平成18年5月)	
99	兼任	講師	ナカザワ サトシ 中澤 聡 ＜平成28年4月＞		修士 (学術) ※	科学技術史	1前・後, 2前		8	4		千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
100	兼任	講師	ナガタ ヨシフミ 永田 喜文 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1			千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
101	兼任	講師	ナカムラ ミツル 中村 充 ＜平成28年4月＞		医学 博士	スポーツ科学	1前・後		12	6		順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成18年1月)	
102	兼任	講師	ナガモト ヨシヒロ 永本 義弘 ＜平成28年4月＞		国際学 修士	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1			千葉工業大学 兼任講師 (平成21年4月)	
103	兼任	講師	ニシカワ アツシ 西川 篤志 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※							千葉経済大学 短期大学部 教授 (昭和63年4月)	
104	兼任	講師	ニシモト ヤスマサ 西元 康雅 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	文学と芸術 日本語表現法	1前・後, 2前 1前		4 6	2 6		千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
105	兼任	講師	ノマ カヨコ 野間 香寿子 ＜平成28年4月＞		社会学 修士	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1			千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
106	兼任	講師	ハンバ ナオヒコ 榎場 直彦 ＜平成28年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後		12	6		東京聖栄大学 健康栄養学部 准教授 (平成17年4月)	
107	兼任	講師	ハマダ ナオミチ 浜田 直道 ＜平成28年4月＞		工学士	情報処理	1前・後		12	6		千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
108	兼任	講師	ヒラノ シンスケ 平野 信輔 ＜平成28年4月＞		文学士							公益財団法人 日本工業英語協会 (平成14年4月)	
109	兼任	講師	ヒロセ ノブヨシ 廣瀬 伸良 ＜平成28年4月＞		医学 博士	スポーツ科学 身体と健康の科学	1前・後 1前・後, 2前		4 8	2 4		順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成13年12月)	
110	兼任	講師	ヒロベ トモヒサ 廣部 知久 ＜平成28年4月＞		理学 博士							(独)放射線医学総合 研究所シニア リサーチチャー (平成23年4月)	
111	兼任	講師	フジカワ タロウ 藤川 太郎 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	ロボット体験実習	1前		2	1		東京電気大学 未来ロボット・ロボ クス学科 助教 (平成24年10月)	
112	兼任	講師	マキノ ユウコ 牧野 裕子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文学)	センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1			千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
113	兼任	講師	マチダ ジュンコ 町田 純子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1			千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
114	兼任	講師	マツムラ ヒナコ 松村 比奈子 ＜平成28年4月＞		博士 (法学)	憲法と社会	1前・後, 2前		4	2		千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
115	兼任	講師	ミヤゴシ アキノブ 宮越 昭暢 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)							産業技術総合研究 所 主任研究員 (平成16年4月)	
116	兼任	講師	ムラカミ (イハ) ヨウコ 村上 (伊波) 陽子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	文学と芸術 日本語表現法	1前・後, 2前 1前		4 2	2 2		千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
117	兼任	講師	モリタ ユミコ 森田 由美子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションC 1 アドバンスト・コミュニケーションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1			千葉工業大学 兼任講師 (平成13年4月)	
118	兼任	講師	ヤギ モナコ 八木 茂那子 ＜平成28年4月＞		文学 修士	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1			千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)	
119	兼任	講師	ヤスダ ナオミ 安田 直己 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前		10 10	5 5		千葉工業大学 兼任講師 (昭和54年4月)	

120	兼任	講師	ヤマダ シンヤ 山田 慎也 ＜平成28年4月＞		博士 (社会学)		異文化理解	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成15年4月)	
121	兼任	講師	ヤマト ユミ 大和 恵美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※		ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
122	兼任	講師	ヨコサカ ケンジ 横坂 健治 ＜平成28年4月＞		法学 修士 ※		憲法と社会	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年9月)	
123	兼任	講師	ワタナベ カズナガ 渡邊 一永 ＜平成28年4月＞		修士 (工学)		機械製図	1前	1	1	大亜真空株式会社 技術部 (平成19年4月)	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

教 員 の 氏 名 等												
(先進工学部生命科学科等)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数
1	専	教授	イイノ マサアキ 飯野 正昭 ＜平成28年4月＞		理学 博士		生物物理学1 生命科学基礎演習※ 生命科学基礎実験1※ 生物物理学2 生体生理学※ 動物生理学2 生命科学応用実験※ 卒業研究準備実験 卒業研究	1前 1後 1前 2後 3前 3前 3前 3後 4通	2 0.1 0.4 2 1 2 0.8 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成10年4月)	5日
2	専	教授	カワイ ゴウタ 河合 剛太 ＜平成28年4月＞		理学 博士		分子生物学1 生命科学基礎演習※ ゲノム科学 構造生物学 生命科学基礎実験1※ 生命情報学 生命科学応用実験※ 医薬品生産技術 卒業研究準備実験 卒業研究	1前 1後 2前 2前 2前 3前 3前 3後 3後 4通	2 0.1 2 2 0.4 2 0.8 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成9年4月)	5日
3	専	教授	クロサキ ナオコ 黒崎 直子 ＜平成28年4月＞		博士 (医学)		生命科学基礎演習※ 生命科学基礎実験1※ ウイルス学 動物生理学1 公衆衛生学※ 生命科学応用実験※ 細胞遺伝学 卒業研究準備実験 卒業研究	1後 2前 2後 2後 2前 2前 3後 3後 4通	0.1 0.4 2 2 1.3 0.8 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成13年6月)	5日
4	専	教授	ゴミョウ ミチオ 五明 美智男 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		生命科学基礎演習※ 環境構造学 生命科学基礎実験2※ 保全生物学 生命科学応用実験※ 生態系保全技術 卒業研究準備実験 卒業研究	1後 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4通	0.1 2 0.4 2 0.8 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成24年4月)	5日
5	専	教授	サカモト タイイチ 坂本 泰一 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		キャリアデザイン1 キャリアデザイン2 キャリアデザイン3 国内インターン 生命科学基礎演習※ 遺伝子工学1 遺伝子工学2※ 生命科学基礎実験2※ 生体分子工学1 生体分子工学2 生命科学応用実験※ 卒業研究準備実験 卒業研究	1前 1後 3前 1・2・3・4 1後 2前 2後 2後 3前 3後 3前 3後 4通	1 1 1 1 0.1 2 1 0.4 2 2 0.8 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成16年4月)	5日
6	専	教授	タキグチ ヤスユキ 滝口 泰之 ＜平成28年4月＞		工学 博士		生物学1 生物学2 生命科学基礎演習※ 生命科学基礎実験1※ 生命科学応用実験※ 卒業研究準備実験 卒業研究	1前 1後 1後 2前 2前 3前 3後 4通	2 2 0.1 0.4 0.8 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成8年4月)	5日
7	専	教授	ムラカミ カズヒト 村上 和仁 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		基礎生態学 生命科学基礎演習※ ゲノム生態学 生命科学基礎実験2※ 微生物生態学 公衆衛生学※ 生命科学応用実験※ 生物多様性科学 卒業研究準備実験 卒業研究	1後 1後 2後 2後 3前 3前 3前 3後 3後 4通	2 0.1 2 0.4 2 0.6 0.8 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成11年4月)	5日
8	専	准教授	ハンモト カホコ 橋本 香保子 ＜平成28年4月＞		博士 (医学)		分子生物学2 生命科学基礎演習※ 生化学2 遺伝子工学2※ 生命科学基礎実験2※ 分子免疫学 生命科学応用実験※ 卒業研究準備実験 卒業研究	1後 1後 2前 2後 2後 2後 3前 3前 3後 4通	2 0.1 2 0.9 0.4 2 0.8 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成16年4月)	5日
9	専	准教授	ワタナベ ウガイ 渡邊 宇外 ＜平成28年4月＞		博士 (農学)		生化学1 生命科学基礎演習※ 細胞生物学 生命科学基礎実験2※ 植物生理学1 生命科学応用実験※ 植物生理学2 卒業研究準備実験 卒業研究	1後 1後 2前 2後 2後 3前 3後 3後 4通	2 0.1 2 0.4 2 0.8 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成13年4月)	5日
10	専	准教授	ネモト ナオキ 根本 直樹 ＜平成28年4月＞		博士 (生命科学)		生命科学基礎演習※ 微生物学 生命科学基礎実験1※ 分子進化学 生命科学応用実験※ 微生物工学 卒業研究準備実験 卒業研究	1後 1後 2前 2後 3前 3後 3後 4通	0.1 2 0.4 2 0.9 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成24年4月)	5日
11	兼任	教授	アイカワ フミヒロ 相川 文弘 ＜平成28年4月＞		理学 博士		物理の世界と先端技術	3前・後,4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和62年4月)	
12	兼任	教授	アカザワ モトム 赤澤 元務 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)		言語と文化1 言語と文化2 国際社会論	1前・後,2前 1前・後,2前 3前・後,4前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和55年4月)	
13	兼任	教授	イコタ オサム 伊古田 理 ＜平成28年4月＞		文学 修士		倫理学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後,2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 4 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平12年4月)	

14	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成28年4月＞	修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2	1前・後,2前 1前・後,2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成30年4月＞	修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2	1前・後,2前 1前・後,2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
15	兼任	教授	オチ トシユキ 越智 敏之 ＜平成28年4月＞	文学 修士	センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションC1 英語コンプリヘンションC2 アドバンスト・コミュニケーションB1 アドバンスト・コミュニケーションB2 アドバンスト・コンプリヘンションC1 アドバンスト・コンプリヘンションC2 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後 1前 2後 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
16	兼任	教授	カサシマ ヨシオ 笠嶋 義夫 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	環境科学概論	1前・後,2前	8	4	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成15年4月)	
17	兼任	教授	カマタ モトヒロ 鎌田 元弘 ＜平成28年4月＞	学術 博士	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成2年4月)	
18	兼任	教授	カワタ アキヒサ 河田 明久 ＜平成28年4月＞	修士 (文学) ※	歴史と人間 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後,2前 1前 2後 2後	8 4 4 4	4 4 2 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成21年4月)	
19	兼任	教授	クサノ シングキ 草野 滋之 ＜平成28年4月＞	文学 修士 ※	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後,2前 2後 2後	2 6 2	1 3 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成10年4月)	
20	兼任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一 ＜平成28年4月＞	修士 (法学) ※	憲法と社会 政治と社会 グローバリ時代の法 課題探究セミナー 総合学際科目 総合科学特論 日本語表現法	1前・後,2前 3前・後,4前 3前・後,4前 2後 2後 4前・後 1前	4 4 4 4 2 2 1	2 2 2 2 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
21	兼任	教授	シバヤ カズロウ 渋谷 和郎 ＜平成28年4月＞	Ph. D (英国)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 アドバンスト・コミュニケーションA1 アドバンスト・コミュニケーションA2	1前 1後 1前 1後 1前 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成24年4月)	
22	兼任	教授	ジョ ハルキ 徐 春暉 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	国際インターン	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 社会システム科学 部 教授 (平成14年9月)	
23	兼任	教授	スガワラ マサヒコ 菅原 昌彦 ＜平成28年4月＞	理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後,4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和56年4月)	
24	兼任	教授	スズキ ススム 鈴木 進 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	物理の世界と先端技術 ボランティア	3前・後,4前 1・2・3・4	4 1	2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成6年4月)	
25	兼任	教授	タケウチ エミコ 竹内 栄美子 ＜平成28年4月＞	博士 (人文学科)	文学と芸術 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目 総合科学特論	1前・後,2前 1前 2後 2後 4前・後	8 4 4 2 2	4 4 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
26	兼任	教授	ツクシ イタル 筑紫 格 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後,4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
27	兼任	教授	トウジョウ コウジ 東條 晃次 ＜平成29年4月＞	博士 (理学)	線形代数	2前・後,3前・後,4前・後	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
28	兼任	教授	トナミ コウイチ 利波 雄一 ＜平成28年4月＞	修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後,2前 1前・後,2前 1前・後,2前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
29	兼任	教授	ハシモト シュウイチ 橋本 修一 ＜平成28年4月＞	文学 修士 ※	英語コミュニケーションA1 英語コミュニケーションA2 ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションA1 英語コンプリヘンションA2	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
30	兼任	教授	ハンザワ ヨウコ 半沢 洋子 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)	環境科学概論	1前・後,2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
31	兼任	教授	ムトウ タクミ 武藤 巧 ＜平成28年4月＞	理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後,4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
32	兼任	教授	モリタ ヒラク 森田 啓 ＜平成28年4月＞	博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後,2前 2後 2後 3前・後,4前・後	14 2 4 2 6	7 1 2 2 3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成13年4月)	
33	兼任	教授	ヨダ トクコ 依田 十久子 ＜平成28年4月＞	教育学 修士 ※	現代社会論	1前・後,2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成元年4月)	
34	兼任	准教授	アイハラ ナオミ 相原 直美 ＜平成28年4月＞	修士 (文学) ※	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 英語コミュニケーションC1 英語コミュニケーションC2 アドバンスト・コンプリヘンションB1 アドバンスト・コンプリヘンションB2	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成13年4月)	
35	兼任	准教授	アライ ナホコ 有井 奈保子 ＜平成28年4月＞	文学 修士	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 英語コミュニケーションB1 英語コミュニケーションB2 アドバンスト・コンプリヘンションB1 アドバンスト・コンプリヘンションB2	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和59年4月)	
36	兼任	准教授	インカワ コウイチロウ 石川 浩一郎 ＜平成28年4月＞	博士 (知識科学)	情報処理	1前・後	16	8	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
37	兼任	准教授	キヤマ タカシ 木山 隆 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後,4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
38	兼任	准教授	コガ ツヨシ 古賀 毅 ＜平成28年4月＞	博士 (教育学)	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後,2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成25年4月)	

39	兼任	准教授	コバヤシ マナブ 小林 学 ＜平成28年4月＞	博士 (学術)	科学技術史 課題探究セミナー 総合学際科目 総合科学特論 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 4前・後 1前	12 6 2 2 1	6 3 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
40	兼任	准教授	スドウ イサオ 須藤 勲 ＜平成28年4月＞	博士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解 国際社会論 課題探究セミナー	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前 3前・後, 4前 2後	10 10 2 2 2	5 5 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
41	兼任	准教授	タニアイ テツユキ 谷合 哲行 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	化学基礎 物質科学	1前 3前・後, 4前	2 8	1 4	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	
42	兼任	准教授	ツチャ マサノリ 土屋 正則 ＜平成28年4月＞	体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
	兼任	講師	ツチャ マサノリ 土屋 正則 ＜平成29年4月＞	体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
43	兼任	准教授	ハタ セイノスケ 畑 誠之助 ＜平成28年4月＞	教育学 修士 ※	スポーツ科学 スポーツアクティブラーニング	1前・後 3前・後, 4前・後	26 2	13 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和62年4月)	
44	兼任	准教授	ハマノ シホ 浜野 志保 ＜平成28年4月＞	博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションA1 英語コンプリヘンションA2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
45	兼任	准教授	ヒガシヤマ コウジ 東山 幸司 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
46	兼任	准教授	ヒキハラ ユウキ 引原 有輝 ＜平成28年4月＞	博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング 総合科学特論	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前・後 4前・後	12 2 2 2 8 2	6 1 2 1 4 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
47	兼任	助教	フクシマ ショウコ 福嶋 尚子 ＜平成28年4月＞	修士 (教育学) ※	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成27年4月)	
48	兼任	准教授	ミナミサワ マユミ 南澤 鷹優寛 (南澤 真弓) ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	物質科学 環境科学概論 機器分析学	3前・後, 4前 1前・後, 2前 2前・後, 3前・後, 4前・後	4 6 3 2	2 2 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
49	兼任	准教授	ミムラ タカオ 三村 尚央 ＜平成28年4月＞	博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションC1 英語コンプリヘンションC2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
50	兼任	准教授	ヤマウチ マサキ 山内 政樹 ＜平成28年4月＞	博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 アドバンスト・コンプリヘンションB1 アドバンスト・コンプリヘンションB2 アドバンスト・コミュニケーションA1 アドバンスト・コミュニケーションA2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 2前 2後 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
51	兼任	准教授	ヨシダ アキラ 吉田 聡 ＜平成28年4月＞	博士 (文学)	哲学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 4 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成22年4月)	
52	兼任	准教授	リョウ イショウ 廖 伊庄 ＜平成28年4月＞	学士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成2年4月)	
53	兼任	准教授	ワカバヤシ ヒトシ 若林 斉 ＜平成28年4月＞	博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング 総合科学特論	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前・後 4前・後	14 2 4 2 6 2	7 1 2 1 3 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
54	兼任	助教	イチカワ ヨウコ 市川 洋子 ＜平成28年4月＞	修士 (心理学) ※	心理学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 2後 2後	4 4 2	2 2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成17年4月)	
55	兼任	助教	イトウ シュウハイ 伊藤 晋平 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)	量子化学	2前・後, 3前・後, 4前・後	4	2	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
56	兼任	助教	ウィリアム・フィッシャー William Fisher ＜平成28年4月＞	M. S. Ed.	英語コミュニケーションC1 英語コミュニケーションC2 アドバンスト・コミュニケーションC1 アドバンスト・コミュニケーションC2 イングリッシュアクティブラーニング1 イングリッシュアクティブラーニング2 イングリッシュアクティブラーニング3	1前 1後 2前 2後 3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成7年4月)	
57	兼任	助教	オノヅカ カズヒロ 小野寺 一浩 ＜平成29年4月＞	博士 (理学)	基礎統計学	2前・後, 3前・後, 4前・後	2	1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	
58	兼任	助教	カー・リチャード・ジョンソン Kirk Richard Jonson ＜平成28年4月＞	M. A. (米国)	英語コミュニケーションC1 英語コミュニケーションC2 アドバンスト・コミュニケーションC1 アドバンスト・コミュニケーションC2 イングリッシュアクティブラーニング1 イングリッシュアクティブラーニング2 イングリッシュアクティブラーニング3	1前 1後 2前 2後 3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成23年4月)	
59	兼任	助教	カクバリ ケンイチ 角張 健一 ＜平成28年4月＞	理学 修士 ※	情報処理	1前・後	16	8	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成8年4月)	
60	兼任	助教	カナダ コウイチ 金田 晃一 ＜平成28年4月＞	博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前・後	14 2 4 2 8	7 1 2 1 4	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	
61	兼任	助教	ヤスタケ ノブトシ 安武 伸俊 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
62	兼任	助教	ヤマシタ アツシ 山下 温 ＜平成28年4月＞	博士 (数理科学)	数学基礎 微積分	1前 2前・後, 3前・後, 4前・後	2 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	

63	兼任	講師	アイハラ ヨシユキ 相原 佳之 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)		歴史と人間	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任助講師 (平成27年4月)	
64	兼任	講師	イヅミ ミツヨ 泉 光世 ＜平成28年4月＞		Ph. D (米国)		英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
65	兼任	講師	イチカワ イサオ 市川 功 ＜昭和28年4月＞		文学 修士		哲学 倫理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和61年4月)	
66	兼任	講師	イマイ タク 今井 拓 ＜平成28年4月＞		博士 (保健福祉学)		経済学 現代社会論	3前・後, 4前 1前・後, 2前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
67	兼任	講師	イマゼキ アン 今関 アン ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※		言語と文化1 言語と文化2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成2年4月)	
68	兼任	講師	ウエムラ ヨシロウ 上村 芳郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※		哲学 倫理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
69	兼任	講師	ウザワ ユカ 鶴澤 由香 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		地球科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
70	兼任	講師	オオガ タカシ 大郷 崇 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)		経済学	3前・後, 4前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
71	兼任	講師	オオガキ クミコ 大柿 久美子 ＜平成28年4月＞		理学 博士		物質科学	3前・後, 4前	4	2	東京工業大学大学院 総合理工学研究 科 教務職員 (昭和59年4月)	
72	兼任	講師	オオサガ ヒサコ 大須 賀寿子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※		ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 アドバンス・コンプリヘンションB 1 アドバンス・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
73	兼任	講師	オオスミ ユリコ 大住 有里子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)		英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンス・コミュニケーションA 1 アドバンス・コミュニケーションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
74	兼任	講師	オオタ コウイチ 太田 浩一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※		言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年9月)	
75	兼任	講師	オダイ カツヒコ 小田井 勝彦 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※		英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 アドバンス・コミュニケーションB 1 アドバンス・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成19年4月)	
76	兼任	講師	オノ シュンタロウ 小野 俊太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※		英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンス・コミュニケーションB 1 アドバンス・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
77	兼任	講師	オノダ マコト 小野田 眞 ＜平成28年4月＞		薬学 博士		生命科学	3前・後, 4前	8	4	(独)放射線医学総合研究所 専門業務員 (平成24年4月)	
78	兼任	講師	オバタ ヒロコ 小幡 裕子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)		英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンス・コンプリヘンションC 1 アドバンス・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
79	兼任	講師	カネコ ユスヒロ 兼子 安弘 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※		言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
80	兼任	講師	カメオカ コウイチ 亀岡 浩一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※		英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
81	兼任	講師	カンザキ モモヨ 神崎 百世 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)		英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンス・コンプリヘンションC 1 アドバンス・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
82	兼任	講師	キクチシゲアキ 菊地重秋 ＜平成29年4月＞		学術 博士		生命科学のための倫理・法律	2前	2	1	千葉工業大学 工学部 兼任講師 (平成15年4月)	
83	兼任	講師	ゴ アケミ 呉 明美 ＜平成28年4月＞		芸術学 修士		文学と芸術	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (昭和62年4月)	
84	兼任	講師	サカイ リュウタロウ 坂井 竜太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※		英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	
85	兼任	講師	シモダ アツコ 霜田 敦子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)		英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンス・コンプリヘンションB 1 アドバンス・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
86	兼任	講師	スガワラ アキラ 菅原 昭 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)		経済学 国際社会論	3前・後, 4前 3前・後, 4前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
87	兼任	講師	スガワラ タカコ 菅原 多嘉子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)		英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンス・コミュニケーションB 1 アドバンス・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年9月)	
88	兼任	講師	スズキ ユミ 鈴木 由美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※		英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンス・コンプリヘンションC 1 アドバンス・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
89	兼任	講師	センダ リョウコ 仙田 量子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		地球科学	3前・後, 4前	8	4	海洋研究開発機構 技術研究副主任 (平成17年12月)	
90	兼任	講師	タザワ キョウコ 田沢 恭子 ＜平成28年4月＞		修士 (人文科学)		英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンス・コンプリヘンションB 1 アドバンス・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成9年4月)	
91	兼任	講師	タテヤ コウイチ 堅谷 宏一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)		英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
92	兼任	講師	タマキ マコト 田巻 誠 ＜平成28年4月＞		理学 博士		化学基礎	1前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
93	兼任	講師	ツカダ ヒデヒロ 塚田 英博 ＜平成28年4月＞		文学 修士 (英文学) ※		英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンス・コンプリヘンションB 1 アドバンス・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
94	兼任	講師	ナカザワ サトシ 中澤 聡 ＜平成28年4月＞		修士 (学術) ※		科学技術史	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
95	兼任	講師	ナガタ ヨシフミ 永田 喜文 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※		英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
96	兼任	講師	ナカムラ ミツル 中村 充 ＜平成28年4月＞		医学 博士		スポーツ科学	1前・後	12	6	順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成18年1月)	

97	兼任	講師	ナカムラシンゴ 中村慎吾 ＜平成30年9月＞		博士 (工学)		医薬品生産技術※	3後	0.7	1	Catalent Pharma Solutions Account Director (平成23年11月)	
98	兼任	講師	ナガモト ヨシヒロ 永本 義弘 ＜平成28年4月＞		国際学 修士		英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成21年4月)	
99	兼任	講師	ニシモト ヤスマサ 西元 康雅 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)		文学と芸術 日本語表現法	1前・後,2前 1前	4 6	2 6	千葉工業大学 兼任助講師 (平成23年4月)	
100	兼任	講師	ノマ カロコ 野間 香与子 ＜平成28年4月＞		社会学 修士		英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
101	兼任	講師	ハシバ ナオヒコ 橋場 直彦 ＜平成28年4月＞		体育学 修士		スポーツ科学	1前・後	12	6	東京聖栄大学 健康栄養学部 准教授 (平成17年4月)	
102	兼任	講師	ハマダ ナオミチ 浜田 直道 ＜平成28年4月＞		工学士		情報処理	1前・後	12	6	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
103	兼任	講師	ヒラカワケイコ 平川慶子 ＜平成30年4月＞		医学 博士		生体生理学※	3前	1	1	日本医科大学 医学部 助教 (昭和58年4月)	
104	兼任	講師	ヒロセ ノブヨシ 廣瀬 伸良 ＜平成28年4月＞		医学 博士		スポーツ科学 身体と健康の科学	1前・後 1前・後, 2前	4 8	2 4	順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成13年12月)	
105	兼任	講師	ヒロベ トモヒサ 廣部 知久 ＜平成28年4月＞		理学 博士		生命科学	3前・後, 4前	8	4	(独)放射線医学総合 研究所シニア リサーチャー (平成23年4月)	
106	兼任	講師	ヒワタシ オサム 樋渡 修 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		数学基礎	1前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
107	兼任	講師	マキノ ユウコ 牧野 裕子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文 学)		センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
108	兼任	講師	マチダ ジュンコ 町田 純子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)		英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
109	兼任	講師	マツムラ ヒナコ 松村 比奈子 ＜平成28年4月＞		博士 (法学)		憲法と社会 政治と社会 グローバル時代の法	1前・後, 2前 3前・後, 4前 3前・後, 4前	4 8 4	2 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
110	兼任	講師	ミヤゴシ アキノブ 宮越 昭暢 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		地球科学	3前・後, 4前	8	4	産業技術総合研究 所 主任研究員 (平成16年4月)	
111	兼任	講師	ムラカミ (イハ) ヨウコ 村上 (伊波) 陽子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)		文学と芸術 日本語表現法	1前・後, 2前 1前	4 2	2 2	千葉工業大学 兼任助講師 (平成27年4月)	
112	兼任	講師	モリタ ユミコ 森田 由美子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※		英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションC 1 アドバンスト・コミュニケーションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成13年4月)	
113	兼任	講師	モリタケンジ 森田 健二 ＜平成30年9月＞		博士 (環境 学)		生態系保全技術※	3後	0.7	1	株式会社MACS 取締役 (平成26年4月)	
114	兼任	講師	ヤギ モナコ 八木 茂那子 ＜平成28年4月＞		文学 修士		英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 英語コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)	
115	兼任	講師	ヤスダ ナオミ 安田 直己 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)		言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10	5 5	千葉工業大学 兼任講師 (昭和54年4月)	
116	兼任	講師	ヤマダ シンヤ 山田 慎也 ＜平成28年4月＞		博士 (社会 学)		異文化理解	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成15年4月)	
117	兼任	講師	ヤマト エミ 大和 恵美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※		ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
118	兼任	講師	ヨコサカ ケンジ 横坂 健治 ＜平成28年4月＞		法学 修士 ※		憲法と社会 グローバル時代の法	1前・後, 2前 3前・後, 4前	8 12	4 6	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年9月)	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

教 員 の 氏 名 等												
(先進工学部生命科学科等)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 する 週当たり平均日 数
1	専	教授	イイノ マサアキ 飯野 正昭 ＜平成28年4月＞		理学 博士		生体生理学※ 動物生理学2 生命科学応用実験※ 卒業研究準備実験 卒業研究	3前 3前 3前 3後 4通	1 2 0.8 2 5	1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成10年4月)	5日
2	専	教授	カワイ ゴウタ 河合 剛太 ＜平成28年4月＞		理学 博士		生命情報学 生命科学応用実験※ 医薬品生産技術 卒業研究準備実験 卒業研究	3前 3前 3後 3後 4通	2 0.8 2 2 5	1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成9年4月)	5日
3	専	教授	クロサキ ナオコ 黒崎 直子 ＜平成28年4月＞		博士 (医学)		細胞遺伝学 卒業研究準備実験 卒業研究	3後 3後 4通	2 2 5	1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成13年6月)	5日
4	専	教授	ゴミョウ ミチオ 五明 美智男 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		保全生物学 生命科学応用実験※ 生態系保全技術 卒業研究準備実験 卒業研究	3前 3前 3後 3後 4通	2 0.8 2 2 5	1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成24年4月)	5日
5	専	教授	サカモト タイイチ 坂本 泰一 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		キャリアデザイン3 国内インターン 生体分子工学1 生体分子工学2 生命科学応用実験※ 卒業研究準備実験 卒業研究	3前 1・2・3・4 3前 3後 3前 3後 4通	1 1 2 2 0.8 2 5	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成16年4月)	5日
6	専	教授	タキグチ ヤスユキ 滝口 泰之 ＜平成28年4月＞		工学 博士		生命科学応用実験※ 卒業研究準備実験 卒業研究	3前 3後 4通	0.8 2 5	1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成8年4月)	5日
7	専	教授	ムラカミ カズヒト 村上 和仁 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		微生物生態学 公衆衛生学※ 生命科学応用実験※ 生物多様性科学 卒業研究準備実験 卒業研究	3前 3前 3前 3後 3後 4通	2 0.6 0.8 2 2 5	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成11年4月)	5日
8	専	准教授	ハンモト カホコ 橋本 香保子 ＜平成28年4月＞		博士 (医学)		分子免疫学 生命科学応用実験※ 卒業研究準備実験 卒業研究	3前 3前 3後 4通	2 0.8 2 5	1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成16年4月)	5日
9	専	准教授	ワタナベ ウガイ 渡邊 宇外 ＜平成28年4月＞		博士 (農学)		生命科学応用実験※ 植物生理学2 卒業研究準備実験 卒業研究	3前 3後 3後 4通	0.8 2 2 5	1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成13年4月)	5日
10	専	准教授	ネモト ナオキ 根本 直樹 ＜平成28年4月＞		博士 (生命科学)		生命科学応用実験※ 微生物工学 卒業研究準備実験 卒業研究	3前 3後 3後 4通	0.9 2 2 5	1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成24年4月)	5日
11	兼任	教授	アイカワ フミヒロ 相川 文弘 ＜平成28年4月＞		理学 博士		物理の世界と先端技術	3前・後,4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和62年4月)	
12	兼任	教授	アカザワ モトム 赤澤 元務 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)		国際社会論	3前・後,4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和55年4月)	
13	兼任	教授	イコタ オサム 伊古田 理 ＜平成28年4月＞		文学 修士						千葉工業大学 教育センター 教授 (平12年4月)	

津田沼キャンパス

14	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成30年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
15	兼任	教授	オチ トシユキ 越智 敏之 ＜平成28年4月＞		文学 修士						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
16	兼任	教授	カサシマ ヨシオ 笠嶋 義夫 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成15年4月)	
17	兼任	教授	カマタ モトヒロ 鎌田 元弘 ＜平成28年4月＞		学術 博士	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4	1	1		千葉工業大学 工学部 教授 (平成2年4月)	
18	兼任	教授	カワタ アキヒサ 河田 明久 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 教育センター 教授 (平21年4月)	
19	兼任	教授	クサノ シグユキ 草野 滋之 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成10年4月)	
20	兼任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一 ＜平成28年4月＞		修士 (法学) ※	政治と社会 グローバル時代の法 総合科学特論	3前・後, 4前 3前・後, 4前 4前・後	4 4 2	2 2 1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
21	兼任	教授	シバヤ カズロウ 渋谷 和郎 ＜平成28年4月＞		Ph. D (英国)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成24年4月)	
22	兼任	教授	ジョ ハルキ 徐 春暉 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	国際インターン	1・2・3・4	1	1		千葉工業大学 社会システム科学 部 教授 (平成14年9月)	
23	兼任	教授	スガワラ マサヒコ 菅原 昌彦 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1		千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和56年4月)	
24	兼任	教授	スズキ ススム 鈴木 進 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物理の世界と先端技術 ボランティア	3前・後, 4前 1・2・3・4	4 1	2 1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成6年4月)	
25	兼任	教授	タケウチ エミコ 竹内 栄美子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文科学)	総合科学特論	4前・後	2	1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平7年4月)	
26	兼任	教授	ツクシ イタル 筑紫 格 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
27	兼任	教授	トウジョウ コウジ 東條 晃次 ＜平成29年4月＞		博士 (理学)	線形代数	2前・後, 3前・後, 4前・後	2	1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
28	兼任	教授	トナミ ユウイチ 利波 雄一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
29	兼任	教授	ハシモト シュウイチ 橋本 修一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
30	兼任	教授	ハンザワ ヨウコ 半沢 洋子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
31	兼任	教授	ムトウ タクミ 武藤 巧 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
32	兼任	教授	モリタ ヒラク 森田 啓 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後	6	3		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成13年4月)	
33	兼任	教授	ヨダ トクコ 依田 十久子 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成元年4月)	
34	兼任	准教授	アイハラ ナオミ 相原 直美 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成13年4月)	
35	兼任	准教授	アライ ナホコ 有井 奈保子 ＜平成28年4月＞		文学 修士						千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和59年4月)	
36	兼任	准教授	イシカワ コウイチロウ 石川 浩一郎 ＜平成28年4月＞		博士 (知識科学)						千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
37	兼任	准教授	キヤマ タカン 木山 隆 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
38	兼任	准教授	コガ ユウシ 古賀 毅 ＜平成28年4月＞		博士 (教育学)						千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成25年4月)	
39	兼任	准教授	コバヤシ マナブ 小林 学 ＜平成28年4月＞		博士 (学術)	総合科学特論	4前・後	2	1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
40	兼任	准教授	スドウ イサオ 須藤 勲 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	国際社会論	3前・後, 4前	2	1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
41	兼任	准教授	タニアイ レツユキ 谷合 哲行 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物質科学	3前・後, 4前	8	4		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	

42	兼任	准教授	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成28年4月＞		体育学 修士						千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
	兼任	講師	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成29年4月＞		体育学 修士						千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
43	兼任	准教授	ハタ セイノスケ 畑 誠之助 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※	スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後	2	1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和62年4月)	
44	兼任	准教授	ハマノ シホ 浜野 志保 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)						千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
45	兼任	准教授	ヒガシヤマ コウジ 東山 幸司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
46	兼任	准教授	ヒキハラ ヌウキ 引原 有輝 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)	スポーツアクティブラーニング 総合科学特論	3前・後, 4前・後 4前・後	8 2	4 1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
47	兼任	助教	フクシマ ショウコ 福岡 尚子 ＜平成28年4月＞		修士 (教育 学) ※						千葉工業大学 教育センター 助教 (平成27年4月)	
48	兼任	准教授	ミナミサワ マユミ 南澤 鷹優寛 (南澤 真弓) ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物質科学 機器分析学	3前・後, 4前 2前・後, 3前・後, 4前・後	4 4	2 2		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
49	兼任	准教授	ミムラ タカオ 三村 尚央 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)						千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
50	兼任	准教授	ヤマウチ マサキ 山内 政樹 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)						千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
51	兼任	准教授	ヨシダ アキラ 吉田 聡 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)						千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成22年4月)	
52	兼任	准教授	リョウ イシヨウ 廖 伊庄 ＜平成28年4月＞		学士 (文学)						千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成2年4月)	
53	兼任	准教授	ワカバヤシ ヒトシ 若林 斉 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)	スポーツアクティブラーニング 総合科学特論	3前・後, 4前・後 4前・後	6 2	3 1		千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
54	兼任	助教	イチカワ ヨウコ 市川 洋子 ＜平成28年4月＞		修士 (心理 学) ※						千葉工業大学 教育センター 助教 (平成17年4月)	
55	兼任	助教	イトウ シュウハイ 伊藤 晋平 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	量子化学	2前・後, 3前・後, 4前・後	4	2		千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
56	兼任	助教	ウィリアム・フィッシャー William Fisher ＜平成28年4月＞		M. S. Ed.	イングリッシュアクティブラーニング 1 イングリッシュアクティブラーニング 2 イングリッシュアクティブラーニング 3	3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1	1 1 1		千葉工業大学 教育センター 助教 (平成7年4月)	
57	兼任	助教	オノデラ カズヒロ 小野寺 一浩 ＜平成29年4月＞		博士 (理学)	基礎統計学	2前・後, 3前・後, 4前・後	2	1		千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	
58	兼任	助教	カー・リチャード・ジョンソン Kirk Richard Jonson ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	イングリッシュアクティブラーニング 1 イングリッシュアクティブラーニング 2 イングリッシュアクティブラーニング 3	3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1	1 1 1		千葉工業大学 教育センター 助教 (平成23年4月)	
59	兼任	助教	カクバリ ケンイチ 角張 健一 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※						千葉工業大学 教育センター 助教 (平成8年4月)	
60	兼任	助教	カナダ コウイチ 金田 晃一 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)	スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後	8	4		千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	
61	兼任	助教	ヤスタケ ノブシ 安武 伸俊 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1		千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
62	兼任	助教	ヤマシタ アツシ 山下 温 ＜平成28年4月＞		博士 (数理科 学)	微分積分	2前・後, 3前・後, 4前・後	2	1		千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	
63	兼任	講師	アイハラ ヨシユキ 相原 佳之 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
64	兼任	講師	イズミ ミツヨ 泉 光世 ＜平成28年4月＞		Ph. D (米国)						千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
65	兼任	講師	イチカワ イサオ 市川 功 ＜昭和28年4月＞		文学 修士						千葉工業大学 兼任講師 (昭和61年4月)	
66	兼任	講師	イマイ タク 今井 拓 ＜平成28年4月＞		博士 (保健福 祉学)	経済学	3前・後, 4前	8	4		千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
67	兼任	講師	イマゼキ アン 今関 アン ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成2年4月)	
68	兼任	講師	ウエムラ ヨシロウ 上村 芳郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
69	兼任	講師	ウザワ ユカ 鵜澤 由香 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	4	2		千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
70	兼任	講師	オオガ タカシ 大郷 崇 ＜平成28年4月＞		博士 (経済 学)	経済学	3前・後, 4前	8	4		千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	

71	兼任	講師	オオガキ クミコ 大柿 久美子 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物質科学	3前・後, 4前	4	2	東京工業大学大学院 総理工学研究所 教務職員 (昭和59年4月)	
72	兼任	講師	オオサガ ヒサコ 大須 賀寿子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※					千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
73	兼任	講師	オオスミ ユリコ 大住 有里子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
74	兼任	講師	オオク コウイチ 太田 浩一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※					千葉工業大学 兼任講師 (平成7年9月)	
75	兼任	講師	オダゲ カツヒロ 小田井 勝彦 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※					千葉工業大学 兼任講師 (平成19年4月)	
76	兼任	講師	オノ シュンタロウ 小野 俊太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※					千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
77	兼任	講師	オノダ マコト 小野田 眞 ＜平成28年4月＞		薬学 博士	生命科学	3前・後, 4前	8	4	(独)放射線医学総合研究所 専門業務員 (平成24年4月)	
78	兼任	講師	オバタ ヒロコ 小幡 裕子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
79	兼任	講師	カネコ ヤスヒロ 兼子 安弘 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※					千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
80	兼任	講師	カメオカ コウイチ 亀岡 浩一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※					千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
81	兼任	講師	カンザキ モモヨ 神崎 百世 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)					千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
82	兼任	講師	キクチシゲアキ 菊地重秋 ＜平成29年4月＞		学術 博士					千葉工業大学 工学部 兼任講師 (平成15年4月)	
83	兼任	講師	ゴ アケミ 呉 明美 ＜平成28年4月＞		芸術学 修士					千葉工業大学 兼任講師 (昭和62年4月)	
84	兼任	講師	サカイ リュウタロウ 坂井 竜太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※					千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	
85	兼任	講師	シモダ アツコ 霜田 敦子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
86	兼任	講師	スガワラ アキラ 菅原 昭 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)	経済学 国際社会論	3前・後, 4前 3前・後, 4前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
87	兼任	講師	スガワラ タカコ 菅原 多嘉子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)					千葉工業大学 兼任講師 (平成25年9月)	
88	兼任	講師	スズキ コミ 鈴木 由美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※					千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
89	兼任	講師	センダ リョウコ 仙田 量子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	8	4	海洋研究開発機構 技術研究副主任 (平成17年12月)	
90	兼任	講師	タザワ キョウコ 田沢 恭子 ＜平成28年4月＞		修士 (人文科学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成9年4月)	
91	兼任	講師	タテヤ コウイチ 堅谷 宏一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
92	兼任	講師	タマキ マコト 田巻 誠 ＜平成28年4月＞		理学 博士					千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
93	兼任	講師	ツカダ ヒデヒロ 塚田 英博 ＜平成28年4月＞		文学 修士 (英文学) ※					千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
94	兼任	講師	ナカザワ サトシ 中澤 聡 ＜平成28年4月＞		修士 (学術) ※					千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
95	兼任	講師	ナガタ ヨシフミ 永田 喜文 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※					千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
96	兼任	講師	ナカムラ ミツル 中村 充 ＜平成28年4月＞		医学 博士					順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成18年1月)	
97	兼任	講師	ナカムラシンゴ 中村慎吾 ＜平成30年9月＞		博士 (工学)	医薬品生産技術※	3後	0.7	1	Catalent Pharma Solutions Account Director (平成23年11月)	
98	兼任	講師	ナガモト ヨシヒロ 永本 義弘 ＜平成28年4月＞		国際学 修士					千葉工業大学 兼任講師 (平成21年4月)	
99	兼任	講師	ニシモト ヤスマサ 西元 康雅 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
100	兼任	講師	ノマ カヨコ 野間 香母子 ＜平成28年4月＞		社会学 修士					千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
101	兼任	講師	ハシバ ナオヒコ 橋場 直彦 ＜平成28年4月＞		体育学 修士					東京聖栄大学 健康栄養学部 准教授 (平成17年4月)	
102	兼任	講師	ハマダ ナオミチ 浜田 直道 ＜平成28年4月＞		工学士					千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
103	兼任	講師	ヒラカワケイコ 平川慶子 ＜平成30年4月＞		医学 博士	生体理工学※	3前	1	1	日本医科大学 医学部 助教 (昭和58年4月)	
104	兼任	講師	ヒロセ ノブヨシ 廣瀬 伸良 ＜平成28年4月＞		医学 博士					順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成13年12月)	
105	兼任	講師	ヒロベ トモヒサ 廣部 知久 ＜平成28年4月＞		理学 博士	生命科学	3前・後, 4前	8	4	(独)放射線医学総合研究所シニア リサーチャー (平成23年4月)	
106	兼任	講師	ヒワタシ オサム 樋渡 修 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
107	兼任	講師	マキノ ユウコ 牧野 裕子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文科学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	

108	兼任	講師	マチダ ジュンコ 町田 純子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)						千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
109	兼任	講師	マツムラ ヒナコ 松村 比奈子 ＜平成28年4月＞		博士 (法学)	政治と社会 グローバル時代の法	3前・後, 4前 3前・後, 4前	8 4	4 2		千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
110	兼任	講師	ミヤゴシ アキラブ 宮越 昭暢 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	8	4		産業技術総合研究 所 主任研究員 (平成16年4月)	
111	兼任	講師	ムタカミ (イハ) ヨウコ 村上 (伊波) 陽子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
112	兼任	講師	モリタ ユミコ 森田 由美子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成13年4月)	
113	兼任	講師	モリタケンジ 森田健二 ＜平成30年9月＞		博士 (環境 学)	生態系保全技術※	3後	0.7	1		株式会社MACS 取締役 (平成26年4月)	
114	兼任	講師	ヤギ モナコ 八木 茂那子 ＜平成28年4月＞		文学 修士						千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)	
115	兼任	講師	ヤスダ ナオミ 安田 直己 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (昭和54年4月)	
116	兼任	講師	ヤマダ シンヤ 山田 慎也 ＜平成28年4月＞		博士 (社会 学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成15年4月)	
117	兼任	講師	ヤマト エミ 大和 恵美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
118	兼任	講師	ヨコサカ ケンジ 横坂 健治 ＜平成28年4月＞		法学 修士 ※	グローバル時代の法	3前・後, 4前	12	6		千葉工業大学 兼任講師 (平成11年9月)	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

教 員 の 氏 名 等													新習志野キャンパス
(先進工学部生命科学科等)													
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学 等の職務に従事 す 週当たり平均日 数	
1	専	教授	イイノ マサアキ 飯野 正昭 ＜平成28年4月＞		理学 博士		生物物理学1 生命科学基礎演習※ 生命科学基礎実験1※ 生物物理学2	1前 1後 1前 2後	2 0.1 0.4 2	1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成10年4月)	5日	
2	専	教授	カワイ ゴウタ 河合 剛太 ＜平成28年4月＞		理学 博士		分子生物学1 生命科学基礎演習※ ゲノム科学 構造生物学 生命科学基礎実験1※	1前 1後 2前 2前 2前	2 0.1 2 2 0.4	1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成9年4月)	5日	
3	専	教授	クロサキ ナオコ 黒崎 直子 ＜平成28年4月＞		博士 (医学)		生命科学基礎演習※ 生命科学基礎実験1※ ウイルス学 動物生理学1 公衆衛生学※ 生命科学応用実験※	1後 2前 2後 2後 2前 2前	0.1 0.4 2 2 1.3 0.8	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成13年6月)	5日	
4	専	教授	ゴミョウ ミチオ 五明 美智男 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		生命科学基礎演習※ 環境構造学 生命科学基礎実験2※	1後 2前 2後	0.1 2 0.4	1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成24年4月)	5日	
5	専	教授	サカモト タイイチ 坂本 泰一 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		キャリアデザイン1 キャリアデザイン2 国内インターン 生命科学基礎演習※ 遺伝子工学1 遺伝子工学2※ 生命科学基礎実験2※	1前 1後 1・2・3・4 1後 2前 2後 2後	1 1 1 0.1 2 1 0.4	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成16年4月)	5日	
6	専	教授	タキグチ ヤスユキ 滝口 泰之 ＜平成28年4月＞		工学 博士		生物学1 生物学2 生命科学基礎演習※ 生命科学基礎実験1※	1前 1後 1後 2前	2 2 0.1 0.4	1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成8年4月)	5日	
7	専	教授	ムラカミ カズヒト 村上 和仁 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		基礎生態学 生命科学基礎演習※ ゲノム生態学 生命科学基礎実験2※	1後 1後 2後 2後	2 0.1 2 0.4	1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成11年4月)	5日	
8	専	准教授	ハンモト カホコ 橋本 香保子 ＜平成28年4月＞		博士 (医学)		分子生物学2 生命科学基礎演習※ 生化学2 遺伝子工学2※ 生命科学基礎実験2※	1後 1後 2前 2後 2後	2 0.1 2 0.9 0.4	1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成16年4月)	5日	
9	専	准教授	ワタナベ ウガイ 渡邊 宇外 ＜平成28年4月＞		博士 (農学)		生化学1 生命科学基礎演習※ 細胞生物学 生命科学基礎実験2※ 植物生理学1	1後 1後 2前 2後 2後	2 0.1 2 0.4 2	1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成13年4月)	5日	
10	専	准教授	ネモト ナオキ 根本 直樹 ＜平成28年4月＞		博士 (生命科 学)		生命科学基礎演習※ 微生物学 生命科学基礎実験1※ 分子進化学	1後 1後 2前 2後	0.1 2 0.4 2	1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成24年4月)	5日	
11	兼任	教授	アイカワ フミヒロ 相川 文弘 ＜平成28年4月＞		理学 博士						千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和62年4月)		
12	兼任	教授	アカザワ モトム 赤澤 元務 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)		言語と文化1 言語と文化2	1前・後,2前 1前・後,2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和55年4月)		
13	兼任	教授	イコタ オサム 伊古田 理 ＜平成28年4月＞		文学 修士		倫理学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後,2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 4 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平12年4月)		

14	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成28年4月＞	修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2	1前・後,2前 1前・後,2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成30年4月＞	修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2	1前・後,2前 1前・後,2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
15	兼任	教授	オチ トシユキ 越智 敏之 ＜平成28年4月＞	文学 修士	センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションC1 英語コンプリヘンションC2 アドバンスト・コミュニケーションB1 アドバンスト・コミュニケーションB2 アドバンスト・コンプリヘンションC1 アドバンスト・コンプリヘンションC2 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
16	兼任	教授	カサシマ ヨシオ 笠嶋 義夫 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	環境科学概論	1前・後,2前	8	4	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成15年4月)	
17	兼任	教授	カマタ モトヒロ 鎌田 元弘 ＜平成28年4月＞	学術 博士	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成2年4月)	
18	兼任	教授	カワタ アキヒサ 河田 明久 ＜平成28年4月＞	修士 (文学) ※	歴史と人間 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後,2前 1前 2後 2後	8 4 4 4	4 4 2 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成21年4月)	
19	兼任	教授	クサノ シグユキ 草野 滋之 ＜平成28年4月＞	文学 修士 ※	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後,2前 2後 2後	2 6 2	1 3 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成10年4月)	
20	兼任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一 ＜平成28年4月＞	修士 (法学) ※	憲法と社会 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後,2前 2後 2後 1前	4 4 2 1	2 2 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
21	兼任	教授	シバヤ カズロウ 渋谷 和郎 ＜平成28年4月＞	Ph.D (英国)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 アドバンスト・コミュニケーションA1 アドバンスト・コミュニケーションA2	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成24年4月)	
22	兼任	教授	ジョ ハルキ 徐 春暉 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	国際インターン	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 社会システム科学 部 教授 (平成14年9月)	
23	兼任	教授	スガワラ マサヒコ 菅原 昌彦 ＜平成28年4月＞	理学 博士					千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和56年4月)	
24	兼任	教授	スズキ ススム 鈴木 進 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	ボランティア	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成6年4月)	
25	兼任	教授	タケウチ エミコ 竹内 栄美子 ＜平成28年4月＞	博士 (人文学)	文学と芸術 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後,2前 1前 2後 2後	8 4 4 2	4 4 2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
26	兼任	教授	ツクシ イタル 筑紫 格 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
27	兼任	教授	トウジョウ コウジ 東條 晃次 ＜平成29年4月＞	博士 (理学)	線形代数	2前・後,3前・後,4前・後	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
28	兼任	教授	トナミ コウイチ 利波 雄一 ＜平成28年4月＞	修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後,2前 1前・後,2前 1前・後,2前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
29	兼任	教授	ハシモト シュウイチ 橋本 修一 ＜平成28年4月＞	文学 修士 ※	英語コミュニケーションA1 英語コミュニケーションA2 ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションA1 英語コンプリヘンションA2	1前 1後 1前 1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
30	兼任	教授	ハンザワ ヨウコ 半沢 洋子 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)	環境科学概論	1前・後,2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
31	兼任	教授	ムトウ タクミ 武藤 巧 ＜平成28年4月＞	理学 博士					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
32	兼任	教授	モリタ ヒラク 森田 啓 ＜平成28年4月＞	博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後,2前 2後 2後	14 2 4 2	7 1 2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成13年4月)	
33	兼任	教授	ヨダ トクコ 依田 十久子 ＜平成28年4月＞	教育学 修士 ※	現代社会論	1前・後,2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成元年4月)	
34	兼任	准教授	アイハラ ナオミ 相原 直美 ＜平成28年4月＞	修士 (文学) ※	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 英語コミュニケーションC1 英語コミュニケーションC2 アドバンスト・コンプリヘンションB1 アドバンスト・コンプリヘンションB2	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成13年4月)	
35	兼任	准教授	アライ ナホコ 有井 奈保子 ＜平成28年4月＞	文学 修士	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 英語コミュニケーションB1 英語コミュニケーションB2 アドバンスト・コンプリヘンションB1 アドバンスト・コンプリヘンションB2	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和59年4月)	
36	兼任	准教授	インカワ コウイチロウ 石川 浩一郎 ＜平成28年4月＞	博士 (知識科学)	情報処理	1前・後	16	8	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
37	兼任	准教授	キヤマ タカシ 木山 隆 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)					千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
38	兼任	准教授	コガ ツヨシ 古賀 毅 ＜平成28年4月＞	博士 (教育学)	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後,2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成25年4月)	

39	兼任	准教授	コバヤシ マナブ 小林 学 ＜平成28年4月＞	博士 (学術)	科学技術史 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	12 6 2 1	6 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
40	兼任	准教授	スドウ イサオ 須藤 勲 ＜平成28年4月＞	博士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解 課題探究セミナー	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前 2後	10 10 2 2	5 5 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
41	兼任	准教授	タニアイ テツユキ 谷合 哲行 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	化学基礎	1前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	
42	兼任	准教授	ツチャ マサノリ 土屋 正則 ＜平成28年4月＞	体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
	兼任	講師	ツチャ マサノリ 土屋 正則 ＜平成29年4月＞	体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
43	兼任	准教授	ハタ セイノスケ 畑 誠之助 ＜平成28年4月＞	教育学 修士 ※	スポーツ科学	1前・後	26	13	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和62年4月)	
44	兼任	准教授	ハマノ シホ 浜野 志保 ＜平成28年4月＞	博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションA1 英語コンプリヘンションA2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
45	兼任	准教授	ヒガシヤマ コウジ 東山 幸司 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)					千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
46	兼任	准教授	ヒキハラ ユウキ 引原 有輝 ＜平成28年4月＞	博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後	12 2 4 2	6 1 2 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
47	兼任	助教	フクシマ ショウコ 福嶋 尚子 ＜平成28年4月＞	修士 (教育学) ※	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成27年4月)	
48	兼任	准教授	ミナミサワ マユミ 南澤 鷹優寛 (南澤 真弓) ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	環境科学概論 機器分析学	1前・後, 2前 2前・後, 3前・後, 4前・後	6 4 4	3 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
49	兼任	准教授	ミムラ タカオ 三村 尚央 ＜平成28年4月＞	博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションC1 英語コンプリヘンションC2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
50	兼任	准教授	ヤマウチ マサキ 山内 政樹 ＜平成28年4月＞	博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 アドバンスト・コンプリヘンションB1 アドバンスト・コンプリヘンションB2 アドバンスト・コミュニケーションA1 アドバンスト・コミュニケーションA2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 2前 2後 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
51	兼任	准教授	ヨシダ アキラ 吉田 聡 ＜平成28年4月＞	博士 (文学)	哲学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 4 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成22年4月)	
52	兼任	准教授	リョウ イショウ 廖 伊庄 ＜平成28年4月＞	学士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成2年4月)	
53	兼任	准教授	ワカバヤシ ヒトシ 若林 斉 ＜平成28年4月＞	博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後	14 2 4 2	7 1 2 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
54	兼任	助教	イチカワ ヨウコ 市川 洋子 ＜平成28年4月＞	修士 (心理学) ※	心理学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 2後 2後	4 4 2	2 2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成17年4月)	
55	兼任	助教	イトウ シュウハイ 伊藤 晋平 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)	量子化学	2前・後, 3前・後, 4前・後	4	2	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
56	兼任	助教	ウィリアム・フィッシャー William Fisher ＜平成28年4月＞	M. S. Ed.	英語コミュニケーションC1 英語コミュニケーションC2 アドバンスト・コミュニケーションC1 アドバンスト・コミュニケーションC2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成7年4月)	
57	兼任	助教	オノヅカ カズヒロ 小野寺 一浩 ＜平成29年4月＞	博士 (理学)	基礎統計学	2前・後, 3前・後, 4前・後	2	1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	
58	兼任	助教	カーク・リチャード・ジョンソン Kirk Richard Jonson ＜平成28年4月＞	M. A. (米国)	英語コミュニケーションC1 英語コミュニケーションC2 アドバンスト・コミュニケーションC1 アドバンスト・コミュニケーションC2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成23年4月)	
59	兼任	助教	カクバリ ケンイチ 角張 健一 ＜平成28年4月＞	理学 修士 ※	情報処理	1前・後	16	8	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成8年4月)	
60	兼任	助教	カナダ コウイチ 金田 晃一 ＜平成28年4月＞	博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後	14 2 4 2	7 1 2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	
61	兼任	助教	ヤスタケ ノブトシ 安武 伸俊 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)					千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
62	兼任	助教	ヤマシタ アツシ 山下 温 ＜平成28年4月＞	博士 (数理学)	数学基礎 微分積分	1前 2前・後, 3前・後, 4前・後	2 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	

63	兼任	講師	アイハラ ヨシユキ 相原 佳之 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)		歴史と人間	1前・後,2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
64	兼任	講師	イヅミ ミツヨ 泉 光世 ＜平成28年4月＞		Ph. D (米国)		英語コミュニケーションA1 英語コミュニケーションA2 英語コンプリヘンションA1 英語コンプリヘンションA2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
65	兼任	講師	イチカワ イサオ 市川 功 ＜昭和28年4月＞		文学 修士		哲学 倫理学	1前・後,2前 1前・後,2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和61年4月)	
66	兼任	講師	イマイ タク 今井 拓 ＜平成28年4月＞		博士 (保健福祉学)		現代社会論	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
67	兼任	講師	イマゼキ アン 今関 アン ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※		言語と文化1 言語と文化2	1前・後,2前 1前・後,2前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成2年4月)	
68	兼任	講師	ウエムラ ヨシロウ 上村 芳郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※		哲学 倫理学	1前・後,2前 1前・後,2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
69	兼任	講師	ウザワ ユカ 鶴澤 由香 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
70	兼任	講師	オオガ タカシ 大郷 崇 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
71	兼任	講師	オオガキ クミコ 大柿 久美子 ＜平成28年4月＞		理学 博士						東京工業大学大学院 総合理工学研究所 教科 教務職員 (昭和59年4月)	
72	兼任	講師	オオサガ ヒサコ 大須 賀寿子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※		ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 アドバンス・コンプリヘンションB1 アドバンス・コンプリヘンションB2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
73	兼任	講師	オオスミ ユリコ 大住 有里子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)		英語コンプリヘンションC1 英語コンプリヘンションC2 アドバンス・コミュニケーションA1 アドバンス・コミュニケーションA2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
74	兼任	講師	オオタ コウイチ 太田 浩一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※		言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後,2前 1前・後,2前 1前・後,2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年9月)	
75	兼任	講師	オダイ カツヒコ 小田井 勝彦 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※		英語コミュニケーションB1 英語コミュニケーションB2 アドバンス・コミュニケーションB1 アドバンス・コミュニケーションB2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成19年4月)	
76	兼任	講師	オノ シュンタロウ 小野 俊太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※		英語コンプリヘンションC1 英語コンプリヘンションC2 アドバンス・コミュニケーションB1 アドバンス・コミュニケーションB2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
77	兼任	講師	オノダ マコト 小野田 眞 ＜平成28年4月＞		薬学 博士						(独)放射線医学総合研究所 専門業務員 (平成24年4月)	
78	兼任	講師	オバタ ヒロコ 小幡 裕子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)		英語コミュニケーションA1 英語コミュニケーションA2 アドバンス・コンプリヘンションC1 アドバンス・コンプリヘンションC2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
79	兼任	講師	カネコ ユスヒロ 兼子 安弘 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※		言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後,2前 1前・後,2前 1前・後,2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
80	兼任	講師	カメオカ コウイチ 亀岡 浩一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※		英語コミュニケーションA1 英語コミュニケーションA2 英語コンプリヘンションA1 英語コンプリヘンションA2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
81	兼任	講師	カンザキ モモヨ 神崎 百世 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)		英語コミュニケーションC1 英語コミュニケーションC2 アドバンス・コンプリヘンションC1 アドバンス・コンプリヘンションC2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
82	兼任	講師	キクチシゲアキ 菊地重秋 ＜平成29年4月＞		学術 博士		生命科学のための倫理・法律	2前	2	1	千葉工業大学 工学部 兼任講師 (平成15年4月)	
83	兼任	講師	ゴ アケミ 呉 明美 ＜平成28年4月＞		芸術学 修士		文学と芸術	1前・後,2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (昭和62年4月)	
84	兼任	講師	サカイ リュウタロウ 坂井 竜太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※		英語コミュニケーションC1 英語コミュニケーションC2 英語コンプリヘンションA1 英語コンプリヘンションA2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	
85	兼任	講師	シモダ アツコ 霜田 敦子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)		英語コミュニケーションC1 英語コミュニケーションC2 アドバンス・コンプリヘンションB1 アドバンス・コンプリヘンションB2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
86	兼任	講師	スガワラ アキラ 菅原 昭 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
87	兼任	講師	スガワラ タカコ 菅原 多嘉子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)		英語コンプリヘンションC1 英語コンプリヘンションC2 アドバンス・コミュニケーションB1 アドバンス・コミュニケーションB2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年9月)	
88	兼任	講師	スズキ ユミ 鈴木 由美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※		英語コミュニケーションC1 英語コミュニケーションC2 アドバンス・コンプリヘンションC1 アドバンス・コンプリヘンションC2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
89	兼任	講師	センダ リョウコ 仙田 量子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						海洋研究開発機構 技術研究副主任 (平成17年12月)	
90	兼任	講師	タザワ キョウコ 田沢 恭子 ＜平成28年4月＞		修士 (人文科学)		英語コミュニケーションA1 英語コミュニケーションA2 アドバンス・コンプリヘンションB1 アドバンス・コンプリヘンションB2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成9年4月)	
91	兼任	講師	タテヤ コウイチ 堅谷 宏一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)		英語コミュニケーションB1 英語コミュニケーションB2 英語コンプリヘンションA1 英語コンプリヘンションA2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
92	兼任	講師	タマキ マコト 田巻 誠 ＜平成28年4月＞		理学 博士		化学基礎	1前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
93	兼任	講師	ツカダ ヒデヒロ 塚田 英博 ＜平成28年4月＞		文学 修士 (英文学) ※		英語コミュニケーションA1 英語コミュニケーションA2 アドバンス・コンプリヘンションB1 アドバンス・コンプリヘンションB2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
94	兼任	講師	ナカザワ サトシ 中澤 聡 ＜平成28年4月＞		修士 (学術) ※		科学技術史	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
95	兼任	講師	ナガタ ヨシフミ 永田 喜文 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※		英語コミュニケーションB1 英語コミュニケーションB2 英語コンプリヘンションA1 英語コンプリヘンションA2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
96	兼任	講師	ナカムラ ミツル 中村 充 ＜平成28年4月＞		医学 博士		スポーツ科学	1前・後	12	6	順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成18年1月)	

97	兼任	講師	ナカムラシンゴ 中村慎吾 ＜平成30年9月＞		博士 (工学)						Catalent Pharma Solutions Account Director (平成23年11月)	
98	兼任	講師	ナガモト ヨシヒロ 永本 義弘 ＜平成28年4月＞		国際学 修士	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成21年4月)		
99	兼任	講師	ニシモト ヤスマサ 西元 康雅 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	文学と芸術 日本語表現法	1前・後, 2前 1前	4 6	2 6	千葉工業大学 兼任助講師 (平成23年4月)		
100	兼任	講師	ノマ カロコ 野間 香子 ＜平成28年4月＞		社会学 修士	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)		
101	兼任	講師	ハシバ ナオヒコ 橋場 直彦 ＜平成28年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	12	6	東京聖栄大学 健康栄養学部 准教授 (平成17年4月)		
102	兼任	講師	ハマダ ナオミチ 浜田 直道 ＜平成28年4月＞		工学士	情報処理	1前・後	12	6	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)		
103	兼任	講師	ヒラカワケイコ 平川慶子 ＜平成30年4月＞		医学 博士					日本医科大学 医学部 助教 (昭和58年4月)		
104	兼任	講師	ヒロセ ノブヨシ 廣瀬 伸良 ＜平成28年4月＞		医学 博士	スポーツ科学 身体と健康の科学	1前・後 1前・後, 2前	4 8	2 4	順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成13年12月)		
105	兼任	講師	ヒロベ トモヒサ 廣部 知久 ＜平成28年4月＞		理学 博士					(独)放射線医学総合 研究所シニア リサーチャー (平成23年4月)		
106	兼任	講師	ヒワタシ オサム 樋渡 修 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	数学基礎	1前	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)		
107	兼任	講師	マキノ ユウコ 牧野 裕子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文 学)	センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)		
108	兼任	講師	マチダ ジュンコ 町田 純子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)		
109	兼任	講師	マツムラ ヒナコ 松村 比奈子 ＜平成28年4月＞		博士 (法学)	憲法と社会	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)		
110	兼任	講師	ミヤゴシ アキノブ 宮越 昭暢 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					産業技術総合研究 所 主任研究員 (平成16年4月)		
111	兼任	講師	ムラカミ (イハ) ヨウコ 村上 (伊波) 陽子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	文学と芸術 日本語表現法	1前・後, 2前 1前	4 2	2 2	千葉工業大学 兼任助講師 (平成27年4月)		
112	兼任	講師	モリタ ユミコ 森田 由美子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションC 1 アドバンスト・コミュニケーションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成13年4月)		
113	兼任	講師	モリタケンジ 森田 健二 ＜平成30年9月＞		博士 (環境 学)					株式会社MACS 取締役 (平成26年4月)		
114	兼任	講師	ヤギ モナコ 八木 茂那子 ＜平成28年4月＞		文学 修士	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)		
115	兼任	講師	ヤスタ ナオミ 安田 直己 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10	5 5	千葉工業大学 兼任講師 (昭和54年4月)		
116	兼任	講師	ヤマダ シンヤ 山田 慎也 ＜平成28年4月＞		博士 (社会 学)	異文化理解	1前・後, 2前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成15年4月)		
117	兼任	講師	ヤマト エミ 大和 恵美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)		
118	兼任	講師	ヨコサカ ケンジ 横坂 健治 ＜平成28年4月＞		法学 修士 ※	憲法と社会	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年9月)		

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

教 員 の 氏 名 等												
(先進工学部知能メディア工学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する 週当たり平均日数
1	専	教授	イイダ カズヒロ 飯田 一博 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		統計解析 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト1 メディア工学実験 音響工学基礎 音響工学応用 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	2後 1前 2前 3前 3前 3後 3後 0.2 3後 4前 4後 4通	2 0.6 2 2 2 2 0.2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成19年4月)	5日
2	専	教授	ヤマザキ カズヒロ 山崎 和彦 ＜平成28年4月＞		博士 (芸術工 学)		視覚造形基礎 デジタルファブリケーション※ 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト1 情報デザイン基礎 情報デザイン演習 情報デザイン論※ テクノロジーアート※ 情報デザイン応用※ 情報デザイン応用演習 知能メディアチャレンジ※ コミュニケーションデザイン演習 ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	1後 2後 1前 2前 2後 3前 3前 3前 3後 3後 3後 2前 3後 4前 4後 4通	2 0.9 0.6 2 2 2 0.9 1 1 2 0.2 2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成19年4月)	5日
3	専	教授	タケモト ヒロノリ 竹本 浩典 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		メディア基礎 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト2 メディア工学実験 音声工学 ネットワーク・データ工学実験 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	2後 1前 2後 3前 3前 3後 3後 3後 4前 4後 4通	2 0.6 2 2 2 2 0.2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	独立行政法人 情報通信研究機構 ユニバーサルコ ミュニケーション 研究所 研究員 (平成21年4月)	5日
4	専	教授	チサキ ヨシフミ 菰木 禎史 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		離散数学 技術者倫理 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト2 メディア工学実験 バーチャルリアリティ 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	2前 3後 1前 2後 3前 4前 3後 3後 4前 4後 4通	2 2 0.6 2 2 2 0.2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	熊本大学 准教授 (平成8年4月)	5日
5	専	教授	モリ シンイチロウ 森 信一郎 ＜平成28年4月＞		博士 (情報 学)		コンピュータ工学 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト2 人工知能基礎 ネットワーク・データ工学実験 データマイニング 機械学習 データベース工学 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	2前 1前 2後 2後 3後 3後 3前 3後 3後 3後 4前 4後 4通	2 0.6 2 2 2 2 2 2 0.4 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	新潟通研究所 ヒューマンセン トリックコンピュ タインク研究所 主幹研究員 (昭和62年4月)	5日
6	専	教授	アンドウ マサヤ 安藤 昌也 ＜平成28年4月＞		博士 (学術)		メディアデザイン論※ メディア史※ 人間中心設計 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト1 情報デザイン演習 情報デザイン論※ 情報デザイン応用※ 情報デザイン応用演習 ユーザエクスペリエンスデザイン 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	2後 2後 3前 1前 2前 3前 3前 3後 3後 4前 3後 3後 4前 4後 4通	0.9 0.9 2 0.6 2 2 1 0.9 2 2 0.4 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成23年4月)	5日
7	専	教授	コンノ ススム 今野 将 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		プログラミング言語基礎 プログラミング言語応用 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト1 ネットワーク基礎 知識工学 コンピュータネットワーク ネットワーク・データ工学応用 ネットワーク・データ工学実験 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	1後 2後 1前 2前 2前 3前 3前 4前 3後 3後 3後 4前 4後 4通	2 2 0.9 2 2 2 2 2 0.4 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成20年4月)	5日
8	専	教授	ミヤタ タカミチ 宮田 高道 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		情報理論 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト1 メディア工学実験 画像処理基礎 画像処理応用 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	2前 1前 2前 3前 3前 3後 3後 3後 4前 4後 4通	2 0.6 2 2 2 2 0.4 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成24年4月)	5日
9	専	准教授	ナカモト カズヒロ 中本 和宏 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		視覚造形基礎 デジタルデザイン基礎演習※ ヒューマンインタフェース論※ デジタルファブリケーション※ メディアデザイン論※ 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト2 テクノロジーアート※ フィジカルインタフェース 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	1後 2前 2前 2後 2後 1前 2後 3前 3後 3後 3後 4前 4後 4通	2 1 1 1 1 0.9 2 0.9 2 0.2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成22年4月)	5日

10	専	助教	タナベ リナ 田邊 里奈 ＜平成28年4月＞		博士 (感性科学)	視覚造形基礎 デジタルデザイン基礎演習※ ヒューマンインタフェース論※ メディア史※ コミュニケーションデザイン演習 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト2 情報デザイン基礎 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	1後 2前 2前 2後 2前 1前 2後 2後 3後 3後 4前 4後 4通	2 0.9 0.9 1 1 0.6 2 2 2 0.2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 助教 (平成25年4月)	5日	
11	兼任	教授	アイカワ フミヒロ 相川 文弘 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後,4前	4	2		千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和62年4月)	
12	兼任	教授	アカザワ モトム 赤澤 元務 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2 国際社会論	1前・後,2前 1前・後,2前 3前・後,4前	10 10 4	5 5 2		千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和55年4月)	
13	兼任	教授	イコタ オサム 伊古田 理 ＜平成28年4月＞		文学 修士	倫理学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後,2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 4 1 1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平12年4月)	
14	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2	1前・後,2前 1前・後,2前	10 10	5 5		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成30年4月＞		修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2	1前・後,2前 1前・後,2前	10 10	5 5		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
15	兼任	教授	オチ トシユキ 越智 敏之 ＜平成28年4月＞		文学 修士	センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションC1 英語コンプリヘンションC2 アドバンスト・コミュニケーションB1 アドバンスト・コミュニケーションB2 アドバンスト・コンプリヘンションC1 アドバンスト・コンプリヘンションC2 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)		
16	兼任	教授	カサシマ ヨシオ 笠嶋 義夫 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	環境科学概論	1前・後,2前	8	4		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成15年4月)	
17	兼任	教授	カワタ モトヒロ 鎌田 元弘 ＜平成28年4月＞		学術 博士	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4	1	1		千葉工業大学 工学部 教授 (平成2年4月)	
18	兼任	教授	カワタ アキヒサ 河田 明久 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	歴史と人間 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後,2前 1前 2後 2後	8 4 4 4	4 4 2 2		千葉工業大学 教育センター 教授 (平21年4月)	
19	兼任	教授	クサノ シゲユキ 草野 滋之 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後,2前 2後 2後	2 6 2	1 3 1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成10年4月)	
20	兼任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一 ＜平成28年4月＞		修士 (法学) ※	憲法と社会 政治と社会 グローバル時代の法 課題探究セミナー 総合学際科目 総合科学特論 日本語表現法	1前・後,2前 3前・後,4前 3前・後,4前 2後 2後 4前・後 1前	4 4 4 4 2 2 1	2 2 2 2 1 1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
21	兼任	教授	シバヤ カズロウ 渋谷 和郎 ＜平成28年4月＞		Ph. D (英国)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 アドバンスト・コミュニケーションA1 アドバンスト・コミュニケーションA2	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成24年4月)	
22	兼任	教授	ジョー ハルキ 徐 春暉 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	国際インターン	1・2・3・4	1	1		千葉工業大学 社会システム科学 部 教授 (平成14年9月)	
23	兼任	教授	スガワラ マサヒコ 菅原 昌彦 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物理の世界と先端技術	3前・後,4前	2	1		千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和56年4月)	
24	兼任	教授	スズキ ススム 鈴木 進 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物理の世界と先端技術 ボランティア	3前・後,4前 1・2・3・4	4 1	2 1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成6年4月)	
25	兼任	教授	タケウチ エミコ 竹内 栄美子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文学)	文学と芸術 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目 総合科学特論	1前・後,2前 1前 2後 2後 4前・後	8 4 4 2 2	4 4 2 1 1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平7年4月)	
26	兼任	教授	ツクシ イタル 筑紫 格 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後,4前	2	1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
27	兼任	教授	トウジョウ コウジ 東條 晃次 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	数学基礎 確率統計	1前 1後	2 2	1 1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
28	兼任	教授	トナミ ユウイチ 利波 雄一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後,2前 1前・後,2前 1前・後,2前	10 10 4	5 5 2		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
29	兼任	教授	ハンガチ ヒデコ 橋口 秀子 ＜平成28年4月＞		博士 (数理科学)	知能メディア基礎数学	1後	2	1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
30	兼任	教授	ハシモト シュウイチ 橋本 修一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションA1 英語コミュニケーションA2 ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションA1 英語コンプリヘンションA2	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
31	兼任	教授	ハンザワ ヨウコ 半沢 洋子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	環境科学概論	1前・後,2前	6	3		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
32	兼任	教授	マツザキ ゲン 松崎 元 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	キャリアデザイン1 キャリアデザイン2 キャリアデザイン3 国内インターン	1前 1後 3前 1・2・3・4	1 1 1 1	1 1 1 1		千葉工業大学 工学部 教授 (平成14年4月)	
33	兼任	教授	ムトウ タクミ 武藤 巧 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物理の世界と先端技術 物理学実験	3前・後,4前 1後	2 2	1 1		千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	

34	兼任	教授	モリタ ヒラク 森田 啓 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前・後	14 2 4 2 6	7 1 2 1 3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成13年4月)	
35	兼任	教授	ヨコヤマ トシヤキ 横山 利章 ＜平成28年4月＞		理学 博士	知能メディア基礎数学	1後	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成3年4月)	
36	兼任	教授	ヨダ トクコ 依田 十久子 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※	現代社会論	1前・後, 2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成元年4月)	
37	兼任	准教授	アイハラ ナオミ 相原 直美 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 英語コミュニケーション C 1 英語コミュニケーション C 2 アドバンスト・コンプリヘンション B 1 アドバンスト・コンプリヘンション B 2	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成13年4月)	
38	兼任	准教授	アライ ナホコ 有井 奈保子 ＜平成28年4月＞		文学 修士	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 英語コミュニケーション B 1 英語コミュニケーション B 2 アドバンスト・コンプリヘンション B 1 アドバンスト・コンプリヘンション B 2	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和59年4月)	
39	兼任	准教授	イシカワ コウイチロウ 石川 浩一郎 ＜平成28年4月＞		博士 (知識科学)	情報処理	1前・後	16	8	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
40	兼任	准教授	イズミ ヒロアキ 泉 英明 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	線形代数	1前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	
41	兼任	准教授	イトウ ツヨシ 伊藤 剛司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	線形代数	1前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
42	兼任	准教授	キヤマ タカシ 木山 隆 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
43	兼任	准教授	コガ ツヨシ 古賀 毅 ＜平成28年4月＞		博士 (教育学)	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成25年4月)	
44	兼任	准教授	コバヤシ マナブ 小林 学 ＜平成28年4月＞		博士 (学術)	科学技術史 課題探究セミナー 総合学際科目 総合科学特論 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 4前・後 1前	12 6 2 2 1	6 3 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
45	兼任	准教授	スドウ イサオ 須藤 勲 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解 国際社会論 課題探究セミナー	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前 3前・後, 4前 2後	10 10 2 2 2	5 5 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
46	兼任	准教授	タニアイ テツユキ 谷合 哲行 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物質科学	3前・後, 4前	8	4	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	
47	兼任	准教授	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成28年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
	兼任	講師	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成29年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
48	兼任	准教授	ハタ セイノスケ 畑 誠之助 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※	スポーツ科学 スポーツアクティブラーニング	1前・後 3前・後, 4前・後	26 2	13 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和62年4月)	
49	兼任	准教授	ハマノ シホ 浜野 志保 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 英語コンプリヘンション A 1 英語コンプリヘンション A 2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
50	兼任	准教授	ヒガシヤマ コウジ 東山 幸司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
51	兼任	准教授	ヒキハラ ユウキ 引原 有輝 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング 総合科学特論	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前・後 4前・後	12 4 2 2 8 2	6 1 2 1 4 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
52	兼任	助教	フクシマ ショウコ 福島 尚子 ＜平成28年4月＞		修士 (教育学) ※	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成27年4月)	
53	兼任	准教授	ミナミサワ マユミ 南澤 鷹優寛 (南澤 真弓) ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物質科学 環境科学概論	3前・後, 4前 1前・後, 2前	4 6	2 3	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
54	兼任	准教授	ミムラ タカオ 三村 尚央 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 英語コンプリヘンション C 1 英語コンプリヘンション C 2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
55	兼任	准教授	ヤマウチ マサキ 山内 政樹 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 アドバンスト・コンプリヘンション B 1 アドバンスト・コンプリヘンション B 2 アドバンスト・コミュニケーション A 1 アドバンスト・コミュニケーション A 2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 2前 2後 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
56	兼任	准教授	ヨシダ アキラ 吉田 聡 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	哲学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 4 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平22年4月)	
57	兼任	准教授	リョウ イショウ 廖 伊庄 ＜平成28年4月＞		学士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成2年4月)	

58	兼任	准教授	ワカバヤシ ヒトシ 若林 省 ＜平成28年4月＞	博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング 総合科学特論	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前・後 4前・後	14 2 4 2 6 2	7 1 2 1 3 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
59	兼任	准教授	ワタナベ ツトム 渡邊 努 ＜平成28年4月＞	博士 (工学)	物理学基礎 物理学実験	1前 1後	2 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
60	兼任	助教	イチカワ ヨウコ 市川 洋子 ＜平成28年4月＞	修士 (心理学) ※	心理学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 2後 2後	4 4 2	2 2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成17年4月)	
61	兼任	助教	ウィリアム・フィッシャー William Fisher ＜平成28年4月＞	M. S. Ed.	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コミュニケーションC 1 アドバンスト・コミュニケーションC 2 イングリッシュアクティブラーニング 1 イングリッシュアクティブラーニング 2 イングリッシュアクティブラーニング 3	1前 1後 2前 2後 3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成7年4月)	
62	兼任	助教	カー・リチャード・ジョンソン Kirk Richard Jonson ＜平成28年4月＞	M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コミュニケーションC 1 アドバンスト・コミュニケーションC 2 イングリッシュアクティブラーニング 1 イングリッシュアクティブラーニング 2 イングリッシュアクティブラーニング 3	1前 1後 2前 2後 3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成23年4月)	
63	兼任	助教	カクバリ ケンイチ 角張 健一 ＜平成28年4月＞	理学 修士 ※	情報処理	1前・後	16	8	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成8年4月)	
64	兼任	助教	カネダ コウイチ 金田 晃一 ＜平成28年4月＞	博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目 スポーツアクティブラーニング	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後 3前・後, 4前・後	14 2 4 2 8	7 1 2 1 4	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	
65	兼任	助教	ヤスタケ ノブシ 安武 伸俊 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)	物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
66	兼任	講師	アイハラ ヨシユキ 相原 佳之 ＜平成28年4月＞	博士 (文学)	歴史と人間	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任助講師 (平成27年4月)	
67	兼任	講師	イズミ ミツコ 泉 光世 ＜平成28年4月＞	Ph. D (米国)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
68	兼任	講師	イチカワ イサオ 市川 功 ＜昭和28年4月＞	文学 修士	哲学 倫理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和61年4月)	
69	兼任	講師	イマイ タク 今井 拓 ＜平成28年4月＞	博士 (保健福祉学)	経済学 現代社会論	3前・後, 4前 1前・後, 2前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
70	兼任	講師	イマゼキ アン 今関 アン ＜平成28年4月＞	修士 (文学) ※	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成2年4月)	
71	兼任	講師	イワサキ サブローウ 岩崎 三郎 ＜平成28年4月＞	理学 博士	物理学実験	1後	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成元年4月)	
72	兼任	講師	ウエムラ ヨシロウ 上村 芳郎 ＜平成28年4月＞	文学 修士 ※	哲学 倫理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
73	兼任	講師	ウザワ ユカ 鶴澤 由香 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
74	兼任	講師	オオガ タカシ 大郷 崇 ＜平成28年4月＞	博士 (経済学)	経済学	3前・後, 4前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
75	兼任	講師	オオガキ クミコ 大柿 久美子 ＜平成28年4月＞	理学 博士	物質科学	3前・後, 4前	4	2	東京工業大学大学院 総理工学研究院 専攻 教務職員 (昭和59年4月)	
76	兼任	講師	オオサガ ヒサコ 大須 賀寿子 ＜平成28年4月＞	修士 (文学) ※	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 アドバンスト・コンプリヘンション B 1 アドバンスト・コンプリヘンション B 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
77	兼任	講師	オオスミ ユリコ 大住 有里子 ＜平成28年4月＞	修士 (文学)	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションA 1 アドバンスト・コミュニケーションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
78	兼任	講師	オオタ コウイチ 太田 浩一 ＜平成28年4月＞	修士 (文学) ※	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年9月)	
79	兼任	講師	オダイ カツヒコ 小田井 勝彦 ＜平成28年4月＞	修士 (文学) ※	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成19年4月)	
80	兼任	講師	オノ シュンタロウ 小野 俊太郎 ＜平成28年4月＞	文学 修士 ※	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
81	兼任	講師	オノダ マコト 小野田 真 ＜平成28年4月＞	薬学 博士	生命科学	3前・後, 4前	8	4	(独)放射線医学総合研究所 専門業務員 (平成24年4月)	
82	兼任	講師	オバタ ヒロコ 小幡 裕子 ＜平成28年4月＞	修士 (文学)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
83	兼任	講師	カネコ ヤスヒロ 兼子 安弘 ＜平成28年4月＞	修士 (文学) ※	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
84	兼任	講師	カメオカ コウイチ 亀岡 浩一 ＜平成28年4月＞	文学 修士 ※	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
85	兼任	講師	カンザキ モモヨ 神崎 百世 ＜平成28年4月＞	M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
86	兼任	講師	ゴ アケミ 呉 明美 ＜平成28年4月＞	芸術学 修士	文学と芸術	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (昭和62年4月)	
87	兼任	講師	コマツ ナオキ 小松 直樹 ＜平成28年4月＞	理学 修士 ※	物理学実験	1後	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
88	兼任	講師	サイトウ ヨウヘイ 斎藤 陽平 ＜平成28年4月＞	博士 (理学)	物理学実験	1後	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	

89	兼任	講師	サカイ リュウタロウ 坂井 竜太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	
90	兼任	講師	シモダ アツコ 霜田 敦子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンス・コンプリヘンションB 1 アドバンス・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
91	兼任	講師	スガワラ アキラ 菅原 昭 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)	経済学 国際社会論	3前・後, 4前 3前・後, 4前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
92	兼任	講師	スガワラ タカコ 菅原 多嘉子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンス・コミュニケーションB 1 アドバンス・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年9月)	
93	兼任	講師	スズキ ユミ 鈴木 由美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンス・コンプリヘンションC 1 アドバンス・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
94	兼任	講師	スミトモ ヨウスケ 住友 洋介 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理学基礎	1前		2	1	高エネルギー加速器 研究機構 素粒子 原子核研究所 博士研究員 (平成26年1月)
95	兼任	講師	センダ リョウコ 仙田 量子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前		8	4	海洋研究開発機構 技術研究副主任 (平成17年12月)
96	兼任	講師	タザワ キョウコ 田沢 恭子 ＜平成28年4月＞		修士 (人文科学)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンス・コンプリヘンションB 1 アドバンス・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成9年4月)	
97	兼任	講師	タテヤ コウイチ 堅谷 宏一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
98	兼任	講師	ツカダ ヒデヒロ 塚田 英博 ＜平成28年4月＞		文学 修士 (英文学) ※	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンス・コンプリヘンションB 1 アドバンス・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
99	兼任	講師	ナカザワ サトシ 中澤 聡 ＜平成28年4月＞		修士 (学術) ※	科学技術史	1前・後, 2前		8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)
100	兼任	講師	ナガタ ヨシフミ 永田 喜文 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
101	兼任	講師	ナカムラ ミツル 中村 充 ＜平成28年4月＞		医学 博士	スポーツ科学	1前・後		12	6	順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成18年1月)
102	兼任	講師	ナガモト ヨシヒロ 永本 義弘 ＜平成28年4月＞		国際学 修士	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンス・コミュニケーションB 1 アドバンス・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成21年4月)	
103	兼任	講師	ニシモト ヤスマサ 西元 康雅 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	文学と芸術 日本語表現法	1前・後, 2前 1前	4 6	2 6	千葉工業大学 兼任助講師 (平成23年4月)	
104	兼任	講師	ノマ カヨコ 野間 香与子 ＜平成28年4月＞		社会学 修士	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンス・コンプリヘンションC 1 アドバンス・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
105	兼任	講師	ハシバ ナオヒコ 橋場 直彦 ＜平成28年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後		12	6	東京聖栄大学 健康栄養学部 准教授 (平成17年4月)
106	兼任	講師	ハマダ ナオミチ 浜田 直道 ＜平成28年4月＞		工学士	情報処理	1前・後		12	6	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)
107	兼任	講師	ヒロセ ノブヨシ 廣瀬 伸良 ＜平成28年4月＞		医学 博士	スポーツ科学 身体と健康の科学	1前・後 1前・後, 2前	4 8	2 4	順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成13年12月)	
108	兼任	講師	ヒロベ トモヒサ 廣部 知久 ＜平成28年4月＞		理学 博士	生命科学	3前・後, 4前		8	4	(独)放射線医学総合 研究所シニアリ サーチャー (平成23年4月)
109	兼任	講師	フエキ シゲオ 笛木 茂雄 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	数学基礎	1前		2	1	常葉大学 教育学部 教授 (平成14年4月)
110	兼任	講師	マキノ ユウコ 牧野 裕子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文科学)	センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 アドバンス・コンプリヘンションB 1 アドバンス・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
111	兼任	講師	マチダ ジュンコ 町田 純子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンス・コンプリヘンションC 1 アドバンス・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
112	兼任	講師	マツムラ ヒナコ 松村 比奈子 ＜平成28年4月＞		博士 (法学)	憲法と社会 政治と社会 グローバル時代の法	1前・後, 2前 3前・後, 4前 3前・後, 4前	4 8 4	2 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
113	兼任	講師	ミヤゴシ アキノブ 宮越 昭暢 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	地球科学	3前・後, 4前		8	4	産業技術総合研究 所 主任研究員 (平成16年4月)
114	兼任	講師	ムラカミ (イハ) ヨウコ 村上 (伊波) 陽子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	文学と芸術 日本語表現法	1前・後, 2前 1前	4 2	2 2	千葉工業大学 兼任助講師 (平成27年4月)	
115	兼任	講師	モリタ ユミコ 森田 由美子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンス・コミュニケーションC 1 アドバンス・コミュニケーションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成13年4月)	
116	兼任	講師	ヤギ モナコ 八木 茂那子 ＜平成28年4月＞		文学 修士	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンス・コンプリヘンションC 1 アドバンス・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)	
117	兼任	講師	ヤスダ ナオミ 安田 直己 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10	5 5	千葉工業大学 兼任講師 (昭和54年4月)	
118	兼任	講師	ヤスダ マサミ 安田 正實 ＜平成28年4月＞		理学 博士	確率統計	1後		2	1	千葉大学 理学研究科 名誉教授 (昭和50年5月)
119	兼任	講師	ヤマダ シンヤ 山田 慎也 ＜平成28年4月＞		博士 (社会学)	異文化理解	1前・後, 2前		4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成15年4月)
120	兼任	講師	ヤマト エミ 大和 恵美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 アドバンス・コンプリヘンションB 1 アドバンス・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
121	兼任	講師	ヨコサカ ケンジ 横坂 健治 ＜平成28年4月＞		法学 修士 ※	憲法と社会 グローバル時代の法	1前・後, 2前 3前・後, 4前	8 12	4 6	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年9月)	

教 員 の 氏 名 等												
(先進工学部知能メディア工学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する 週当たり平均日数
1	専	教授	イイダ カズヒロ 飯田 一博 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		メディア工学実験 音響工学基礎 音響工学応用 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	3前 3前 3後 3後 3後 4前 4後 4通	2 2 2 0.2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成19年4月)	5日
2	専	教授	ヤマザキ カズヒロ 山崎 和彦 ＜平成28年4月＞		博士 (芸術工 学)		情報デザイン演習 情報デザイン論※ テクノロジーアート※ 情報デザイン応用※ 情報デザイン応用演習 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	3前 3前 3前 3後 3後 3後 3後 4前 4後 4通	2 0.9 1 1 2 0.2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成19年4月)	5日
3	専	教授	タケモト ヒロノリ 竹本 浩典 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		メディア工学実験 音声工学 ネットワーク・データ工学実験 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	3前 3前 3後 3後 3後 4前 4後 4通	2 2 2 0.2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	独立行政法人 情報通信研究機構 ユニバーサルコ ミュニケーション 研究所 研究員 (平成21年4月)	5日
4	専	教授	チサキ ヨシフミ 菰木 禎史 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		技術者倫理 メディア工学実験 バーチャルリアリティ 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	3後 3前 4前 3後 3後 4前 4後 4通	2 2 2 0.2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	熊本大学 准教授 (平成8年4月)	5日
5	専	教授	モリ シンイチロウ 森 信一郎 ＜平成28年4月＞		博士 (情報 学)		ネットワーク・データ工学実験 データマイニング 機械学習 データベース工学 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	3後 3後 3前 3後 3後 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 0.4 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	新潟通研研究所 ヒューマンセン トリックコンピュー ティング研究所 主幹研究員 (昭和62年4月)	5日
6	専	教授	アンドウ マサヤ 安藤 昌也 ＜平成28年4月＞		博士 (学術)		人間中心設計 情報デザイン演習 情報デザイン論※ 情報デザイン応用※ 情報デザイン応用演習 ユーザエクスペリエンスデザイン 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	3前 3前 3前 3後 4前 3後 3後 4前 4後 4通	2 2 1 0.9 2 2 0.4 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成23年4月)	5日
7	専	教授	コンノ ススム 今野 将 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		知識工学 コンピュータネットワーク ネットワーク・データ工学応用 ネットワーク・データ工学実験 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	3前 3前 4前 3後 3後 3後 4前 4後 4通	2 2 2 2 0.4 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成20年4月)	5日
8	専	教授	ミヤタ タカミチ 宮田 高道 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		メディア工学実験 画像処理基礎 画像処理応用 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	3前 3前 3後 3後 3後 4前 4後 4通	2 2 2 0.4 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成24年4月)	5日
9	専	准教授	ナカモト カズヒロ 中本 和宏 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		テクノロジーアート※ フィジカルインタフェース 知能メディアチャレンジ※ ゼミナール1 ゼミナール2 ゼミナール3 卒業研究	3前 3後 3後 3後 4前 4後 4通	0.9 2 0.2 2 2 2 5	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成22年4月)	5日

10	専	助教	タナベ リナ 田邊 里奈 ＜平成28年4月＞		博士 (感性科学)		知能メディアチャレンジ※ ゼミナール 1 ゼミナール 2 ゼミナール 3 卒業研究	3後 3後 4前 4後 4通	0.2 2 2 2 5	1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 助教 (平成25年4月)	5日
11	兼任	教授	アイカワ フミヒロ 相川 文弘 ＜平成28年4月＞		理学 博士		物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和62年4月)	
12	兼任	教授	アカザワ モトム 赤澤 元務 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)		国際社会論	3前・後, 4前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和55年4月)	
13	兼任	教授	イコタ オサム 伊古田 理 ＜平成28年4月＞		文学 修士						千葉工業大学 教育センター 教授 (平12年4月)	
14	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成30年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
15	兼任	教授	オチ トシユキ 越智 敏之 ＜平成28年4月＞		文学 修士						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
16	兼任	教授	カサシマ ヨシオ 笠嶋 義夫 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成15年4月)	
17	兼任	教授	カマタ モトヒロ 鎌田 元弘 ＜平成28年4月＞		学術 博士		ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成2年4月)	
18	兼任	教授	カワタ アキヒサ 河田 明久 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 教育センター 教授 (平21年4月)	
19	兼任	教授	クサノ シゲユキ 草野 滋之 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成10年4月)	
20	兼任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一 ＜平成28年4月＞		修士 (法学) ※	政治と社会 グローバル時代の法	3前・後, 4前 3前・後, 4前	4 4	2 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)		
						総合科学特論	4前・後	2	1			
21	兼任	教授	シブヤ カズロウ 渋谷 和郎 ＜平成28年4月＞		Ph. D (英国)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成24年4月)	
22	兼任	教授	ジョ ハルキ 徐 春暉 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		国際インターン	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 社会システム科学 部 教授 (平成14年9月)	
23	兼任	教授	スガワラ マサヒコ 菅原 昌彦 ＜平成28年4月＞		理学 博士		物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和56年4月)	
24	兼任	教授	スズキ ススム 鈴木 進 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		物理の世界と先端技術 ボランティア	3前・後, 4前 1・2・3・4	4 1	2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成6年4月)	
25	兼任	教授	タケウチ エミコ 竹内 栄美子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文科学)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平7年4月)	
26	兼任	教授	ツクシ イタル 筑紫 格 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
27	兼任	教授	トウジョウ コウジ 東條 晃次 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
28	兼任	教授	トナミ ユウイチ 利波 雄一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
29	兼任	教授	ハンダチ ヒデコ 橋口 秀子 ＜平成28年4月＞		博士 (数理科学)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
30	兼任	教授	ハンモト シュウイチ 橋本 修一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
31	兼任	教授	ハンザワ ヨウコ 半沢 洋子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
32	兼任	教授	マツザキ ゲン 松崎 元 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		キャリアデザイン3 国内インターン	3前 1・2・3・4	1 1	1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成14年4月)	
33	兼任	教授	ムトウ タクミ 武藤 巧 ＜平成28年4月＞		理学 博士		物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
34	兼任	教授	モリタ ヒラク 森田 啓 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)		スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成13年4月)	
35	兼任	教授	ヨコヤマ トシアキ 横山 利章 ＜平成28年4月＞		理学 博士						千葉工業大学 教育センター 教授 (平成3年4月)	

36	兼任	教授	ヨダ トクコ 依田 十久子 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※								千葉工業大学 教育センター 教授 (平成元年4月)	
37	兼任	准教授	アイハラ ナオミ 相原 直美 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成13年4月)	
38	兼任	准教授	アライ ナホコ 有井 奈保子 ＜平成28年4月＞		文学 修士								千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和59年4月)	
39	兼任	准教授	イシカワ コウイチロウ 石川 浩一郎 ＜平成28年4月＞		博士 (知識科 学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
40	兼任	准教授	イズミ ヒデアキ 泉 英明 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	
41	兼任	准教授	イトウ ツヨシ 伊藤 剛司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
42	兼任	准教授	キヤマ タカシ 木山 隆 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1			千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
43	兼任	准教授	コガ ツヨシ 古賀 毅 ＜平成28年4月＞		博士 (教育 学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成25年4月)	
44	兼任	准教授	コバヤシ マナブ 小林 学 ＜平成28年4月＞		博士 (学術)		総合科学特論	4前・後	2	1			千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
45	兼任	准教授	スドウ イサオ 須藤 勲 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)		国際社会論	3前・後, 4前	2	1			千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
46	兼任	准教授	タニアイ テツユキ 谷合 哲行 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		物質科学	3前・後, 4前	8	4			千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	
47	兼任	准教授	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成28年4月＞		体育学 修士								千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
	兼任	講師	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成29年4月＞		体育学 修士								千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
48	兼任	准教授	ハタ セイノスケ 畑 誠之助 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※		スポーツアクティブラーニング	3前・後, 4前・後	2	1			千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和62年4月)	
49	兼任	准教授	ハマノ シホ 浜野 志保 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
50	兼任	准教授	ヒガシヤマ コウジ 東山 幸司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		物理の世界と先端技術	3前・後, 4前	2	1			千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
51	兼任	准教授	ヒキハラ ヌウキ 引原 有輝 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)		スポーツアクティブラーニング 総合科学特論	3前・後, 4前・後 4前・後	8 2	4 1			千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
52	兼任	助教	フクシマ ショウコ 福嶋 尚子 ＜平成28年4月＞		修士 (教育 学) ※								千葉工業大学 教育センター 助教 (平成27年4月)	
53	兼任	准教授	ミナミサワ マユミ 南澤 鷹優寛 (南澤 真弓) ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		物質科学	3前・後, 4前	4	2			千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
54	兼任	准教授	ミムラ タカオ 三村 尚央 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
55	兼任	准教授	ヤマウチ マサキ 山内 政樹 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
56	兼任	准教授	ヨシダ アキラ 吉田 聡 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成22年4月)	
57	兼任	准教授	リョウ イシヨウ 廖 伊庄 ＜平成28年4月＞		学士 (文学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成2年4月)	
58	兼任	准教授	ワカバヤシ ヒトシ 若林 斉 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)		スポーツアクティブラーニング 総合科学特論	3前・後, 4前・後 4前・後	6 2	3 1			千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
59	兼任	准教授	ワタナベ ツトム 渡邊 努 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)								千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
60	兼任	助教	イチカワ ヨウコ 市川 洋子 ＜平成28年4月＞		修士 (心理 学) ※								千葉工業大学 教育センター 助教 (平成17年4月)	
61	兼任	助教	ウィリアム・フィッシャー William Fisher ＜平成28年4月＞		M. S. Ed.		イングリッシュアクティブラーニング 1 イングリッシュアクティブラーニング 2 イングリッシュアクティブラーニング 3	3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1	1 1 1			千葉工業大学 教育センター 助教 (平成7年4月)	
62	兼任	助教	カーク・リチャード・ジョンソン Kirk Richard Jonson ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)		イングリッシュアクティブラーニング 1 イングリッシュアクティブラーニング 2 イングリッシュアクティブラーニング 3	3前 3後 3前・後, 4前・後	1 1 1	1 1 1			千葉工業大学 教育センター 助教 (平成23年4月)	

63	兼任	助教	カクバリ ケンイチ 角張 健一 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※						千葉工業大学 教育センター 助教 (平成28年4月)	
64	兼任	助教	カネダ コウイチ 金田 晃一 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科 学)		スポーツアクティブラーニング	3前・後、4前・後	8	4	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	
65	兼任	助教	ヤスタケ ノブトシ 安武 伸俊 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		物理の世界と先端技術	3前・後、4前	2	1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
66	兼任	講師	アイハラ ヨシユキ 相原 佳之 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
67	兼任	講師	イズミ ミツヨ 泉 光世 ＜平成28年4月＞		Ph. D (米国)						千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
68	兼任	講師	イチカワ イサオ 市川 功 ＜昭和28年4月＞		文学 修士						千葉工業大学 兼任講師 (昭和61年4月)	
69	兼任	講師	イマイ タク 今井 拓 ＜平成28年4月＞		博士 (保健福 祉学)		経済学	3前・後、4前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
70	兼任	講師	イマゼキ アン 今関 アン ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成2年4月)	
71	兼任	講師	イワサキ サブロー 岩崎 三郎 ＜平成28年4月＞		理学 博士						千葉工業大学 兼任講師 (平成元年4月)	
72	兼任	講師	ウエムラ ヨシロウ 上村 芳郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
73	兼任	講師	ウザワ ユカ 鶴澤 由香 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		地球科学	3前・後、4前	4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
74	兼任	講師	オオガ タカシ 大鋸 崇 ＜平成28年4月＞		博士 (経済 学)		経済学	3前・後、4前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
75	兼任	講師	オオガキ クミコ 大柿 久美子 ＜平成28年4月＞		理学 博士		物質科学	3前・後、4前	4	2	東京工業大学大学院 総理工学研 究科 教務職員 (昭和59年4月)	
76	兼任	講師	オオサガ ヒサコ 大須 賀寿子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
77	兼任	講師	オオスミ ユリコ 大住 有里子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
78	兼任	講師	オオタ コウイチ 太田 浩一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成7年9月)	
79	兼任	講師	オダイ カツヒコ 小田井 勝彦 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成19年4月)	
80	兼任	講師	オノ シュンタロウ 小野 俊太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
81	兼任	講師	オノダ マコト 小野田 眞 ＜平成28年4月＞		薬学 博士		生命科学	3前・後、4前	8	4	(独)放射線医学総 合研究所 専門業務員 (平成24年4月)	
82	兼任	講師	オバタ ヒロコ 小幡 裕子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
83	兼任	講師	カネコ ヤスヒロ 兼子 安弘 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
84	兼任	講師	カメオカ コウイチ 亀岡 浩一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
85	兼任	講師	カンザキ モモヨ 神崎 百世 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)						千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
86	兼任	講師	ゴ アケミ 呉 明美 ＜平成28年4月＞		芸術学 修士						千葉工業大学 兼任講師 (昭和62年4月)	
87	兼任	講師	コマツ ナオキ 小松 直樹 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
88	兼任	講師	サイトウ ヨウヘイ 斎藤 陽平 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
89	兼任	講師	サカイ リュウタロウ 坂井 竜太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)	
90	兼任	講師	シモダ アツコ 霜田 敦子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
91	兼任	講師	スガワラ アキラ 菅原 昭 ＜平成28年4月＞		博士 (経済 学)		経済学 国際社会論	3前・後、4前 3前・後、4前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
92	兼任	講師	スガワラ タカコ 菅原 多嘉子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)						千葉工業大学 兼任講師 (平成25年9月)	
93	兼任	講師	スズキ ユミ 鈴木 由美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
94	兼任	講師	スミトモ ヨウスケ 住友 洋介 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						高エネルギー加速器 研究機構 素粒 子原子核研究所 博士研究員 (平成26年1月)	
95	兼任	講師	センダ リョウコ 仙田 量子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		地球科学	3前・後、4前	8	4	海洋研究開発機構 技術研究副主任 (平成17年12月)	
96	兼任	講師	タザワ キョウコ 田沢 恭子 ＜平成28年4月＞		修士 (人文科 学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成9年4月)	
97	兼任	講師	タテヤ コウイチ 堅谷 宏一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)						千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
98	兼任	講師	ツカダ ヒデヒロ 塚田 英博 ＜平成28年4月＞		文学 修士 (英文 学) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
99	兼任	講師	ナカザワ サトシ 中澤 聡 ＜平成28年4月＞		修士 (学術) ※						千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	

100	兼任	講師	ナガタ ヨシフミ 永田 喜文 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※								千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
101	兼任	講師	ナカムラ ミツル 中村 充 ＜平成28年4月＞		医学 博士								順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成18年1月)	
102	兼任	講師	ナガモト ヨシヒロ 永本 義弘 ＜平成28年4月＞		国際学 修士								千葉工業大学 兼任講師 (平成21年4月)	
103	兼任	講師	ニシモト ヤスマサ 西元 康雅 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)								千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
104	兼任	講師	ノマ カヨコ 野間 香与子 ＜平成28年4月＞		社会学 修士								千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)	
105	兼任	講師	ハシバ ナオヒコ 橋場 直彦 ＜平成28年4月＞		体育学 修士								東京聖栄大学 健康栄養学部 准教授 (平成17年4月)	
106	兼任	講師	ハマダ ナオミチ 浜田 直道 ＜平成28年4月＞		工学士								千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
107	兼任	講師	ヒロセ ノブヨシ 廣瀬 伸良 ＜平成28年4月＞		医学 博士								順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成13年12月)	
108	兼任	講師	ヒロベ トモヒサ 廣部 知久 ＜平成28年4月＞		理学 博士		生命科学		3前・後, 4前	8	4		(独)放射線医学総合 研究所シニア リサーチヤー (平成23年4月)	
109	兼任	講師	フエキ シグオ 笹木 茂雄 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)								常葉大学 教育学部 教授 (平成14年4月)	
110	兼任	講師	マキノ ユウコ 牧野 裕子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文 学)								千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
111	兼任	講師	マサダ ジュンコ 町田 純子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)								千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
112	兼任	講師	マツムラ ヒナコ 松村 比奈子 ＜平成28年4月＞		博士 (法学)		政治と社会 グローバル時代の法		3前・後, 4前 3前・後, 4前	8 4	4 2		千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
113	兼任	講師	ミヤゴシ アキノブ 宮越 昭暢 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		地球科学		3前・後, 4前	8	4		産業技術総合研究 所 主任研究員 (平成16年4月)	
114	兼任	講師	ムラカミ (イハ) ヨウコ 村上 (伊波) 陽子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)								千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
115	兼任	講師	モリタ ユミコ 森田 由美子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※								千葉工業大学 兼任講師 (平成13年4月)	
116	兼任	講師	ヤギ モナコ 八木 茂那子 ＜平成28年4月＞		文学 修士								千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)	
117	兼任	講師	ヤスダ ナオミ 安田 直己 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)								千葉工業大学 兼任講師 (昭和54年4月)	
118	兼任	講師	ヤスダ マサミ 安田 正實 ＜平成28年4月＞		理学 博士								千葉大学 理学研究科 名誉教授 (昭和50年5月)	
119	兼任	講師	ヤマダ シンヤ 山田 慎也 ＜平成28年4月＞		博士 (社会 学)								千葉工業大学 兼任講師 (平成15年4月)	
120	兼任	講師	ヤマト エミ 大和 恵美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※								千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
121	兼任	講師	ヨコサカ ケンジ 横坂 健治 ＜平成28年4月＞		法学 修士 ※		グローバル時代の法		3前・後, 4前	12	6		千葉工業大学 兼任講師 (平成11年9月)	

教 員 の 氏 名 等												
(先進工学部知能メディア工学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等の 職務に従事する 週当たり平均日数
1	専	教授	イイダ カズヒロ 飯田 一博 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		統計解析 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト1	2後 1前 2前	2 0.6 2	1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成19年4月)	5日
2	専	教授	ヤマザキ カズヒロ 山崎 和彦 ＜平成28年4月＞		博士 (芸術工 学)		視覚造形基礎 デジタルファブリケーション※ 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト1 情報デザイン基礎 コミュニケーションデザイン演習	1後 2後 1前 2前 2後 2前	2 0.9 0.6 2 2 2	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成19年4月)	5日
3	専	教授	タケモト ヒロノリ 竹本 浩典 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)		メディア基礎 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト2	2後 1前 2後	2 0.6 2	1 1 1	独立行政法人 情報通信研究機構 ユニバーサルク コミュニケーション 研究所 研究員 (平成21年4月)	5日
4	専	教授	チサキ ヨシフミ 菖木 禎史 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		離散数学 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト2	2前 1前 2後	2 0.6 2	1 1 1	熊本大学 准教授 (平成8年4月)	5日
5	専	教授	モリ シンイチロウ 森 信一郎 ＜平成28年4月＞		博士 (情報 学)		コンピュータ工学 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト2 人工知能基礎	2前 1前 2後 2後	2 0.6 2 2	1 1 1 1	株式会社通研研究所 ヒューマンセン トリックコンピュー ティング研究所 主幹研究員 (昭和62年4月)	5日
6	専	教授	アンドウ マサヤ 安藤 昌也 ＜平成28年4月＞		博士 (学術)		メディアデザイン論※ メディア史※ 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト1	2後 2後 1前 2前	0.9 0.9 0.6 2	1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成23年4月)	5日
7	専	教授	コンノ ススム 今野 将 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		プログラミング言語基礎 プログラミング言語応用 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト1 ネットワーク基礎	1後 2後 1前 2前 2前	2 2 0.9 2 2	1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成20年4月)	5日
8	専	教授	ミヤタ タカミチ 宮田 高道 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		情報理論 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト1	2前 1前 2前	2 0.6 2	1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成24年4月)	5日
9	専	准教授	ナカモト カズヒロ 中本 和宏 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)		視覚造形基礎 デジタルデザイン基礎演習※ ヒューマンインタフェース論※ デジタルファブリケーション※ メディアデザイン論※ 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト2	1後 2前 2前 2後 2後 1前 2後	2 1 1 1 1 0.9 2	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 工学部 准教授 (平成22年4月)	5日

10	専	助教	タナベ リナ 田邊 里奈 ＜平成28年4月＞		博士 (感性科学)	視覚造形基礎 デジタルデザイン基礎演習※ ヒューマンインタフェース論※ メディア史※ コミュニケーションデザイン演習 知能メディア体験演習※ 知能メディアプロジェクト2 情報デザイン基礎	1後 2前 2前 2後 2前 2前 1前 2後 2後	2 0.9 0.9 1 1 2 0.6 2 2	1 1 1 1 1 2 1 1 1	千葉工業大学 工学部 助教 (平成25年4月)	5日
11	兼任	教授	アイカワ フミヒロ 相川 文弘 ＜平成28年4月＞		理学 博士					千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和62年4月)	
12	兼任	教授	アカザワ モトム 赤澤 元務 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2	1前・後,2前 1前・後,2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和55年4月)	
13	兼任	教授	イコタ オサム 伊古田 理 ＜平成28年4月＞		文学 修士	倫理学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後,2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 4 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成12年4月)	
14	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2	1前・後,2前 1前・後,2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
	兼任	教授	オオクボ マサノリ 大久保 政憲 ＜平成30年4月＞		修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2	1前・後,2前 1前・後,2前	10 10	5 5	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
15	兼任	教授	オチ トシユキ 越智 敏之 ＜平成28年4月＞		文学 修士	センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションC1 英語コンプリヘンションC2 アドバンスト・コミュニケーションB1 アドバンスト・コミュニケーションB2 アドバンスト・コンプリヘンションC1 アドバンスト・コンプリヘンションC2 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1前 1後 2前 2後 2前 2後 2後	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
16	兼任	教授	カサシマ ヨシオ 笠嶋 義夫 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	環境科学概論	1前・後,2前	8	4	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成15年4月)	
17	兼任	教授	カマタ モトヒロ 鎌田 元弘 ＜平成28年4月＞		学術 博士	ソーシャルアクティブラーニング	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成2年4月)	
18	兼任	教授	カワタ アキヒサ 河田 明久 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	歴史と人間 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後,2前 1前 2後 2後	8 4 4 4	4 4 2 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成21年4月)	
19	兼任	教授	クサノ シゲユキ 草野 滋之 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後,2前 2後 2後	2 6 2	1 3 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成10年4月)	
20	兼任	教授	サトウ ケンイチ 佐藤 憲一 ＜平成28年4月＞		修士 (法学) ※	憲法と社会	1前・後,2前	4	2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
						課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	2後 2後 1前	4 2 1	2 1 1		
21	兼任	教授	シバヤ カズロウ 渋谷 和郎 ＜平成28年4月＞		Ph. D (英国)	ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 アドバンスト・コミュニケーションA1 アドバンスト・コミュニケーションA2	1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成24年4月)	
22	兼任	教授	ジョー ハルキ 徐 春暉 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	国際インターン	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 社会システム科学 部 教授 (平成14年9月)	
23	兼任	教授	スガワラ マサヒコ 菅原 昌彦 ＜平成28年4月＞		理学 博士					千葉工業大学 教育センター 教授 (昭和56年4月)	
24	兼任	教授	スズキ ススム 鈴木 進 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	ボランティア	1・2・3・4	1	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成6年4月)	
25	兼任	教授	タケウチ エミコ 竹内 栄美子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文科学)	文学と芸術 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後,2前 1前 2後 2後	8 4 4 2	4 4 2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
26	兼任	教授	ツクシ イタル 筑紫 格 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					千葉工業大学 教育センター 教授 (平成11年4月)	
27	兼任	教授	トウジョウ コウジ 東條 晃次 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	数学基礎 確率統計	1前 1後	2 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
28	兼任	教授	トナミ ユウイチ 利波 雄一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化1 言語と文化2 異文化理解	1前・後,2前 1前・後,2前 1前・後,2前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	
29	兼任	教授	ハンガチ ヒデコ 橋口 秀子 ＜平成28年4月＞		博士 (数理科学)	知能メディア基礎数学	1後	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成9年4月)	
30	兼任	教授	ハシモト シュウイチ 橋本 修一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションA1 英語コミュニケーションA2 ステップアップ・イングリッシュ1 ステップアップ・イングリッシュ2 センテンス・ストラクチャ1 センテンス・ストラクチャ2 英語コンプリヘンションA1 英語コンプリヘンションA2	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成7年4月)	
31	兼任	教授	ハンザワ ヨウコ 半沢 洋子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	環境科学概論	1前・後,2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成14年4月)	
32	兼任	教授	マツザキ ゲン 松崎 元 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	キャリアデザイン1 キャリアデザイン2 国内インターン	1前 1後 1・2・3・4	1 1 1	1 1 1	千葉工業大学 工学部 教授 (平成14年4月)	
33	兼任	教授	ムトウ タクミ 武藤 巧 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物理学実験	1後	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成8年4月)	

34	兼任	教授	モリタ ヒラク 森田 啓 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後	14 2 4 2	7 1 2 1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成13年4月)	
35	兼任	教授	ヨコヤマ トシヤキ 横山 利章 ＜平成28年4月＞		理学 博士	知能メディア基礎数学	1後	2	1	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成3年4月)	
36	兼任	教授	ヨダ トクコ 依田 十久子 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※	現代社会論	1前・後, 2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 教授 (平成元年4月)	
37	兼任	准教授	アイハラ ナオミ 相原 直美 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 1前 1後 1前 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成13年4月)	
38	兼任	准教授	アライ ナホコ 有井 奈保子 ＜平成28年4月＞		文学 修士	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 1前 1後 1前 2前 2後	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和59年4月)	
39	兼任	准教授	イシカワ コウイチロウ 石川 浩一郎 ＜平成28年4月＞		博士 (知識科学)	情報処理	1前・後	16	8	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
40	兼任	准教授	イズミ ヒロアキ 泉 英明 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	線形代数	1前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	
41	兼任	准教授	イトウ ツヨシ 伊藤 剛司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	線形代数	1前	2	1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
42	兼任	准教授	キヤマ タカシ 木山 隆 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
43	兼任	准教授	コガ ツヨシ 古賀 毅 ＜平成28年4月＞		博士 (教育学)	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成25年4月)	
44	兼任	准教授	コバヤシ マナブ 小林 学 ＜平成28年4月＞		博士 (学術)	科学技術史 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	12 6 2 1	6 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
45	兼任	准教授	スドウ イサオ 須藤 勲 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解 課題探究セミナー	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前 2後	10 10 2 2	5 5 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
46	兼任	准教授	タニアイ テツユキ 谷合 哲行 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)					千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成14年4月)	
47	兼任	准教授	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成28年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
	兼任	講師	ツチヤ マサノリ 土屋 正則 ＜平成29年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後	20	10	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和47年4月)	
48	兼任	准教授	ハタ セイノスケ 畑 誠之助 ＜平成28年4月＞		教育学 修士 ※	スポーツ科学	1前・後	26	13	千葉工業大学 教育センター 准教授 (昭和62年4月)	
49	兼任	准教授	ハマノ シホ 浜野 志保 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
50	兼任	准教授	ヒガシヤマ コウジ 東山 幸司 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成18年4月)	
51	兼任	准教授	ヒキハラ ユウキ 引原 有輝 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後	12 4 2 2	6 1 2 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
52	兼任	助教	フクシマ ショウコ 福島 尚子 ＜平成28年4月＞		修士 (教育学) ※	現代社会論 課題探究セミナー 総合学際科目 日本語表現法	1前・後, 2前 2後 2後 1前	4 6 2 1	2 3 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成27年4月)	
53	兼任	准教授	ミナミサワ マユミ 南澤 鷹優寛 (南澤 真弓) ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	環境科学概論	1前・後, 2前	6	3	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
54	兼任	准教授	ミムラ タカオ 三村 尚央 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 1前 1後 1前 1後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成20年4月)	
55	兼任	准教授	ヤマウチ マサキ 山内 政樹 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2 アドバンスト・コミュニケーションA 1 アドバンスト・コミュニケーションA 2 総合学際科目 課題探究セミナー	1前 1後 2前 2後 2前 2後 2後 2後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成23年4月)	
56	兼任	准教授	ヨシダ アキラ 吉田 聡 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	哲学 日本語表現法 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 1前 2後 2後	8 4 2 2	4 4 1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平22年4月)	
57	兼任	准教授	リョウ イショウ 廖 伊庄 ＜平成28年4月＞		学士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	10 10 4	5 5 2	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成2年4月)	

58	兼任	准教授	ワカバヤシ ヒトシ 若林 斉 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後	14 2 4 2	7 1 2 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成24年4月)	
59	兼任	准教授	ワタナベ ツトム 渡邊 努 ＜平成28年4月＞		博士 (工学)	物理学基礎 物理学実験	1前 1後	2 2	1 1	千葉工業大学 教育センター 准教授 (平成21年4月)	
60	兼任	助教	イチカワ ヨウコ 市川 洋子 ＜平成28年4月＞		修士 (心理学) ※	心理学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後, 2前 2後 2後	4 4 2	2 2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成17年4月)	
61	兼任	助教	ウィリアム・フィッシャー William Fisher ＜平成28年4月＞		M. S. Ed.	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コミュニケーションC 1 アドバンスト・コミュニケーションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成7年4月)	
62	兼任	助教	カー・リチャード・ジョンソン Kirk Richard Jonson ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コミュニケーションC 1 アドバンスト・コミュニケーションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成23年4月)	
63	兼任	助教	カクバリ ケンイチ 角張 健一 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※	情報処理	1前・後	16	8	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成8年4月)	
64	兼任	助教	カネダ コウイチ 金田 晃一 ＜平成28年4月＞		博士 (体育科学)	スポーツ科学 身体と健康の科学 課題探究セミナー 総合学際科目	1前・後 1前・後, 2前 2後 2後	14 2 4 2	7 1 2 1	千葉工業大学 教育センター 助教 (平成25年4月)	
65	兼任	助教	ヤスタケ ノブトシ 安武 伸俊 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					千葉工業大学 教育センター 助教 (平成24年4月)	
66	兼任	講師	アイハラ ヨシユキ 相原 佳之 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	歴史と人間	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
67	兼任	講師	イズミ ミツコ 泉 光世 ＜平成28年4月＞		Ph. D (米国)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 英語コミュニケーションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
68	兼任	講師	イチカワ イサオ 市川 功 ＜昭和28年4月＞		文学 修士	哲学 倫理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和61年4月)	
69	兼任	講師	イマイ タク 今井 拓 ＜平成28年4月＞		博士 (保健福祉学)	現代社会論	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
70	兼任	講師	イマゼキ アン 今関 アン ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8	4 4	千葉工業大学 兼任講師 (平成2年4月)	
71	兼任	講師	イワサキ サブローウ 岩崎 三郎 ＜平成28年4月＞		理学 博士	物理学実験	1後	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成元年4月)	
72	兼任	講師	ウエムラ ヨシロウ 上村 芳郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	哲学 倫理学	1前・後, 2前 1前・後, 2前	4 4	2 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)	
73	兼任	講師	ウザワ ユカ 鶴澤 由香 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
74	兼任	講師	オオガ タカシ 大郷 崇 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
75	兼任	講師	オオガキ クミコ 大柿 久美子 ＜平成28年4月＞		理学 博士					東京工業大学大学院 総理工学研究所 専攻 教務職員 (昭和59年4月)	
76	兼任	講師	オオサガ ヒサコ 大須 賀寿子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 アドバンスト・コンプリヘンション B 1 アドバンスト・コンプリヘンション B 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
77	兼任	講師	オオスミ ユリコ 大住 有里子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションA 1 アドバンスト・コミュニケーションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)	
78	兼任	講師	オオタ コウイチ 太田 浩一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年9月)	
79	兼任	講師	オダイ カツヒコ 小田井 勝彦 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成19年4月)	
80	兼任	講師	オノ シュンタロウ 小野 俊太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)	
81	兼任	講師	オノダ マコト 小野田 真 ＜平成28年4月＞		薬学 博士					(独)放射線医学総合研究所 専門業務員 (平成24年4月)	
82	兼任	講師	オバタ ヒロコ 小幡 裕子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成24年4月)	
83	兼任	講師	カネコ ヤスヒロ 兼子 安弘 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	言語と文化 1 言語と文化 2 異文化理解	1前・後, 2前 1前・後, 2前 1前・後, 2前	8 8 4	4 4 2	千葉工業大学 兼任講師 (昭和63年4月)	
84	兼任	講師	カメオカ コウイチ 亀岡 浩一 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
85	兼任	講師	カンザキ モモヨ 神崎 百世 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)	
86	兼任	講師	ゴ アケミ 呉 明美 ＜平成28年4月＞		芸術学 修士	文学と芸術	1前・後, 2前	8	4	千葉工業大学 兼任講師 (昭和62年4月)	
87	兼任	講師	コマツ ナオキ 小松 直樹 ＜平成28年4月＞		理学 修士 ※	物理学実験	1後	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成5年4月)	
88	兼任	講師	サイトウ ヨウヘイ 斎藤 陽平 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理学実験	1後	2	1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	

89	兼任	講師	サカイ リュウタロウ 坂井 竜太郎 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成20年4月)		
90	兼任	講師	シモダ アツコ 霜田 敦子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)		
91	兼任	講師	スガワラ アキラ 菅原 昭 ＜平成28年4月＞		博士 (経済学)					千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)		
92	兼任	講師	スガワラ タカコ 菅原 多嘉子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年9月)		
93	兼任	講師	スズキ ユミ 鈴木 由美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)		
94	兼任	講師	スミトモ ヨウスケ 住友 洋介 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	物理学基礎	1前		2	1	高エネルギー加速器 研究機構 素粒子 原子核研究所 博士研究員 (平成26年1月)	
95	兼任	講師	センダ リョウコ 仙田 量子 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						海洋研究開発機構 技術研究副主任 (平成17年12月)	
96	兼任	講師	タザワ キョウコ 田沢 恭子 ＜平成28年4月＞		修士 (人文学)	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成9年4月)		
97	兼任	講師	タテヤ コウイチ 堅谷 宏一 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)		
98	兼任	講師	ツカダ ヒデヒロ 塚田 英博 ＜平成28年4月＞		文学 修士 (英文学) ※	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コンプリヘンションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成27年4月)		
99	兼任	講師	ナカザワ サトシ 中澤 聡 ＜平成28年4月＞		修士 (学術) ※	科学技術史	1前・後, 2前		8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成26年4月)	
100	兼任	講師	ナガタ ヨシフミ 永田 喜文 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コミュニケーションB 1 英語コミュニケーションB 2 英語コンプリヘンションA 1 英語コンプリヘンションA 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成18年4月)		
101	兼任	講師	ナカムラ ミツル 中村 充 ＜平成28年4月＞		医学 博士	スポーツ科学	1前・後		12	6	順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成18年1月)	
102	兼任	講師	ナガモト ヨシヒロ 永本 義弘 ＜平成28年4月＞		国際学 修士	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成21年4月)		
103	兼任	講師	ニシモト ヤスマサ 西元 康雅 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	文学と芸術 日本語表現法	1前・後, 2前 1前		4 6	2 6	千葉工業大学 兼任助講師 (平成23年4月)	
104	兼任	講師	ノマ カヨコ 野間 香与子 ＜平成28年4月＞		社会学 修士	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成25年4月)		
105	兼任	講師	ハシバ ナオヒコ 橋場 直彦 ＜平成28年4月＞		体育学 修士	スポーツ科学	1前・後		12	6	東京聖栄大学 健康栄養学部 准教授 (平成17年4月)	
106	兼任	講師	ハマダ ナオミチ 浜田 直道 ＜平成28年4月＞		工学士	情報処理	1前・後		12	6	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)	
107	兼任	講師	ヒロセ ノブヨシ 廣瀬 伸良 ＜平成28年4月＞		医学 博士	スポーツ科学 身体と健康の科学	1前・後 1前・後, 2前		4 8	2 4	順天堂大学 スポーツ健康科学部 先任准教授 (平成13年12月)	
108	兼任	講師	ヒロベ トモヒサ 廣部 知久 ＜平成28年4月＞		理学 博士						(独)放射線医学総 合研究所シニア リサーチチャー (平成23年4月)	
109	兼任	講師	フエキ シゲオ 笛木 茂雄 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)	数学基礎	1前		2	1	常葉大学 教育学部 教授 (平成14年4月)	
110	兼任	講師	マキノ ユウコ 牧野 裕子 ＜平成28年4月＞		博士 (人文学)	センテンス・ストラクチャ 1 センテンス・ストラクチャ 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成23年4月)		
111	兼任	講師	マチダ ジュンコ 町田 純子 ＜平成28年4月＞		M. A. (米国)	英語コミュニケーションC 1 英語コミュニケーションC 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年4月)		
112	兼任	講師	マツムラ ヒナコ 松村 比奈子 ＜平成28年4月＞		博士 (法学)	憲法と社会	1前・後, 2前		4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成17年4月)	
113	兼任	講師	ミヤゴシ アキノブ 宮越 昭暢 ＜平成28年4月＞		博士 (理学)						産業技術総合研究 所 主任研究員 (平成16年4月)	
114	兼任	講師	ムラカミ (イハ) ヨウコ 村上 (伊波) 陽子 ＜平成28年4月＞		博士 (文学)	文学と芸術 日本語表現法	1前・後, 2前 1前		4 2	2 2	千葉工業大学 兼任助講師 (平成27年4月)	
115	兼任	講師	モリタ ユミコ 森田 由美子 ＜平成28年4月＞		修士 (文学) ※	英語コンプリヘンションC 1 英語コンプリヘンションC 2 アドバンスト・コミュニケーションC 1 アドバンスト・コミュニケーションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成13年4月)		
116	兼任	講師	ヤギ モナコ 八木 茂那子 ＜平成28年4月＞		文学 修士	英語コミュニケーションA 1 英語コミュニケーションA 2 アドバンスト・コンプリヘンションC 1 アドバンスト・コンプリヘンションC 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成22年4月)		
117	兼任	講師	ヤスダ ナオミ 安田 直己 ＜平成28年4月＞		修士 (文学)	言語と文化 1 言語と文化 2	1前・後, 2前 1前・後, 2前		10 10	5 5	千葉工業大学 兼任講師 (昭和54年4月)	
118	兼任	講師	ヤスダ マサミ 安田 正實 ＜平成28年4月＞		理学 博士	確率統計	1後		2	1	千葉大学 理学研究科 名誉教授 (昭和50年5月)	
119	兼任	講師	ヤマダ シンヤ 山田 慎也 ＜平成28年4月＞		博士 (社会学)	異文化理解	1前・後, 2前		4	2	千葉工業大学 兼任講師 (平成15年4月)	
120	兼任	講師	ヤマト エミ 大和 恵美 ＜平成28年4月＞		文学 修士 ※	ステップアップ・イングリッシュ 1 ステップアップ・イングリッシュ 2 アドバンスト・コンプリヘンションB 1 アドバンスト・コミュニケーションB 2	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	千葉工業大学 兼任講師 (平成7年4月)		
121	兼任	講師	ヨコサカ ケンジ 横坂 健治 ＜平成28年4月＞		法学 修士 ※	憲法と社会	1前・後, 2前		8	4	千葉工業大学 兼任講師 (平成11年9月)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況

先進工学部 未来ロボティクス学科

職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	2人	5人	人	人	人	7人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	2人	1人	人	人	人	3人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	4人	6人	人	人	人	10人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

- この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況

先進工学部 生命科学科

職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	4人	2人	1人	人	7人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	1人	2人	人	人	人	3人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	1人	6人	2人	1人	人	10人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

- この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況

先進工学部 知能メディア工学科

職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	3人	4人	1人	人	人	8人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	5人	4人	1人	人	人	10人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

- この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。